

平成25年度

大学院生による授業評価結果報告書
(前期分)

鳴門教育大学 大学院学校教育研究科

頁数	科目区分	科目コード	科目	担当教員名
1	教職共通科目	30031000	学校教育の人間形成的役割	山崎 勝之,木内 陽一,皆川 直凡
2	教職共通科目	30032100	現代の諸課題と学校教育 I	小西 正雄
3	教職共通科目	30033000	子ども理解と生徒指導	小倉 正義,葛西 真記子,吉井 健治
4	教職共通科目	30034000	子どもの発達支援	田村 隆宏,島田 恭仁,津田 芳見,塩路 晶子,木村 直子
5	人間形成	30111000	人間形成文化史研究	梶井 一暁
6	人間形成	30113000	教育哲学研究	木内 陽一
7	人間形成	30116000	発達健康心理学研究	山崎 勝之
8	人間形成	30119000	教育認知心理学研究	皆川 直凡
9	人間形成	30120000	比較教育社会学研究	伴 恒信
10	臨床心理士養成	30421000	精神医学研究	今田 雄三,古川 洋和
11	臨床心理士養成	30425000	臨床心理学研究 II	葛西 真記子
12	臨床心理士養成	30432000	学校精神保健学研究	今田 雄三
13	臨床心理士養成	30433000	臨床心理査定演習 I	久米 禎子,佐藤 亨,今田 雄三,粟飯原 良 造,中津 郁子,吉井 健治,小倉 正義
14	臨床心理士養成	30446000	臨床心理面接演習	中津 郁子,粟飯原 良造,今田 雄三,葛西 真記子,吉井 健治,小倉 正義
15	臨床心理士養成	30448000	臨床心理面接研究 II	粟飯原 良造
16	幼年発達支援	30513000	幼年期福祉研究	木村 直子
17	幼年発達支援	30516000	こころの発達支援研究	浜崎 隆司
18	幼年発達支援	30518000	幼年発達心理研究	田村 隆宏
19	幼年発達支援	30522000	幼年期教育学研究	湯地 宏樹
20	幼年発達支援	30524000	幼年発達と幼児教育内容論	塩路 晶子

頁数	科目区分	科目コード	科目	担当教員名
21	現代教育課題総合	30637100	文化とコミュニケーション	小西 正雄,太田 直也,金野 誠志
22	現代教育課題総合	30638100	人間と文化Ⅰ（基礎研究）	小西 正雄
23	現代教育課題総合	30639100	人間と文化Ⅱ（地域研究A）	太田 直也
24	現代教育課題総合	30640100	人間と文化Ⅲ（地域研究B）	小西 正雄
25	現代教育課題総合	30643200	コミュニケーションと環境	金野 誠志,谷村 千絵
26	現代教育課題総合	30646200	人間とコミュニケーションⅢ（実践研究B）	金野 誠志,谷村 千絵
27	現代教育課題総合	30647200	環境と文化	田村 和之
28	現代教育課題総合	30649200	人間と環境Ⅱ（実践研究A）	田村 和之,近森 憲助
29	現代教育課題総合	30652000	現代の子どもと学校教育	谷村 千絵
30	特別支援教育	31150000	特別支援教育コーディネーター概論	井上 とも子
31	特別支援教育	31153000	特別支援教育コーディネーター実地教育	井上 とも子
32	特別支援教育	31160000	特別支援教育学研究論Ⅰ	高橋 眞琴
33	特別支援教育	31161000	特別支援教育学研究論Ⅱ	大谷 博俊
34	特別支援教育	31164000	特別支援教育臨床心理学研究論	高原 光恵
35	特別支援教育	31166000	特別支援教育学習心理学研究論	島田 恭仁
36	特別支援教育	31168000	発達障害児病理・病態生理学研究	田中 淳一
37	特別支援教育	31171000	発達障害児生理・発達学研究	津田 芳見
38	言語系	32138000	言語教育基礎論Ⅰ	原 卓志,茂木 俊伸
39	言語系	32140000	日本語Ⅰ	田中 大輝
40	言語系	32141000	日本語Ⅱ	妹尾 春子

頁数	科目区分	科目コード	科目	担当教員名
41	言語系	32144000	日本古典語研究	原 卓志
42	言語系	32146000	現代日本語研究	茂木 俊伸
43	言語系	32148000	日本文学研究 I	黒田 俊太郎
44	言語系	32150000	日本文学研究 II	小島 明子
45	言語系	32153000	日本語教育学研究	小野 由美子
46	言語系	32156000	日本語文法研究	田中 大輝
47	言語系	32159000	言語習得・発達論	田中 大輝
48	言語系	32161000	日本語音声表現研究	田中 大輝
49	言語系	32173000	国語科教育学研究	村井 万里子
50	言語系	32175000	国語科授業研究	幾田 伸司
51	言語系	32179000	国語科教材開発研究	余郷 裕次
52	言語系	32183000	日本語教育法研究	小野 由美子
53	言語系	32216000	英米文化研究 II (現代文化研究)	前田 一平
54	言語系	32220000	英米文学応用演習 II	太田 直也
55	言語系	32224000	言語教育基礎論 II	藪下 克彦, 眞野 美穂
56	言語系	32226000	英語学研究 I (英文法理論)	藪下 克彦
57	言語系	32227000	英語学研究 II (言語表現)	眞野 美穂
58	言語系	32228000	英米文化研究 I (文化史)	杉浦 裕子
59	言語系	32276000	英語科教育特論 I	伊東 治己
60	言語系	32277000	英語科教育特論 II	山森 直人

頁数	科目区分	科目コード	科目	担当教員名
61	言語系	32278000	英語科教育特論Ⅲ	畑江 美佳
62	社会系	33158300	歴史学研究Ⅱ	町田 哲
63	社会系	33158500	歴史学研究Ⅲ	原田 昌博
64	社会系	33158700	地理学研究Ⅰ	畠山 輝雄
65	社会系	33159300	法学・政治学研究	麻生 多聞
66	社会系	33171000	社会科教育学研究	梅津 正美
67	社会系	33173000	社会科授業研究	伊藤 直之
68	自然系	34123000	数理科学研究	宮口 智成
69	自然系	34124000	数理科学演習	宮口 智成
70	自然系	34125000	代数学研究	平野 康之
71	自然系	34126000	代数学演習	平野 康之
72	自然系	34172000	数学科教育学研究	服部 勝憲
73	自然系	34175000	数学科教材開発研究	秋田 美代
74	自然系	34212100	物理学特論Ⅰ	本田 亮
75	自然系	34220000	環境化学特論	胸組 虎胤
76	自然系	34225100	生物科学特論Ⅱ	工藤 慎一
77	自然系	34228500	宇宙科学特論	西村 宏
78	自然系	34229000	地球科学特論Ⅰ	村田 守,香西 武,足立 奈津子
79	自然系	34233000	地質学・古生物学特論	香西 武,村田 守,小澤 大成,足立 奈津子
80	芸術系	35113000	声楽発声法	頃安 利秀

頁数	科目区分	科目コード	科目	担当教員名
81	芸術系	35115000	ピアノ演奏基礎演習	森 正,田中 巳穂
82	芸術系	35116000	学校教材ピアノ伴奏法	山田 啓明
83	芸術系	35117000	ピアノ演奏法	森 正
84	芸術系	35120000	管弦打楽器総合演習	山根 秀憲
85	芸術系	35129000	管弦打楽器演奏基礎	山根 秀憲
86	芸術系	35130000	指揮法基礎演習	山田 啓明
87	芸術系	35131000	楽曲分析研究	松岡 貴史
88	芸術系	35171000	音楽教育史研究	長島 真人
89	芸術系	35172000	音楽科教育研究	長島 真人
90	芸術系	35174000	音楽科授業演習	小山 英恵
91	芸術系	35211000	絵画制作研究	鈴木 久人
92	芸術系	35214000	版画制作演習	武市 勝
93	芸術系	35217000	石彫制作演習	野崎 窮
94	芸術系	35222000	陶芸制作演習	栗原 慶
95	芸術系	35274000	美術科教材開発研究	山田 芳明
96	芸術系	35276000	美術科教育研究法演習	山木 朝彦
97	生活・健康系	36115000	スポーツ社会学研究	木原 資裕
98	生活・健康系	36117000	学校体育経営研究	藤田 雅文
99	生活・健康系	36121000	運動学研究	乾 信之
100	生活・健康系	36123000	スポーツ・バイオメカニクス研究	松井 敦典

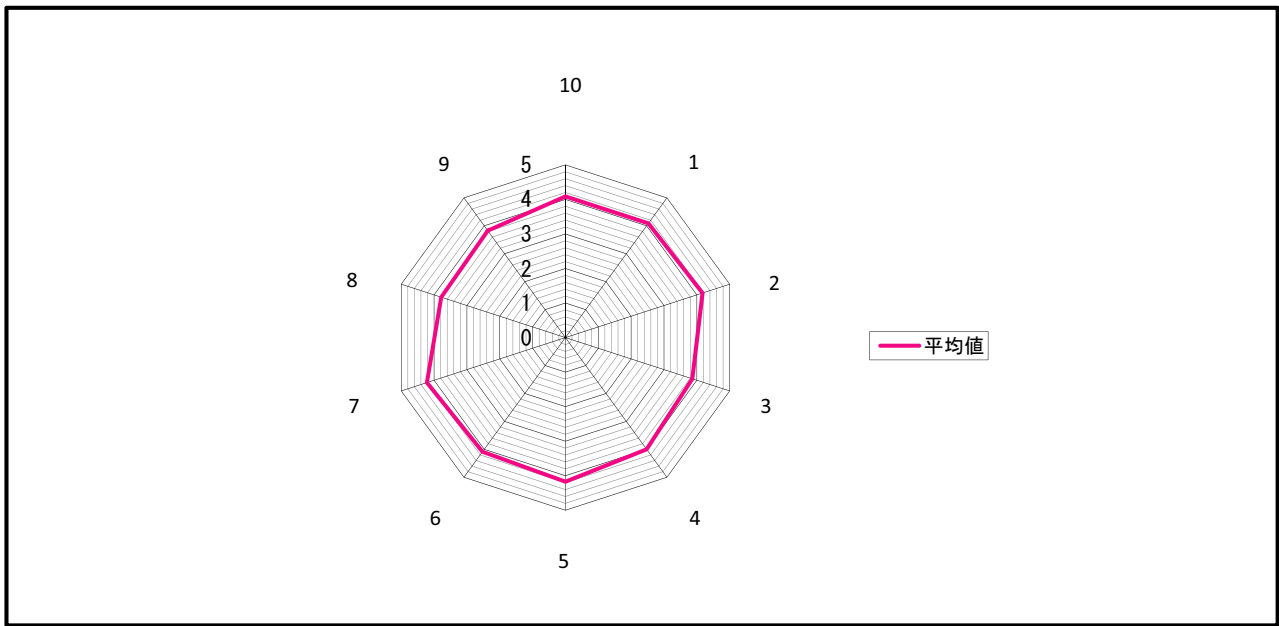
頁数	科目区分	科目コード	科目	担当教員名
101	生活・健康系	36129000	学校保健学研究	吉本 佐雅子
102	生活・健康系	36131000	健康科学研究	廣瀬 政雄
103	生活・健康系	36133000	運動生理学研究	田中 弘之
104	生活・健康系	36175000	体育教授学研究	綿引 勝美
105	生活・健康系	36211000	情報処理研究	菊地 章
106	生活・健康系	36215000	コンピュータ科学研究	宮本 賢治
107	生活・健康系	36219000	機械工学研究	宮下 晃一
108	生活・健康系	36222000	材料及び加工学演習	米延 仁志
109	生活・健康系	36224000	情報科学研究	伊藤 陽介
110	生活・健康系	36227000	信号情報処理研究	菊地 章
111	生活・健康系	36232100	計算力学研究	畑中 伸夫
112	生活・健康系	36233100	計算力学演習	畑中 伸夫
113	生活・健康系	36235000	木質材料加工法演習	米延 仁志,尾崎 士郎
114	生活・健康系	36271000	技術科教育研究	尾崎 士郎,宮下 晃一
115	生活・健康系	36311000	家族・ジェンダー研究	黒川 衣代
116	生活・健康系	36315000	衣生活学研究	福井 典代
117	生活・健康系	36317000	食生活学研究	松永 哲郎,西川 和孝
118	生活・健康系	36319000	住生活学研究	金 貞均
119	生活・健康系	36371000	家庭科教育学研究	速水 多佳子
120	国際教育	37130000	国際教育人間論	近森 憲助,石村 雅雄,小澤 大成,石坂 広樹

頁数	科目区分	科目コード	科目	担当教員名
121	国際教育	37133000	教育研究・調査	石坂 広樹,小澤 大成
122	国際教育	37138000	外国語運用能力強化演習 I	石村 雅雄,石坂 広樹
123	国際教育	37181000	国際理解教育特論 I	近森 憲助,小澤 大成
124	国際教育	37184000	国際教育総合セミナー I	近森 憲助,石村 雅雄,小澤 大成,石坂 広樹
125	言語系	32158000	社会言語学演習	永田 良太
126	臨床心理士養成	30449000	社会心理学研究	佐藤 健二
127	臨床心理士養成	30452000	心理臨床特別研究	藤原 勝紀
128	芸術系	35224000	総合造形研究	池垣 禎彦
129	生活・健康系	36119000	体育・スポーツ心理学研究	賀川 昌明
130	生活・健康系	36120000	体育・スポーツ心理学演習	賀川 昌明
131	生活・健康系	36275000	情報科教育研究 I	森山 潤
132	臨床心理士養成	30444000	臨床心理学研究法特論	葛西 真記子,吉井 健治,田中 秀紀

結果報告書

授業科目名 学校教育の人間形成的役割
 評価実施日 平成25年7月24日
 担当教員名 山崎 勝之, 木内 陽一, 皆川 直凡 回答者数 23 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	12	3	1		4.1
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	15	2			4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	8	7	1		3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	9	7			4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	14	1	1		4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	12	3	1		4.1
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	14	2			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	9	8	1		3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	9	6	2		3.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	11	5			4.1



教員のコメント

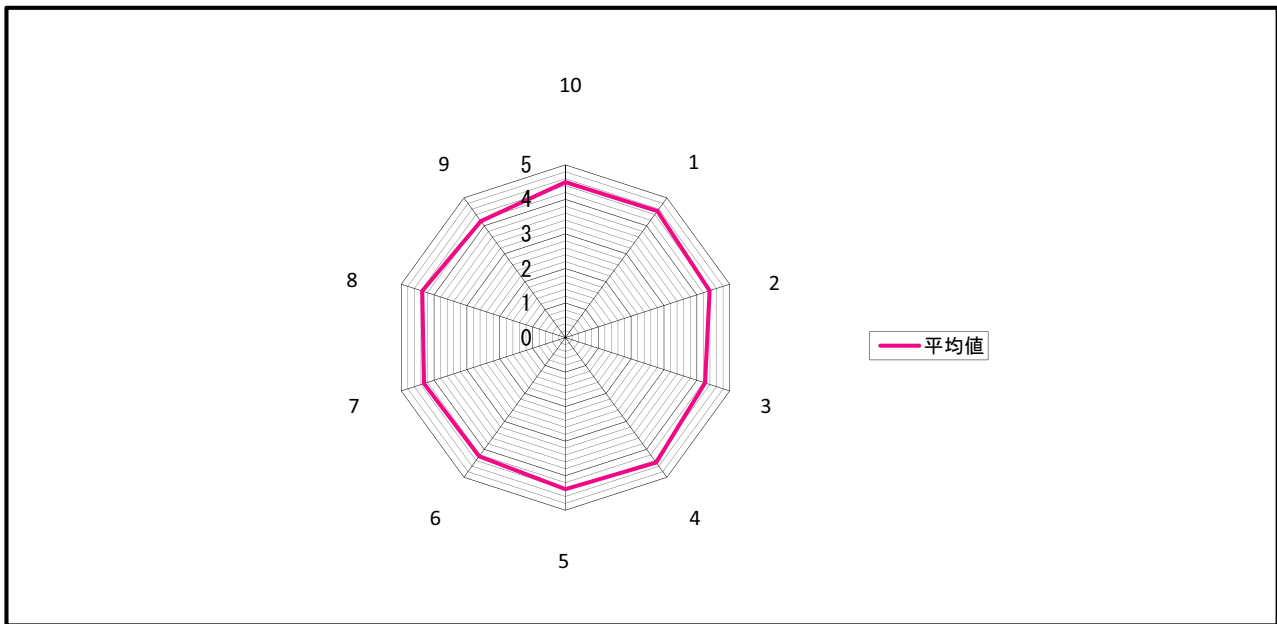
本授業は人間形成コースの心理学と教育学担当の教員が、それぞれの専門分野を生きながらも、出来るだけ受講生のニーズにこたえる努力をしながら行っているものである。全体的に見れば、すべての項目で納得できる評価を得た授業であるといえよう。記述された内容を見ると、オムニバス形式なので、幅広く勉強できたという評価がある一方で、三人の担当教員の話が収斂していくような焦点とも言うべきものがほしい、との感想があった。もっともな指摘なので、今後、検討していきたいと考える。さらに、授業の方法について、受講生同志の話し合いを含みこんでいることが、高く評価されている。このように、受講生の積極的な態度を引き出せる方法を更に考えたいと思う。授業中に言及された書籍等を読んだ、と答えている受講生が複数おり、受講生も興味をもって積極的に授業に参加し、授業からインパクトを受けているようで、大変に嬉しい。

結果報告書

授業科目名 現代の諸課題と学校教育 I
 評価実施日 平成25年7月30日
 担当教員名 小西 正雄

回答者数 36 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	24	8	3	1		4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	22	8	4	2		4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	18	12	3	3		4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	27	4	2	1	2	4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	22	7	6	1		4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	19	9	6	2		4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	19	10	6	1		4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	20	10	5	1		4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	12	6	2		4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	25	5	5	1		4.5



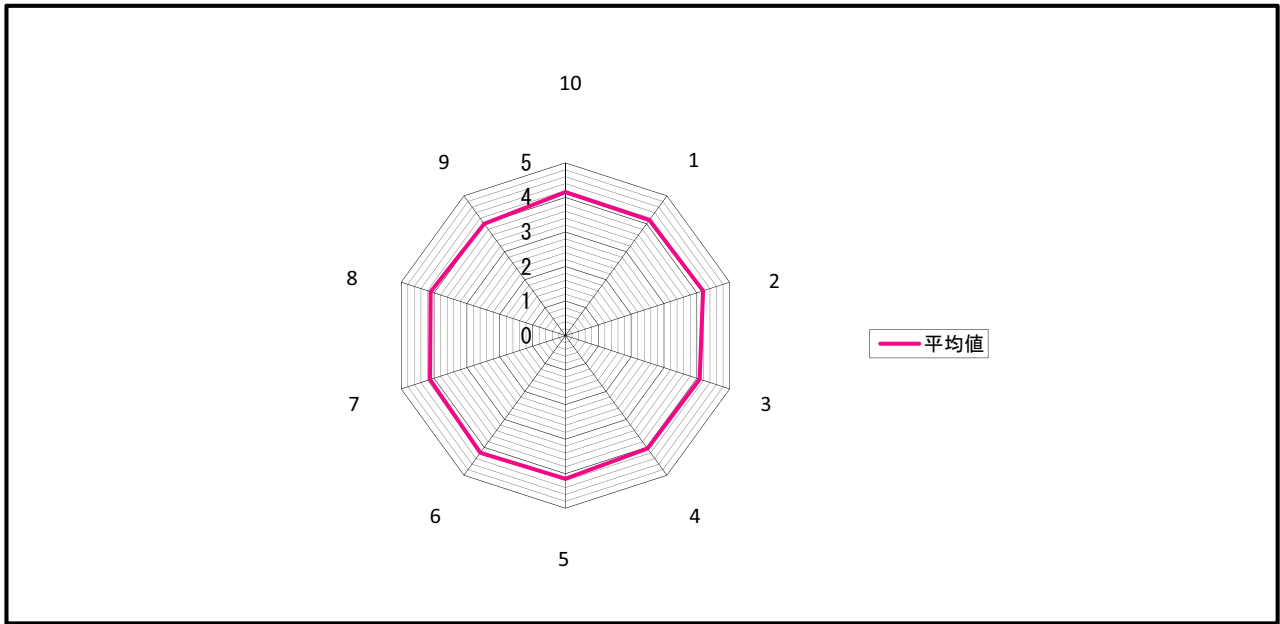
教員のコメント

今年度も、総合評価4.5という結果であり、おおむね目標を達成できたと思われる。今年度から講義の内容をまとめた拙著『若は自分と通話できるケータイを持っているか』をテキストとして使用した。講義内容を記載したものがすでに受講生にあらかじめ用意されているなかで、どのように講義を作ればいいのかまさに手探りの4か月であったが、そこそこの評価となり安堵している。ただし、担当者としてはテキストと講義との関係においてさらなる改善の必要ありと自覚しているので、この評価を上げみにさらに検討を続けたい。

結果報告書

授業科目名 子ども理解と生徒指導
 評価実施日 平成25年7月24日
 担当教員名 小倉 正義, 葛西 真記子, 吉井 健治 回答者数 164 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	55	80	26	2	1		4.1
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	68	67	21	5	2	1	4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	62	59	35	5	1	2	4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	55	70	31	7	1		4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	63	67	30	3	1		4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	69	64	26	4	1		4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	64	65	28	5	2		4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	64	61	29	6	2	2	4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	48	73	37	4	1	1	4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	64	70	21	6	2	1	4.2



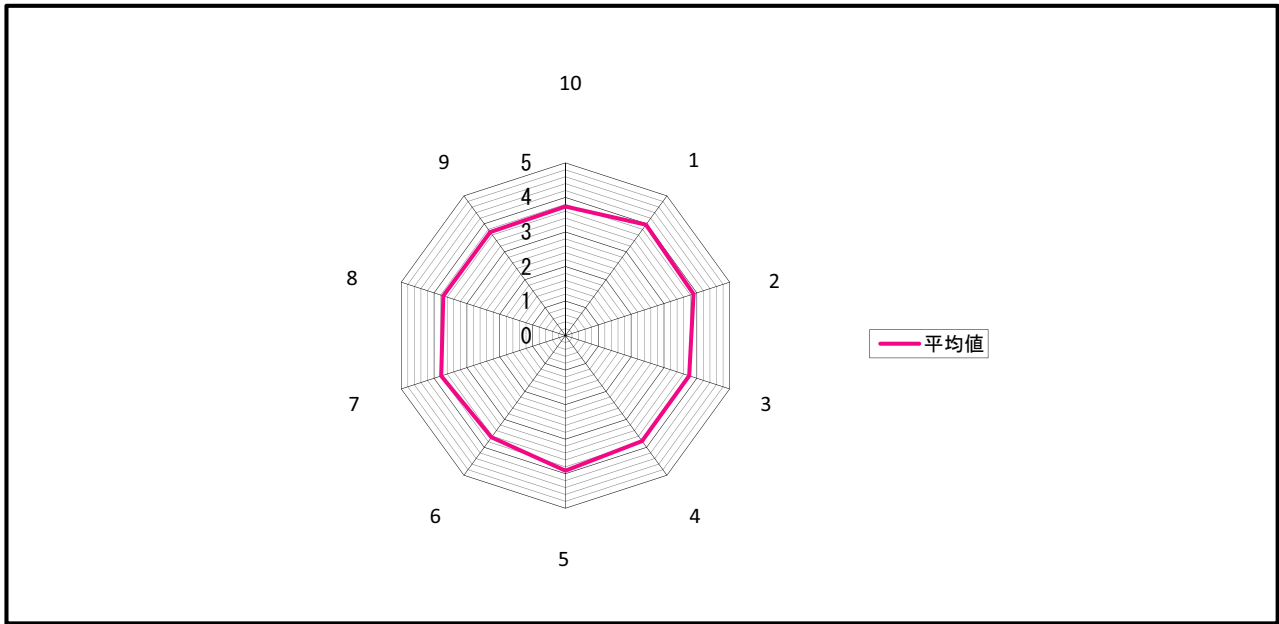
教員のコメント

子ども理解や生徒指導(教育相談を含む)に必要な実践知をできるだけ学ぶことができるように、体験的なワークや実践的な内容を多く取り入れるなどの工夫をした。200名程度の大講義の授業ではあるが、その中でも学生が授業に主体的・積極的に取り組むことができるように、さらに工夫をしていきたい。

結果報告書

授業科目名 子どもの発達支援
 評価実施日 平成25年7月30日
 担当教員名 田村 隆宏、島田 恭仁、津田 芳見、塩路 晶子、木村 直子 回答者数 160 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	49	70	33	3	5		4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	51	63	32	7	7		3.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	39	66	39	8	7	1	3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	37	69	40	9	5		3.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	45	69	36	7	3		3.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	36	53	52	13	5	1	3.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	42	57	49	8	4		3.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	38	61	45	10	6		3.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	37	60	44	14	4	1	3.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	36	66	42	9	6	1	3.7



教員のコメント

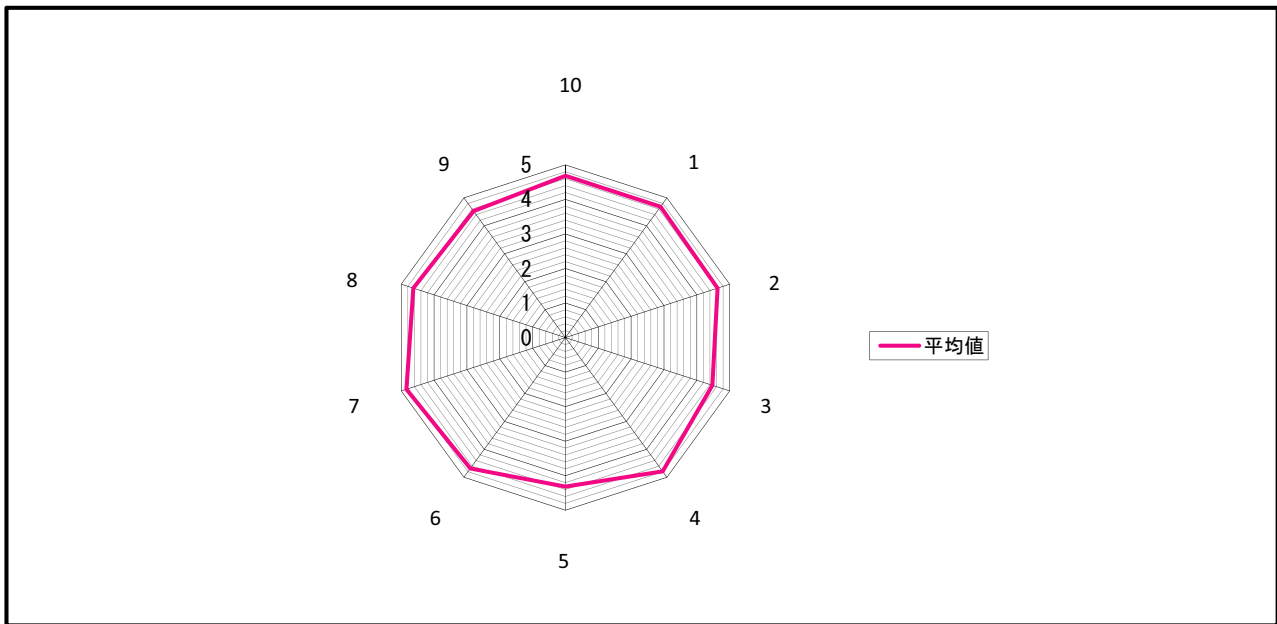
いずれの項目に対しても、受講生の半数以上が4以上の評定値を回答し、平均値も4前後を示していることから、概ね本講義の評価は肯定的なものであったと捉えられる。しかしながら、特に(6)「受講生にわかりやすく説明した。」、(8)「板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。」、(9)「授業に主体的・積極的に取り組んだ。」に対する否定的評価が若干数見られたことから、今後の授業では、よりわかりやすい説明をする必要があること、より適切な視聴覚機器の使用を心がけること、受講生に対して、より主体的・積極的にこの授業に取り組める工夫をする必要があることが改善すべき点であることが示唆された。本授業では、複数の教員がオムニバス形式で講義を担当している形式を取るところから、来年度以後は担当教員すべてに対して、これらの改善点について周知を徹底し、改善を図る必要がある。また、これ以外の項目内容に関しても、さらに充実を図る必要がある。

結果報告書

授業科目名 人間形成文化史研究
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 梶井 一暁

回答者数 19 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	13	6				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14	4		1		4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	5	1	1		4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	15	4				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	11	6		1	1	4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	14	4	1			4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	17	1	1			4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	15	2	1	1		4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	5	2			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	14	4	1			4.7



教員のコメント

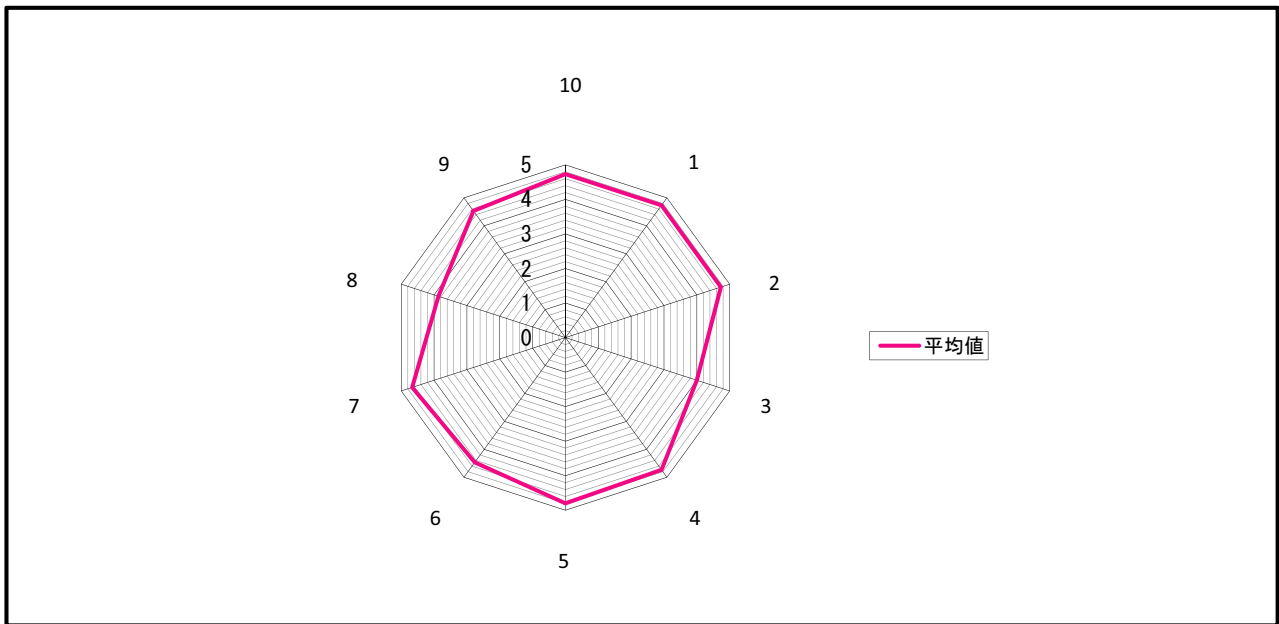
受講者から積極的な評価を得たと考え、引き続き授業改善に努めたいと思う。
 今回、とくに地元につながる19-20世紀の教育史資料を積極的に教材化し、実物を提示したり、視聴覚スライド化したりすることに取り組んだ。従来から利用している資料を減らし、調整したが、それでも扱う資料は分量がやや多くなったのではないかと考えている。受講者の反応(項目7)を見ると、多くは適切だったと捉えてくれているようであり、次年度の準備への参考となる意見を得たと考えている。

結果報告書

授業科目名 教育哲学研究
 評価実施日 平成25年7月11日
 担当教員名 木内 陽一

回答者数 15 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12	2	1			4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	2	1			4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	2	5	1		4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	4				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	12	3				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	6	1			4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	11	3	1			4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	2	6	1		3.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	3	2			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12	2	1			4.7



教員のコメント

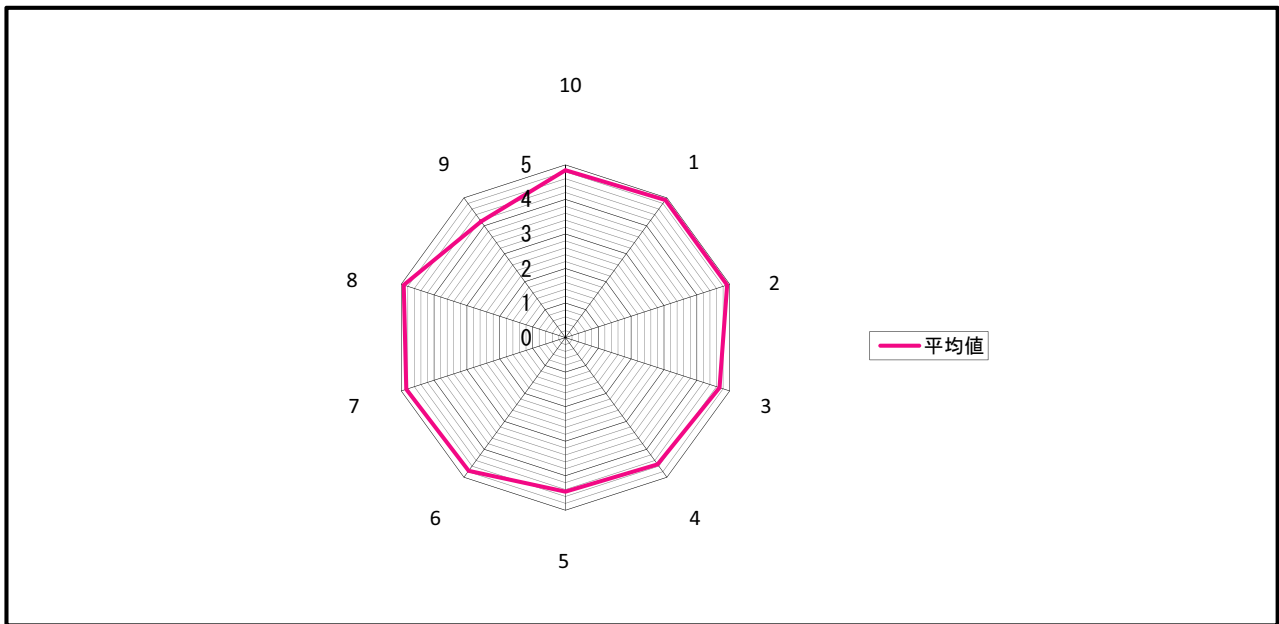
本講義は、西田幾多郎『善の研究』をテキストとして、哲学的な思惟方法を知ることを主眼としている。西田の著作は、教育学の著作ではないが、広義の人間形成論としての読み取りも可能であるし、何といても、近代日本の哲学の出発点に位置する著作として、大学院生として読んでおく意味のある著作である。毎回、発表者二名を定め、その発表を受講生が司会をする方法を採用している。発表者のレジュメについては、木内が細かいコメントをして、発表用のレジュメの作成の技術を習得できるように心がけている。また、司会者の発言についても、注意している。議論がかみ合って、新たな展開をするようにこころがけている。全体的な評価を見ると、専門的知識の習得に関しては評価が高いが、教師の実践力とのつながりに関しては、評価が低い。ただ、受講生には、ぜひ、長い目で、この授業科目で学んだことを捉えてほしいと願う。教師として様々な経験を積みながら、教師の人間としての「育ち」につながっていくものが、教育哲学の真骨頂であると思うからである。受講生の議論から木内も得るものが多かった。感謝したいと思う。

結果報告書

授業科目名 発達健康心理学研究
 評価実施日 平成25年7月30日
 担当教員名 山崎 勝之

回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	4				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	6				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	7				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	3				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	11	2				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	12	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	5		2		4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	2				4.8



教員のコメント

総合評価平均は4.8で、ほぼ例年通りの結果となった。近年の受講生のニーズの多様性を考えると、十分に高い評価結果と考えることができよう。若干の懸念は、受講生自身の取り組み感が他の評価と比べて少し低いことであった。この結果をどう考えればよいか、解釈が難しいところである。恐らく、本学の近年の特徴であるが、受講生に長期履修生が多く(進路は教員志望)、普段の大学院生活での作業事項(研究、勉強、実習、採用試験準備など)の負担が大きいためかもしれない。

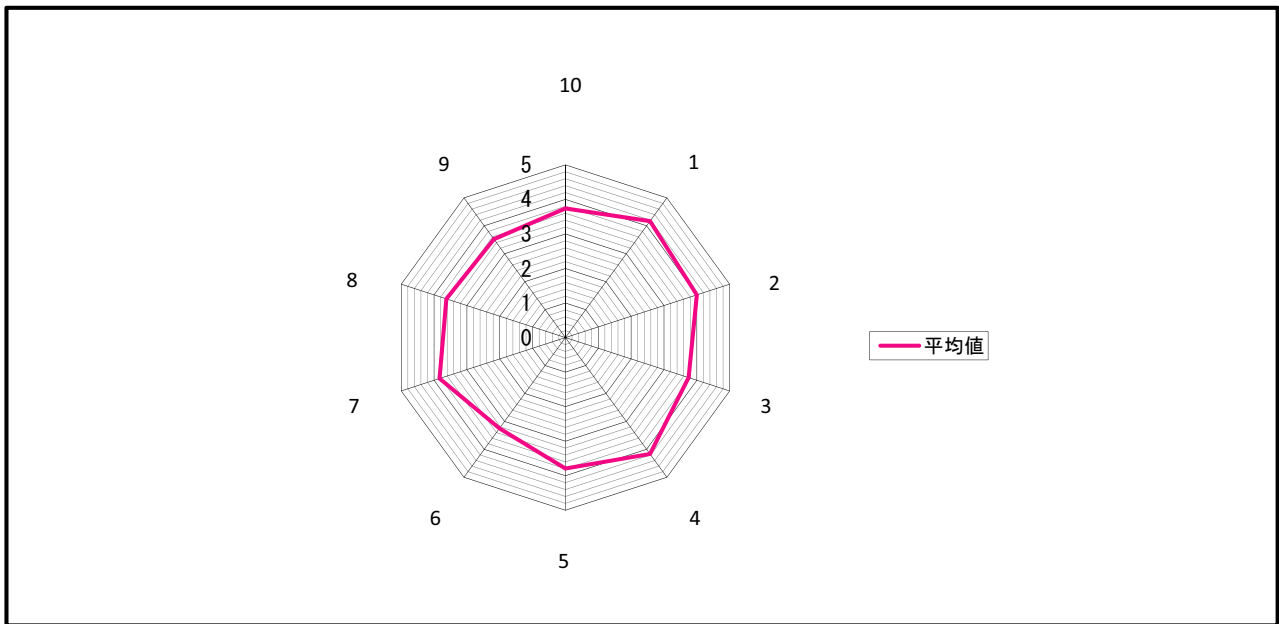
本授業は、授業外でもインターネット上での質疑や討議を行う場と機会を設定し、授業外でも授業内容に関連した考察を含めるよう促している。この点は、授業時間のみに限定されない広がりや授業にもたらしていると考えられる。このインターネット運用をさらに改善し、受講生自身からの積極的参加を高める重要要因として重視しながら、今後の授業の向上を図りたい。

結果報告書

授業科目名 教育認知心理学研究
 評価実施日 平成25年7月30日
 担当教員名 皆川 直凡

回答者数 24 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12	8	2		2	4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	8	4		2	4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	14	3	2	1	3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	10	1		2	4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	11	4	2	1	3.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	13	4	3	3	3.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	11	3	1	2	3.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	13	4		3	3.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	7	10	1	1	3.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	14	4	1	1	3.7



教員のコメント

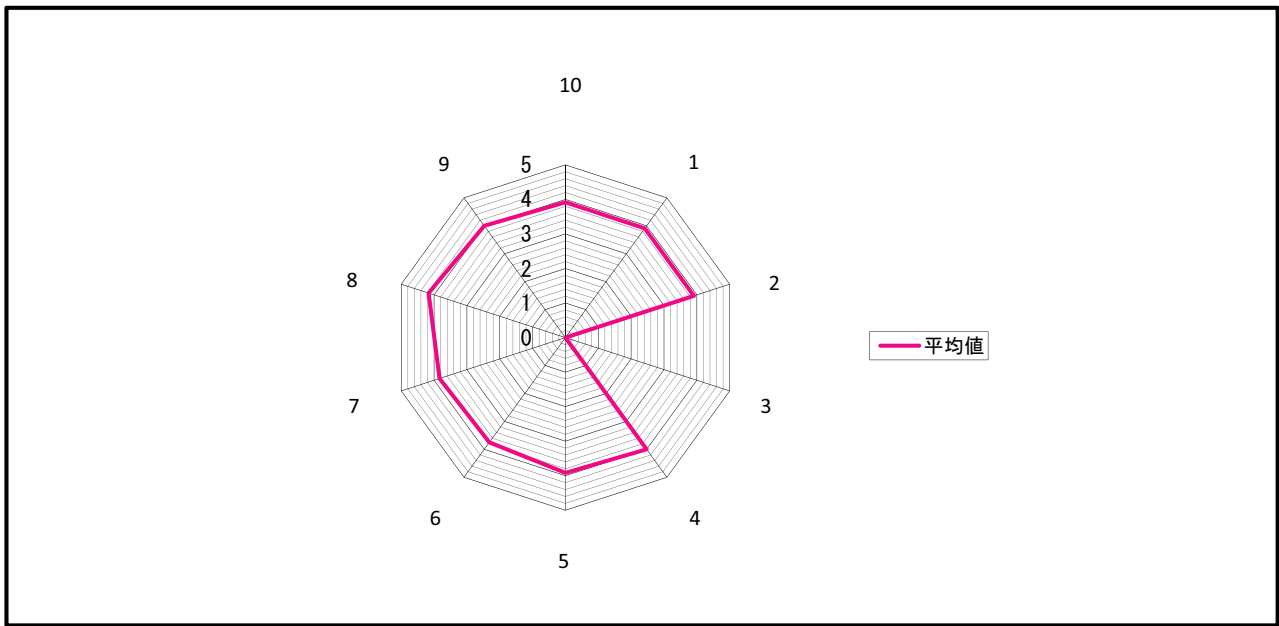
質問項目(10)総合評価が5と4の計17名(A群とする)と、それが3以下の計6名(B群とする)のそれぞれについて、質問項目(1)～(9)に対する平均評定値を算出した。その結果、A群における平均評定値は、項目順に4.5、4.5、4.1、4.4、4.3、3.8、4.2、3.8、3.8であった。項目(1)・(2)が特に高く、項目(3)・(4)・(5)・(7)も4.0を越え、残りの3項目も3.8と比較的高水準であり(総平均は、4.2)、個々の項目への評価が総合評価に反映されていることがわかる。一方、B群における平均評定値は、項目順に3.7、3.0、3.0、4.0、2.7、2.7、2.2、3.2、3.5であった。B群では、項目(1)・(4)・(9)への評価が比較的高く、項目(5)・(6)・(7)への評価が低いことがわかる(総平均は、3.1)。A群とB群との差は、項目(2)・(5)・(6)において1.5以上あり、項目(1)・(3)・(7)・(9)でも1.0前後ある。一方、項目(4)・(8)では、両群の差はわずかである(0.3～0.4)。つまり、A群がどの項目においてもおおむね満足しているのに対し、B群は項目(4)「成績評価の方法の説明は、適切であった。」と(8)「板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。」への満足度はA群とほぼ同等なのに他の項目では大きく不満をもっているのである。特に、項目(9)「授業に主体的・積極的に取り組んだ。」において大きな差がついたことが注目され、この差が、他の項目の群間差に影響を及ぼしていると考えられる。A群の満足度をいっそう高めることを最優先に、この問題にも取り組みたいと考える。

結果報告書

授業科目名 比較教育社会学研究
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 伴 恒信

回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	5	2	1		1	3.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	5	2	1		1	3.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。							
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	6	3				4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	4	3	1			3.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	4	4	1			3.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	4	5				3.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	4	3				4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2	5				4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	6	2	1			3.9



教員のコメント

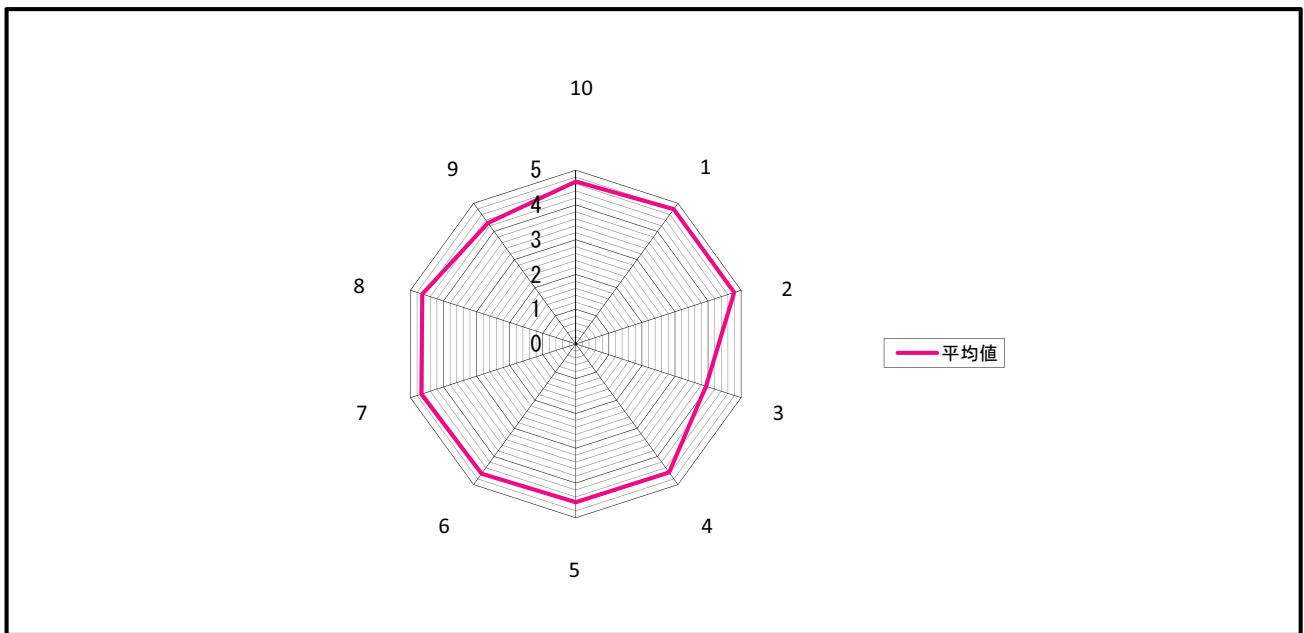
基本的に授業内容に関心を持って臨んだ受講生は、「道德教育について欧米と比較しながらより深い知識を得ることができた。」「アメリカの民主主義、サービスラーニング、キャラクターエデュケーションについて知った。」「世界の道德と日本の道德を比較しながら学べたことは良い勉強になった。」などの感想を述べていた。しかし、人間形成コースには特に最近心理をはじめ人間の個人のレベルの問題にしか関心のない者、学力的に知識内容の理解の及ばない者(昨年、授業後に授業理解を測る穴埋め式のテストを5回ほど行ったら、何度やってもほぼ毎回0点の者、平均でも30-40点しか取れない者が多かった。)が増えてきており、それらの者にとっては授業の中身は頭に入らなかったようである。授業中、毎回熱心に論議に参加する現職院生などの者のいる一方で、何度注意しても最初から最後までほとんど寝ている者もいた。

結果報告書

授業科目名 精神医学研究
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 今田 雄三, 古川 洋和

回答者数 67 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	54	12	1				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	55	10	2				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	27	13	21	2	2	2	3.9
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	44	18	4	1			4.6
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	42	21	3	1			4.6
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	42	24	1				4.6
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	47	18	2				4.7
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	46	18	3				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	30	27	10				4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	46	20	1				4.7



教員のコメント

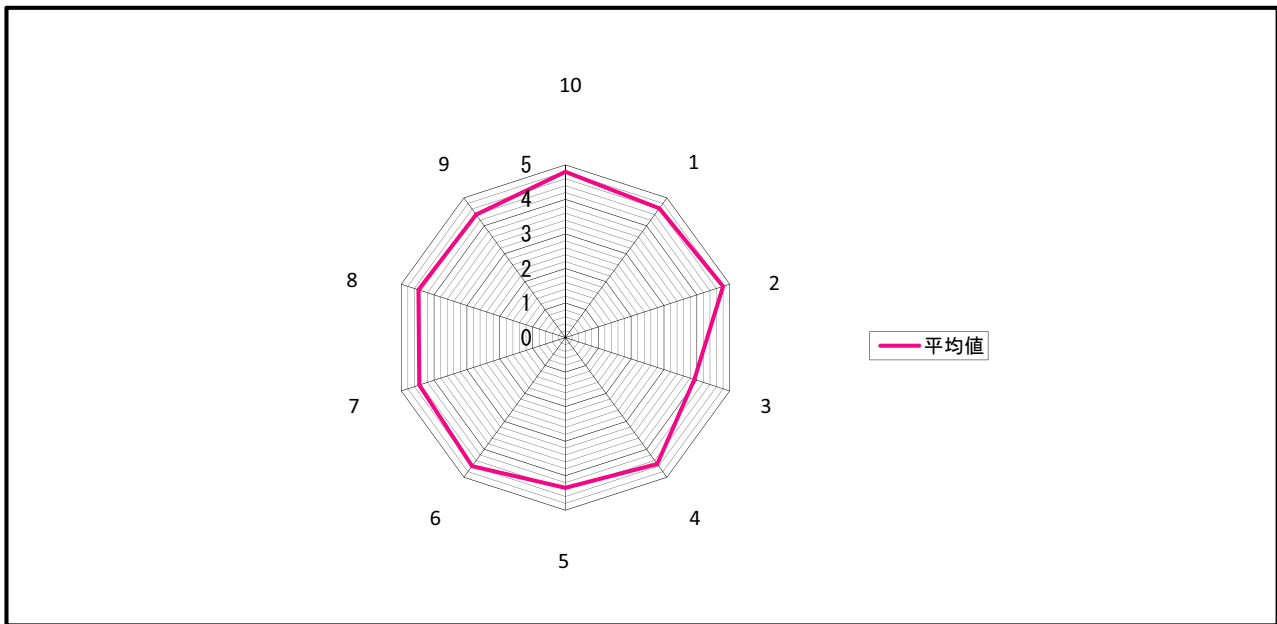
総合評価「(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。」では4.7点を獲得したのをはじめ、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」が3.9点、「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」が4.3点であった以外、(1)、(2)、(4)～(8)の7項目で4.5点以上を獲得しており、本授業は受講生から非常に高い評価を得られたものと考え。なお「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」に関して2点以下の評価を行っていた受講者の自由記述の内容を確認したが、この項目の評価が低くなった理由は特に記述されていなかった。他の受講者の自由記述の内容を参考に推測すると、本授業は「病院臨床における理論と実践について学ぶもの」という印象が強く、教育現場との関連性を十分に感じ取れなかった受講生がいたのかもしれない。今後は精神医学・精神医療に関する実践知が、教員の実践力向上にとっても重要であることが十分に伝わるよう、より丁寧な導入、解説や具体例の紹介なども検討したい。また「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」に関する自由記述では、「興味を持てた」「将来の自分に役立つと思った」「情報量が多いがついて行くことができた」「自主的に学習できた」という肯定的な記述がある一方、「復習をしたいと思ったができなかった」「授業でわからなかった事に対して追加して勉強することは少なかった」という受講者自身の姿勢について反省する記述も見られた。また「文字が多く、少し眠くなるがあった」「全て講義形式で受身的になってしまった」という授業の進め方が受講生の意欲に与える影響についての意見もあり、さらには「一方的に聞くことが多かったので、もう少し活動も入れてはどうだろう」といった提言もみられた。今回のアンケート結果を参考にして、次年度以降は授業の形式を工夫し、受講生がより主体的・積極的に授業に取り組める工夫をしていきたい。

結果報告書

授業科目名 臨床心理学研究Ⅱ
 評価実施日 平成25年7月26日
 担当教員名 葛西 真記子

回答者数 40 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	25	15				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	32	8				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	15	11	11	2	1	3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	24	13	3			4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	21	14	3	2		4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	26	12	2			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	24	12	2	2		4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	23	14	2	1		4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	19	18	3			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	33	6	1			4.8



教員のコメント

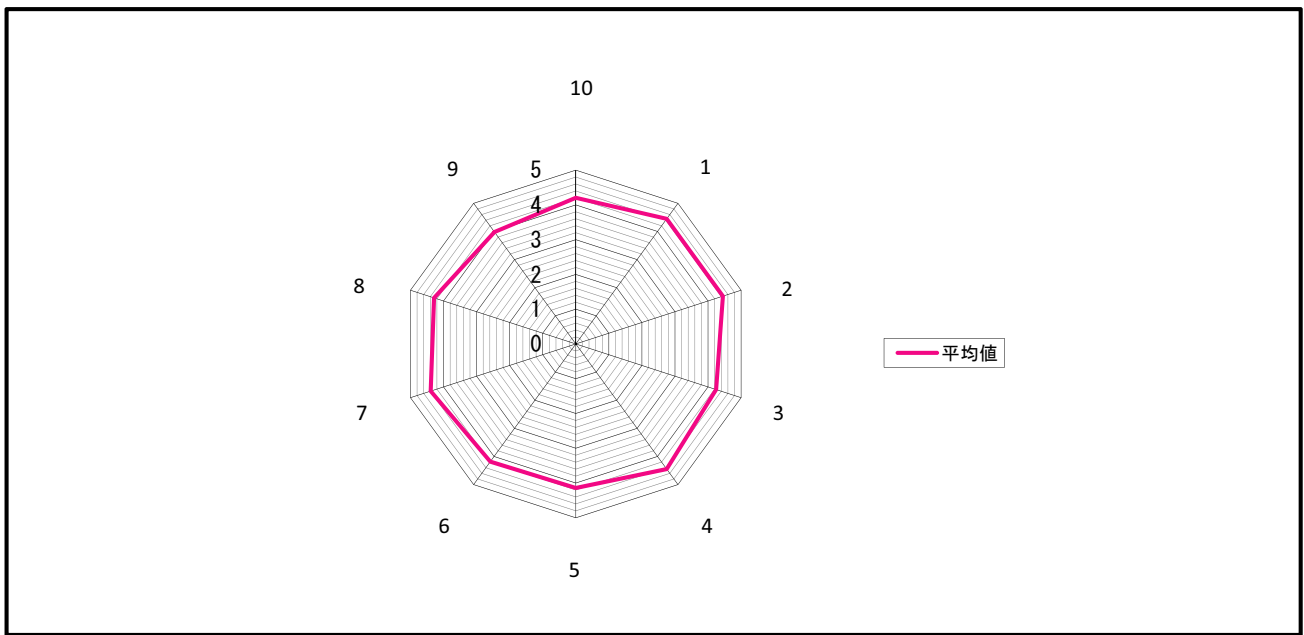
この授業の総合評価は、4.8であり、良好であると思われる。これは、昨年度に引き続きである。一番評価の低い項目である「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」についても3.9であり、他の項目よりは低いですが、著しく低い評価でもない。講義の中で、特に、学校現場での問題と関連付け、教師として使える内容という視点も取り入れたからであると思われる。(5)の授業の進む速さは、適切であった。」に関しては、自由記述欄に「スピードが少し速すぎた」というものもあり、受講生に応じた対応が必要であるとも考えられるが、35名は、適切であったと回答しており、2名の速すぎたと感じた受講生への個別のフォローで対応していく方がよいと考える。この授業でよかった点として、挙げられていたのは、「具体的な技法が紹介され、実践に役立つ」「実際にカウンセリングで何が起きているのかわかりやすかった」「具体例がよかった」「クライアント理解、自己理解の大切さがわかった」「自分の担当しているケースの理解が深まった」「精神分析についてよく学べた」等、講義者の意図と一致したものがほとんどであった。できるだけ、具体的・実質的な内容を心がけていたので、それは、受講生の求めるものと一致していたともいえる。改善点としては、予定通りにいかなかったこと、視覚教材をさらに増やすことである。

結果報告書

授業科目名 学校精神保健学研究
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 今田 雄三

回答者数 49 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	26	20	2	1		4.4
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	29	15	3	2		4.4
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	24	15	8	2		4.2
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	28	16	4	1		4.4
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	22	15	9	3		4.1
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	20	21	5	3		4.2
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	25	18	6			4.4
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	25	16	5	3		4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	27	8	1	1	4.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	20	20	8	1		4.2



教員のコメント

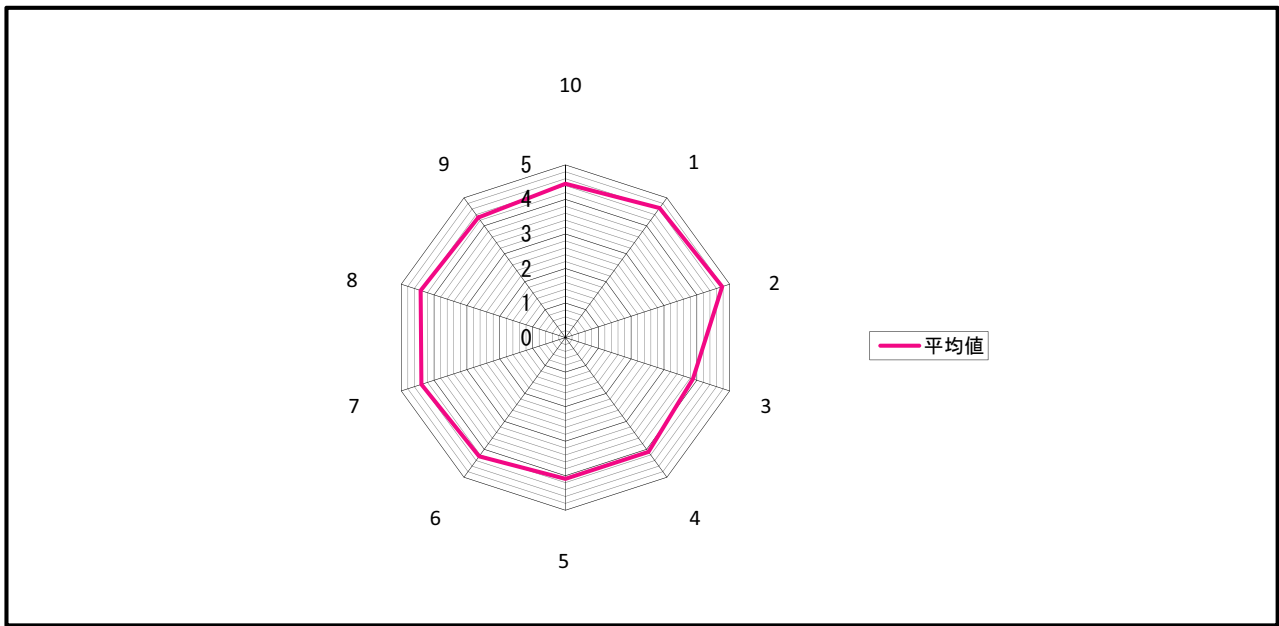
総合評価「(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。」では4.2点を獲得したのをはじめ、(1)～(9)の各項目ごとの評価でも全て4点を超過しており、本授業は受講生から非常に高い評価を得られたものと考えている。ただし、授業の内容についての(1)～(3)の3項目全てで、また授業の進め方についての5項目中「(7)教科書や配布された資料は、適切であった」を除く4項目で、2点以下と評価した者もわずかだが認められた。授業内容に関しての自由記述では「多岐にわたり充実している」という意見と「情報量が多く難しかった」という意見とがあり、今後は授業内で取り上げる内容を厳選し、より発展的な内容については文献を紹介し自主的な学習を促すといった方針の導入を検討したい。また授業の進め方に関しての自由記述では「PowerPointの文字量が多い」「PowerPointの画面を読み上げるだけになっている」といった指摘もあったので、次年度ではそれらの点に留意してよりメリハリの効いた、わかりやすく授業を行いたい。なお(9)に関しては、講義形式主体の授業のため、どうしても受講者が受け身的になってしまう傾向があり、今年度は授業内での短い演習や、事例の紹介などに加え、思春期の心理を描いた映画を上映して感想を提出してもらい、フィードバックを行うという試みを取り入れたが、概ね好評であった。次年度以降も授業の形式をさらに工夫し、受講生がより主体的・積極的に授業に取り組めるようにしていきたい。

結果報告書

授業科目名 臨床心理査定演習 I
 評価実施日 平成25年7月26日
 担当教員名 久米 禎子, 佐藤 亨, 今田 雄三, 栗飯原 良造, 中津 郁子, 吉井 健治, 小倉 正義

回答者数 44 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	30	12	2			4.6	
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	36	6	2			4.8	
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	14	13	12	2	1	2	3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	19	15	6	3	1		4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	20	13	6	5			4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	22	13	7	2			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	25	12	6	1			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	27	11	3	3			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	22	14	7	1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	26	12	6				4.5



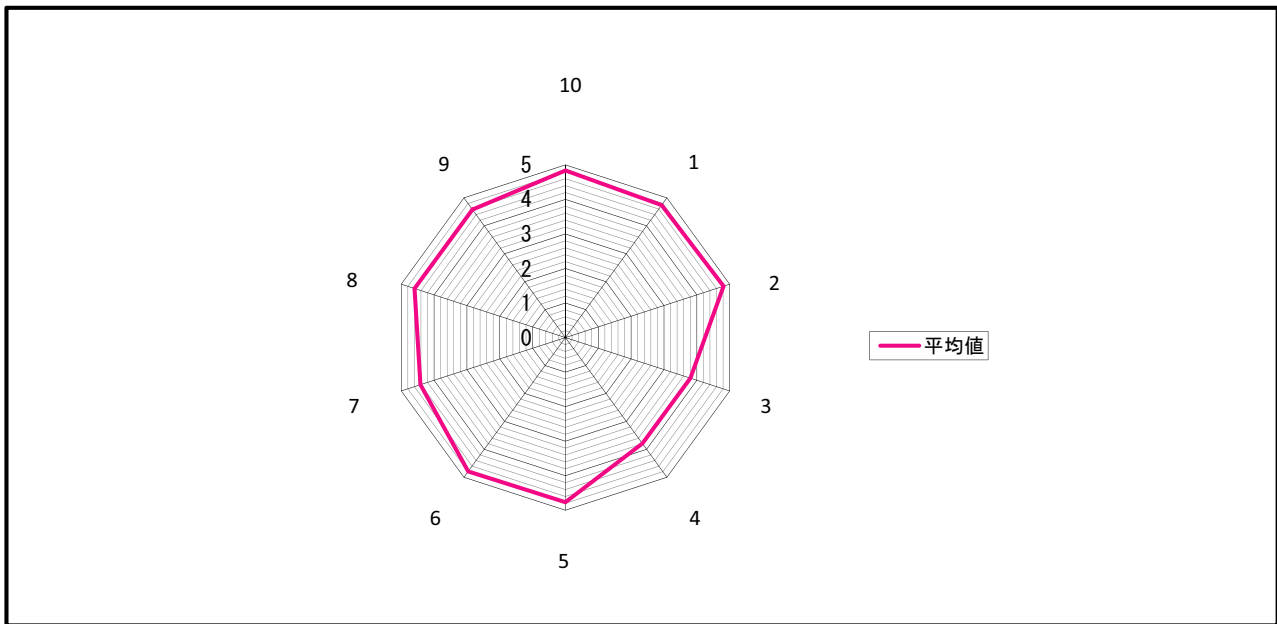
教員のコメント

本授業は学生が自ら体験することやレポート作成が多く、主体的に取り組むことが求められる。今回の評価は、そのような授業の性質も反映し、おおむね高い評価となっていると思われる。(3)の教師の実践力の育成に関する質問は、臨床心理士養成コースの専門的内容を扱う本授業の性質から考えて、質問項目として適切ではないと思われる。受講者の知識や経験にはばらつきがあるが、本授業はごく基本的な内容を扱っており、そこから各自が学びをすすめていけるように工夫していくことが今後の課題である。

結果報告書

授業科目名 臨床心理面接演習
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 中津 郁子, 粟飯原 良造, 今田 雄三, 葛西 真記子, 吉井 健治, 小倉 正義 回答者数 43 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	31	11				1	4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	35	8					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	16	12	6	3	4	2	3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	19	9	6	5	4		3.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	34	8	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	36	6		1			4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	26	6	9			2	4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	31	7	2	2		1	4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	27	14	2				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	36	7					4.8



教員のコメント

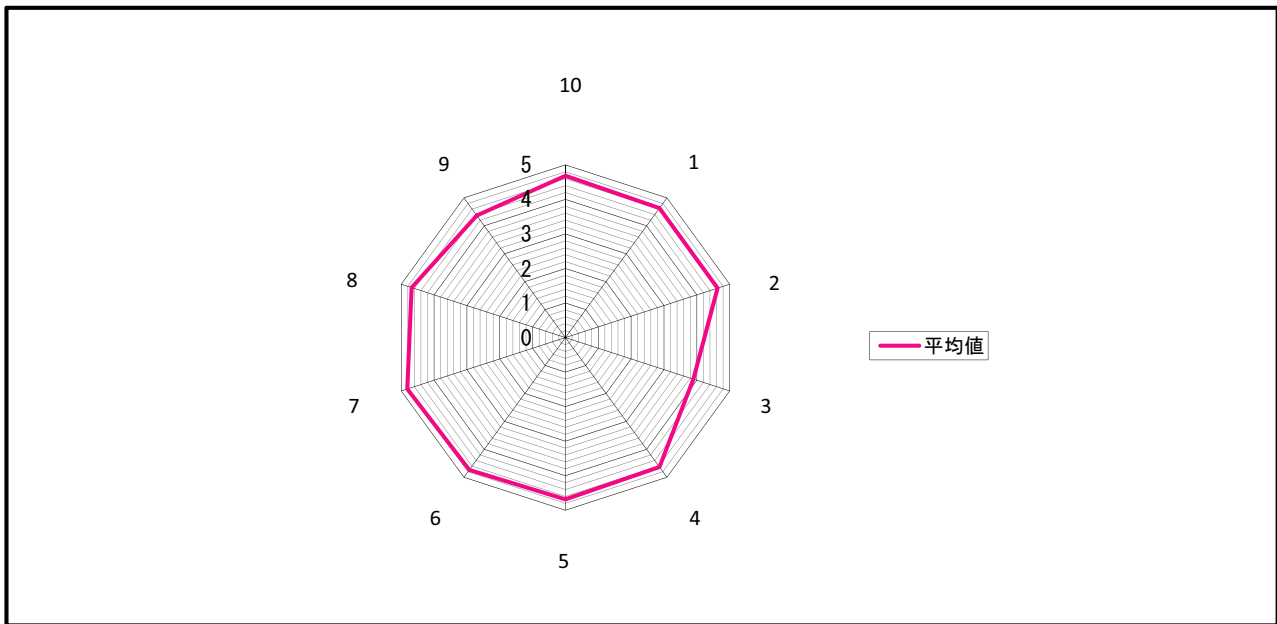
この授業は院生が6つのグループ(1グループが7~8人)に分かれて、ロールプレイを行いグループ討議をするという授業である。面接場面での傾聴技法の習得など、相談室での面接を担当する上では重要な授業である。前年と同様、総合評価が4.8ととても高い評価になっている。院生にとって満足の行く授業であったと考えられる。しかし、「(3)教師の実践力」に関する項目と「(4)成績評価」に関する項目が3.8とやや低くなっている。学生への事前の説明を改善していきたい。院生のコメントを見ると、「小人数で」、「実践的」で、「専門的」な授業であったことや、「他の学生や教師からの適切な意見や指導を得られる」ことや「自分の癖や傾向を知る」、「自分を客観視できた」ことを「良かった」として多数の人があげていた。また、改善点としてあげられていたことで多かったのは、グループに分かれること、その担当の教員によってやり方に多少違いが出てくることに関係したものであった。グループによりやり方の内容が違うことに「不安である」という意見もあり、「多くの先生と関わり意見を聞きたい」ということも見られていた。また、「教員の模擬面接が見たい」や「欠点だけでなく、長所にも気付かせてくれる場面もほしかった」、「各授業時間でのねらいを明確にしてほしい」などの意見が見られていた。授業の性質上、全ての意見を受け入れることは難しいが、オリエンテーションでの説明や事前・事後の授業等を改善するなど、今後検討していきたい。学生が「授業に主体的・積極的に取り組んだ」理由についての回答では、様々な回答が見られていた。まず、この授業は「知識と実践力を身につけるのに必要」や「実力を伸ばす訓練」と思ったことや「将来の仕事に関する大事なこと」であることなど臨床家として大事な授業の一つであることが自覚されていた。そして、「積極的に自分のものにしてほしい」、「自分の課題を見出そうと努力」したり「素直に思ったことを出せた」ことで、主体的・積極的に授業に取り組んだようだった。

結果報告書

授業科目名 臨床心理面接研究Ⅱ
 評価実施日 平成25年7月4日
 担当教員名 粟飯原 良造

回答者数 38 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	25	12	1			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	26	10	2			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	15	10	8	4	1	3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	25	12	1			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	26	12				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	28	10				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	31	7				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	27	10	1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	18	16	4			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	27	10	1			4.7



教員のコメント

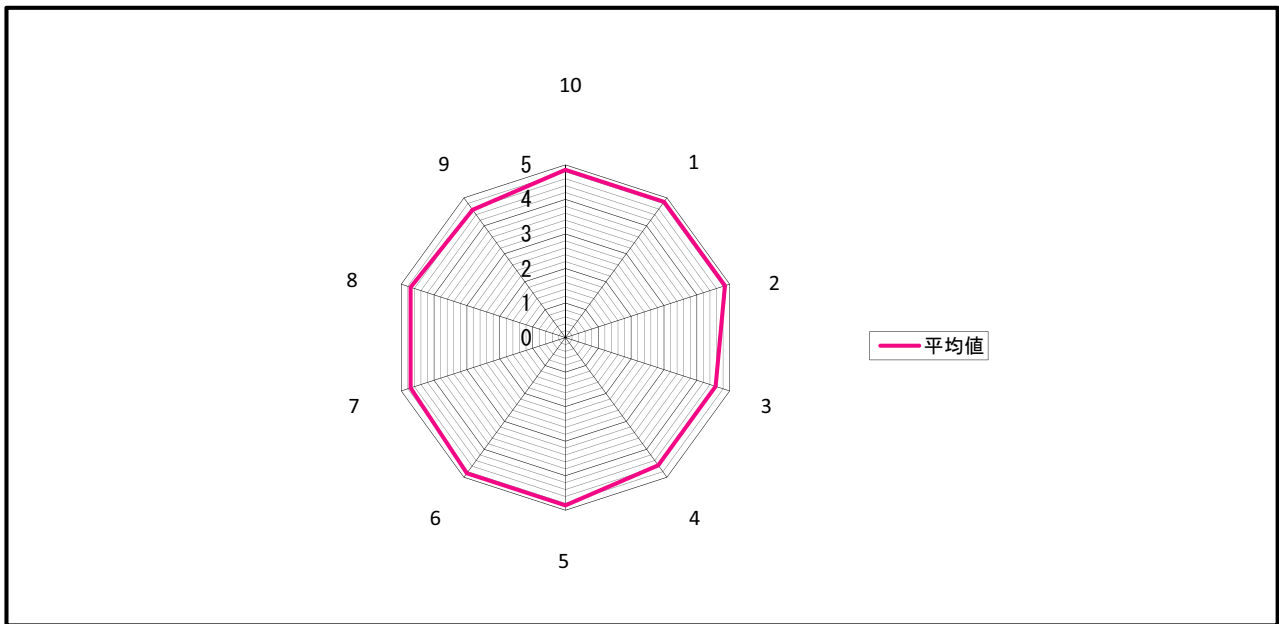
質問項目(3)教師の実践力に育成につながる内容であったか 以外の8つの質問項目の全てで平均4.4~4.8点であり、1点、2点を付けた受講生はいなかった。授業進度、講義の内容説明や教材に関する項目では4点、5点をつけており、総合評価も4.7点であった。一昨年度に比べて、授業評価は4.6点とたくなっていた。質問項目(3)については、対象とする受講生が臨床心理士資格取得者を目指しているので3.9点と低くなっていると思われるが、38名中33名が3点以上の評価をしている。7名の回答者全員の自由記述からは、具体的で実際に役立つ技法を習得することに役立つと指摘された。以上のことから、本講義はシラバスの内容と一致しており、臨床心理士資格取得を目指す受講生の期待にこたえるものであったと考えられる。さらに、カウンセリングをどのように授業に生かすかという視点を盛り込むことが今後の課題であると思われる。

結果報告書

授業科目名 幼年期福祉研究
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 木村 直子

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1	1			4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1	1			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6		1			4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6		1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1				4.9



教員のコメント

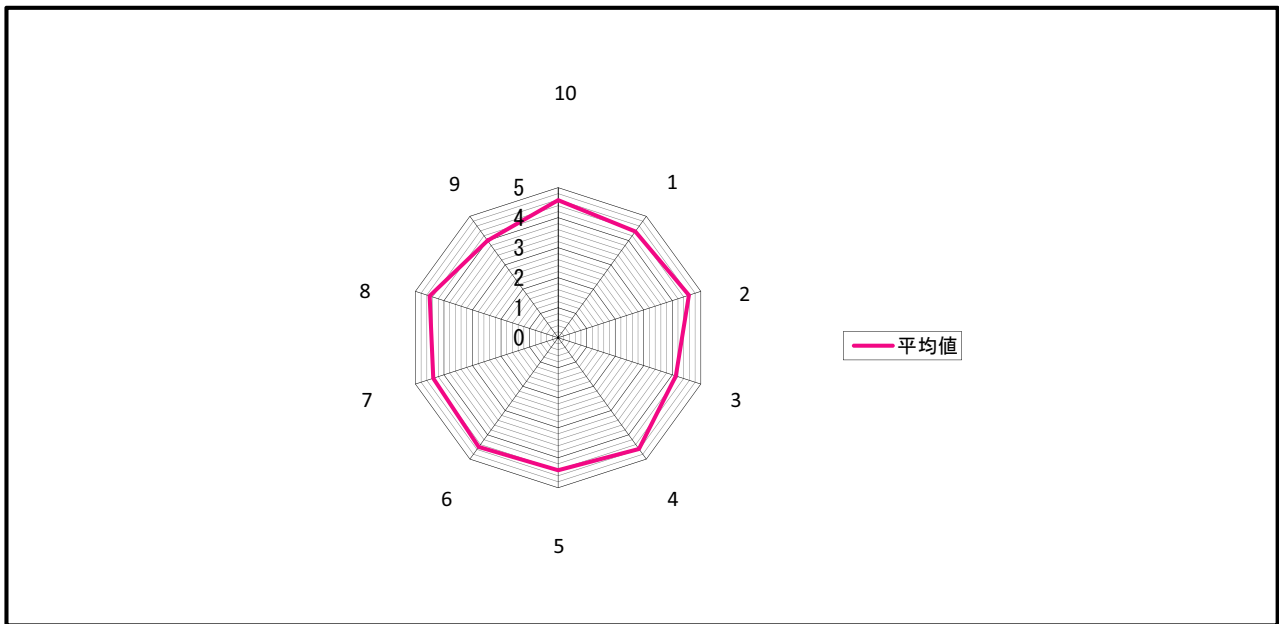
今年度も様々なコースの方が履修してくださった。アンケートを配布するのが遅く、全員にアンケートをとることができなかったことが残念である。授業の進め方や内容を受講生の状況に応じて、柔軟に対応することができ、そのことが、総合的に多くの院生の満足に繋がったように思う。また、対話型の授業を行っており、そのことが「授業内のディスカッションが多く、他者の考えや価値観を共有したり、知識の増大につながった」「理論と実践を往復した授業内容で、積極的に参加できた」といった嬉しいコメントに繋がったと考える。さらに、今年度から履修生自身の主体性や授業時間外での自主学習を促進することを旨し課題を毎回提示していた。毎週課せられる課題は、授業時間以上に時間のかかるものも多かったが、積極的に取り組む姿が見られた。これまでは90分以上の時間を要する予習課題を出すことに抵抗があったが、授業内容及び課題の内容、授業の進め方を工夫すれば、院生らはより主体的かつ積極的に取り組むことが分かった。次年度以降もがんばっていききたい。

結果報告書

授業科目名 こころの発達支援研究
 評価実施日 平成25年7月26日
 担当教員名 浜崎 隆司

回答者数 24 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12	9	3			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	16	6	2			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	11	5			4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	16	6	2			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	13	8	3			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	15	7	1	1		4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	12	10	1	1		4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	14	8	2			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	5	8	1		4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	15	8	1			4.6



教員のコメント

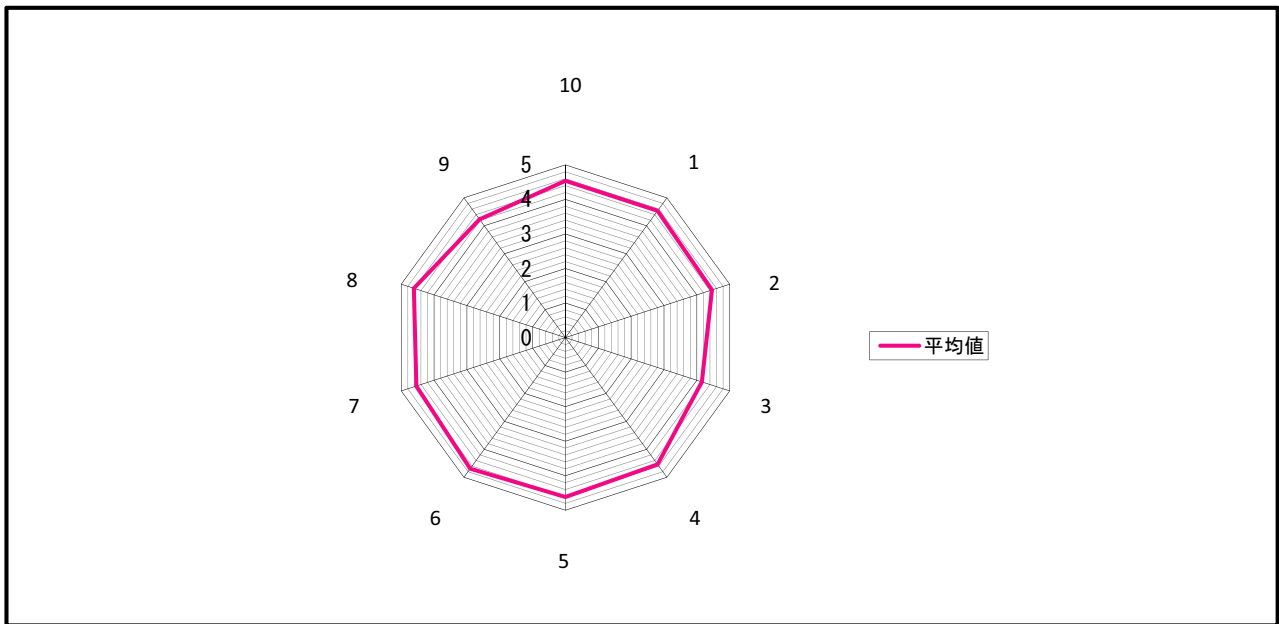
授業の総評価は4.6で概ね高い評価であった。唯一、5の評価よりも4の評価において選択した数が多かったのが「教師の実践力の育成につながる内容であった」という項目である。講義の内容が基礎的な心理学理論や家庭での親子関係に多く焦点を当てているので、次年度は教育実践(教室場面での児童の仲間関係、教師と生徒との対人関係等)での問題を取り入れていくことを検討する。また、半数以上の者が授業に積極的に取り組んでいることが示されたが、まだどちらともいえないものの多く、一方的な講義だけでなく、簡単で演習的な課題やグループ間の討論を含めた授業参加型の講義を展開することを次年度検討する。

結果報告書

授業科目名 幼年発達心理研究
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 田村 隆宏

回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	6				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	7				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	7	2			4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	6				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	5				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	2	1			4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	4	1			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	5				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	6	2			4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	6				4.5



教員のコメント

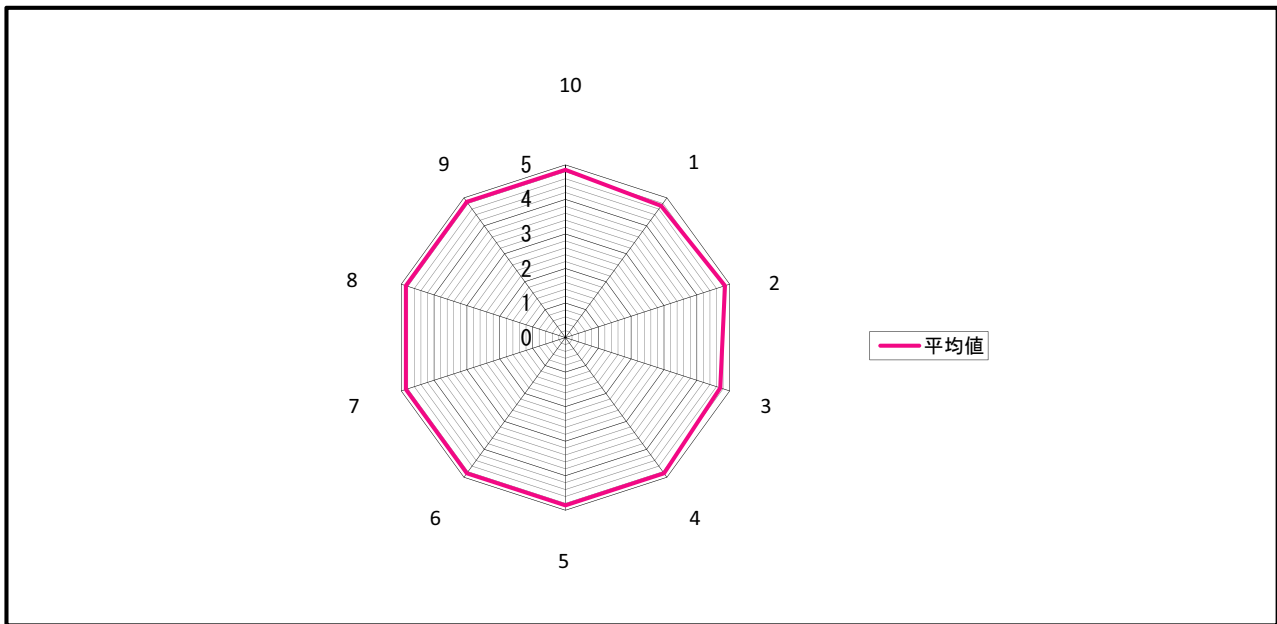
いずれの項目に対しても、受講生の8~9割以上が4以上の評価値を回答し、平均値も4以上を示していることから、本講義の評価は肯定的なものであったと捉えられる。しかしながら、(3)「教師の実践力の育成につながる内容であった。」、(9)「授業に主体的・積極的に取り組んだ。」に対して「どちらでもない」との評価が若干数見られたことから、今後の授業では、さらに実践力の育成に直接的につながるような内容を扱うこと、受講生に対して、さらに主体的・積極的にこの授業に取り組める工夫をする必要があることが改善すべき点であることが示唆された。今後は、これらの点を改善すべく、講義で取り上げる内容のさらなる吟味とともに授業中での受講生の作業課題の内容の再検討を図る。加えて、これ以外の項目内容に関しても、さらに肯定的評価が得られるように、講義の内容を再検討する。

結果報告書

授業科目名 幼年期教育学研究
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 湯地 宏樹

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1				4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1				4.9



教員のコメント

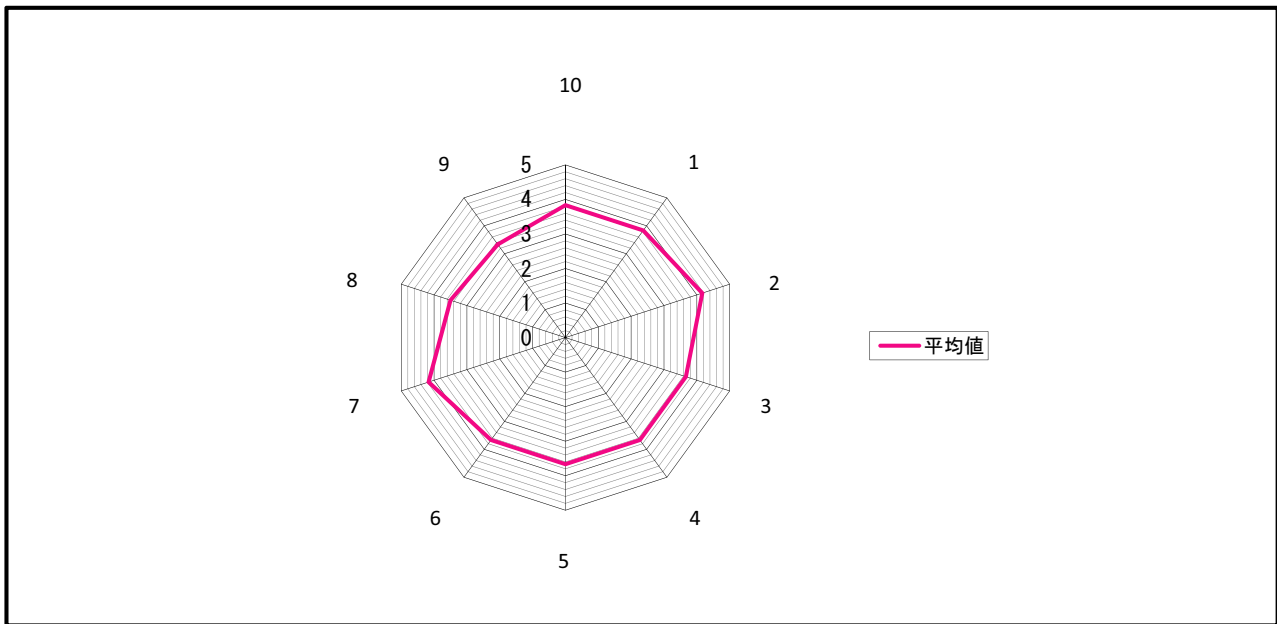
本授業は受講者数は13人(昨年度も同じ13人)であったが、7人のみの回答しか得られなかった。
 授業アンケートの質問項目「(1)授業概要」「(2)専門的知識」「(3)実践力育成」「(4)成績評価」「(5)授業進度」「(6)分かりやすい説明」「(7)配布資料」「(8)板書・視聴覚機器」「(9)主体性・積極性」「(10)総合評価」のいずれも「5」>「4」で平均値も4.7以上であった。
 昨年度は「(4)成績評価」4.4と「3」評価も13人中2人いたが、4.9と改善できたのはシラバスやオリエンテーションで成績評価の基準を明確に説明した結果だと思われる。また、学生の授業への取り組みに関する「(9)主体性・積極性」についても、今年度は体験活動などのアクティブ・ラーニングを意識的に多く取り入れるなどした結果、昨年度4.6→今年度4.9と数値が上がった。設問「(9)主体性・積極性」に関する自由記述の回答でも、「積極的に参加した」「全部出席した」「興味・関心」などの意見があった。
 改善点としては、「計画性」という指摘が自由記述にあったように、今年度は時間が足りずにシラバスの記載どおりに扱えなかった内容もあったので、来年度は授業が計画どおり進行するように気をつけたい。

結果報告書

授業科目名 幼年発達と幼児教育内容論
 評価実施日 平成25年7月26日
 担当教員名 塩路 晶子

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1	3			3.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	5				4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2	3			3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2		4			3.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2		4			3.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	2	3			3.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	3	1			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	4			3.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1	3	1		3.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1	3			3.8



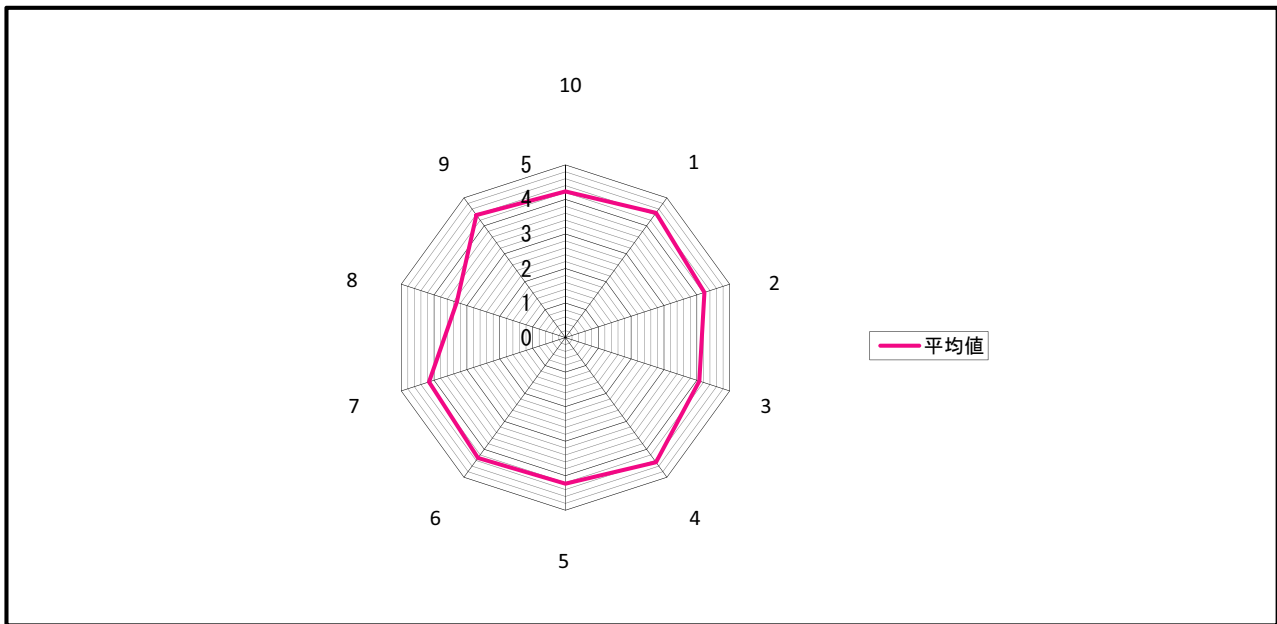
教員のコメント

本講義は、乳幼児を取り巻く現状や、日本の保育の意義付けについて理解し、どのような保育内容が子どもたちにとって相応しいのか、ということについて理解することを目的としていた。その際には、アメリカの保育や小学校との連携も視野に入れて講義を展開した。受講生からの評価を見ると、専門的知識を深めることには概ね寄与できたようであるが、授業の目的や「教師の実践力」の受け止めについては、ばらつきがあるようである。また、授業の進め方や課題の内容についても、受講生がより主体的・積極的に取り組むことが出来るような工夫も含めて、さらなる手立てを考えたい。

結果報告書

授業科目名 文化とコミュニケーション
 評価実施日 平成25年7月19日
 担当教員名 小西 正雄, 太田 直也, 金野 誠志 回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	7				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	8	1			4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	6	3			4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	7				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	6	2			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	7	1			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	5	3			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1	9	1		3.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	6	1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	6	2			4.2



教員のコメント

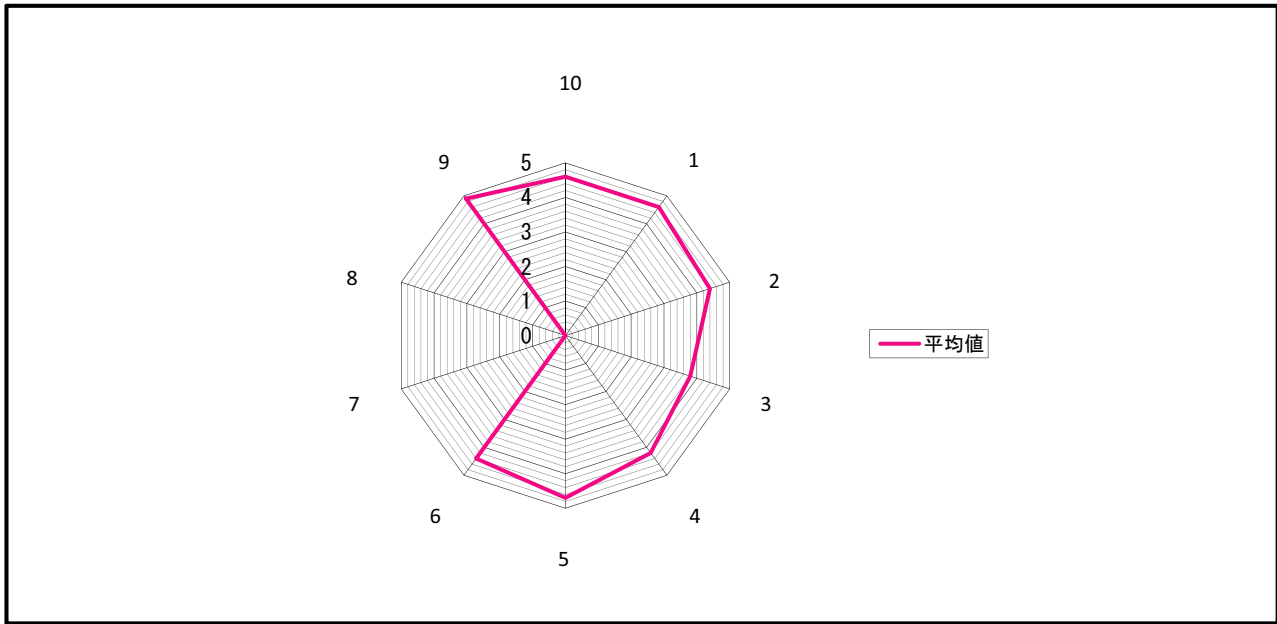
質問項目の中では「実践力につながる内容であった」が、平均よりも若干低い数値である。この「つながる」という表現は非常に微妙なニュアンスを含んでおり、「つながる」の内容や直接間接の度合いなどは、回答者によってさまざまに理解されるので、数値のみで一概に判断しがたい側面もあるが、本来この科目は小中学校での授業改善を直接的にはめざしておらず、むしろ、現行の授業実践を相対化し、冷静に再吟味するために必要な概念装置を提供しようとしたものであるので、とくに評価の数値に留意する必要はないと思われる。

結果報告書

授業科目名 人間と文化 I (基礎研究)
 評価実施日 平成25年7月23日
 担当教員名 小西 正雄

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	2	1			4.6
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	2	2			4.4
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3	1	1	1	3.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	4	2			4.2
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	7	3				4.7
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	6	2	2			4.4
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。						
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	1				4.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	4				4.6



教員のコメント

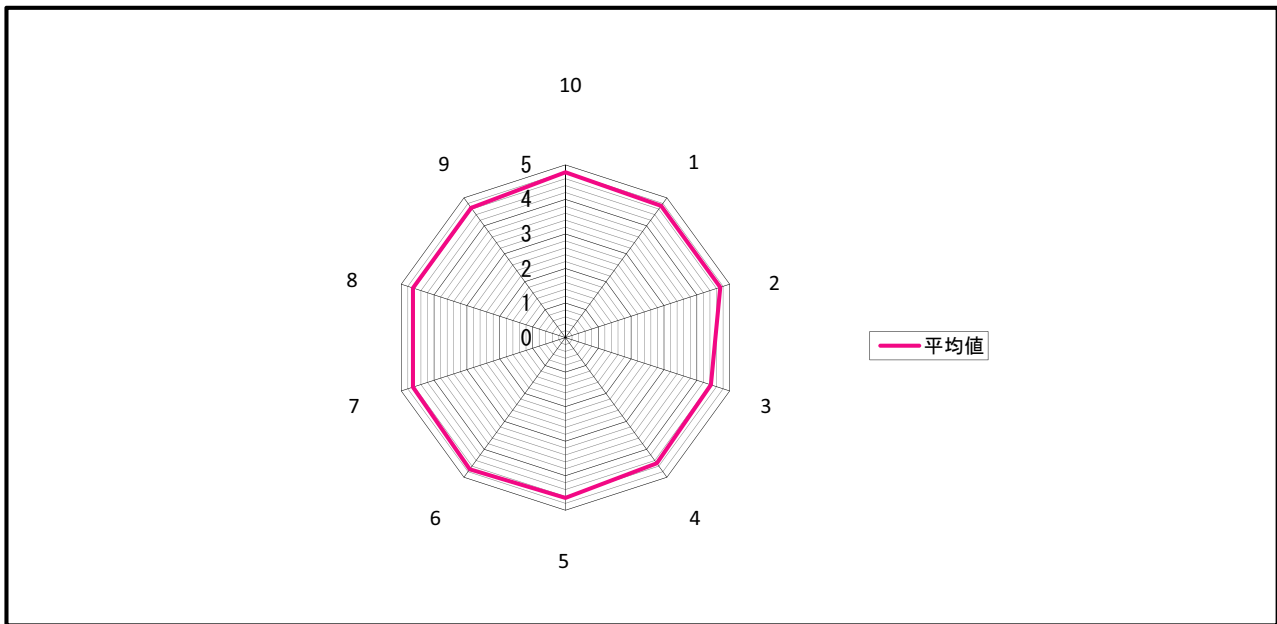
昨年度同様、おおむね好評である。この演習は論文作成のために先行研究の基礎的読解力を鍛えるものなので、「実践力に役立つ」という項目において、低い数字が出るのはやむをえない。ただ、この演習は、昨年度の受講生が「大変だったが非常にためになった、ぜひ次年度も続けてほしい」との声をを受けて実施しており、来年度以降も現行方式を踏襲するつもりである。

結果報告書

授業科目名 人間と文化Ⅱ(地域研究A)
 評価実施日 平成25年7月26日
 担当教員名 太田 直也

回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	2	1			4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	4				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	2	3			4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	5	1			4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9	5				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	4				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	5				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	3	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	3	1			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	3				4.8



教員のコメント

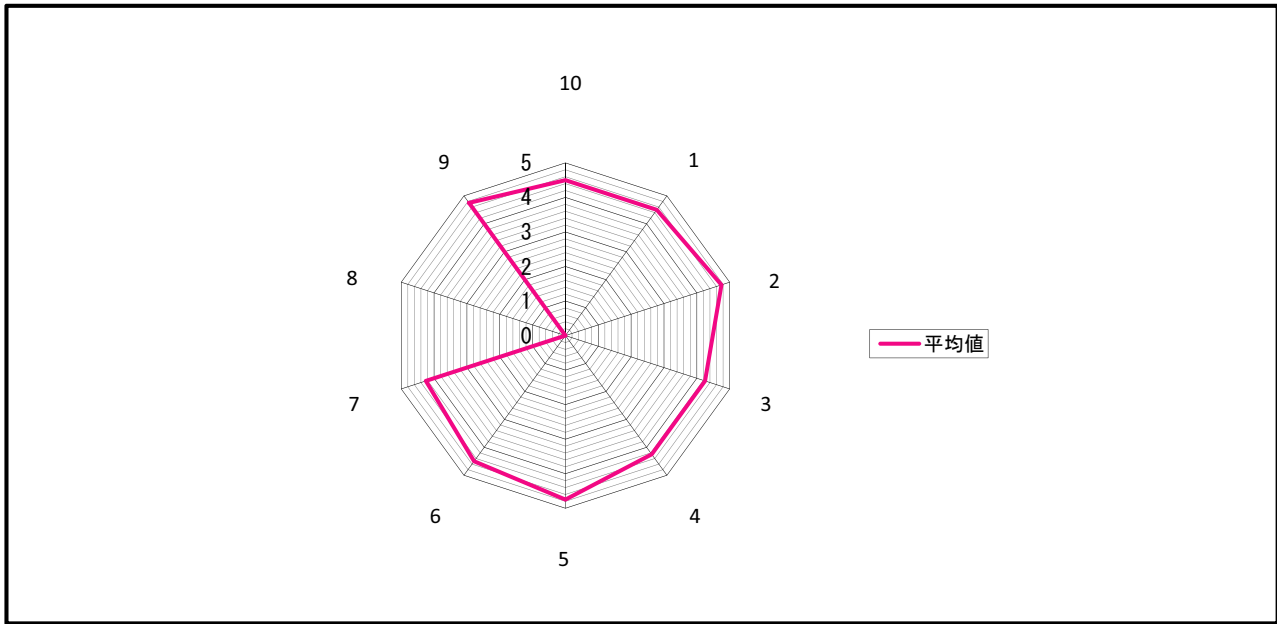
非常に高い評価を貰ったことに関しては、受講生に感謝したい。演習形式であり、受講生の予習とプレゼンテーションに依存するところも大なる授業である。本授業に対する受講生の評価は、授業担当者からの彼らの努力に対する評価である。授業担当者としてはやや消化不良点、改善すべき点等がある。次年度の目標としたい。

結果報告書

授業科目名 人間と文化Ⅲ(地域研究B)
 評価実施日 平成25年7月23日
 担当教員名 小西 正雄

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	2				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1	1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3			1		4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	3				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	2				4.5



教員のコメント

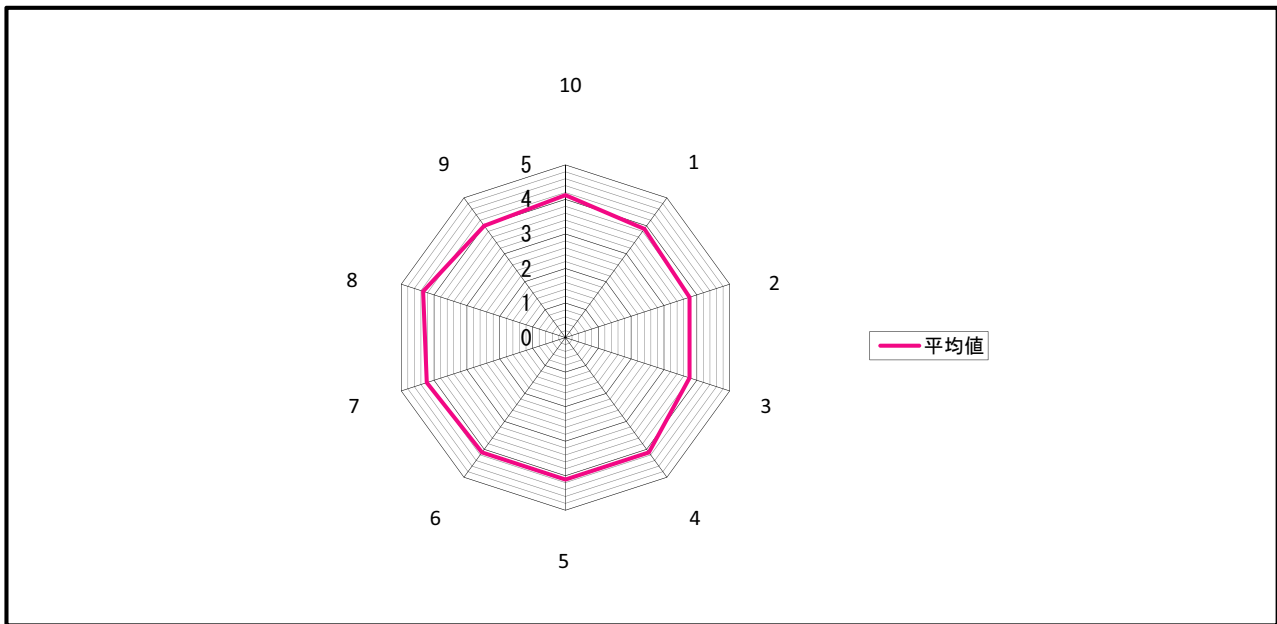
今年度は学会出席とその報告という新機軸で実践したため、どのような授業評価が出るか不安であったが、おおむね好評であり安堵している。この授業は、学会の実施時期や場所という外部条件に左右されてしまうので、次年度にむけての構想をたてづらい感を否めないが、実践力向上に資するように留意していきたい。

結果報告書

授業科目名 コミュニケーションと環境
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 金野 誠志, 谷村 千絵

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	5	1	1		3.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	4	2	1		3.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	5	3			3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	4	2			4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	4	2			4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	3	1	1		4.1
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	5	1			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	6				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	7	1			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	4		1	1	4.1



教員のコメント

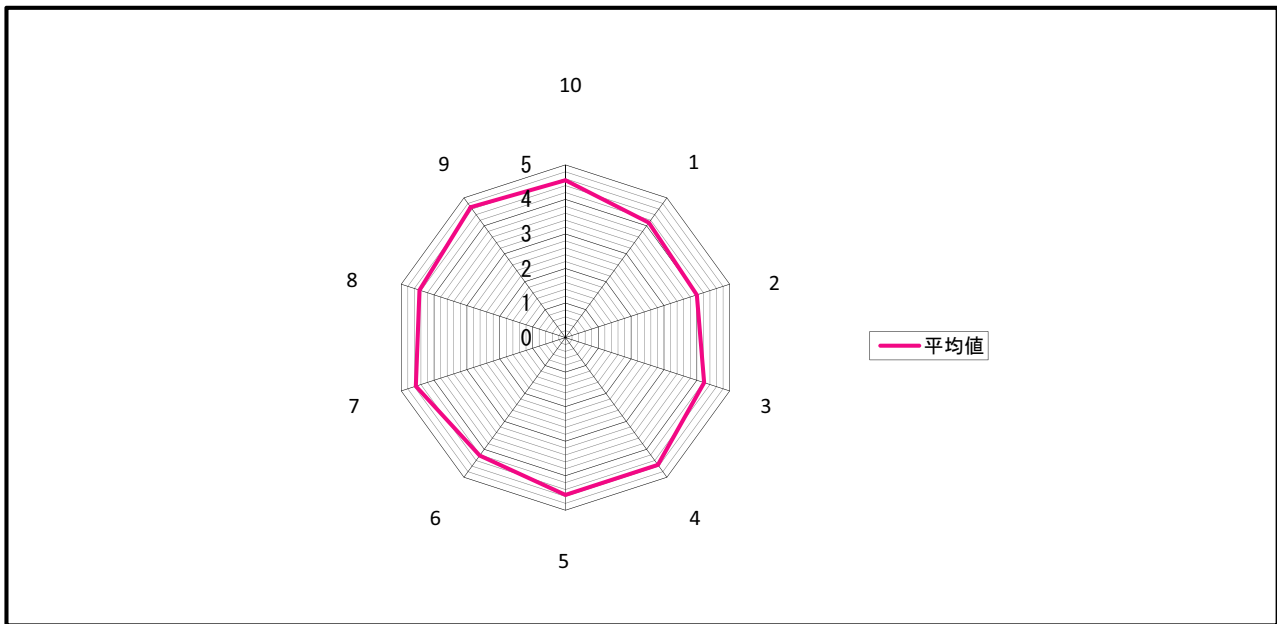
(1)~(3)については、「コミュニケーション」について受講者の期待のウェイトがあるか、「環境」について受講者の期待があるかという違いが出たものとする。また、受講者の期待する専門性・内容等も多岐にわたり、一人一人が受講以前に得ている知識や意欲にも差がある。その点がある程度考慮して次年度の計画を考えたい。

結果報告書

授業科目名 人間とコミュニケーションⅢ(実践研究B)
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 金野 誠志, 谷村 千絵

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	3	1	1		4.1
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2	2	1		4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2	1	1		4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8				1	4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	2	1			4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1	3			4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	2	1			4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	1	2			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7		2			4.6



教員のコメント

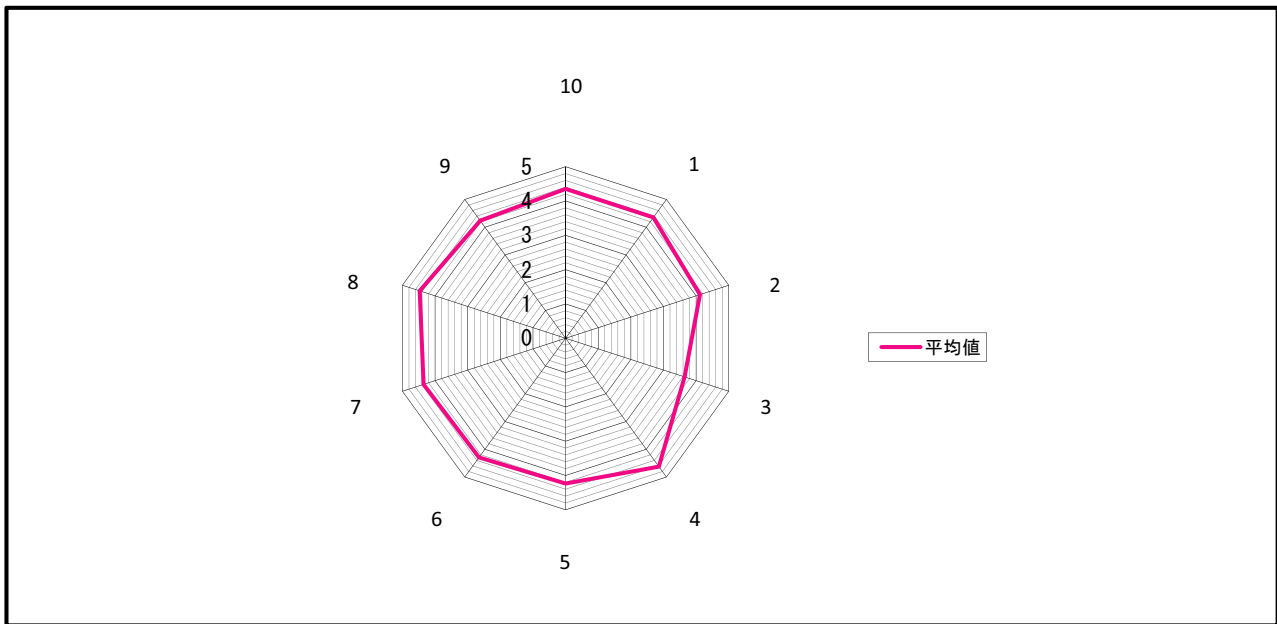
(1)~(3)の授業の内容についての評価が、若干わかれていた。オリエンテーションをはじめとして、受講者に内容に対する希望を聞く時間を前半はしばしば設けたが、特に要望はなかった。しかし、受講者の授業内容に対するニーズや入学までの経歴等多岐にわたったおり、その全てに答えられていない部分もあったかと考えられる。その点、次年度考慮していく余地がある。それを除けば概ね、一定の評価が為されたと受け止めている。

結果報告書

授業科目名 環境と文化
 評価実施日 平成25年7月30日
 担当教員名 田村 和之

回答者数 17 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	7	2			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	8	2	1		4.1
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	8	6	1		3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	4	1		1	4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	9	2			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	8	2			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	7	2			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	5	2			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	9	2			4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	7	2			4.4



教員のコメント

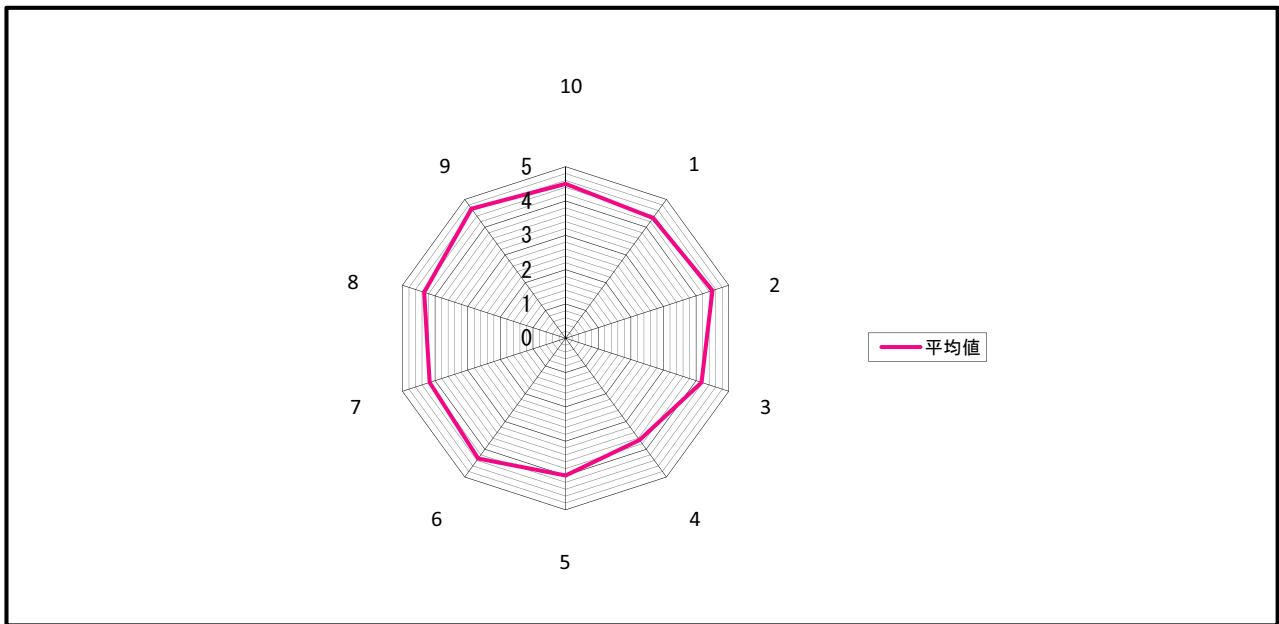
昨年度は評価の面で出席点が無かったという不満があったので、本年度は出席点を評価に追加した。
 本授業の最大の目的は教師の実践力の強化というよりも、自然環境や社会環境に関する知識を教えるのが主目的であるため評価(3)が他の評価と比べて多少低いのは予想の範囲内である。それ以外の評価は平均値が4を超えており、概ね学生の評判も良かったものだと考えられる。
 来年度は今回の結果を踏まえ、もう少し改良を加えながらも現在の形式を維持して行きたい。

結果報告書

授業科目名 人間と環境Ⅱ(実践研究A)
 評価実施日 平成25年7月30日
 担当教員名 田村 和之, 近森 憲助

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4		2			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	3				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1	2			4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1	2	1		3.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	2	2			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	2	1			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1	2			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	4				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1	1			4.5



教員のコメント

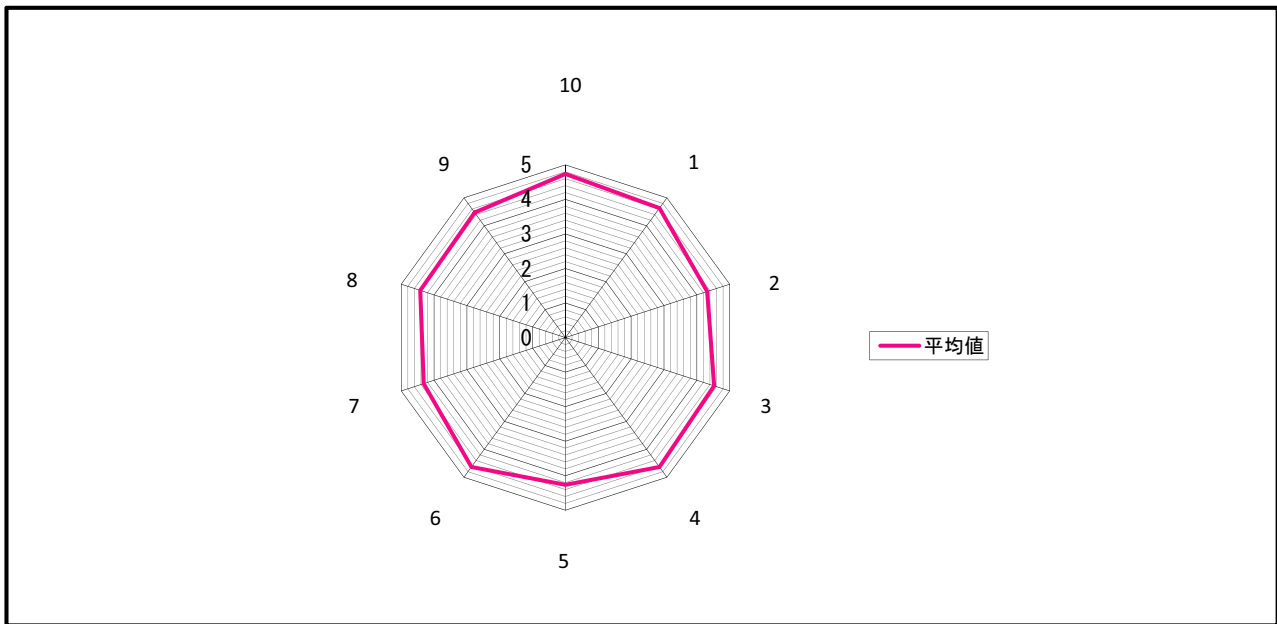
本年度は海外(ザンビア)における「生活科」に類似する教科を題材として、また、現地において行えるような授業の開発を行った。評価方法は学生が今までに受けてきた試験やレポートで評価する授業とは違い、普段の参加態度や最後の発表で行われるので、慣れない評価方法で戸惑う学生も居たようである。中にはあまり発言しない学生も居たので、今度ではもうみんなの発言を誘導するような発問や発議を行って行きたい。

結果報告書

授業科目名 現代の子どもと学校教育
 評価実施日 平成25年7月19日
 担当教員名 谷村 千絵

回答者数 19 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	13	5	1			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	6	2	1		4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	5	2			4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	13	5	1			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9	6	4			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	13	5	1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	7	3			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	12	3	4			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	6	2			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	16	2		1		4.7



教員のコメント

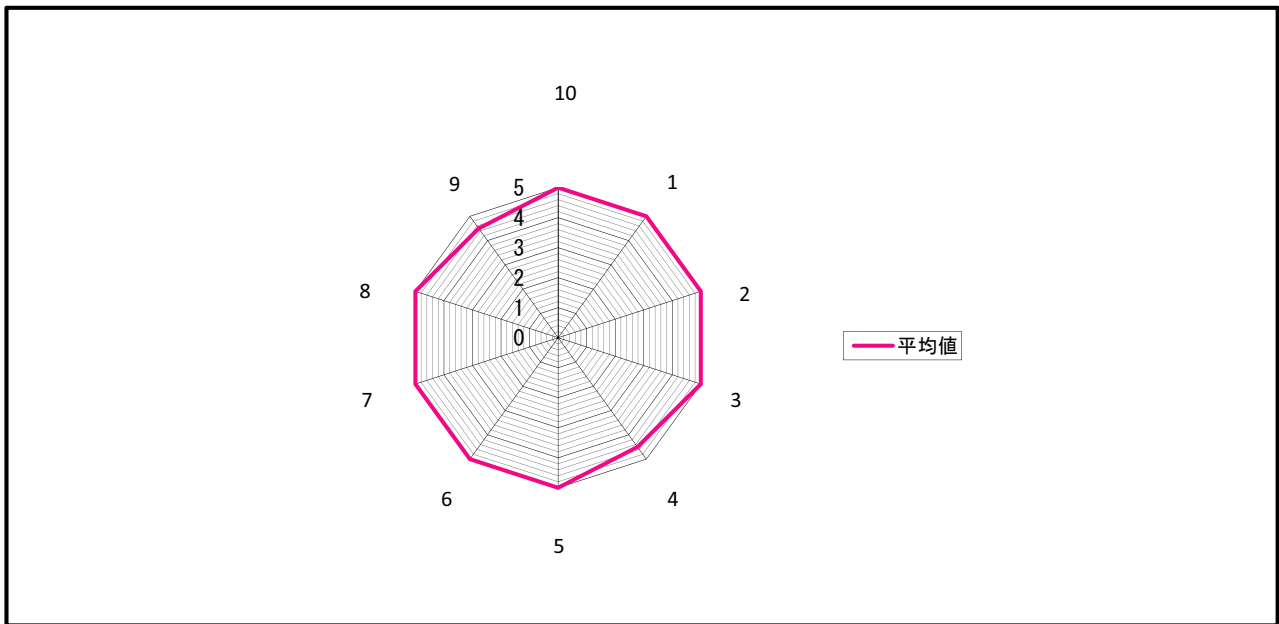
おおむね良好な評価である。グループワークでの話し合いを中心にした授業であるが、グループでは意見を集約せず、ひたすら「シェア」することを学生に促した。自由記述欄には「一人一人の意見を尊重するスタイル」、「出た意見は否定しないというスタンス」が他の授業と違ってよかったというコメントが複数あり、『他の人と意見を交流し、まとめるのではなく共有するという新しい視点を得た』、「今までに感じていた価値が一つしかない話し合いではなく、どれも認められているというところに救われた」、「学校を今までの学校とした固定的な見方から少し解放された気がする」、「答えを一つに見つけることを目的としない時間は凄く貴重だと思います」、「さまざまな考えが出され、そこからまた自分の考えに変化が生じるというプロセスが保障されていることがよかった」というコメントもあった。本授業の特徴は概ね把握されていたといえる。「自分の考えを積極的に述べたり、他の人の考えを理解しようと努力した」、「メンバーが私の意見を受け入れてくれる姿勢をみせてくれたので、積極的に発言できるようになった」、「居心地がよく、もっとやりたいと思った」というコメントが多く、積極的に楽しんで授業に参加していた様子を感じられた。改善点としては、話し合いの時間を多くとるための時間配分の工夫、一つのテーマをもっとじっくりやりたいという要望があった。なお、総合評価で2をマークしている者の自由記述には、「自分の意見をいってもあまり反映されないため、おとなしくしていた」「テーマ設定して話すのはいいが、それで終わりだとなんとなくやる気がしない」というコメントがあった。本授業の主旨を理解してもらえるよう、より丁寧な説明が必要なのかもしれないが、具体的には、おそらくは義務教育段階で形成されてきた、学ぶということに対する基本的な姿勢に対して、学生自身に促す必要があると感じている。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育コーディネーター概論
 評価実施日 平成25年7月30日
 担当教員名 井上 とも子

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

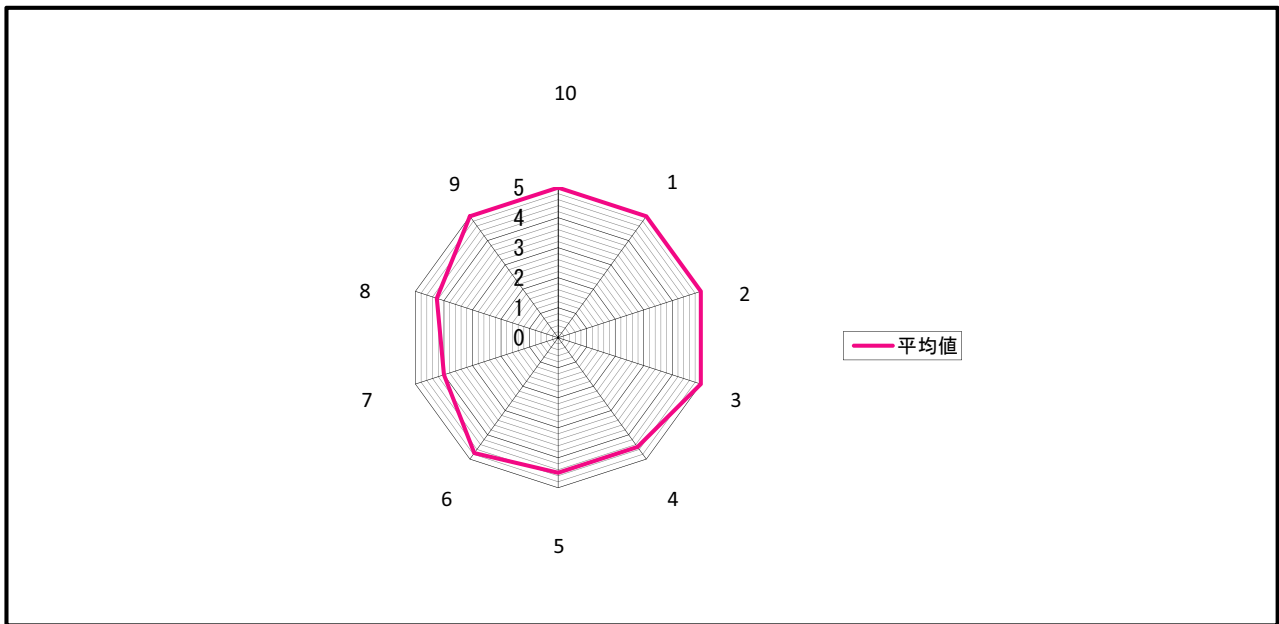
「少ない受講生であったが、聴講生が受講生より多くいたため、多くの意見を聞くことができた」コーディネーターの役割について、校内支援体制や巡回相談方法を具体的に学べた」など、当初、授業の目的としていたことが、コメントとして述べられており、達成できたと言える。どの受講生も聴講生も、熱心に協議し、自身の考えの幅を広げていく様子が見て取れた。学校教育にのみ関心を向けるのではなく、地域支援の視点を持って、特別支援教育コーディネーターの役割を考えていくことをこれからも続けてほしい。来年度は、「事例検討会のあり方」にも更に時間を取って授業展開し、校内で事例検討を推進していこうとする意識を育てたい。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育コーディネーター実地教育
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 井上 とも子

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3		1			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	2	1			4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	3				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



教員のコメント

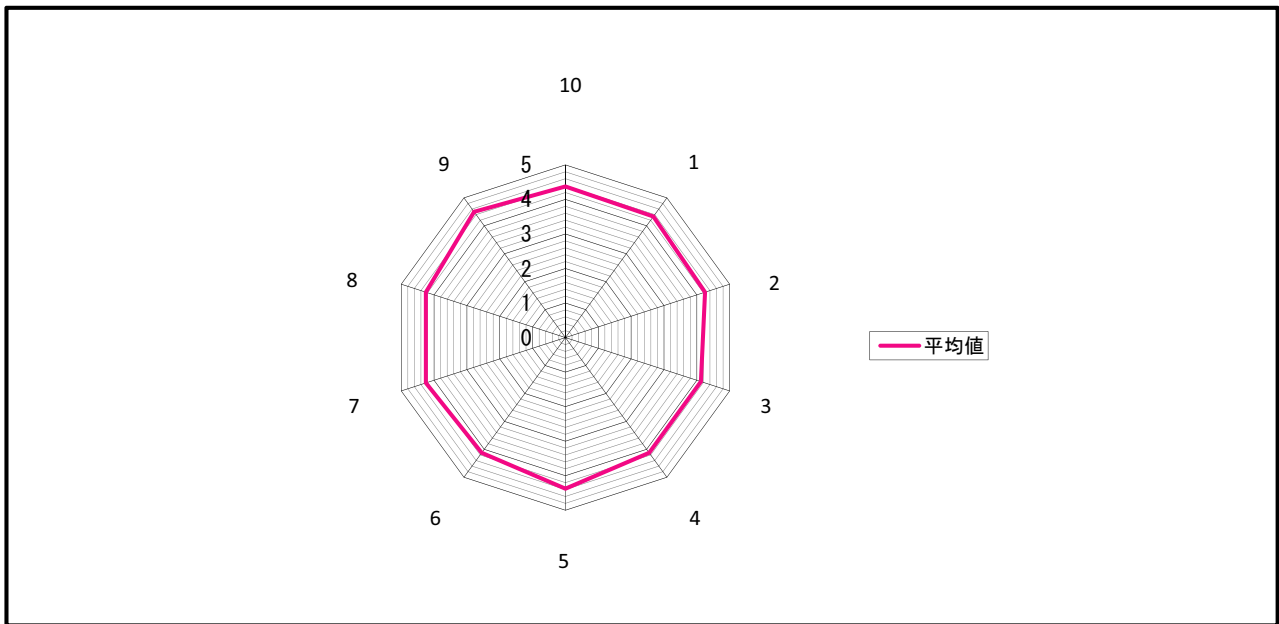
「子どもたちを目の前にして、支援や教育を実践できたことは、現場に戻ったときの貴重な経験になった」というような自由記述がどの受講生にも見られた。また、「チームを組んで教育実践に望むことができたことも、自身の積極性や主体性が触発され、指導後の話し合いの場で、チームで分析することができたことも良い学びとなった」ということも共通して述べられている。教科書や資料については、年度当初に参考図書は示し、資料は、動画記録が最も活用できる資料であったはずであるが、自身の指導する姿を振り返ることが分析の中心になって、教科書や資料への意識は希薄であったのかもしれない。この授業は、指導に関わる者が、動画記録を元に指導者としての行動を分析し、次の指導に臨む(計画、動きの打ち合わせ)ことが最も重要な授業であるため、資料や教科書に頼るのではなく、話し合いが十分できたとしたら、授業として望ましい姿であったと考える。次年度も、この授業体制は継続したい。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育学研究論 I
 評価実施日 平成25年7月30日
 担当教員名 高橋 眞琴

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	3		1		4.3	
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	3		1	1	4.3	
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3			1	1	4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1	1		1	1	4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	2		1		1	4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	4		1		1	4.1
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	3		1		1	4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	2			1	1	4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	4				1	4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1			1	1	4.4



教員のコメント

本授業の受講生は、M1の大学院生4名(うち、2名が現職教員)、長期履修生2年が5名、教職大学院から1名の聴講生(アンケート回答には含まれていない。)で構成されていた。受講生からの総合的な評価は、4.4であり、授業内容は、概ね良好であったと考えられ、各項目とも、4.1以上の平均値であった。特に、大学院での研究で要求されるであろう(9)「授業に主体的・積極的に取り組んだ。」という項目の平均値は、4.5であり、項目中で最も高かった。各回答者の自由記述においても、「全員で話し合う機会が多く、様々な視点で見られました。」「他の方と意見交換ができて、勉強になりました。」「初めて学んだ内容が多く、特別支援の専門的な知識を身につけることができた。」といった肯定的な意見が複数あった。

項目(1)以降は、無回答である受講生が1名いたが、項目(1)については、5をマークしており、自由記述において、「特別支援教育課程の中で貴重な社会モデル的視点を紹介していた。」と記述していた。アンケート調査の際には、無効回答が発生しないように今後は留意していきたい。

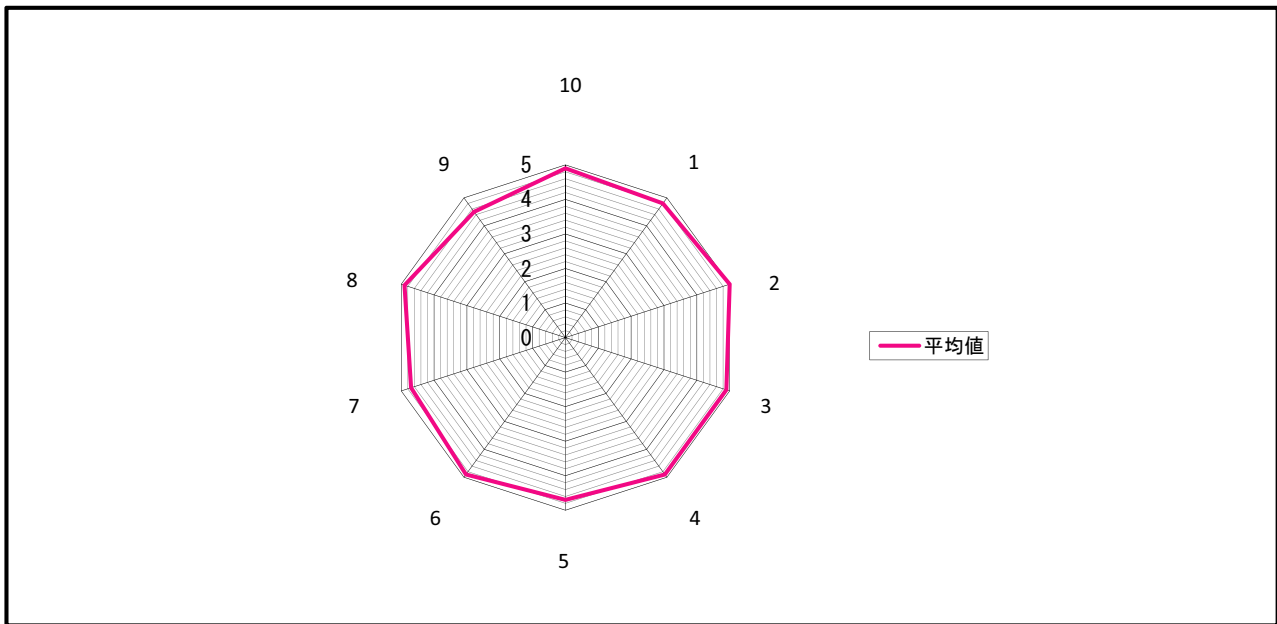
(4)「成績評価の方法の説明は、適切であった。」という項目で3をマークしている受講生がいたが、自由記述においては、「最終課題は期間を設けてほしい。」と記述していた。実際の課題は、義務教育諸学校での読書感想文課題分量程度(原稿用紙5枚(2000字))に、指示したテーマを1週間で論述してくる内容であった。授業者は、直近まで学校教育現場で実践、研究を行っており、特別支援教育に関連する選考・採用試験において、専門分野の「選択問題」「教育法規問題」「海外文献の翻訳問題」「一定時間内に一定の分量を論述する問題」等に遭遇したことがあるため、それらを意識したのであるが、一部の受講生にとっては、履修科目の前期末のレポート等を複数作成しているといった多忙な状況があり、困難な課題であったと推察された。尚、1名、すべての項目にわたって、1または2をマークした受講生がいたが、自由記述においては、「課題が多すぎる。先生の興味のある内容ばかりで面白くなかった。」と記述していた。授業者は、研究大学の大学院に在籍していたが、授業者(研究者)の専門領域に興味・関心をもった受講生が当該科目を履修登録し、受講するのが一般的であった。今年度は、赴任直前に、短期間でのシラバス作成指示があったが、今後は、本授業実践の経験を踏まえ、教員養成系大学である本学の大学院生(他大学からの入学生、現職教員)、長期履修生といった多様な学生の学習スタイルやニーズに対応した授業内容を研究していきたい。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育学研究論Ⅱ
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 大谷 博俊

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	1	1			4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	1	1			4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3	1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	1				4.9



教員のコメント

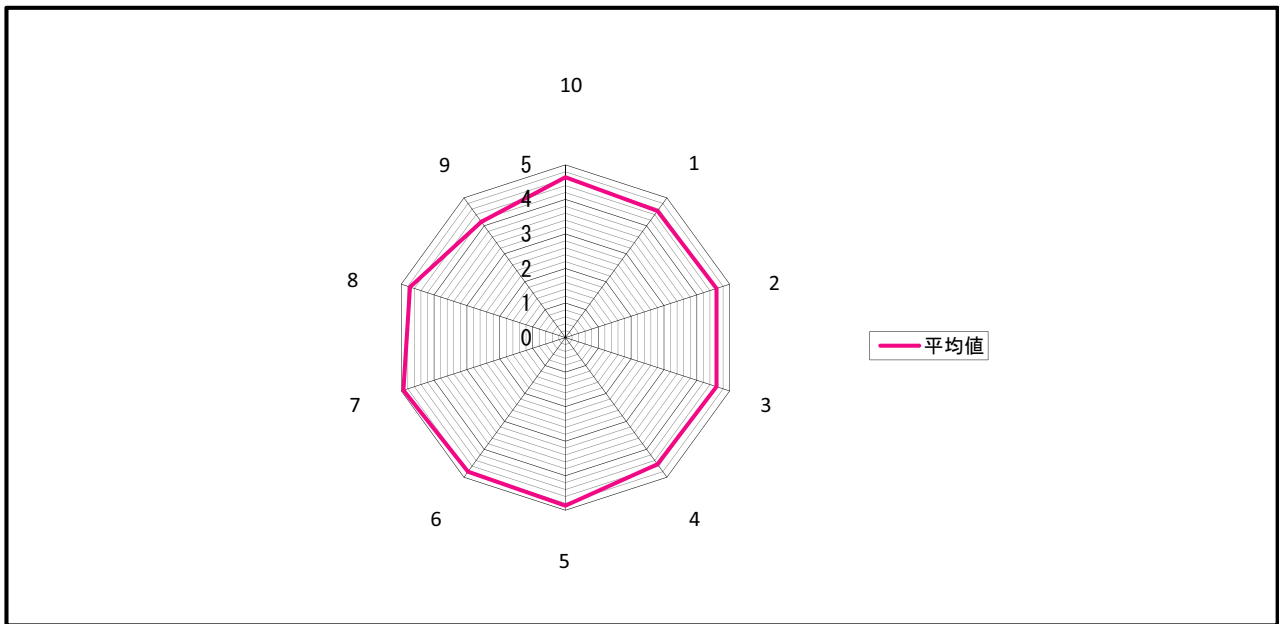
授業内容については、全ての受講生が専門的知識を深めるのに役立ったと評価している。また、「授業概要は、この授業を適切に表現していた」及び「教師の実践力の育成につながる内容であった」についても、平均値は4.8並びに4.9であり、評価が高い。本授業の内容は、適切であったといえよう。授業の進め方についても、平均値が4.7～4.9であり、比較的评价が高い。また、総合的評価を勧業しても、本授業は適切であったといえる。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育臨床心理学研究論
 評価実施日 平成25年7月26日
 担当教員名 高原 光恵

回答者数 15 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	7				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	4	1			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	4	1			4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	5	1			4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	13	2				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	12	3				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	14	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11	4				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	7	1	1	1	4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	3	1		1	4.6



教員のコメント

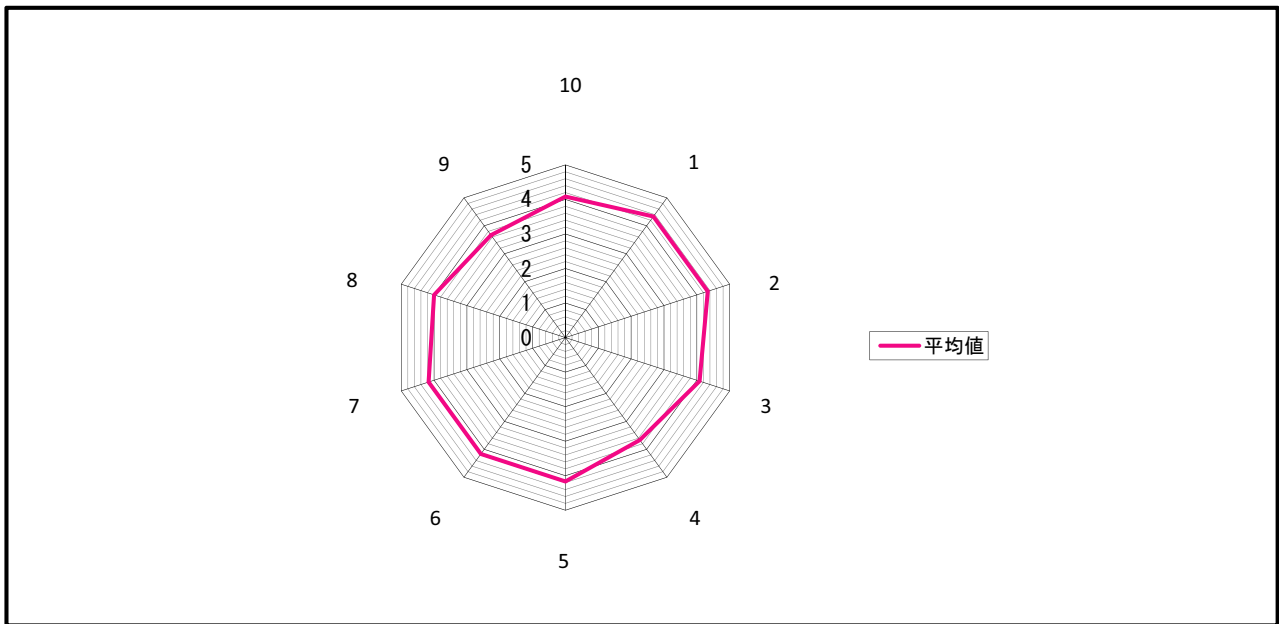
授業形式として、講義、グループ討議／ロールプレイ、映像や現物紹介などを取り入れながら行った。そのため、各授業で扱うテーマの内容が比較的イメージしやすかったり、理解しやすかったりしたのだと考える。また、主体的、積極的に学べるように、受講生の意見・考え、疑問点などを意図的に表現しやすい時間を設けつつ進めた。それに対し、自己評価として厳しい評価をつける受講生もいたが、自由記述の理由から推察すると、充分主体的に係わっていたと考えられるものであった。今後は、主体的な取り組みが自覚できるような促しを工夫していきたい。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育学習心理学研究論
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 島田 恭仁

回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	4	2			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	4	2			4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	3	4			4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	5	4	1		3.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	4	3			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	6	2			4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	4	3			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	4	4			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	5	4	1		3.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	5	3			4.1



教員のコメント

項目(1)(2)(6)で、12名中10名の受講者が5又は4の高い評価を行ったことから、「授業概要は内容を適切に表現できていた」こと、「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」こと、「受講生に分かりやすく説明できた」ことが分かった。とりわけ(1)と(2)で5の評価が多かったことから、シラバスに即して受講生の専門的知識を深めることに貢献できたと言える。また、項目(10)でも、12名中9名の受講者は5又は4の評価を行ったことから、「総合的に評価して、この授業はよかった」と思っている受講生の比率が高いことが確かめられた。

近年、日本においても、WISC-IV・KABC-II・DN-CAS等の新しい知能検査や認知能力検査が標準化され、実用的に用いられるようになった。本講においては、これらの新しい検査の内容と解釈法を説明した上で、知的障害児や発達障害児の実態把握に役立つ心理教育的アセスメント法を詳細に講義した。さらに、発達障害の事例を具体的に取上げて、生育歴の聴取、授業観察、行動観察、チェックシート評価、WISC-IVとDN-CASの実施という一連のアセスメント過程を説明し、これらのアセスメント結果に基づいて、個別指導計画・教材・指導法を考案する実習を行った。これらの試みが受講生の専門的知識を深めるのに役立つのだと考えられる。

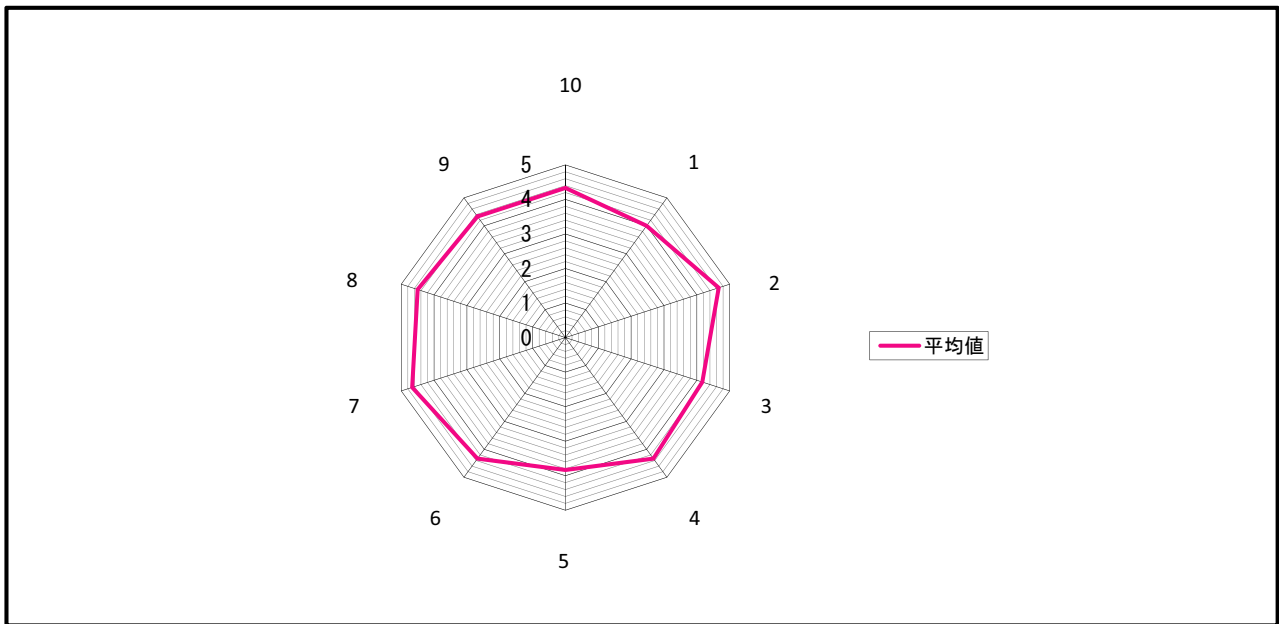
しかしながら、項目(4)と(9)では2の評価を行った受講生もいたことから、初学者にも興味のもてそうな参考文献を紹介する、成績評価の方法を分かりやすく説明する等の工夫を加えて、受講生が学習に主体的に取り組めるよう援助したい。

結果報告書

授業科目名 発達障害児病理・病態生理学研究
 評価実施日 平成25年7月26日
 担当教員名 田中 淳一

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	2	2			4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3	1			4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2	1			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3		2	1		3.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4		2			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	2				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4		2			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	2	1			4.3



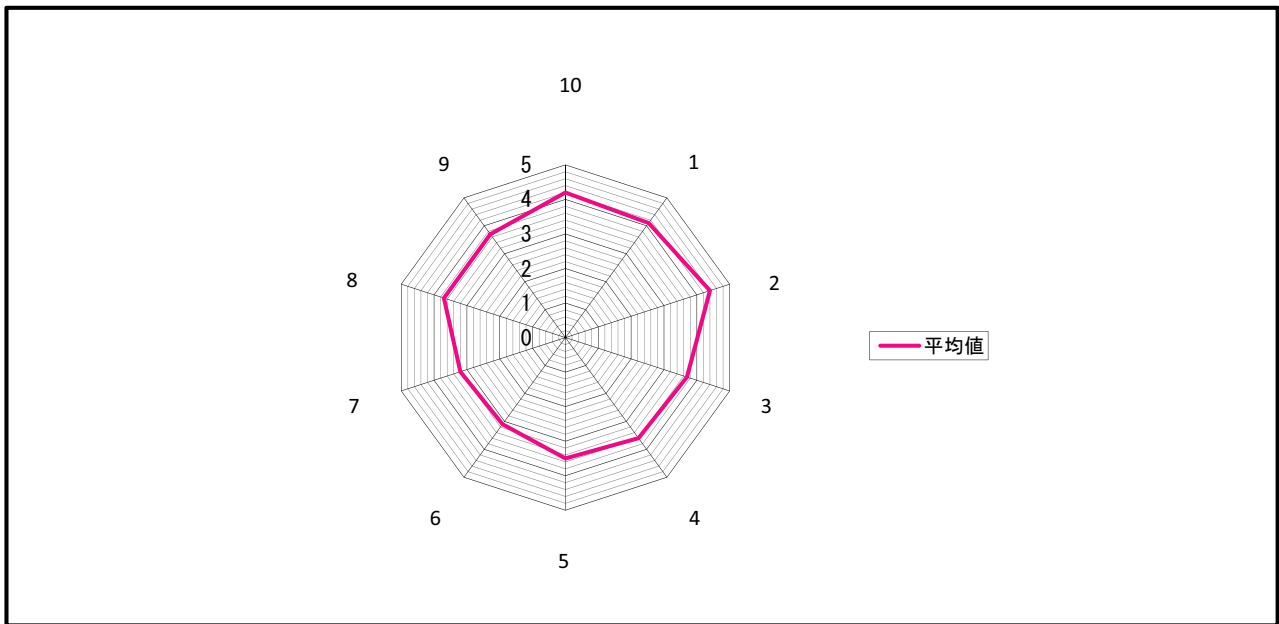
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 発達障害児生理・発達学研究
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 津田 芳見

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	5	2			4.1
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	4	1			4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	3	2	2		3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	3	4	1		3.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	3	3	2		3.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	3	1	2	2	3.1
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2	4		2	3.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	6	2	1		3.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	5	1	2		3.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	4	2			4.2



教員のコメント

授業の内容に関しては、授業概要、専門的知識の獲得、などすべて、おおむね高い評価が得られた。しかし、教員の授業の進め方については、授業評価の方法の説明、授業のすすむ速さ、説明などは高い評価をした人もいるが、中間くらいの評価であった。
 配布した資料、視聴覚機器の使用などについては、高い評価をした人もいるが、やや低い評価をした人もあった。授業への主体的積極的取り組みや教師の実践力の育成については、中程度または、やや高い評価であった。もう少し、参考図書文献を紹介し、自主的に積極的に取り組めるような工夫が必要と思われた。

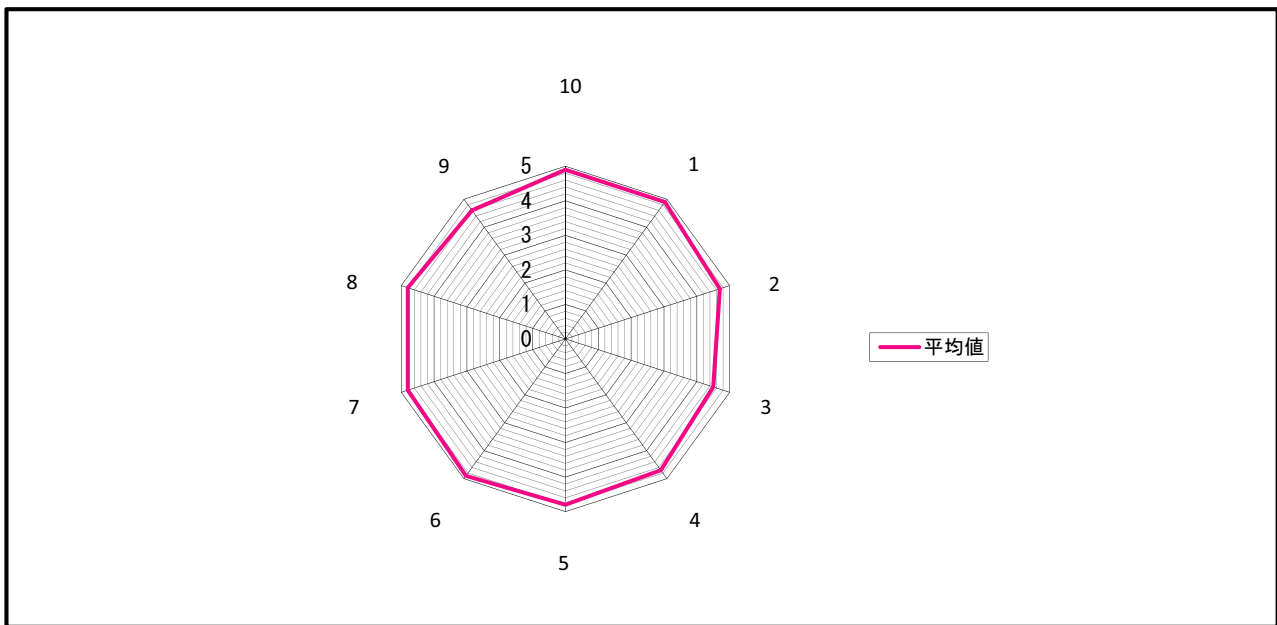
結果報告書

授業科目名 言語教育基礎論 I
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 原 卓志, 茂木 俊伸

回答者数 10 人

言

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	3				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	5				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	1	1			4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	2				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	2				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	4				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	1				4.9



教員のコメント

「言語教育基礎論Ⅱ」担当の英語コース担当教員との合同授業である。日本語ばかりではなく、英語にも目を向け、ことばに関する問題を様々な面から考究する内容であった。グループでの話し合いや作業をふんだんに取り入れた話題提供によって授業を進めた。授業担当者それぞれの工夫によって、高い評価が得られたことは喜ばしいことである。

良かった点として次のようなコメントがある。

○「ことば」を多角的な視点から考えることができた。

○先生方のそれぞれの専門分野を少し掘り下げた話題を紹介していただき、それについてディスカッションの時間があって、自分なりに考えるきっかけになりました。

○ことばに対する意識が非常に高まった。

○語彙・文法・表記・教育など、いろいろな角度から言語について考えることができた。さらに日本語だけではなく、英語やネパール語まで視野を広げて学ぶことができる。

このような肯定的な意見とともに、「テーマが多岐にわたりにすぎている」ことを改善点に取り上げた受講生もあった。

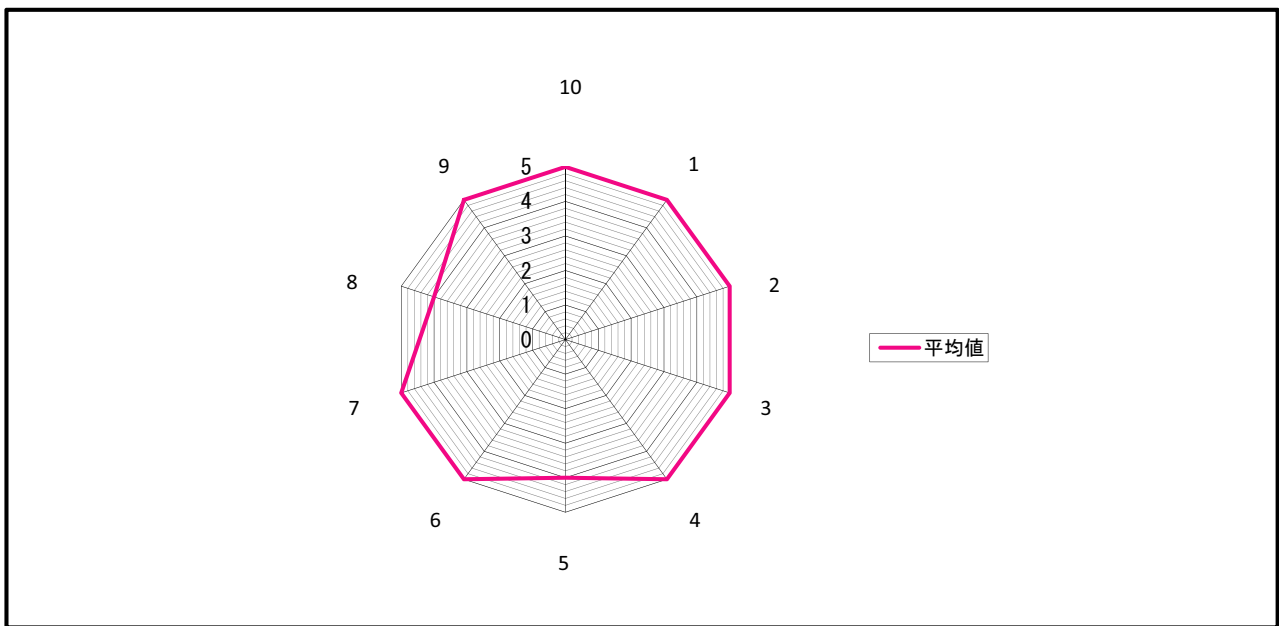
本年度の授業を反省し、受講生の意見を次年度の授業作りに活かしていきたいと考えている。

結果報告書

授業科目名 日本語 I
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 田中 大輝

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。		2				4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		2				4.0
	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

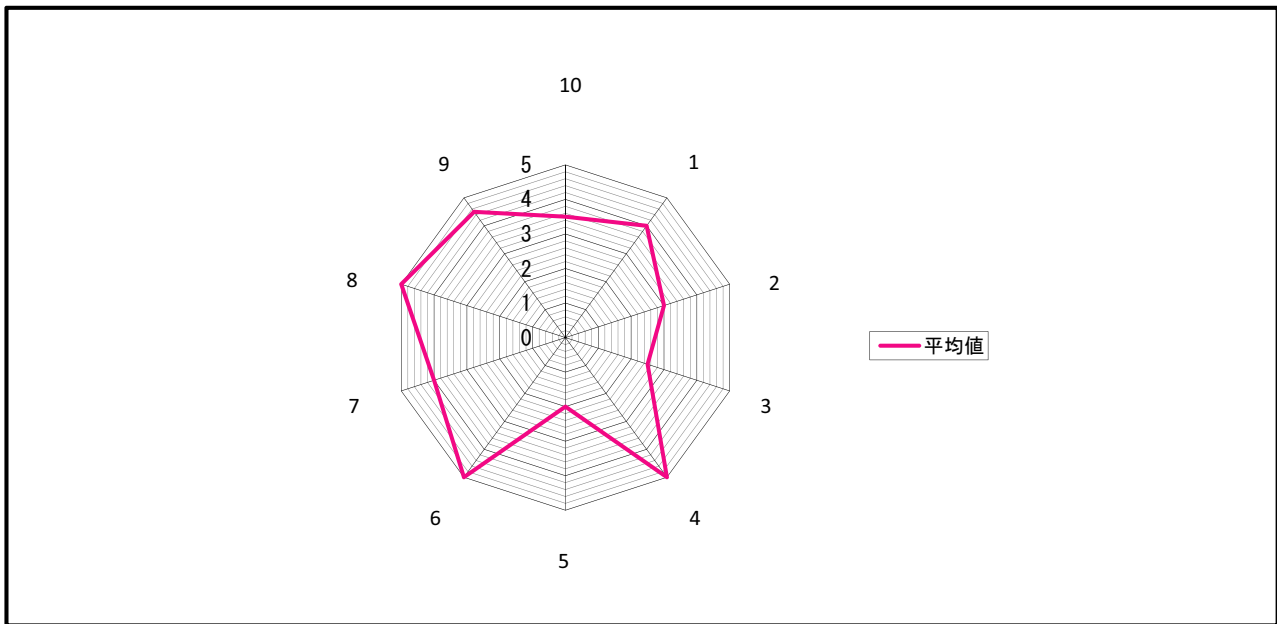
本授業は、留学生の日本語運用力を高めるために、「日本語学習者にとって難しいとされる音を正しく発音できるようになること」および「それらを正しく聞き取れるようになること」を目標とした。受講者数は3名(＋聴講13名)であり、「私にとって日本語の勉強で一番重要なのは会話なので、聴解と発音の能力が上がってとても嬉しいです」や「授業中の雰囲気や和やかでとても楽しかったです」など、楽しみながら日本語能力を伸ばせたことを高く評価する声が多く見られた。一方で、「授業内容が少し簡単だったと思います」や「とどき、復習や説明の時間が長すぎたと思います。もうちょっとたくさん内容を勉強したいです」など、より高度な内容の授業を期待する声も出ていた。本授業は受講生の日本語能力に著しい隔たりが見られた(N1レベル～N4レベル)ため、全員のニーズに応えることは難しかったのであるが、できる限り幅広い受講生に満足を与えられるよう、今後も最善を尽くしたい。

結果報告書

授業科目名 日本語Ⅱ
 評価実施日 平成25年7月24日
 担当教員名 妹尾 春子

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1		1			4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		1		1		3.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。			1	1		2.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。				2		2.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1		1			4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。		1	1			3.5



教員のコメント

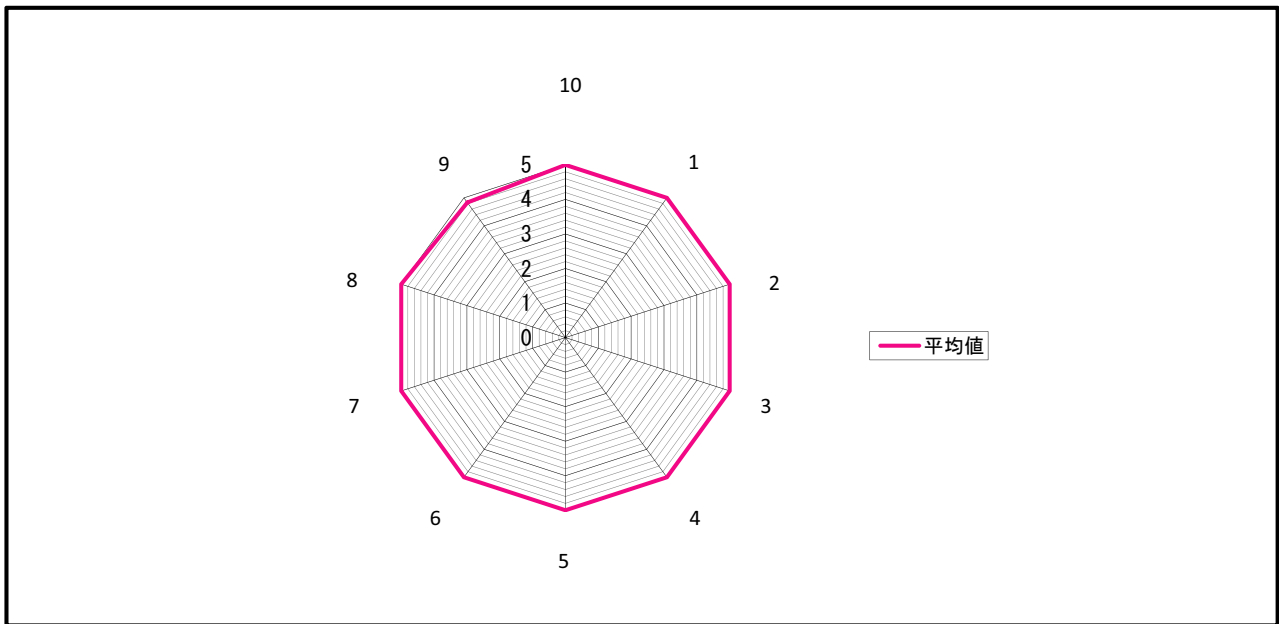
授業を進める速さは、もう少し速いほうがよかったという指摘があった。
 また、内容に関しても、少し簡単すぎたというコメントがあったため、次回は使用テキストと学生のレベルのバランスをよく考えたいと思う。
 発表については、積極的に取り組めた学生が多く、テーマを自分で決めるという楽しさも味わえたようだ。

結果報告書

授業科目名 日本古典語研究
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 原 卓志

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



教員のコメント

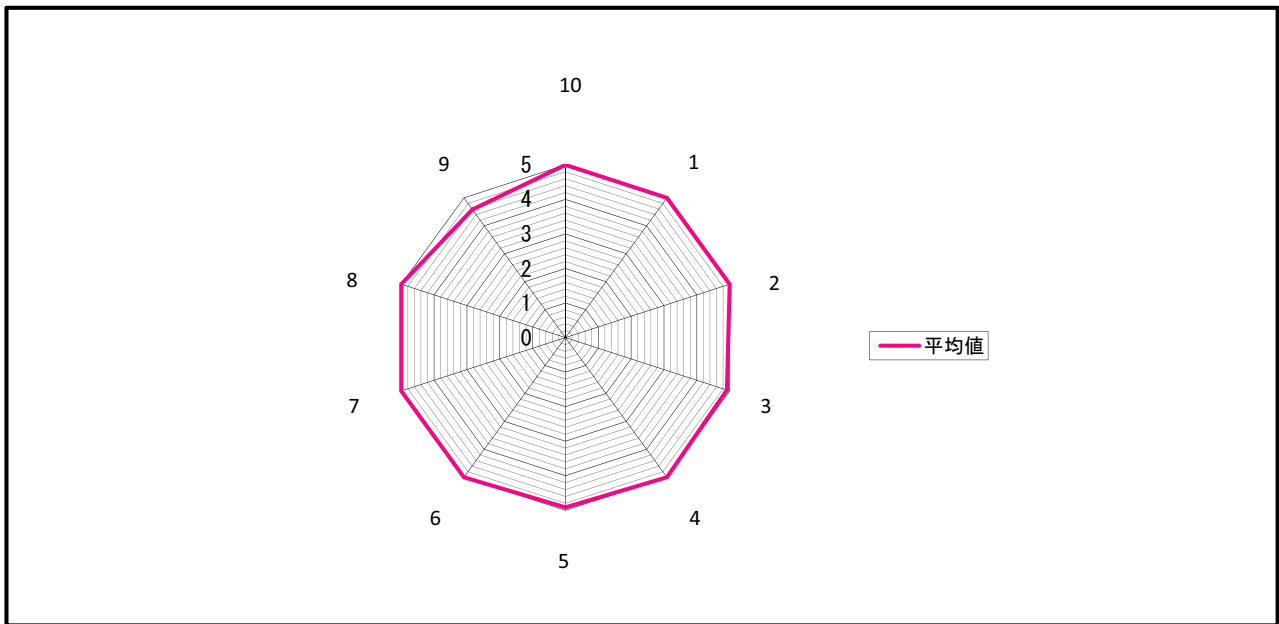
正式な受講者数は3名であるが、昨年度から続いて聴講する3名が加わって、和気藹々と楽しみながら「祖谷東西記深山草」を読解していった。
 受講者数が少ないだけに、この評価がどれほどの意味を持つか疑問があるが、総合評価として「5」が与えられたことは喜ばしい。
 良かった点としては、「徳島の歴史や他の古典との関連も説明があり、とても勉強になった」「少数なので全員が発表できる」「古典語を実践形式で学べる」というコメントがあった。受講生の取り組みとしては、「毎週しっかりと予習に取り組みました。他の古典や地域の歴史との関係や石碑などについて調べることは十分にせきなかつたと思います」「授業内容に興味を持つことができた」「講義に関係する本や情報を調べた」「予習復習をし、授業にも積極的に取り組んだ」というコメントがある。毎時間、受講生に読解発表が課せられるということで、予習復習の取り組みにつながったのであろう。

結果報告書

授業科目名 現代日本語研究
 評価実施日 平成25年7月30日
 担当教員名 茂木 俊伸

回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	12					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	11	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	12					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	12					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	12					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	5				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12					5.0



教員のコメント

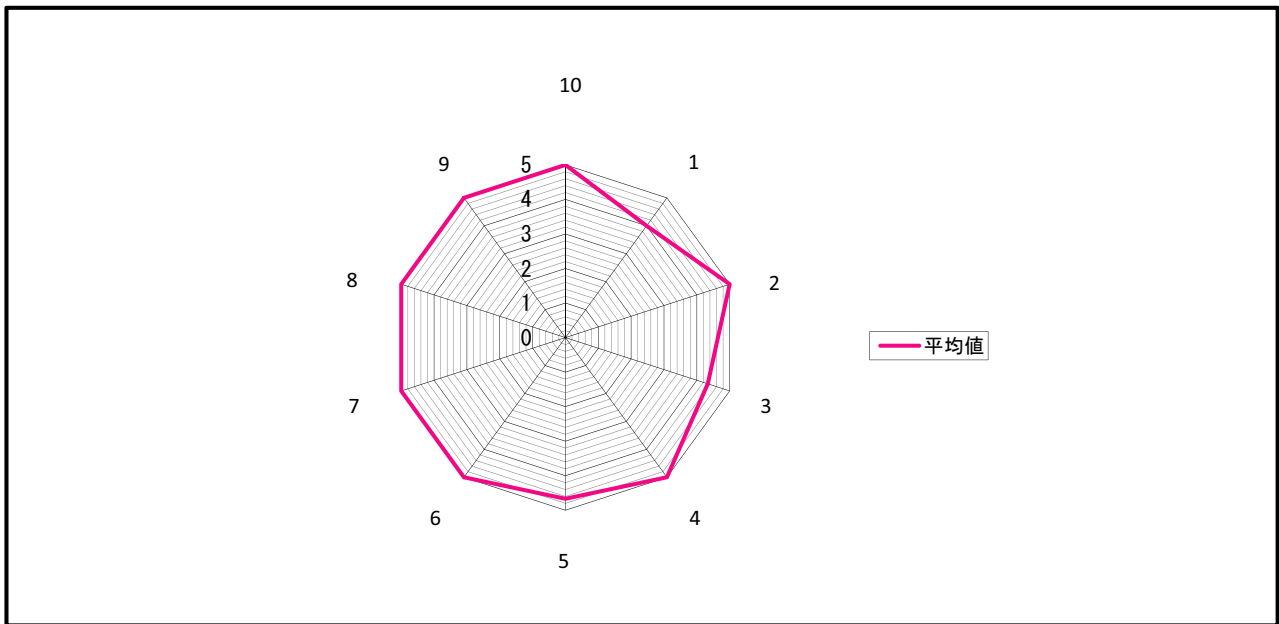
本授業では、語彙・文法などに関する現代日本語の諸問題を題材としながら、ことばの分析・研究において必要となる視点や技術に対する理解を深め、これらを獲得することを主な目標とし、講義を行った。受講者数は13名であった。
 授業の総合評価(項目10)の平均値は5.0、全項目の平均値は4.94である。昨年度は項目3が最も低い評価(平均値4.3)だったが、改善している。今年度は項目9が最も低く、やや自分に厳しい評価であるが、昨年度と同様の水準である。
 記述式の項目については、今年度は改善点(項目[3])の指摘がなかった。感想(項目[4])の「国語コースの必修科目にしてよいと思う」というコメントを励みにしつつ、よりよい授業を目指していきたい。

結果報告書

授業科目名 日本文学研究 I
 評価実施日 平成25年7月26日
 担当教員名 黒田 俊太郎

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2			1		4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2		1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



教員のコメント

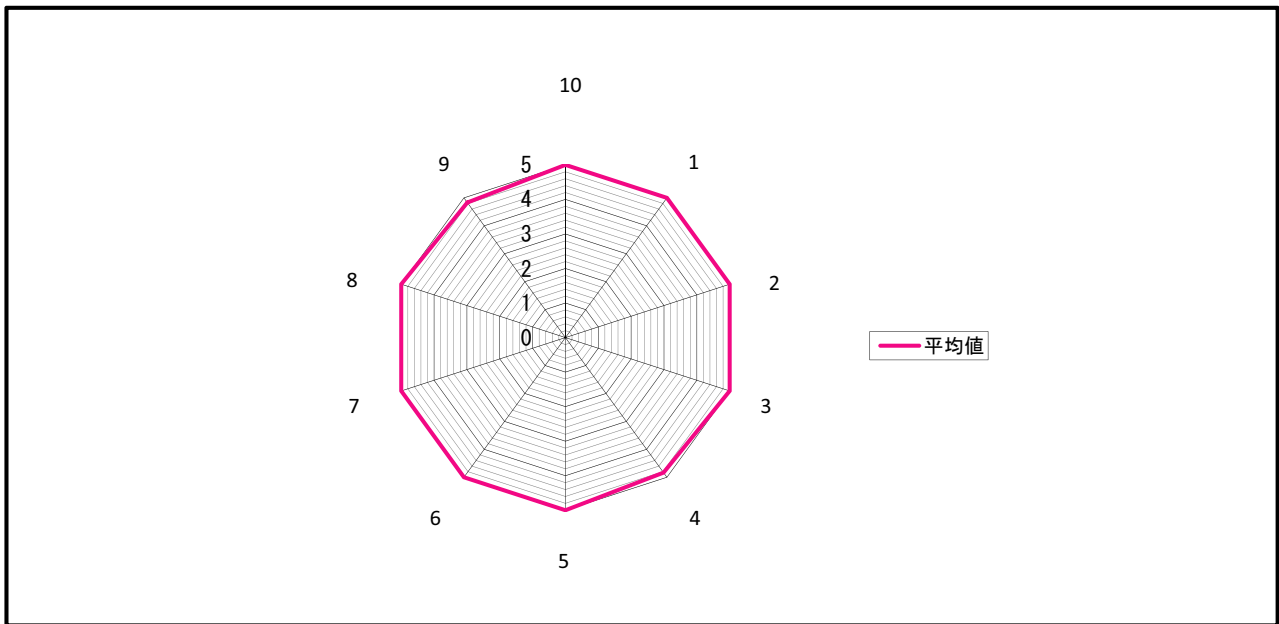
履修者全員が「総合評価」を「5」としたように、授業実践は高い水準で達成されたと考えられる。ただし、質問項目(1)に対し、1名が評価「2」としている。これは、授業内容とシラバスの内容とが異なる部分があったことに由来すると考えられるが、授業内容の変更は、受講者数等に柔軟に対応した結果である。今後も臨機応変に適宜授業内容を変更しながら、「総合評価」において高い水準を維持できるような、授業内容の改善に努めていきたい。

結果報告書

授業科目名 日本文学研究Ⅱ
 評価実施日 平成25年8月1日
 担当教員名 小島 明子

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



教員のコメント

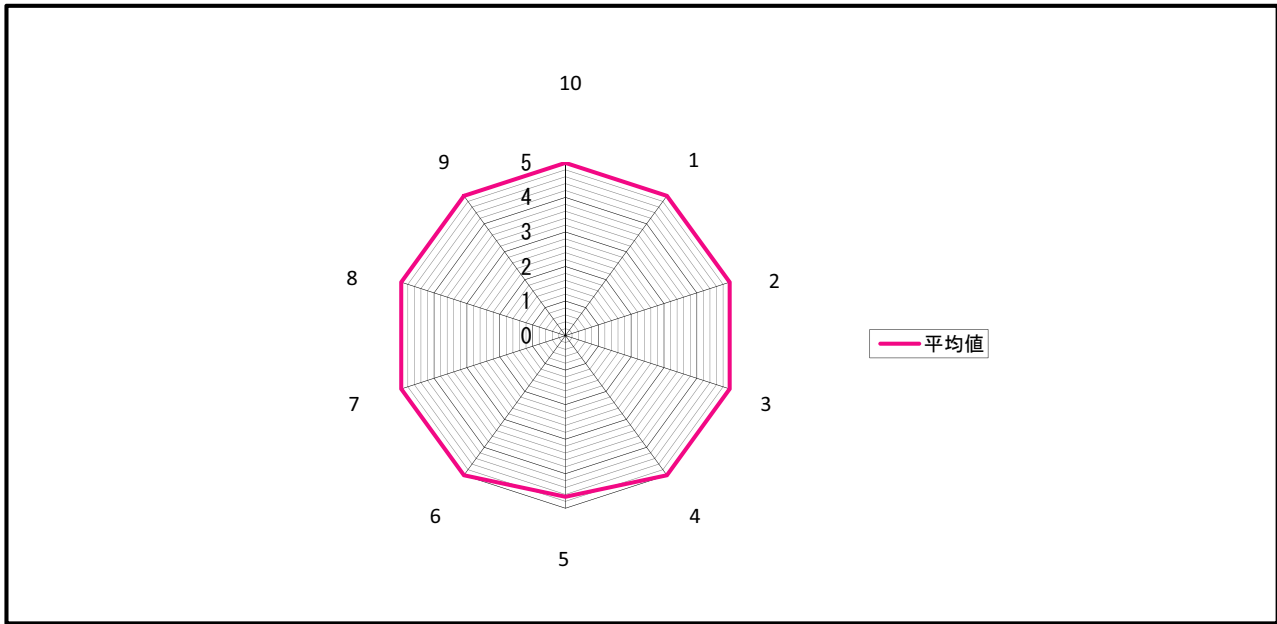
学生の評価は高いものとなったが、これは受講学生が少人数であったことと、学習意欲がとても高かったことに起因していると思われる。自分としては資料の提示の仕方、板書の仕方などに問題を感じていて、今後改善を加えてゆきたいと考えている。

結果報告書

授業科目名 日本語教育学研究
 評価実施日 平成25年7月31日
 担当教員名 小野 由美子

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



教員のコメント

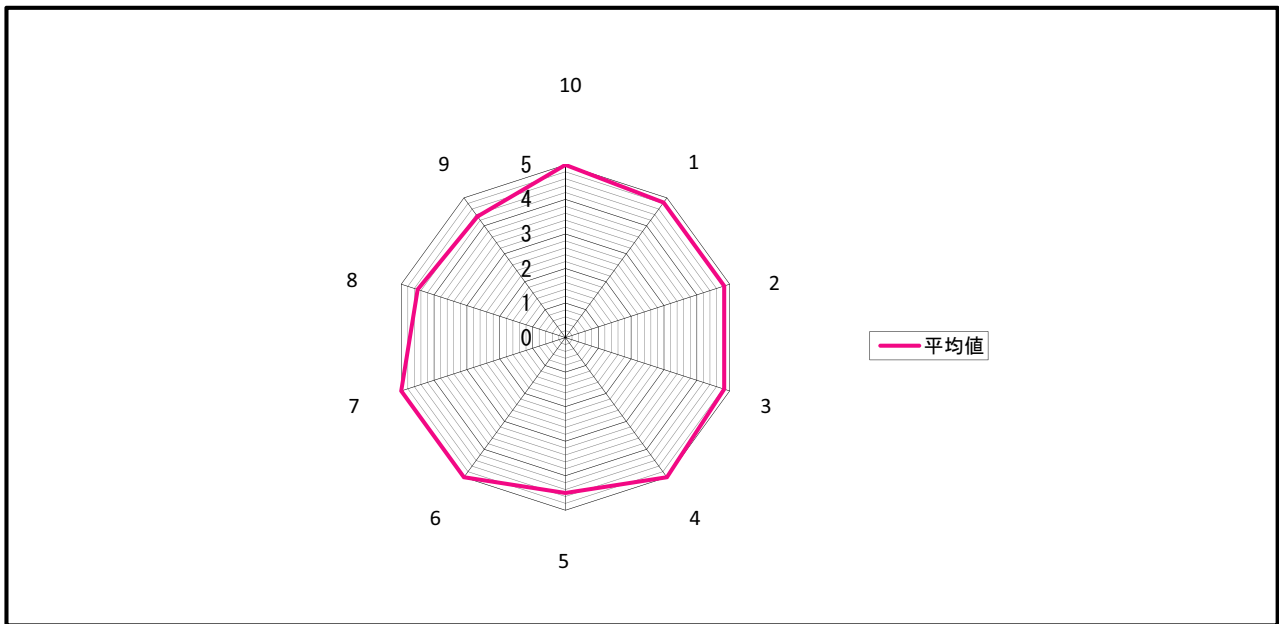
学生に満足してもらえる授業でよかったです。

結果報告書

授業科目名 日本語文法研究
 評価実施日 平成25年7月26日
 担当教員名 田中 大輝

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	3				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	3				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	4				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



教員のコメント

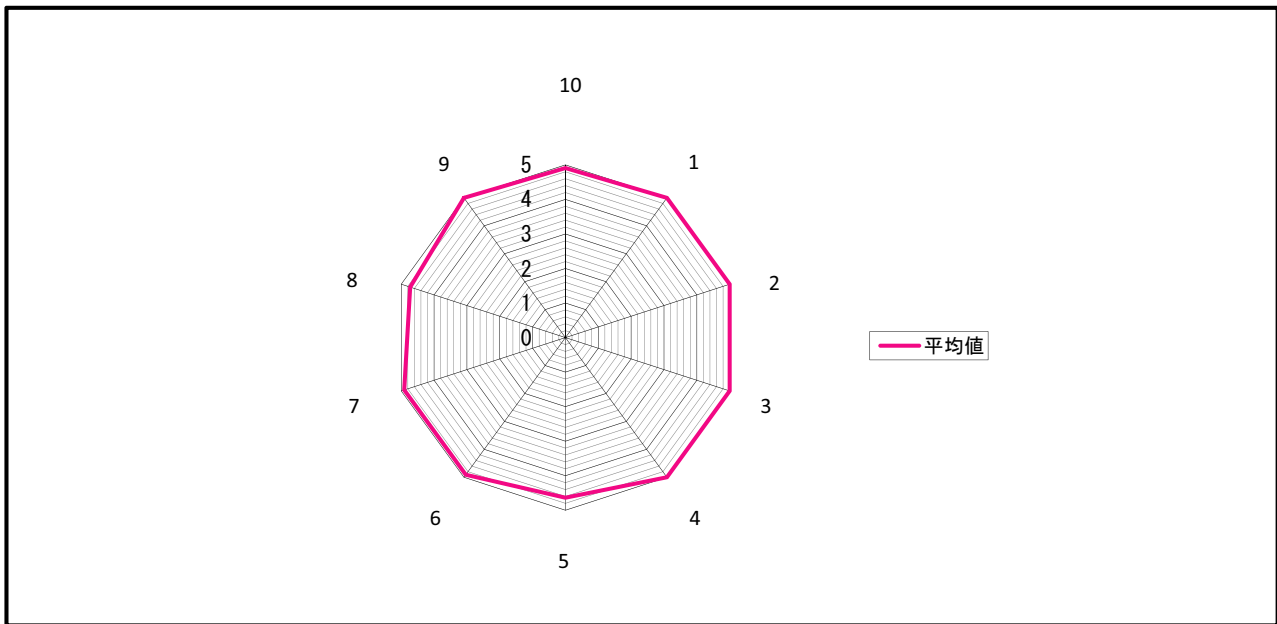
本授業では、品詞の分類や各品詞の特徴、日本語学習者が誤りやすい日本語のテンス・アスペクトやウオイスなど、様々なトピックについて理解を深めることで、日本語学習者に対して適切な文法指導ができるようになることを目標とした。授業評価の自由記述の項目では、「国語科教育とは違った視点で日本語文法を学ぶことができて良かった」「学習した内容を踏まえてアウトプットする(例文作りなど)」という流れが多く、とても活気があり、おもしろい授業でした」など、授業内容や授業方法を高く評価する声が多く見られた。一方で、選択式の回答を見ると、授業速度・板書の適切さ・学生の主体性といった点の評価が相対的に低いことが窺える。今後の参考としたい。

結果報告書

授業科目名 言語習得・発達論
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 田中 大輝

回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	2	1			4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	1	1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	1				4.9



教員のコメント

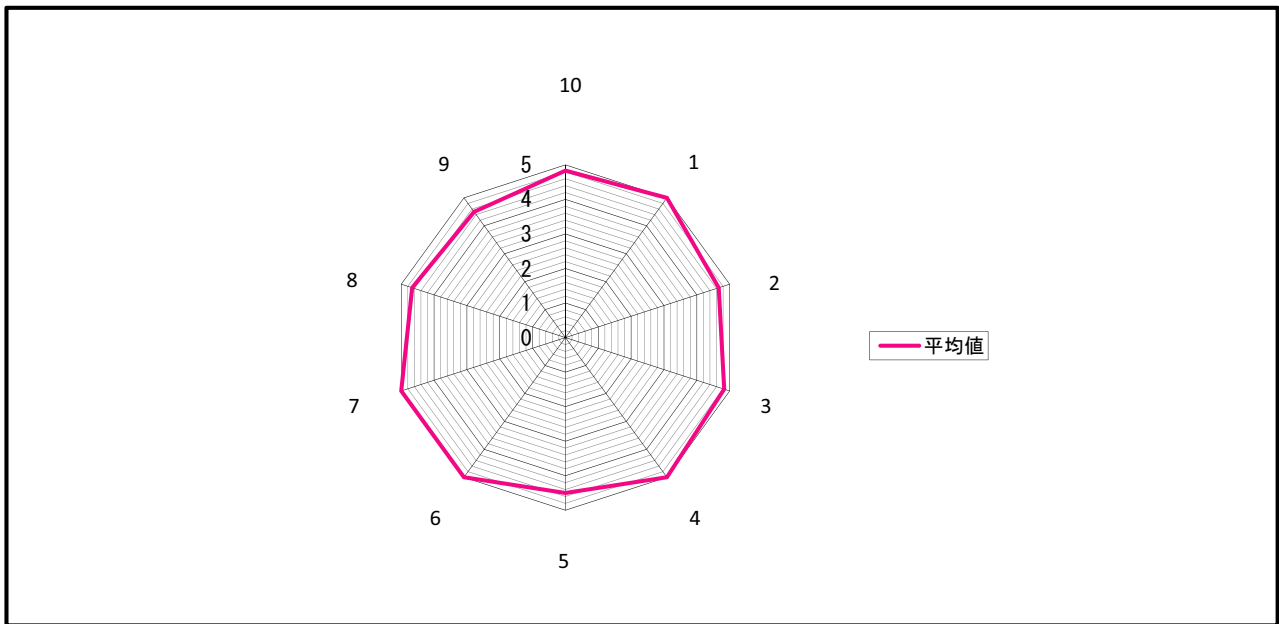
本授業では、日本語学習者の習得のメカニズムを理解し、実際の教室活動に役立てられるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「受講者が発表していったので、教科内容の理解だけでなく、プレゼン力や資料の作り方なども学べてよかったです」「学生の発表に不足や間違いがあったときに、先生が適宜補足を加えてくれて、とても分かりやすい授業でした」など、演習形式の授業方法を高く評価する声が多く見られた。一方で、「発表が下手な人に対する配慮がありすぎて時間がかかった」「受講者の質にかなり左右される側面があると思うので、その面も考えていただきたい」など、授業の質を確保する方法に関して改善(再考)を求める声も出ていたため、今後の参考としたい。

結果報告書

授業科目名 日本語音声表現研究
 評価実施日 平成25年7月26日
 担当教員名 田中 大輝

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5		1			4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	1	1			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5		1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1				4.8



教員のコメント

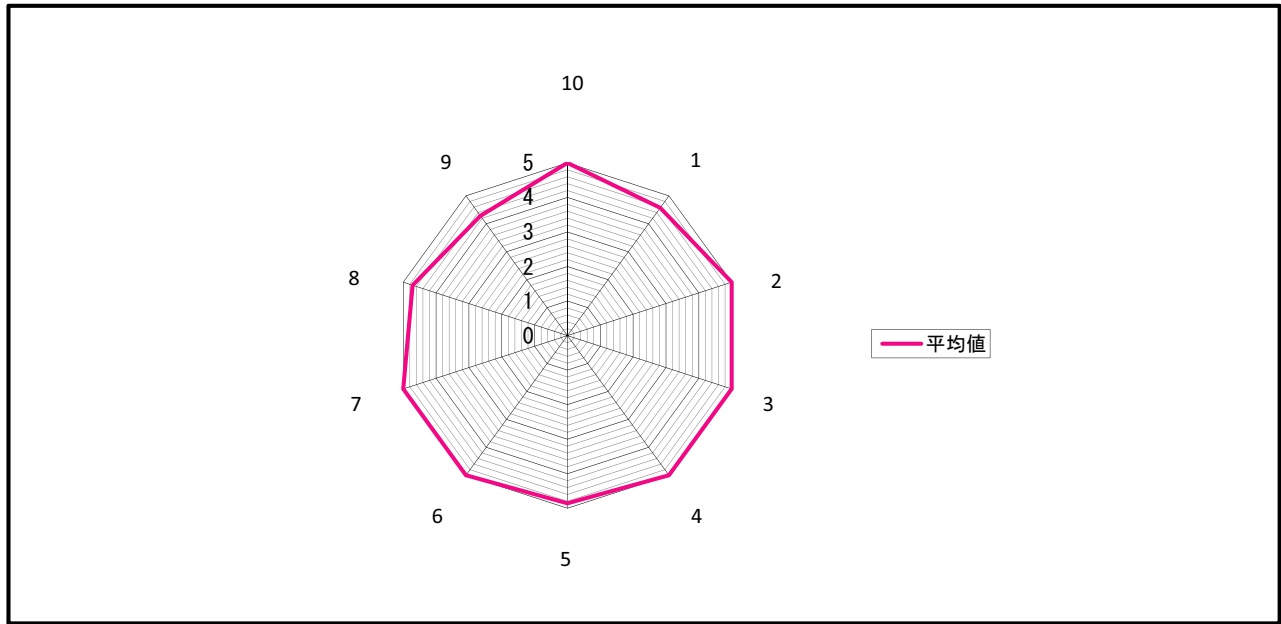
本授業では、日本語の単音(母音、子音)の特徴、音声と音韻の関係、アクセントとイントネーションの違いなど様々なトピックについて理解を深めることで、日本語学習者に対して適切な音声指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「内容としては理論的だったんですが、口に出して、実践を通して理解を深められるようにしていたので、とても分かりやすかったです」「前時のコメントカードに書かれている感想や質問に答えるところから授業が始まり、復習も十分できます」など、授業方法を高く評価する声が多く見られた。一方で、「前期全体を通してみて、時間配分に偏りがあったように感じました」「授業の内容が最後の方で少しおぼしてしまったのが残念でした」など、授業全体を通してのスケジュール管理について改善(再考)を求める声も出ていたため、今後の参考とした。

結果報告書

授業科目名 国語科教育学研究
 評価実施日 平成25年7月23日
 担当教員名 村井 万里子

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1	1			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6		1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3	1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					5.0



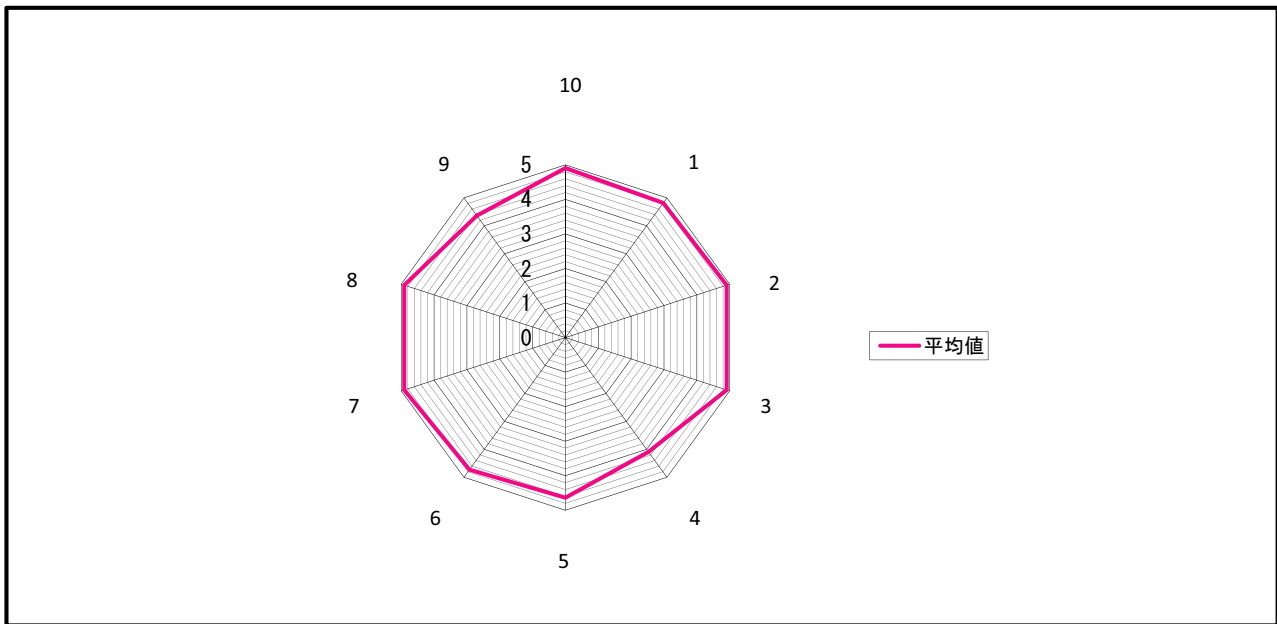
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 国語科授業研究
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 幾田 伸司

回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	2	4			4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	2	1			4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	3				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	5	1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	1				4.9



教員のコメント

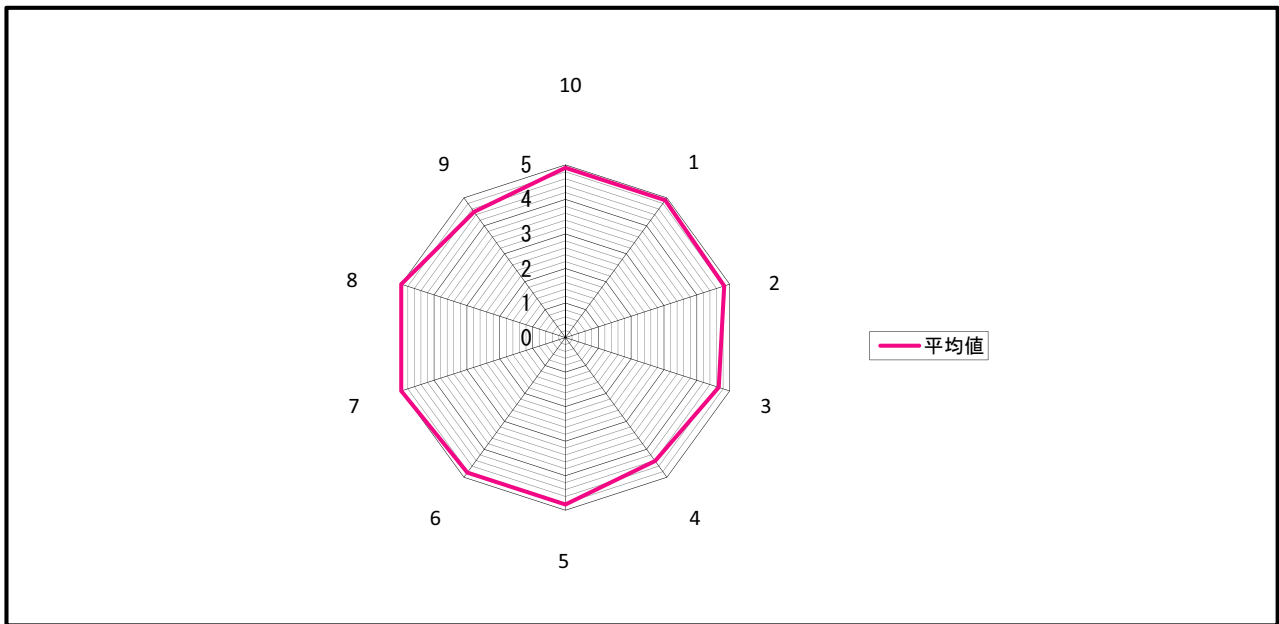
総体的に高い評価を得ることができました。例年のことですが、受講生が積極的に授業に参加してくれることで、議論が深まって全体的に満足度が高くなっていると思います。受講生の層が長期履修生から現職教員の方までにわたり、国語コース以外の受講生の方もいらっしゃいました。様々な立場の方が参加しておられるので、討議の視点も広がったように思います。
 ただし、受講生の層が広がることで個々の受講生の興味関心に対応できにくくなる面もあります。今年は比較的うまく流れたようですので、次年度以降も受講生の関心を拾いながら授業を進められるように配慮しようと考えています。

結果報告書

授業科目名 国語科教材開発研究
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 余郷 裕次

回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	4				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	5	1			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	10	2				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	2				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	12					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	12					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	4	1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	1				4.9



教員のコメント

すべての評価項目について、5の評価が一番多かった。特に「総合評価」については、1名を除く全員が5の評価であった。この結果は、本年度も現職院生が同じ授業者の立場から、好意的な評価をしてくるとともに、ストレートの学生も、もともとこの分野に興味・関心のあった受講者が多かったことによるものと考えられる。しかし、受講生の人数が12名と少ないことが相変わらず課題である。

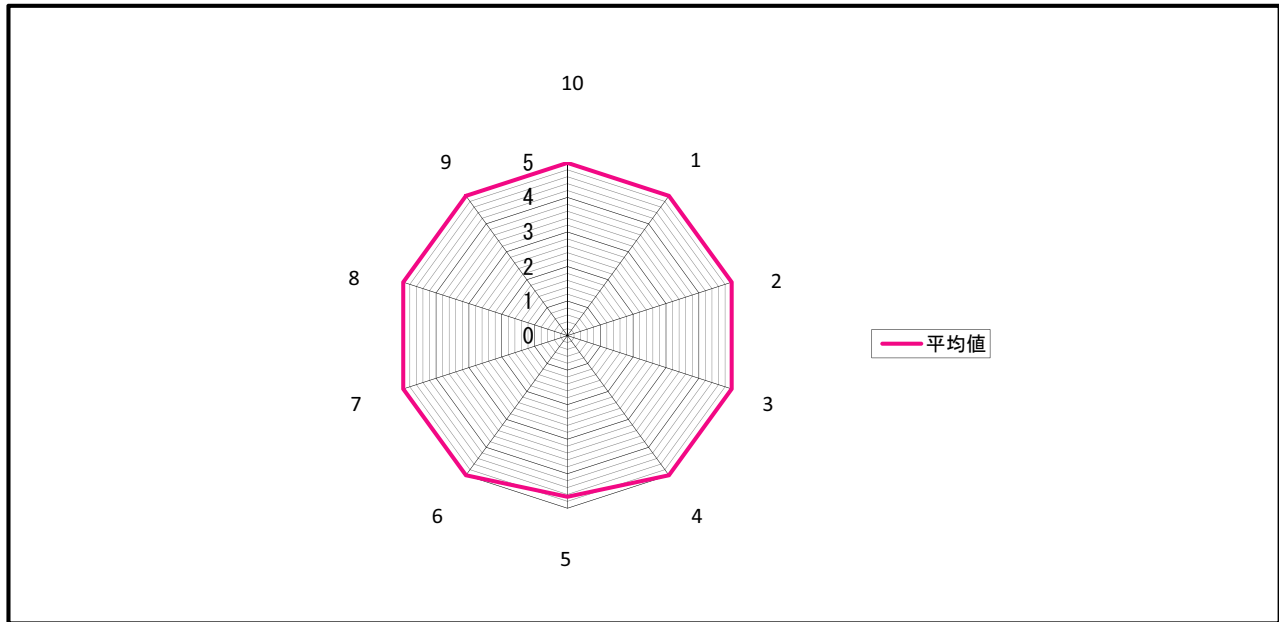
受講生のコメントとして「絵本の魅力、絵本の読み聞かせの素晴らしさについて理解が深まった。」「子どもの発達段階について触れられていたので、とてもイメージが付きやすかった。」など、数値評価を裏付ける好意的なコメントが得られた。また、「読み聞かせも声の出し方が大切ということを知り、歌をうたうとき、音読するとき、発表するとききをつけるようになった。」「鏡に向かって読み聞かせをしています。時々、隣の家におしかけて子どもさんに読ませてもらっています。」など、講義内容を生活場面に応用するコメントも見られた。今後、学生生活や教師生活の実践に役立つような、学生生活や教師生活の実践を変革していくような内容の講義を心がけたい。

結果報告書

授業科目名 日本語教育法研究
 評価実施日 平成25年7月31日
 担当教員名 小野 由美子

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



教員のコメント

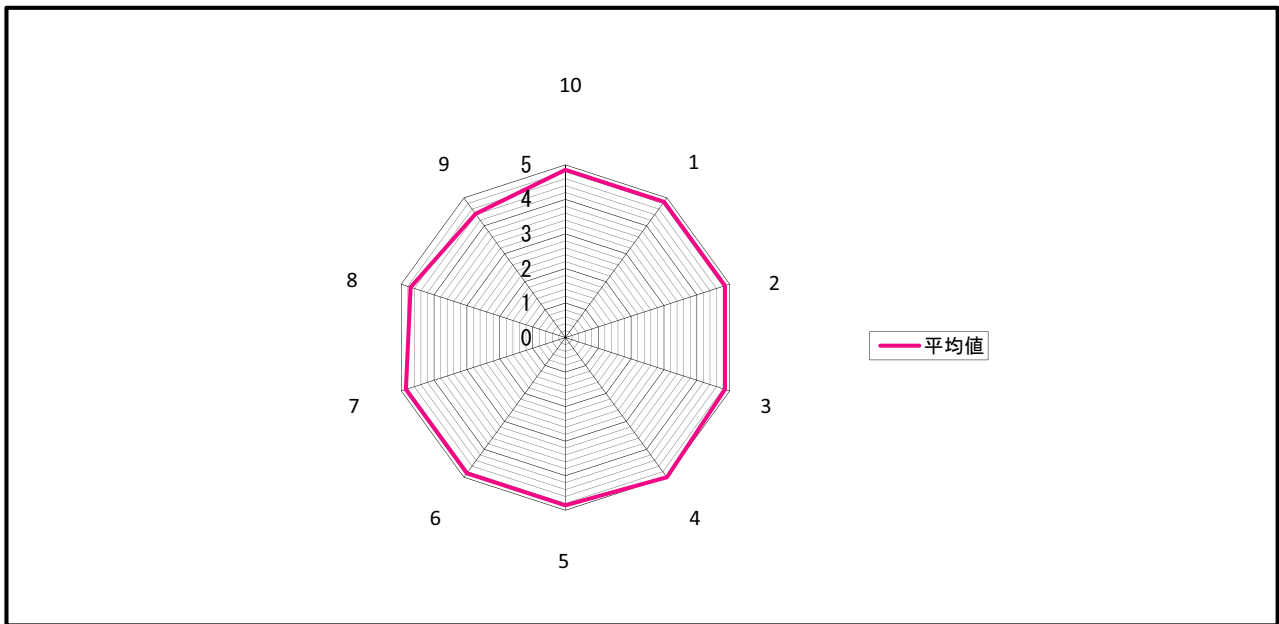
学生に満足してもらえる授業でよかったです。

結果報告書

授業科目名 英米文化研究Ⅱ(現代文化研究)
 評価実施日 平成25年7月30日
 担当教員名 前田 一平

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	2				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1				4.9



教員のコメント

授業評価はいずれの質問についても4.9前後で、総合評価も4.9であった。質問(9)の項目だけ4.4という評価であった。これは受講生が主体的・積極的に授業に取り組んだかを問う質問で、例年、他の質問よりも評価が低くなる。受講生の主体的学習を促す授業を工夫する必要がある。

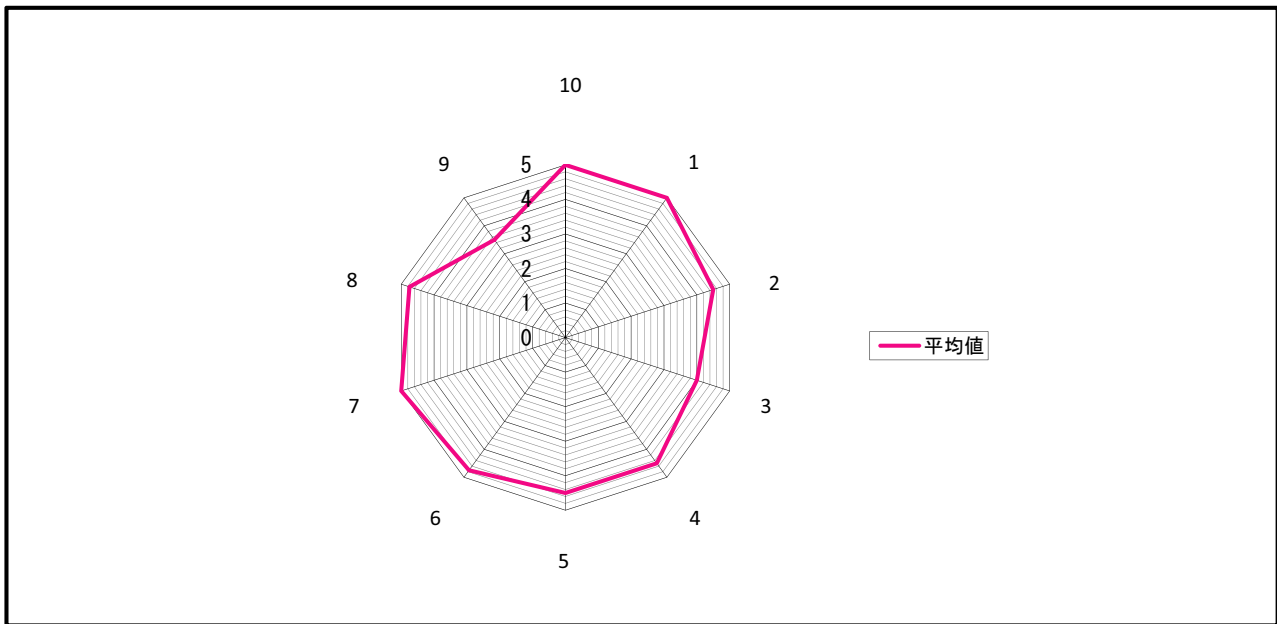
自由記述の内容も、すべてが本授業を高く評価するものであった。特に英語教育では細部まで目を配りながら物語をゆっくりと読む学習が軽視される傾向にあるように思える状況に鑑み、登場人物の心や精神の動きを慮り、文化的背景をも掘り下げながら読むスロー・リーディングの重要性を受講生が認識したものと判断する。

結果報告書

授業科目名 英米文学応用演習Ⅱ
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 太田 直也

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1	1			1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3		1			4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2	2			3.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



教員のコメント

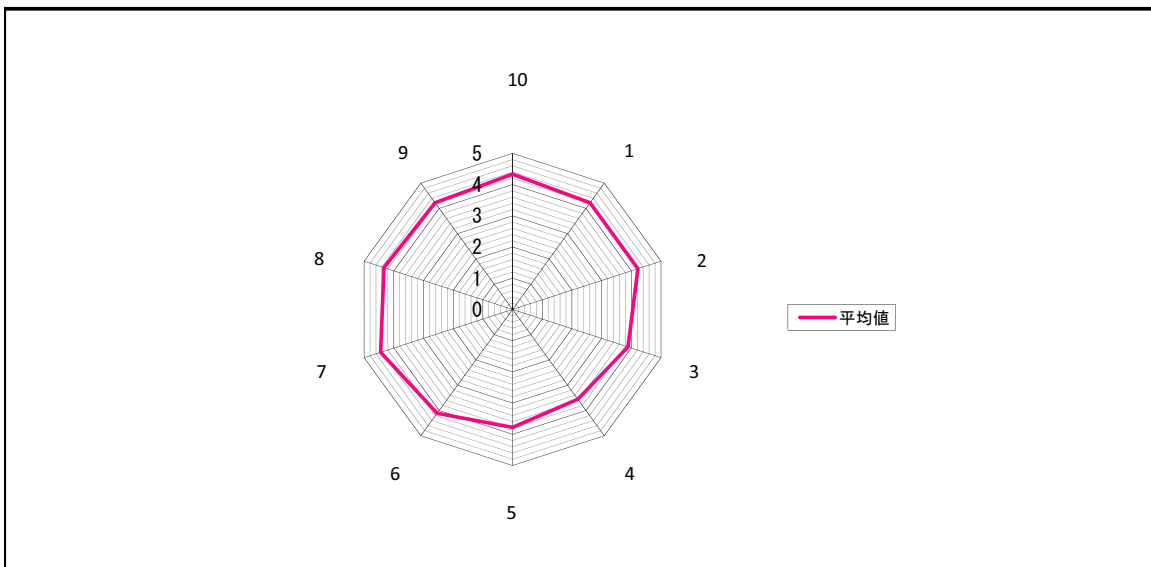
受講生からの高い評価に感謝したい。英詩は英語の学習者・指導者にとって極めて重要なものであるが、鑑賞・理解には時として難解さが伴う。従って、学習者の予習が重要となるのであるが、受講生はみな十分な準備をして授業に臨んだ。その点を高く評価したい。授業担当者としては授業中の発問に工夫が足りなかったという反省がある。次年度の目標としたい。

結果報告書

授業科目名 言語教育基礎論Ⅱ
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 藪下 克彦, 眞野 美穂

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	3	2			4.2
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	3	2			4.2
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	4	3			3.9
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	3	5			3.6
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3	3	1	2		3.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3	5		1		4.1
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5	3	1			4.4
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	4	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	7				4.2
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	4	1			4.3



教員のコメント

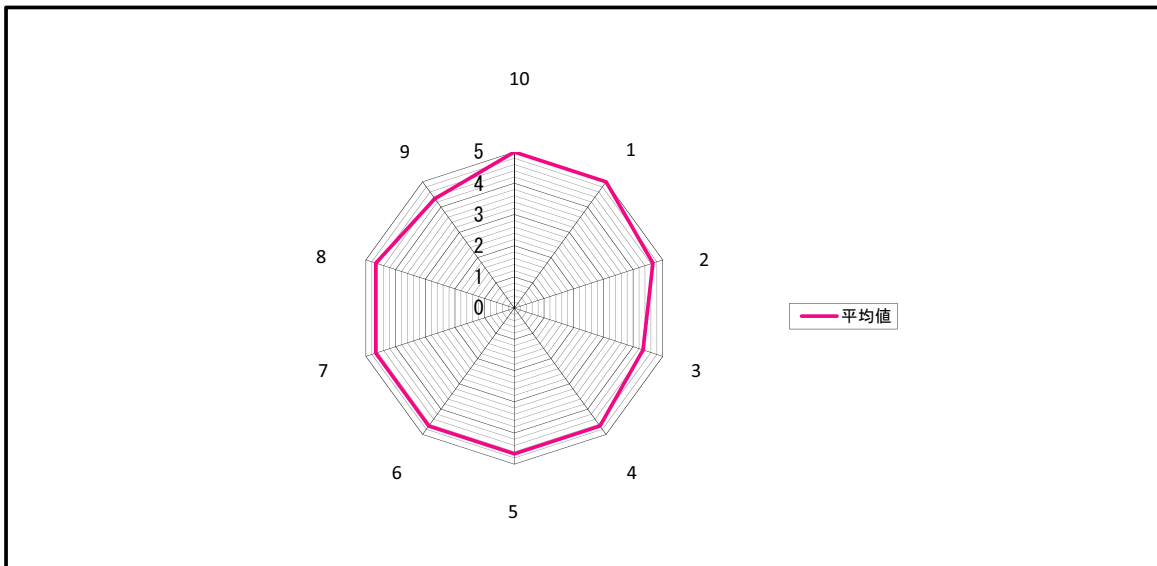
この授業は国語コースと英語コースの言語学分野の5人の教員によって担当した。しかし、いわゆるオムニバス形式ではなく、毎回の授業に5人の教員が全員出席する形式の授業であった。具体的な授業運営方法は、2回の授業が1セットになっており、1回目の授業で教員が話題提供を行い、2回目の授業で教員と受講生全員で、前回の話題に関して、質疑応答・討論を行うものであり、それを5セット繰り返し、残りの授業回数に、受講生によるプレゼンテーションを行った。この形式的にも内容的にもユニークな授業は、受講生に例年とても好評で、今回も次のような完走があった。「英語コースと国語コースが合体して授業に参加しており、同じトピックでも、様々な観点から考察することが出来、とてもおもしろい授業でした。」「国語コースとの合同で先生方も両コースの先生がいたので、いろんな側面から言語について考えることができた。また、学生が一人ずつプレゼンをする機会があったので、たくさんの考えを聞くことができ楽しかった。」受講生の評価に関しては、総合評価が4.3でまずまずの値であったが、質問項目(3)、(4)、(5)が3点代であった。(3)に関しては、授業名が「言語教育基礎論Ⅱ」という名前で、授業にすぐ役立つテクニク的内容を期待した受講生が「教師の実践力」とはあまり関係がなかったと判断した結果だと思われる。我々、授業者は「教師の実践力」は、授業テクニクではなく、教科専門内容を多角的に捉えることが出来る能力の方が重要だと考えている。毎回、最初の授業でこのことは言っているのであるが、伝わっていないようである。(4)に関しては、プレゼンテーションの結果を中心に成績を決定しているのであるが、これももう一つ伝わっていないようである。(5)に関しては、学部段階で英語学、国語学に関する授業を受けたことがない受講生がいることから、話題の内容に戸惑ったものがいたことによると思われる。来年度は、上記のことに配慮し、授業をますます充実させていきたいと思っている。

結果報告書

授業科目名 英語学研究 I (英文法理論)
 評価実施日 平成25年7月24日
 担当教員名 藪下 克彦

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2				4.3
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



教員のコメント

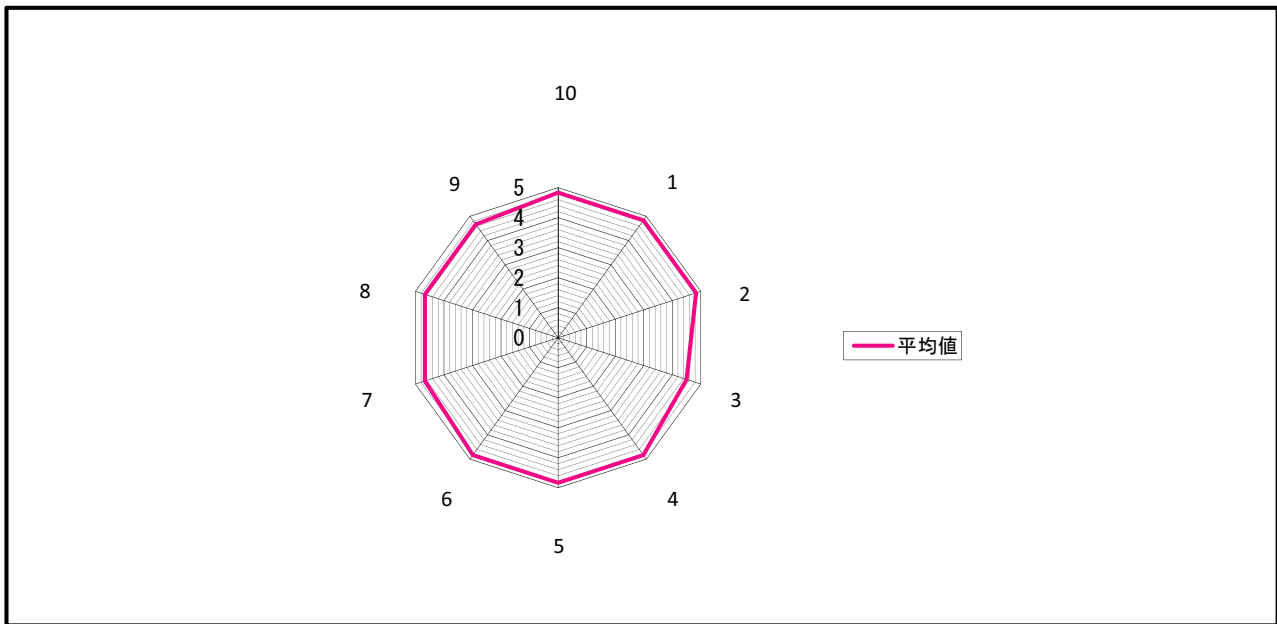
総合評価が5.0であったことを素直に喜びたい。英語で授業を行ったことを評価する意見が見られた。「先ず、一番良かったことは、授業をすべて英語を使って、進めてくれたことです。教師の方から積極的に英語を使っていただくと私も自然に英語を使って答えようという気持ちになります。現場でもクラスルームイングリッシュをなるべく使っていました。あらためて英語の教師は英語を使って授業をするべきだと考えさせられました。また、生徒の宿題を一問一問きちんと赤ペンで訂正、とても時間がかかることですが、本当にありがたいことでした。」、他のコメントとしては、「Very useful class for English teachers. So every student who wants to be an English teacher, please join this class.」「学校文法よりも科学的な観点で文法を捉えることは、興味深かった。一見全く違う言語に思える英語とマダガスカル語がSルールでは異なるが、XPルールでは共通していることなど。科学的視点で言語を考えるのに役立つ。」また、興味深いコメントとしては、「実践に直接つながらないかもしれないが、それでよい(そういう授業も必要)と思う。」教育大学だから、授業はすべて現場の授業に即応可能な内容であるべきであるという短絡的で偏狭な考え方を否定した意見として歓迎したい。とはいえ、将来の英語科教員としての専門性の基盤作りに役立つ内容だと自負している。唯一、改善が必要であると思われる意見として次のようなものがあった。「全ての大学の先生にお願いすることですが、印刷物の字が私にとっては文字が小さくて、見えない。若い人たちは充分見えるのですが、しかし、このことに関しては、いただいたプリントをメガネをかけて見たり、印刷物を拡大コピーして使えば、それで解決するような気がします。」現職の教員や社会人が入学する現状を考えると指摘された問題は全学的に共有されるべきものであると考える。

結果報告書

授業科目名 英語学研究Ⅱ(言語表現)
 評価実施日 平成25年8月1日
 担当教員名 眞野 美穂

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	3				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	2				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	2				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1				4.8



教員のコメント

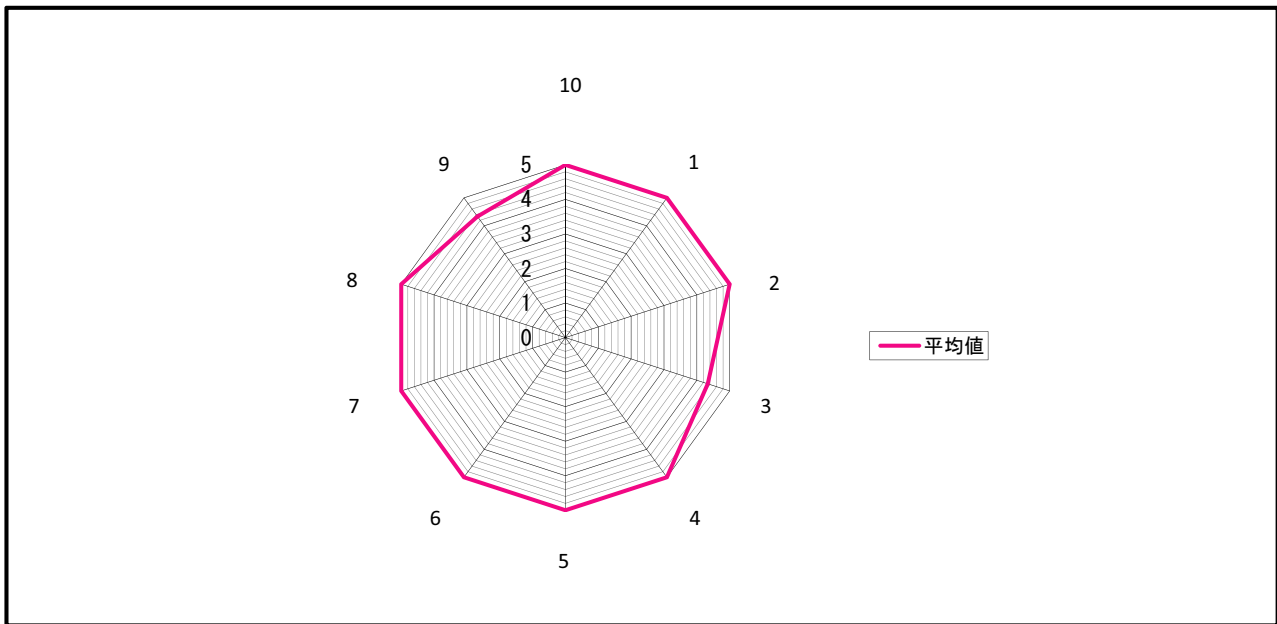
すべての項目で高い評価をえることができた。英語論文を含め複数の論文を読み、議論するというかなりの予習を必要とする授業であったと考えるが、それにそれぞれ参加学生が主体的にとりくむことで達成感もえることができたのではないかと考える。来年度も引き続き、自由記述欄の意見も参考にしながら、より良い授業を目指したい。

結果報告書

授業科目名 英米文化研究 I (文化史)
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 杉浦 裕子

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2		1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



教員のコメント

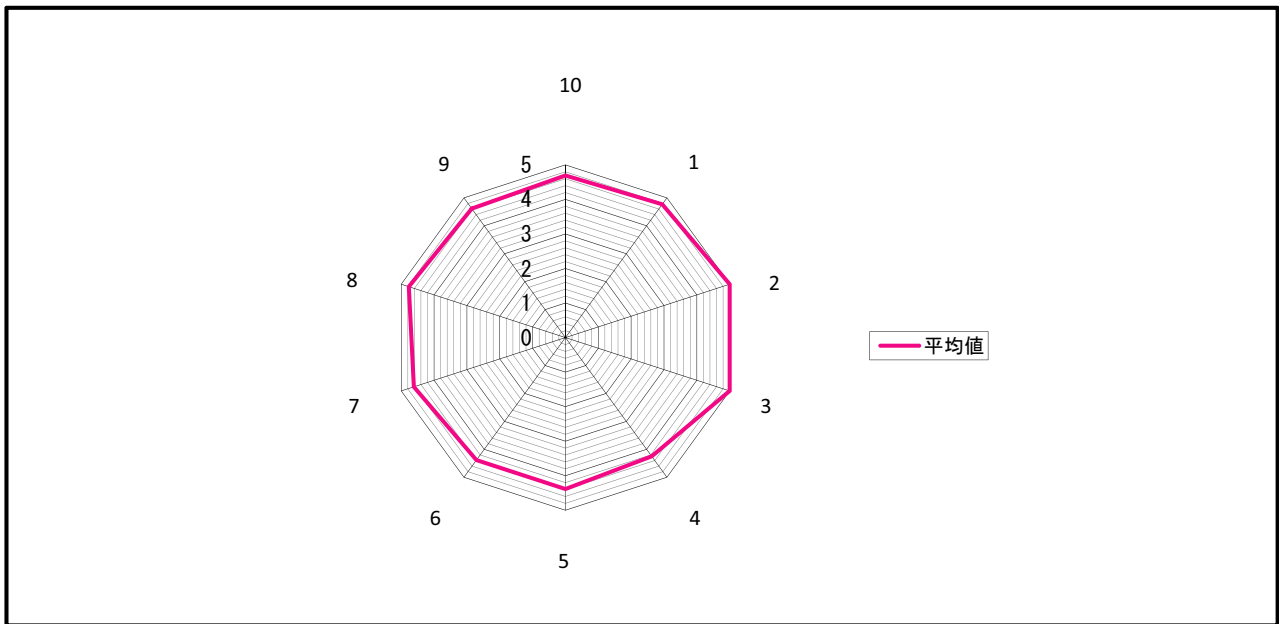
今年は正式登録者数は二人だったが、教員研修生の留学生も三人受講していて、授業を基本的に英語で行った。ハンドアウトも日本語版と英語版を作成するなど、手間はかかったが、受講生は全員非常に熱心に受けてくれた。シェイクスピアに馴染みのない学生ばかりだったので、イントロダクション的な内容ではあったが、出来る限り台詞の面白さを味わえるように音読に時間を割き、気に入った台詞を演じてビデオ撮影するなどした。自分にとってもシェイクスピアの英語の意味を「簡単な英語で」解説するのが非常に勉強になった。毎時間非常に充実していたことの結果がこのアンケート(3人分しか回収できなかったが)に表れていると思う。

結果報告書

授業科目名 英語科教育特論 I
 評価実施日 平成25年7月26日
 担当教員名 伊東 治己

回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	3				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	13					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	5	2		1	4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	6	1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	5		1		4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	3	1			4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	3				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	3	1			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	4				4.7



教員のコメント

本授業の目的は、社会の国際化・情報化が急速に進展していく中で、学校での英語教育においても国際社会で通用する実践的コミュニケーション能力の基盤作りが重要な課題となっているという現状認識に立脚し、小・中・高を問わず教室において英語コミュニケーションを誘発し、英語コミュニケーションに対する積極的態度を育てていくための方略について、実習形式を交えて多角的に検討していくことであった。受講生からの評価値(総合評価が4.7)や自由記述の形で寄せられたコメントから判断する限り、当初の目的は概ね達成できたと思われる。その中でも特に、授業の2本柱のうちのひとつであるコミュニケーション活動を取り入れた模擬授業(マイクロティーチング)に対して

- ・模擬授業を行うことで実践力をつけることができた。
- ・マイクロティーチングを通して実践で授業を行う際の指導をしてきました。しかも、改善点も明確な理論とデータに基づいて説明して頂きました。
- ・段階を踏んで模擬授業を学生が行うよう設定されていたので、取り組みやすかった。他の人の授業も見ることができ、またそれに対してフィードバックがすごくしっかりしていたので、自己の課題、反省点が分かりやすかった。
- ・私が長い間学習したい、研修したいことがこの授業には全てありました。このような研修を現場にいる先生が全員受ければ、とても勉強になり、これからの授業実践に役立つと思います。
- ・The micro-teaching was very interesting because it allows all the students to make self evaluation, and think in a most detailed way about how to convey a good language teaching.
- ・The course gives me deeper insight on how to deal with students, to understand them and then choose the appropriate way , strategies, construct materials and execute the plans. The course provides me theoretical knowledge as well as chances to implement it in class altogether.

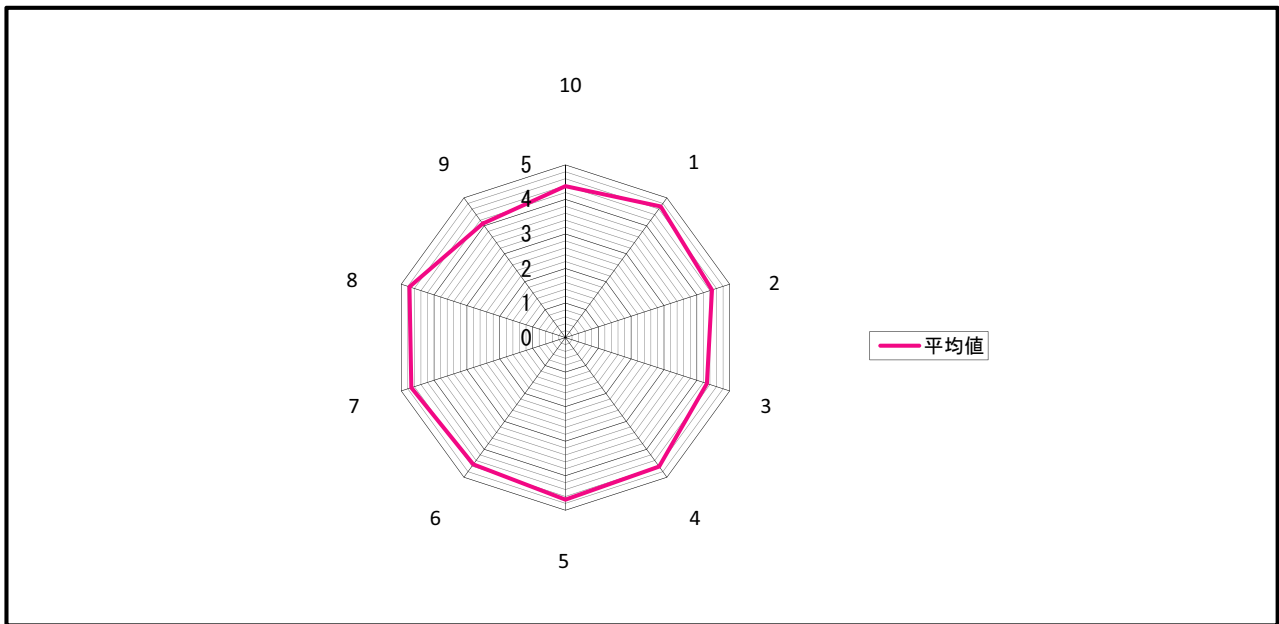
など、好意的評価を得ることができ、実践力の育成する上での模擬授業の有効性を再認識することができた。今後も、寄せられた改善意見も考慮しながら、模擬授業を核としながら理論と実践を融合させた授業改善に取り組んでいきたい。

結果報告書

授業科目名 英語科教育特論Ⅱ
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 山森 直人

回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	4				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	5	1			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	7	1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	5				4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9	4				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	4	1			4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	2	1			4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	3			1	4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	8	2			4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	6	1			4.4



教員のコメント

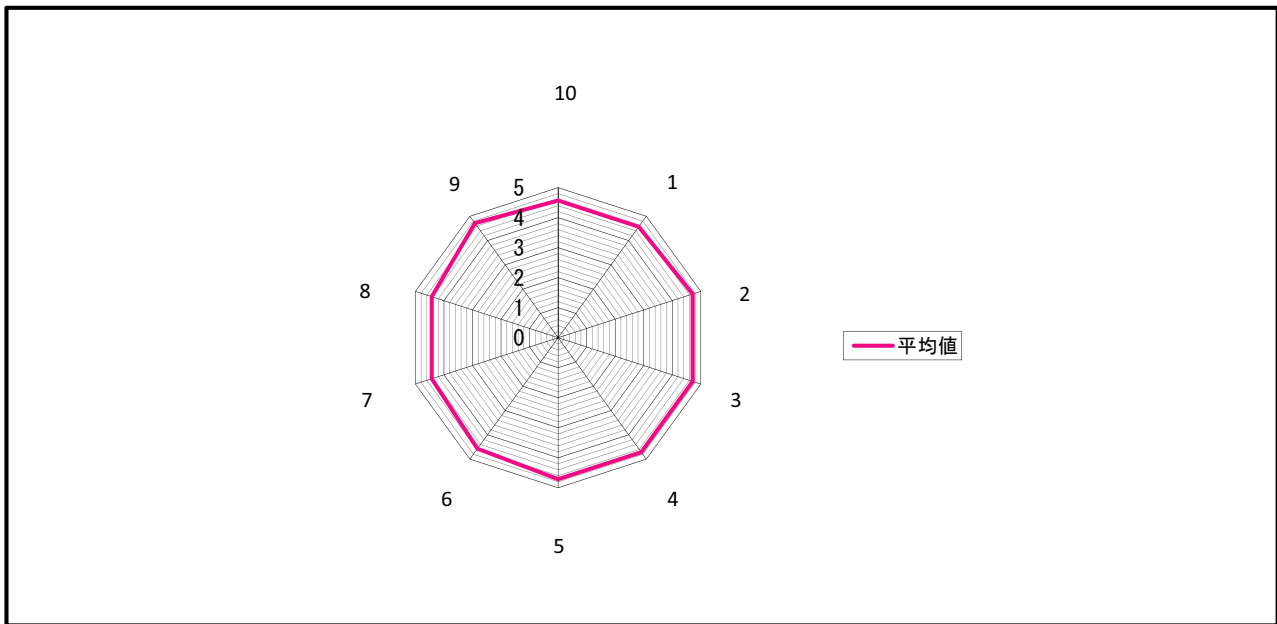
本授業の評価得点は、いずれの質問項目についても平均値が4.0以上であり、全体的によい評価を得ることができたと考える(昨年度の総合評価の平均値は4.7である)。ただし、相対的にはあるが質問項目(3)と(9)の平均値が低いことに着目したい。質問項目「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」については、本授業の目的が修士論文の作成に向けた研究方法の基本的な知識や技能を獲得することにあるため、「教師の実践力」との関連づけが受講生に十分に意識させられていない状況があると推察する。これは毎年の課題でもある。次回は、教育実践における、研究方法に関する知識・技能の重要性について議論する時間を設けるなど、受講生に研究と実践との関連性について考えさせたい。また、質問項目「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。」も毎年評点が低い項目である。授業の進め方や内容に工夫をこらすことで、主体性・積極性が高まるようにつとめたい。

結果報告書

授業科目名 英語科教育特論Ⅲ
 評価実施日 平成25年7月26日
 担当教員名 畑江 美佳

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	3				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	2				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	2				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	3				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	4				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	2	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	3				4.6



教員のコメント

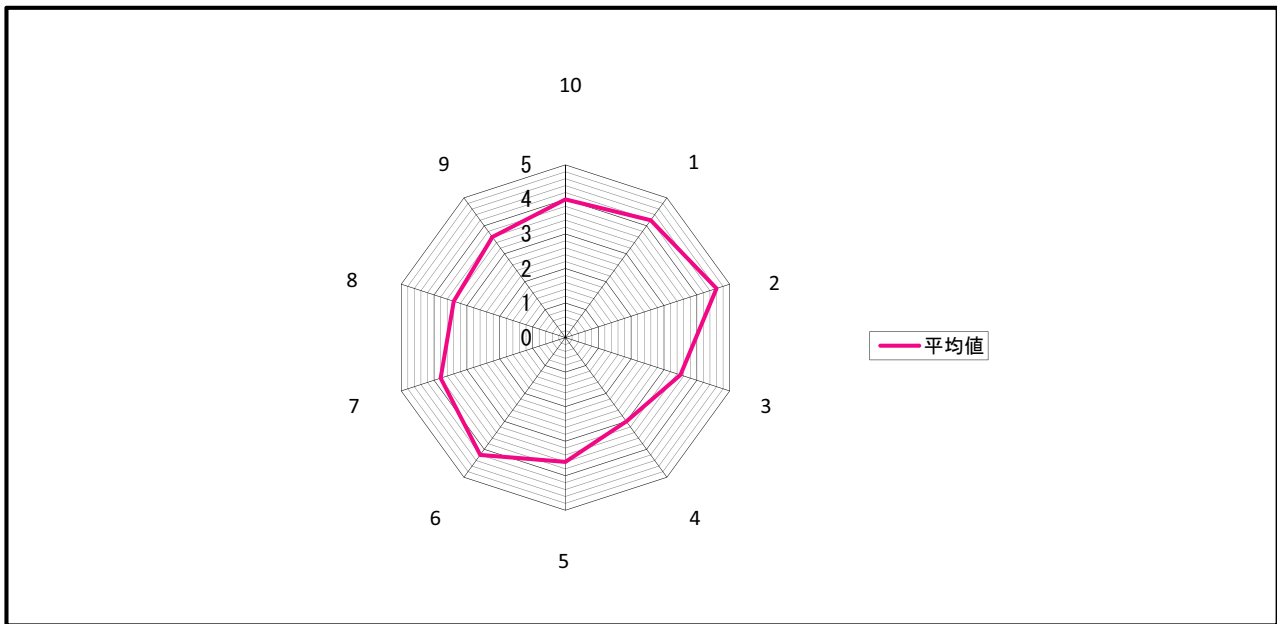
平均値が4.6で、全ての項目に偏りがないことが現れている。私は、学生が「受け身」になる授業はしないように心がけている。シラバスでも、毎回の論点を明らかにしており、それについての資料を事前に配り、それを読んで自分の意見を持って授業に参加させるようにしている。なので、(9)授業へ主体的・積極的に取り組んだ、の項目の点数も4.7と高いのだと思う。

結果報告書

授業科目名 歴史学研究Ⅱ
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 町田 哲

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	4				4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2	2			1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。			5			3.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1	3			3.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	4				4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	2	2			3.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1		4			3.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		3	2			3.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。		5				4.0



教員のコメント

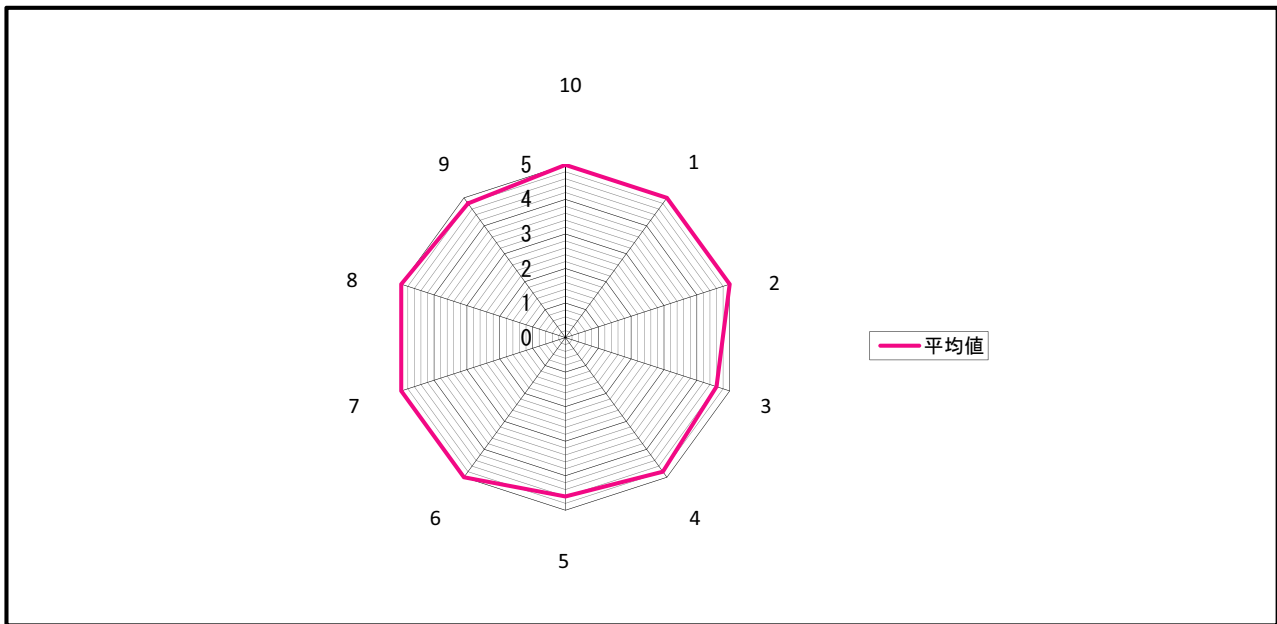
今年度の歴史学研究Ⅱは、山村に関する論文を精読しながら、理解を深めるというスタイルをとった。受講生は毎回論文を読み議論し、かつ必ず2回報告するなど、多くの課題に対し、精力的に学ぶことができた。しかし、授業の板書(視聴覚機器は不使用)・成績評価方法の説明について低い評点となっており、授業者に対し多くの反省を迫るアンケート結果となった。今後は、こうした点を改善しつつ、より充実した授業内容にしていきたい。

結果報告書

授業科目名 歴史学研究Ⅲ
 評価実施日 平成25年7月26日
 担当教員名 原田 昌博

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	2				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



教員のコメント

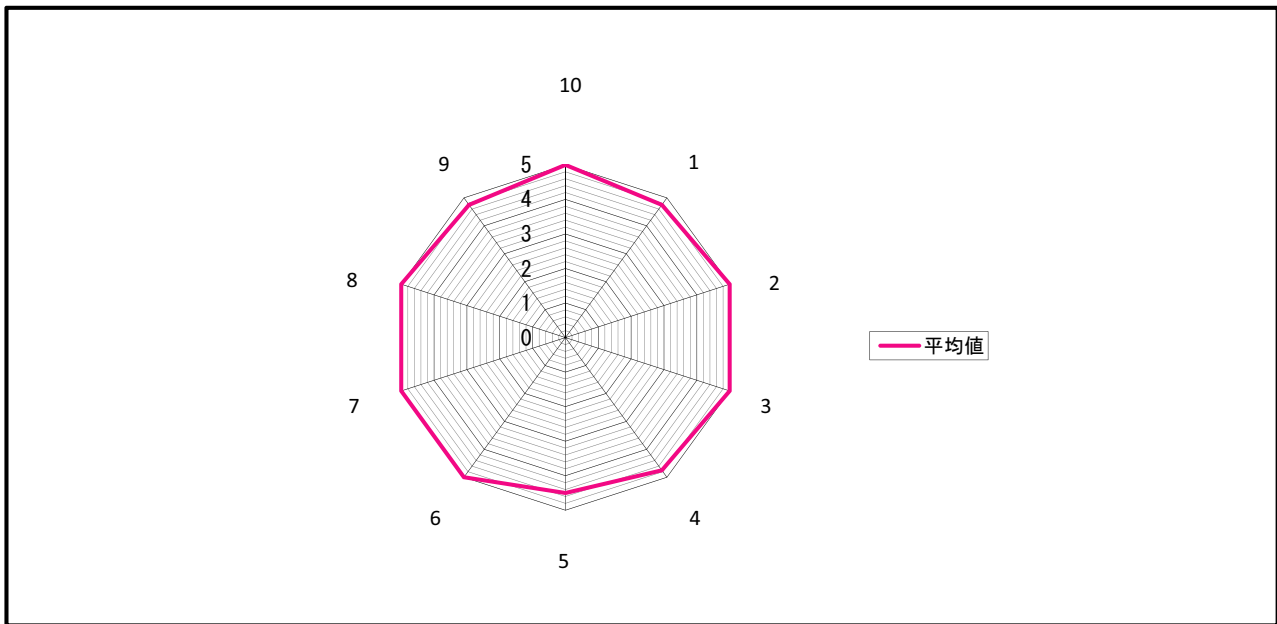
本授業はナチズムを事例に、新旧高等学校教科書の記述内容を比較しその変化の背景を歴史学上の研究史に基づいて検討することで、歴史学における「見解・解釈の変化」を明らかにすることを目的としている。今年度は受講生が5人と少なめであったが、全体的に見て、各質問項目ともほとんどが「5」と評価しており、この点から、授業担当者として概ね本講義の目標を達成できたのではないかと考えている。質問10で全員が「5」と評価している点からも、受講生は本授業に満足していたと結論づけることができるだろう。来年度はさらに内容の精選を図り、受講生にわかりやすい講義を目指したい。

結果報告書

授業科目名 地理学研究 I
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 畠山 輝雄

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



教員のコメント

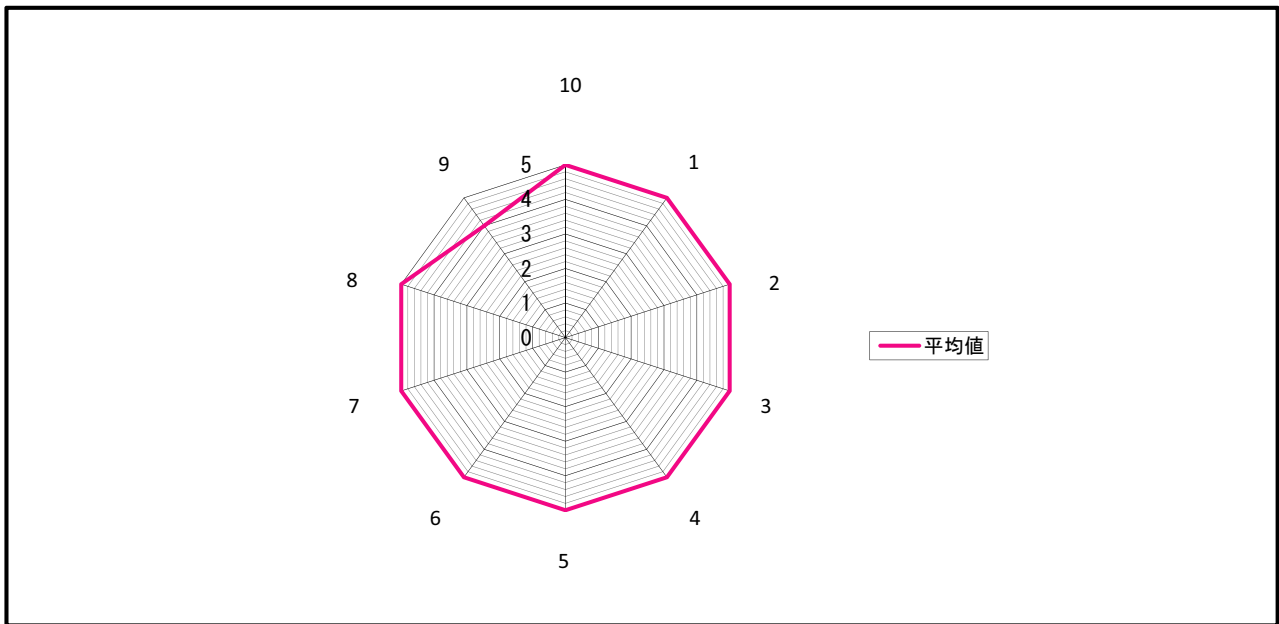
おおむね良好な評価であったと考えている。今年度は本学へ着任初年度であるため、大学院生の関心度、学力レベル、一般常識度などが不明であったため、当初の予定から、院生の理解度等を考慮し、修正しながら授業を実施した。次年度は、本年度の反省を生かし、より良い授業になるよう努めたい。

結果報告書

授業科目名 法学・政治学研究
 評価実施日 平成25年7月22日
 担当教員名 麻生 多聞

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1	1			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



教員のコメント

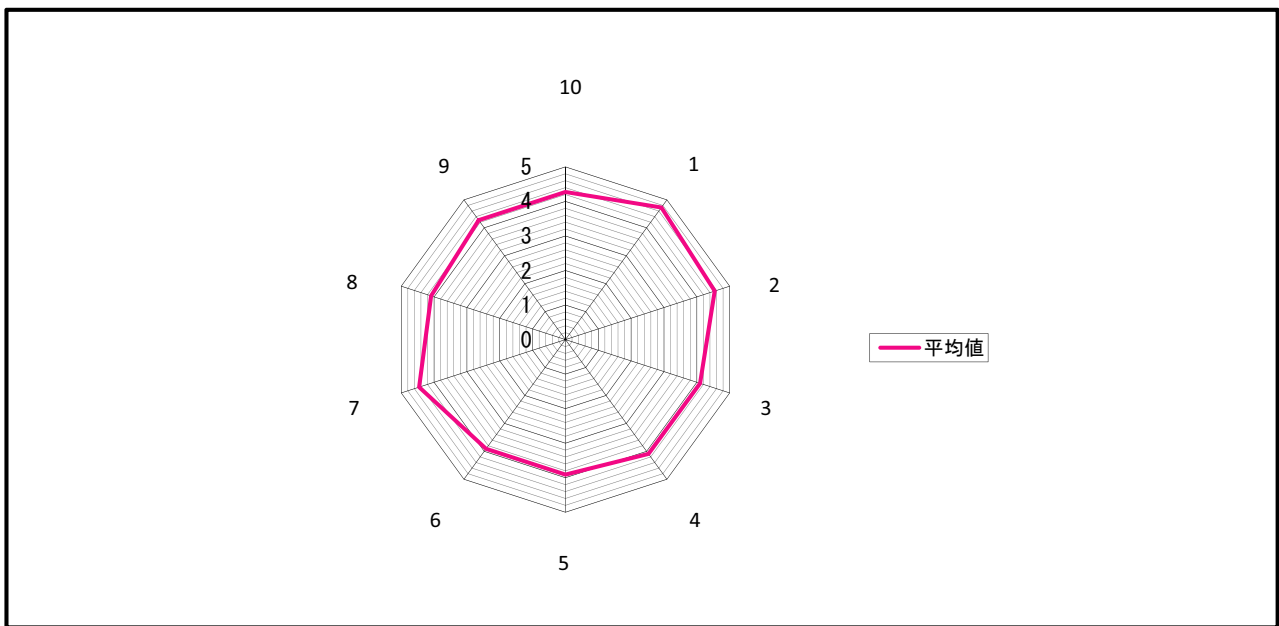
とても高い評価をいただき、感謝します。難易度の高い文献を講読するという内容でしたが、受講者のみなさんがしっかりと予習できてくれたお陰で、有意義な時間とすることができたように思います。

結果報告書

授業科目名 社会科教育学研究
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 梅津 正美

回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	1	1			4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1	2			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	5	2			1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	3	2	1		4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	3	3	1		3.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	3	3	1		3.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	2	2			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	4	3			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2	1		1	4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	2	3			4.3



教員のコメント

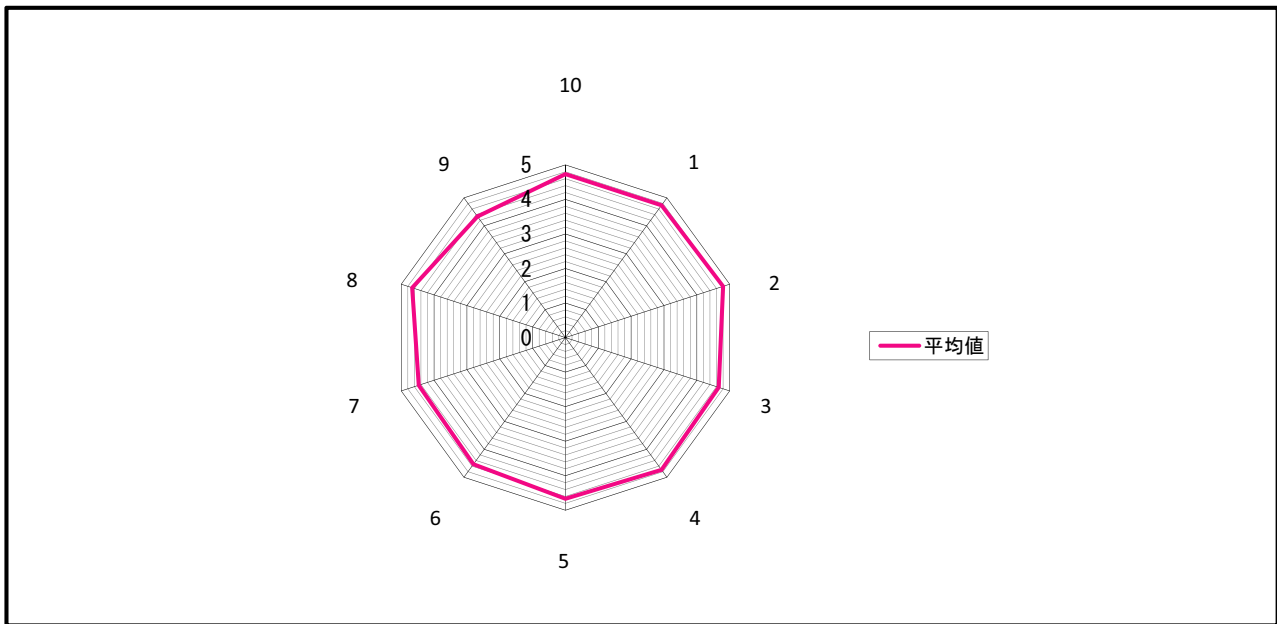
本講義は、①社会科教育研究の方法論の理解と活用、②社会認識形成を視点にした社会科授業の類型・特質・限界を理解し説明できる、③社会的判断力育成の授業の類型・特質・限界を理解し説明できる、ことを到達目標に展開した。受講生は全部で12名であった。本講義は、学校現場での社会科教育実践を説明できる理論の習得と活用という観点から、教材(教育実践例)には徳島県をはじめとする小・中学校の開発研究を取り上げ、展開した。本講義の総合評価は、4.3であり、概ね良好な評価を得たと言えるが、個別項目についてみると、授業の分かりやすさやスピード、授業実践力育成への有効性という点については、4点前後の評価であり、総合評価に対して下回っている。この点を反省材料にして、さらに丁寧な授業の展開に努めたい。

結果報告書

授業科目名 社会科授業研究
 評価実施日 平成25年7月31日
 担当教員名 伊藤 直之

回答者数 15 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	4				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	3				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	3	1			4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	12	2	1			4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	10	5				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	5	1			4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	6	1			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	5				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	4	3			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12	2	1			4.7



教員のコメント

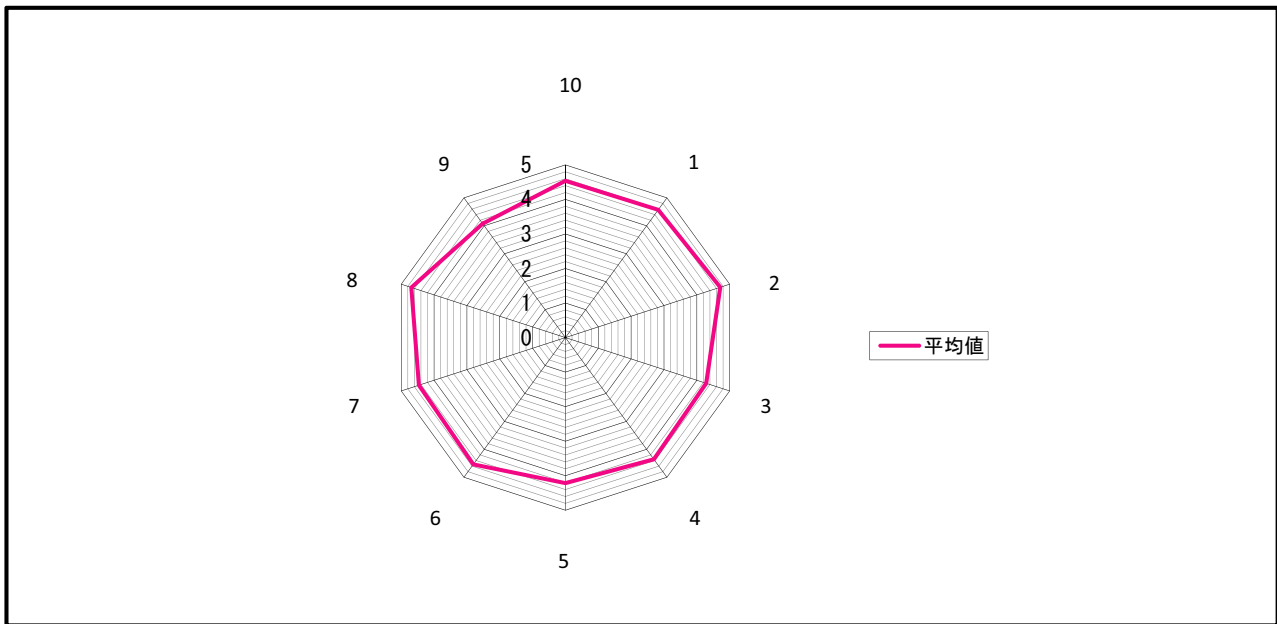
おおむね良好な評価を得ているように思われる。
 ただ、学生の授業への取り組みに対する自己評価が低いことが指摘できる。
 次年度以降は、学生の主体性や積極性を高めるべく、何らかの課題演習の導入なども検討したい。

結果報告書

授業科目名 数理科学研究
 評価実施日 平成25年7月19日
 担当教員名 宮口 智成

回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	4	1			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	4				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	3	2	1		4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	5	2			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	7	2			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	4	1		1	4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	3	2		1	4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	2	1		1	4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	5	2	1	1	4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	4	1		1	4.5



教員のコメント

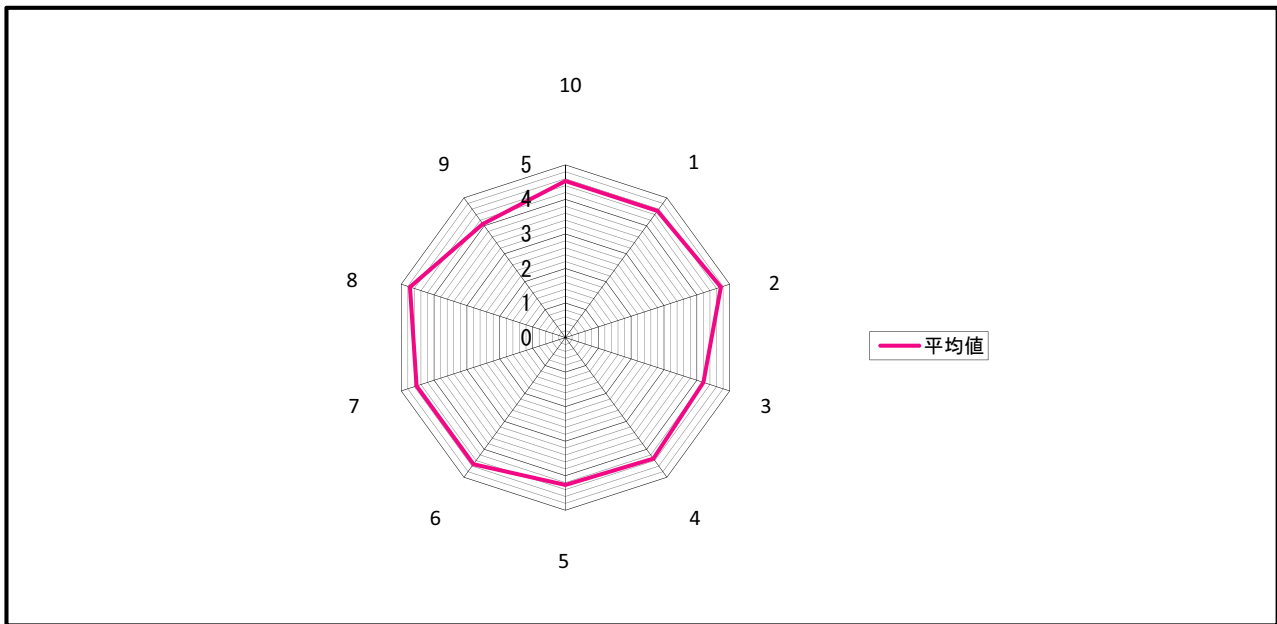
非線形微分方程式をグラフなどを用いて直感的に理解することを目指した。特に、高校数学の知識だけで理解できるように工夫した。とはいえ比較的難解な内容であり、高校までの学習内容には現われない、かなり専門性の高いテーマであるにも関わらず、比較的評価が高いことは意外である。多数の具体例を用いたことで、微分方程式が応用上極めて重要な役割をはたしていることが、多少なりとも伝わったのではないかと考える。

結果報告書

授業科目名 数理科学演習
 評価実施日 平成25年7月19日
 担当教員名 宮口 智成

回答者数 15 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	5	1			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	4				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	5	2	1		4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	6	2			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	7	2			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	5	1			4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	5	1			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11	4				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	5	3	1		4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	5	1			4.5



教員のコメント

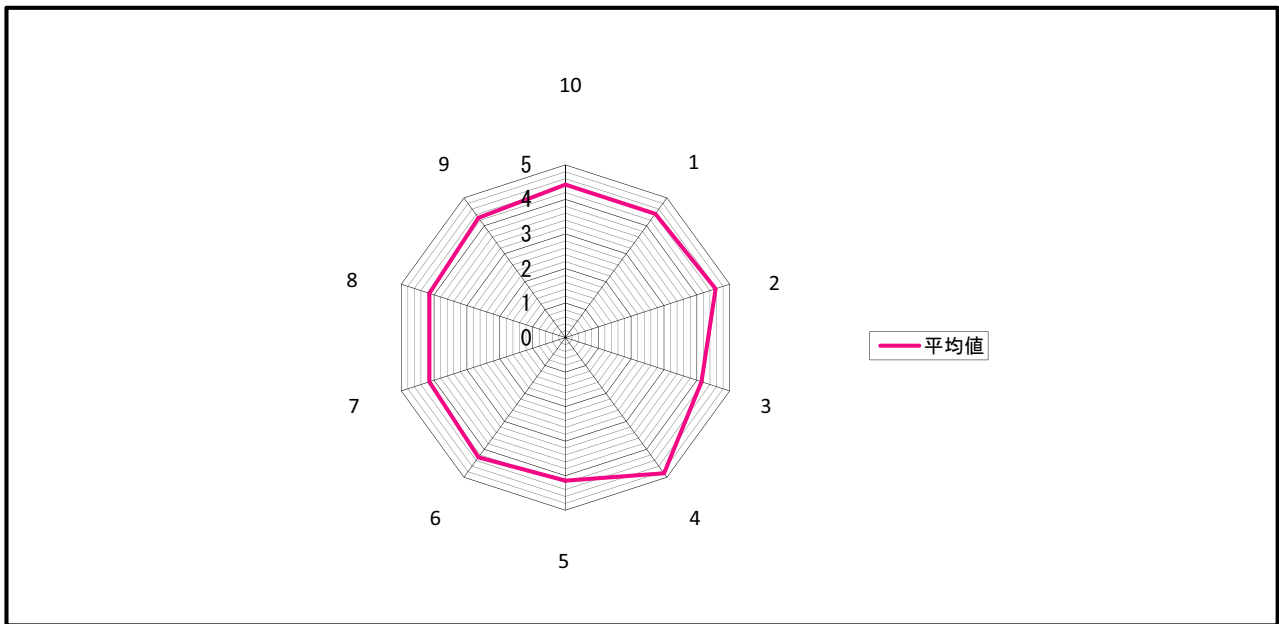
非線形微分方程式をグラフなどを用いて直感的に理解することを目指した。特に、高校数学の知識だけで理解できるように工夫した。とはいえ比較的難解な内容であり、高校までの学習内容には現われない、かなり専門性の高いテーマであるにも関わらず、比較的評価が高いことは意外である。多数の具体例を用いたことで、微分方程式が応用上極めて重要な役割をはたしていることが、多少なりとも伝わったのではないかと考える。

結果報告書

授業科目名 代数学研究
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 平野 康之

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2	1			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1	1			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4		3			4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	4	1			4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1	2			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2	2			4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	4	1			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3	1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	4				4.4



教員のコメント

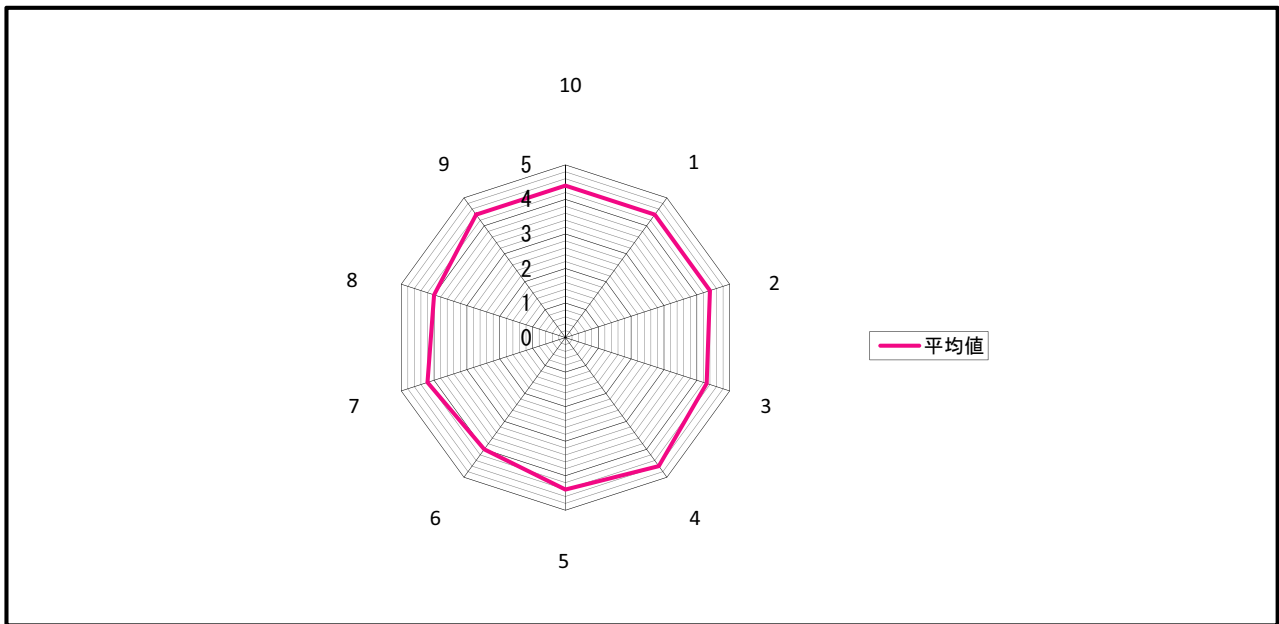
すべての平均値が4.1～4.9の範囲にあり、「(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた」、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」、「(4)成績評価の方法の説明は、適切であった」という問いに対して評価の平均値が4.4以上であったので、この授業が受講者に一律の評価は受けていると思われる。学生が授業によく出席し、教員の説明をよく聞いてくれて、主体的に取り組む、自らの専門性を高めてくれたことに対しては感謝したい。しかし、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」、「(5)授業の進む速さは、適切であった」、「(7)教科書や配布された資料は、適切であった」、「(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった」という問いに対して評価の平均値が4.1であったので、今後、これらの点に関して改善していきたい。総合評価として「(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う」という問いの平均値が4.4であったので受講者が概ね、この授業に満足しているものと思われる。

結果報告書

授業科目名 代数学演習
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 平野 康之

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	6				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	4	1			4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	5	1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	4				4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	6				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	4	3			4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	4	2			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	4	3			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	4	1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	6				4.4



教員のコメント

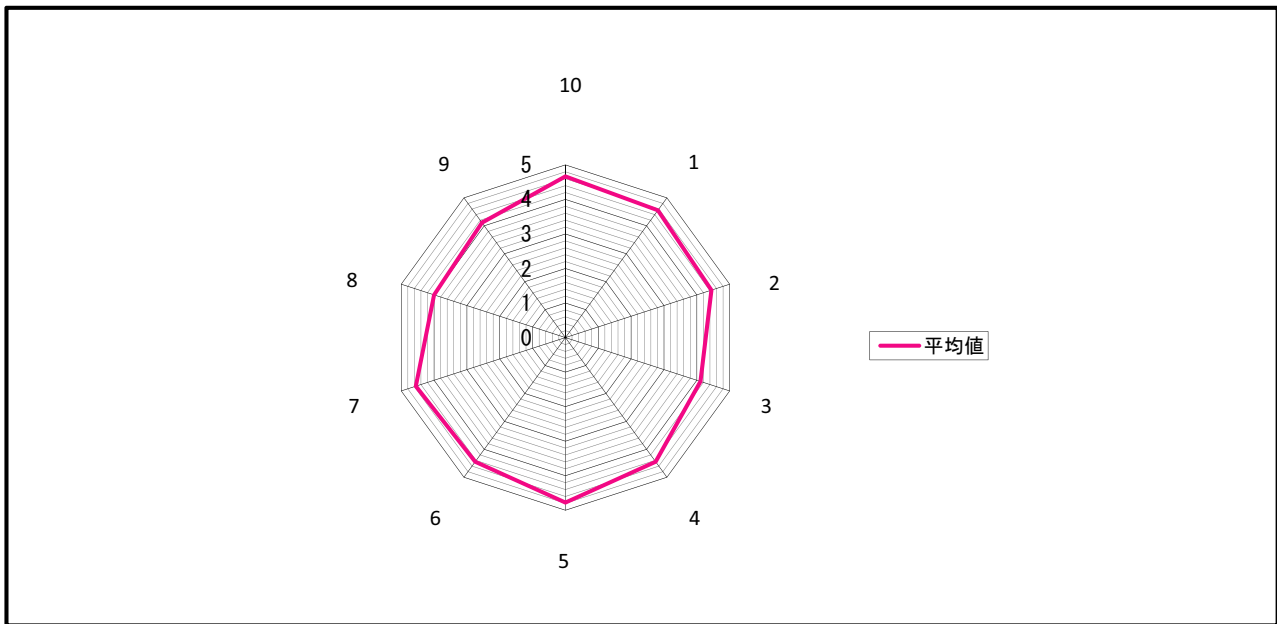
すべての平均値が4.0～4.6の範囲にあり、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」という問いに対して評価の平均値がそれぞれ4.5、4.3であり、「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」に対する評価も平均値4.4であったので、この授業を学生主体のものにしたことが評価されたと考える。学生が授業によく出席し、教員の説明をよく聞いてくれて、自ら教師の実践力を高めてくれたことに対しては感謝したい。「(4)成績評価の方法の説明は、適切であった」という問いに対しても平均値4.6であり、「(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う」という問いの平均値が4.4であったので受講者が概ね、この授業に満足しているものと思われる。

結果報告書

授業科目名 数学科教育学研究
 評価実施日 平成25年7月22日
 担当教員名 服部 勝憲

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	2	1			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	3	1			4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	4	2			4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	3	1			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	2				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	3	1			4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	2	1			4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2	3		1	4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	5		1		4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	3				4.7



教員のコメント

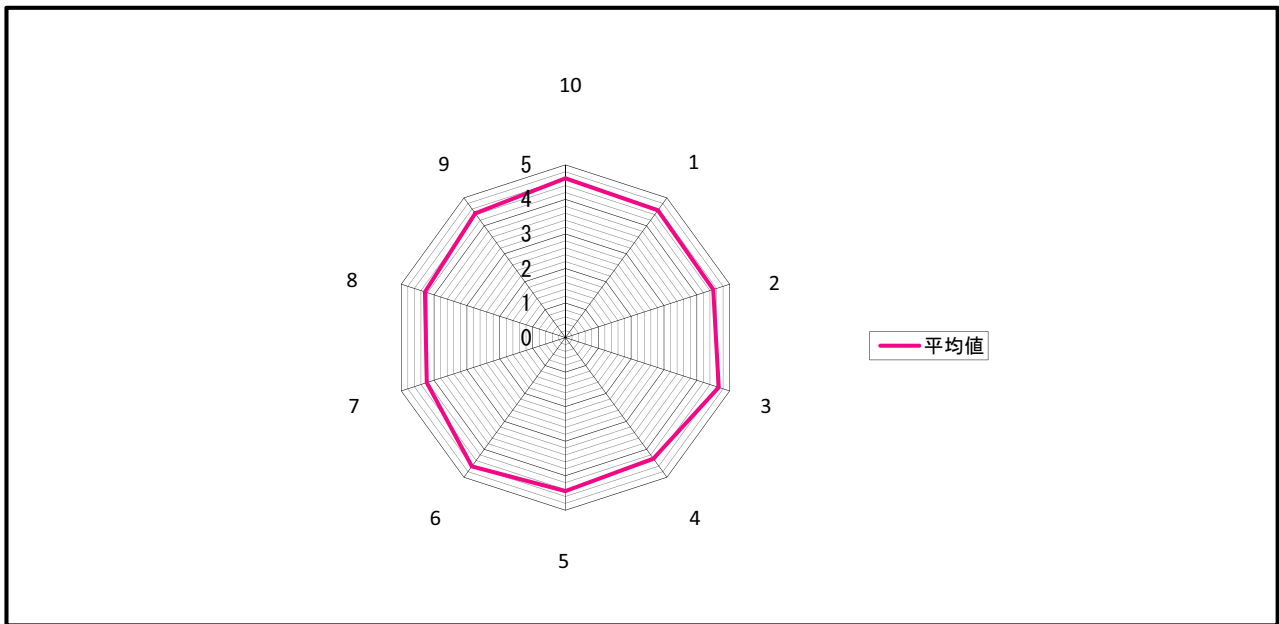
この授業の展開は、算数・数学教育の歴史、目的と目標、内容と教材、指導方法と評価、カリキュラム、授業研究等に焦点を当て、受講生が事前に分担した課題について研究を進めるとともに報告をし、討議と教員によるコメントによって理解を深める方法によった。受講生の経験や理解の深度にはばらつきがあり、はじめは戸惑いも見られたが、次第に積極的に授業に臨むことができるようになった。授業の後半には報告のための資料も多様な文献やネット情報なども活用したのが見られるようになり、それぞれの受講生の算数・数学の学習経験を見直す内容も多くなった。

結果報告書

授業科目名 数学科教材開発研究
 評価実施日 平成25年7月26日
 担当教員名 秋田 美代

回答者数 18 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	6	1			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	7	1			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	6				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	6	3			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	10	6	2			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	7				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	8	3			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	5	4			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	4	3			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12	5	1			4.6



教員のコメント

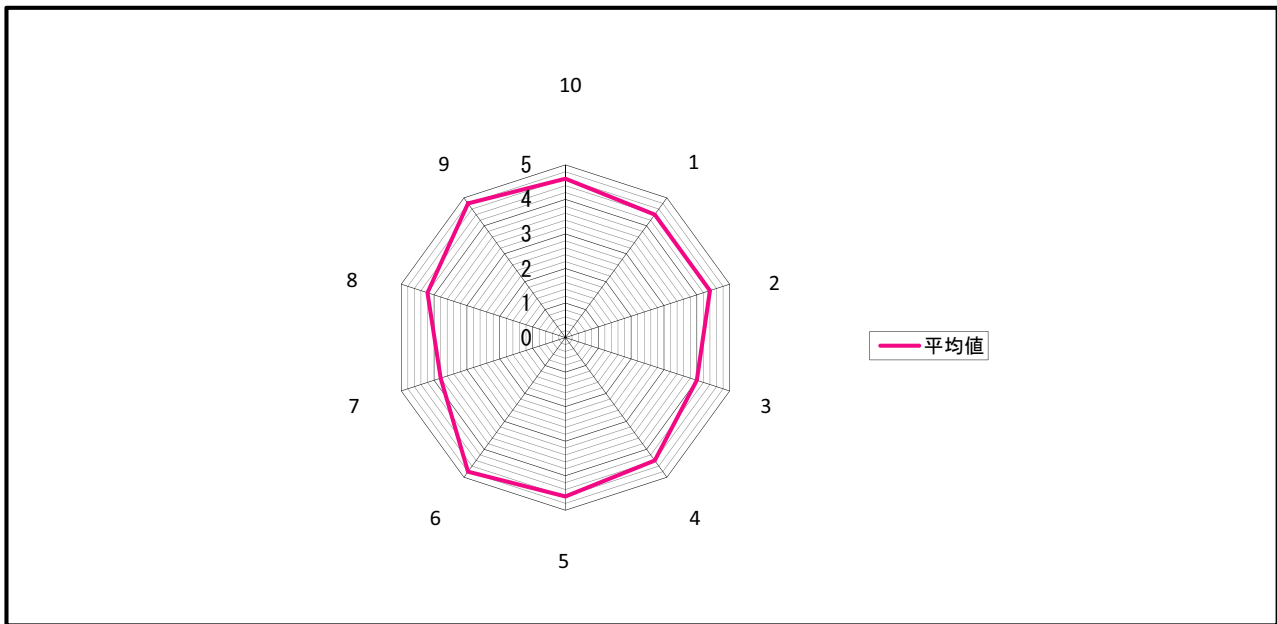
この授業科目の主な目標は、数学教育において指導目標を達成するための教材の活用方法・開発方法について理解し、生徒の思考力や創造性を育成する数学教材について考察することであった。総合評価の平均値は4.6。評価の平均値が高かった質問項目は、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」、「(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた」、「(6)受講生に分かりやすく説明した」であり、評価の平均値が低かった質問項目は、「(7)教科書や配布された資料は、適切であった」、「(4)成績評価の方法の説明は、適切であった」、「(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった」であった。ほとんどの質問項目で4以上を選択した履修者が8割を超えていたことから、授業の内容は履修者に適した内容であったと考える。この授業でよかったと思われる点については、「学生の意見を取り入れている」、「教材開発に関する知識・思考に触れることができた」という回答が記述されていた。この授業で改善すべきと思われる点については、「小レポート等の課題があると学生の理解が深まると思う」との回答が記述されていた。これらのことから、この授業科目の目標は概ね達成できたと考えられるが、次年度は途中でレポート等の課題を与え評価に生かすことを検討したいと考えている。

結果報告書

授業科目名 物理学特論 I
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 本田 亮

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1	1			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1	1			4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2		1		4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4			1		4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4		1			4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1	1	1		3.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2	1			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	2				4.6



教員のコメント

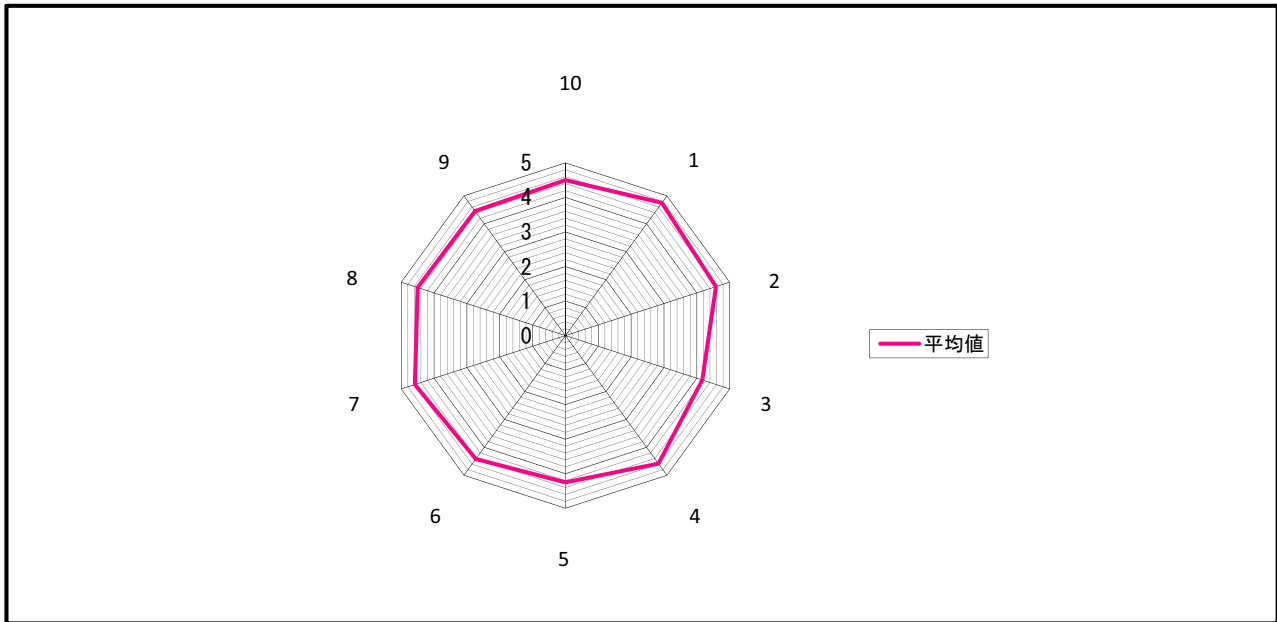
受講生が持っている学習履歴および受講目的は個人依存性が強いので、評価アンケートの各項目に対して特記するようなコメントはない。また、受講生数が5という小さな値の授業に関して、授業評価アンケートをこのような手法で扱うことは無意味である。

結果報告書

授業科目名 環境化学特論
 評価実施日 平成25年7月30日
 担当教員名 胸組 虎胤

回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	3				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	3	1			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	5	1	1		4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	5				4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	7	1			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	5	1			4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	5				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	4	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	6			1	4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	6				4.5



教員のコメント

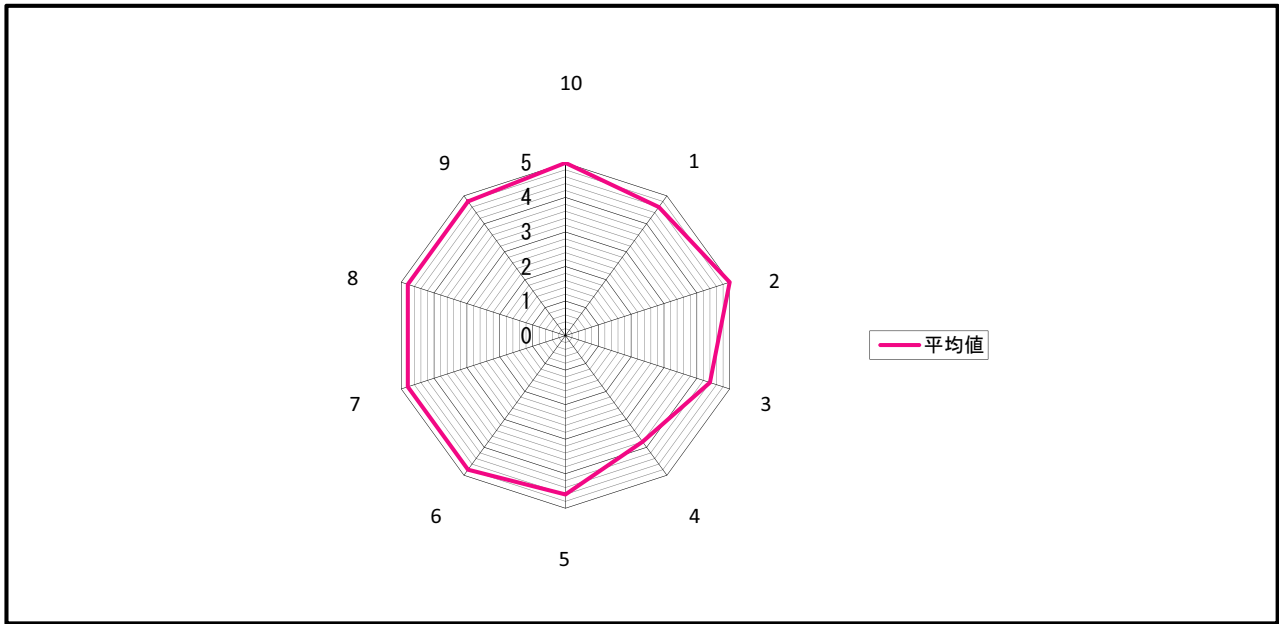
今後教師の実践力に結び付くような授業内容を工夫していきたい。

結果報告書

授業科目名 生物科学特論Ⅱ
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 工藤 慎一

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	2				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3				4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	3		1		3.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	2				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



教員のコメント

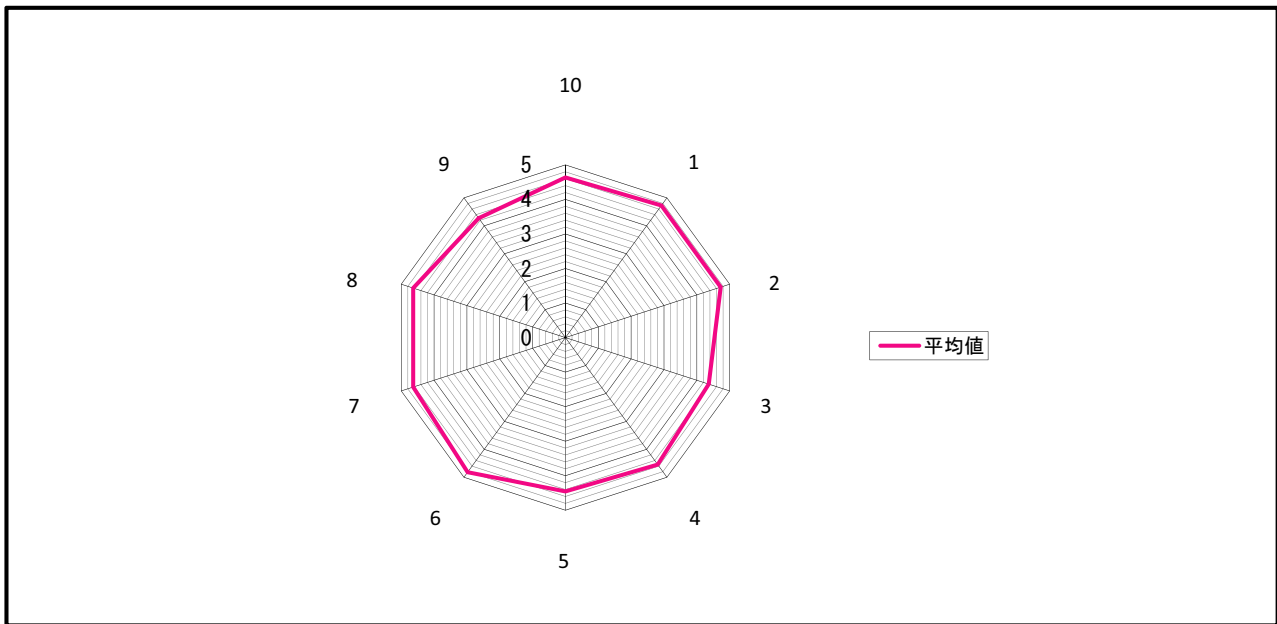
例年通りの講義内容・方法であり、特に改善すべき点はないと考える。

結果報告書

授業科目名 宇宙科学特論
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 西村 宏

回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	3				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	3				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	7				4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	5				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	4	1			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	2				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	4				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	4				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	4	2			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	4				4.6



教員のコメント

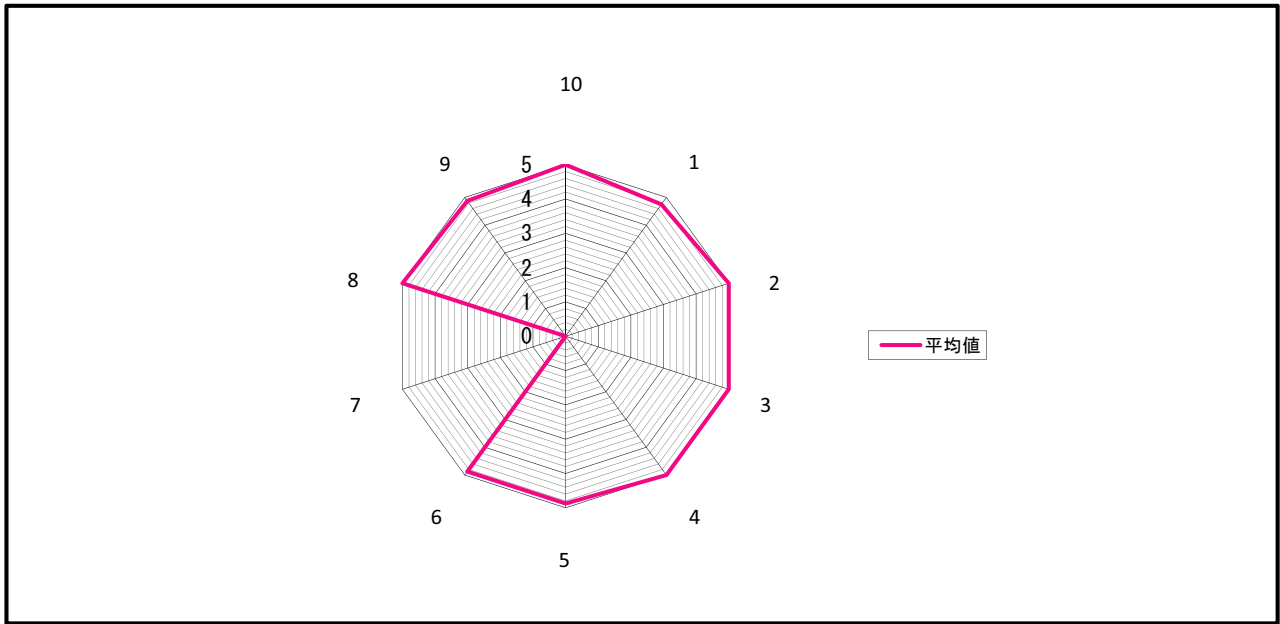
まずはじめに、この報告書への直接的なコメントではないが、今年度の受講生は実質総数18人(このうちアンケート提出者数は11人)と人数も多く、授業中に感じる雰囲気として、受講の心構えに十二分に前向きな意欲が強く感じられたことは特筆すべき点と思われる。その証左として、質問(9)の「積極的に取り組んだ」かどうかに対する回答が、従来見られたようなやや停滞気味なものではなく、平均値が4.3と8割を超える人が授業に対する積極的な身構え方で臨んでいることに心強さを感じた。

レーダーチャートを見ると、質問(9)のみならず、全般的に平均値が4以上であり、取り立てて、どの部分の評価が極めて低いという特筆すべき点はなく、授業者として、準備に力を入れ、講義もパワーポイント画面の安易な繰り返しではなく、そのうしろに潜む科学的な意味などに特に力を入れて話したことの結果が表出したものと自己評価している。具体的回答の一例をあげると「専攻以外の知識を得ることができ本当によかった。」「総合的な科学視野によって講義が行われており、自らの足りない知識や弱い分野の把握ができた。」「くわしく、時には教育現場で活かせるような話をしてもらってよかったです。」「興味を抱いていた宇宙に関する事柄について、分かりやすく話していただき、大変勉強になりました。」「などポジティブな評価となっていて、十分な結果が得られている。また、「宇宙に関する書籍を読むようになった。」との回答も散見され、最近一般的になりつつある宇宙科学をさらに深く学ぼうとする意欲が感じられた。

結果報告書

授業科目名 地球科学特論 I
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 村田 守, 香西 武, 足立 奈津子 回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7				1	5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。						
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1				4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8					5.0



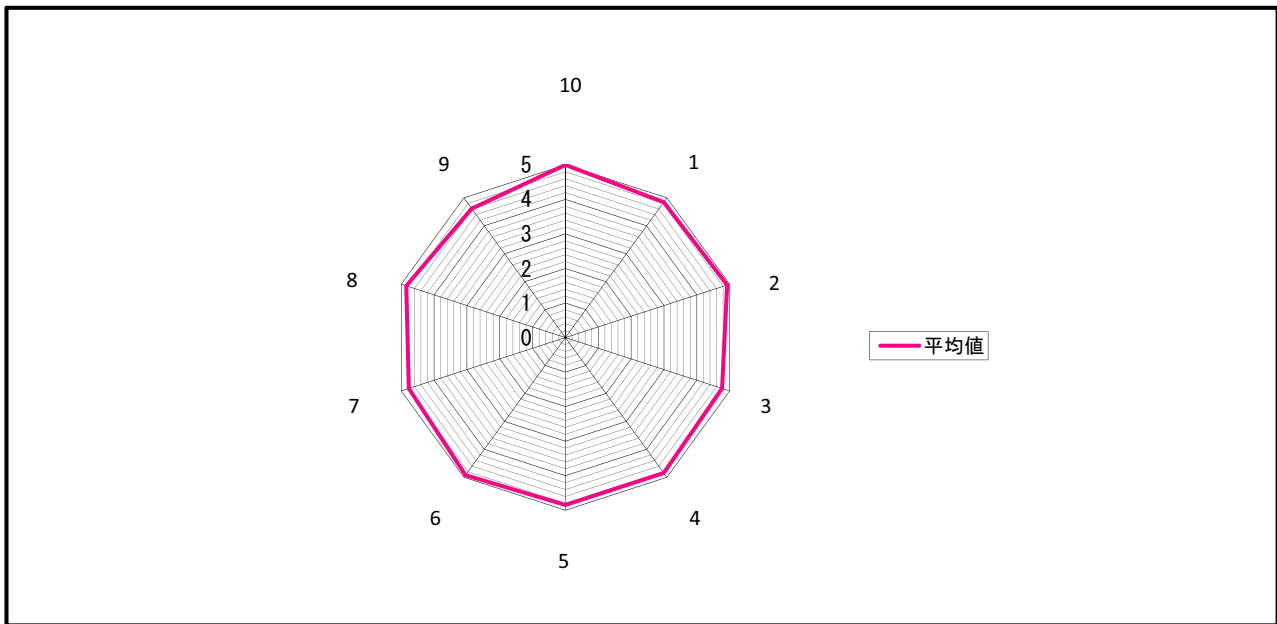
教員のコメント

アンケート記入8名のうち、5名が裏面の自由記述欄に書き込んでいたので、主体的に講義に参加出来ていたのであろうし、満足度も高かったのであろう。残念ながら、母集団が少ないために、このアンケート結果から今後の講義の改善点は見出されなかった。

結果報告書

授業科目名 地質学・古生物学特論
 評価実施日 平成25年7月24日
 担当教員名 香西 武, 村田 守, 小澤 大成, 足立 奈津子 回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	3				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	2				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	12		1			4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	12	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	3				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	5				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13					5.0



教員のコメント

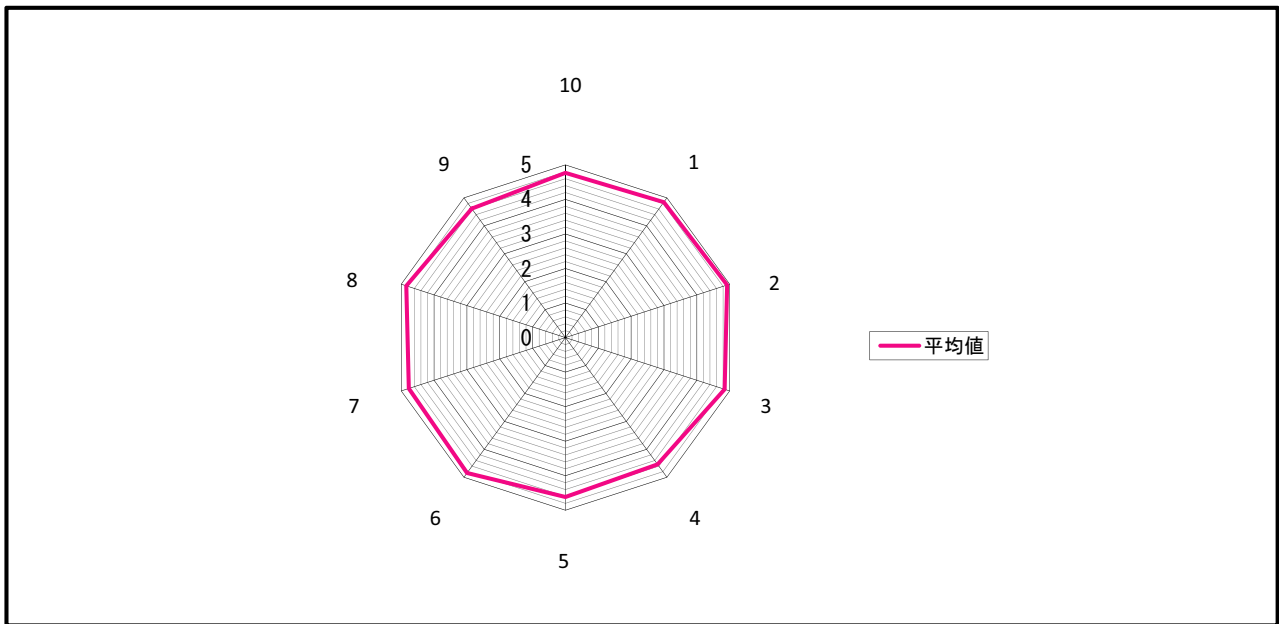
毎年、授業の初めに受講生が希望する内容を聞き、それで授業を再構成しており、受講者にとっては、満足のいく授業になったものと思う。今後も、受講生の希望に即した内容になるよう、努力していきたい。

結果報告書

授業科目名 声楽発声法
 評価実施日 平成25年7月30日
 担当教員名 頃安 利秀

回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	2				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	4	1			4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9	3	1			4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	2				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	3				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	5				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	3				4.8



教員のコメント

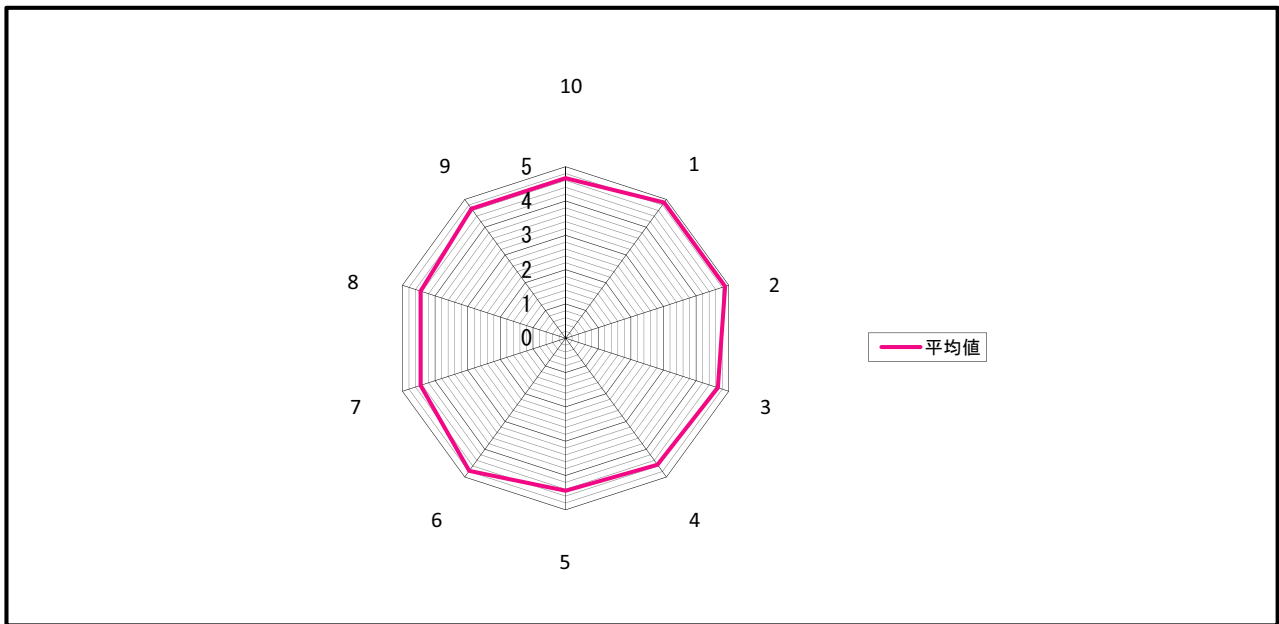
総合評価が4.8ポイントということで、授業全体としては大変満足していただけたと思う。若干ポイントが低かったのは(4)と(5)で、成績評価の方法についての説明と、授業の進む速度についてである。この授業は講義科目ではあるが、実技(発声法)の内容を含んでおり、声楽発声法について理解し自らも歌えるようになることが目的である。ただ実技能力には個人によりこれまで学んできた経験に差があり、評価するのが難しい。そのため出席状況とレポートにより評価することとしている。そのあたりの説明が若干不足していたように思う。同様に、授業の進め方においても、個人ごとの実技能力に差があり、人によっては授業を進める速度が速いと感じる場合があったかもしれない。

結果報告書

授業科目名 ピアノ演奏基礎演習
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 森 正, 田中 巳穂

回答者数 9 人

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	1	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	2	1				4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	2		1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	2					4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	1	2				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	1	2				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	3					4.7



教員のコメント

各学生の状況に応じた個人指導で授業は進められたが、それぞれの課題に即した指導により成果を上げることができたことが、学生の自由記述を読んでも感じられた。これからも、このような個人指導の形態で授業を行っていきたいと考えているが、学生のこれまでの学習経験等が多様化しており、その要望に応える為には新たな課題を探すことや、場合によっては教員採用試験に結びつくような新たな指導方法も必要となってきた。また、長期履修の学生のように、在学中に実地教育で実際に授業を行うことが考えられる学生については、小中学校の音楽の授業において、どのようにピアノ伴奏に取り組むべきか、学部生には様々な機会を通して考えさせることが可能であるが、大学院生がピアノのレッスンを受けることが可能なのはこの授業だけなので、その対策についてもこの授業で触れる必要があると感じた。

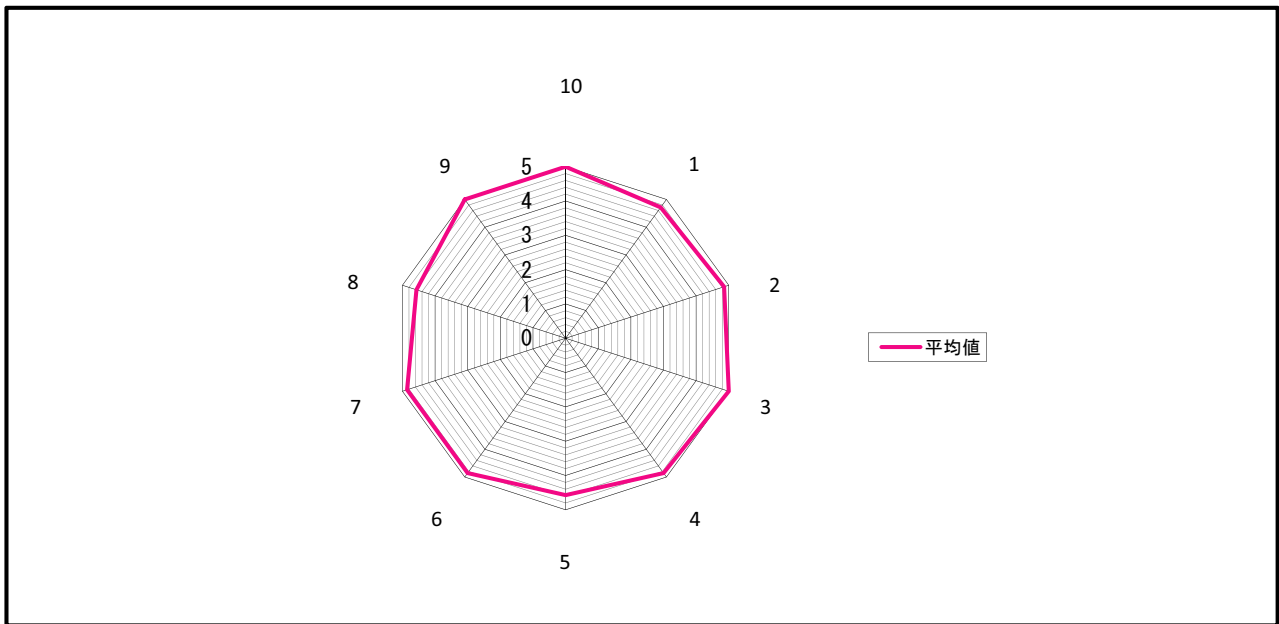
そのような現状のなか、個々の学生に応じた指導をするにはどのような点に配慮する必要があるのかを、嘱託講師をお願いしている先生とも研究していく必要があると考えている。

結果報告書

授業科目名 学校教材ピアノ伴奏法
 評価実施日 平成25年7月30日
 担当教員名 山田 啓明

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	1	1			4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					5.0



教員のコメント

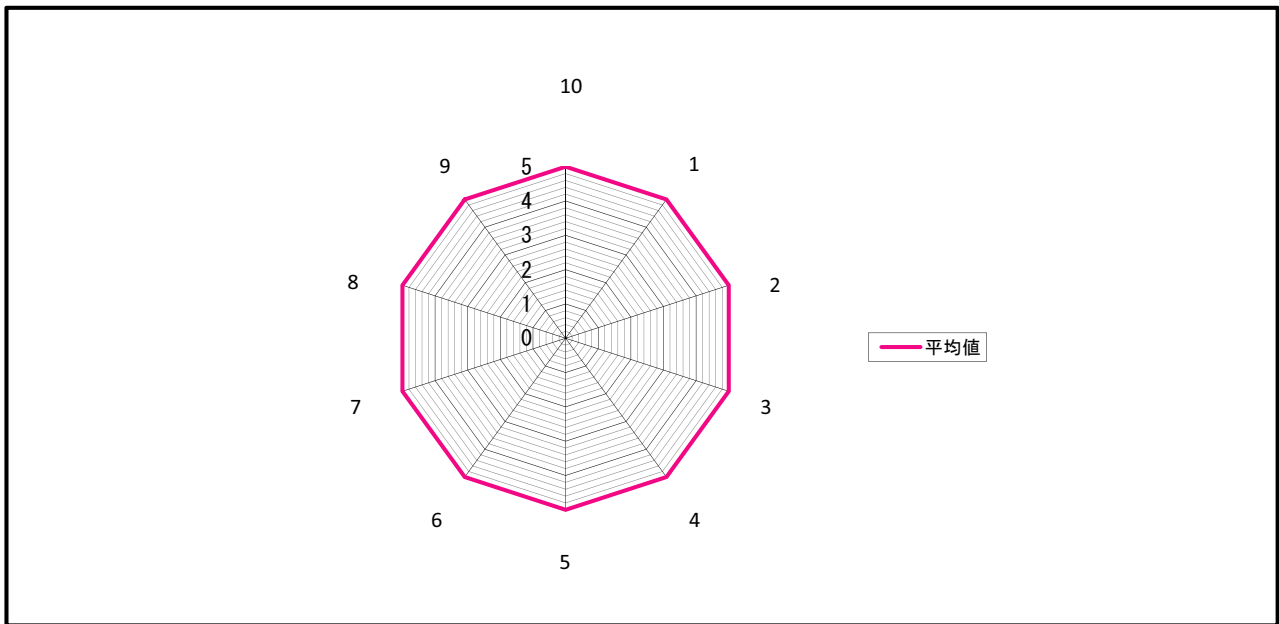
授業の内容自体は大変好評だったと思う。ただ、一人一人にかかる時間が、当人の能力によって大幅に伸び縮みしたため、その点について改善を求めるコメントが見られた。次回担当するのが再来年なので、その際には気を付けたい。

結果報告書

授業科目名 ピアノ演奏法
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 森 正

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

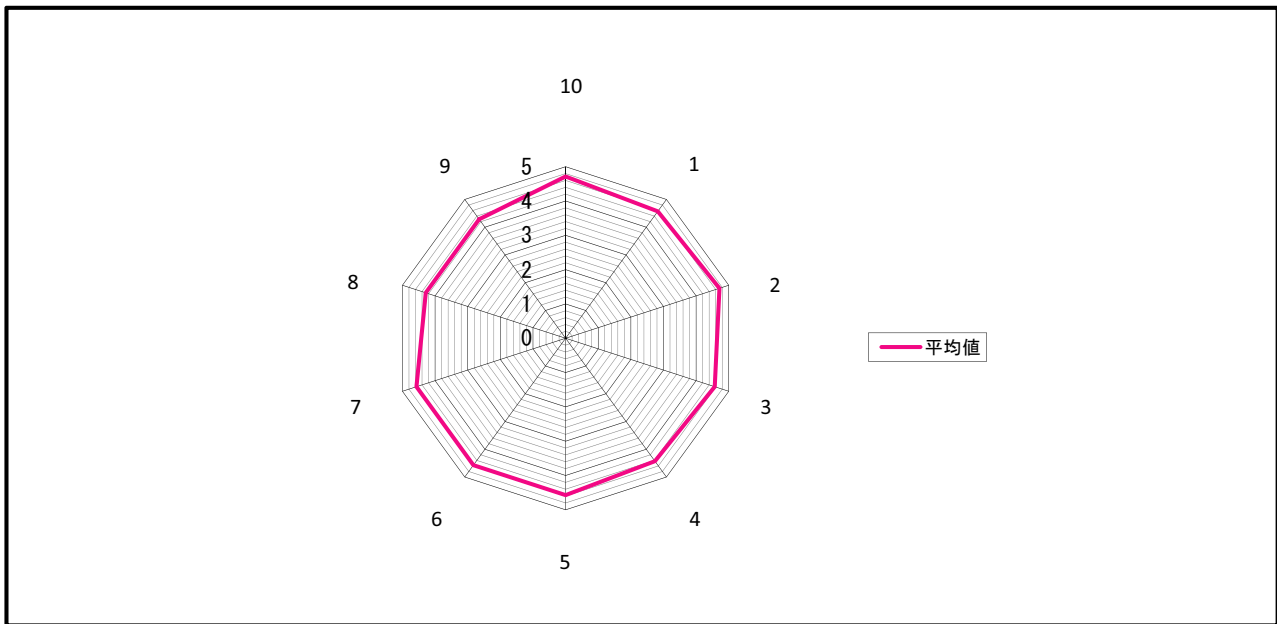
二人の受講生のうち、一人は課題研究における修了演奏との関係でこの授業を受講した学生で、この学生は自分の研究テーマに対し、解説を含め確実に準備を進めることが出来たことが、授業に対する高い評価につながったと考えられる。一方、もう一人の受講生は現職教員であったが、学生時代はピアノを専攻に在学していたということで、演奏技術等高いレベルにある学生であった。この学生は、継続してピアノの実技指導を受講するのは、大学卒業以来始めてのことであったためか、自らの演奏技術および表現技術を見つめ直す機会として、この授業を高く評価していた。

結果報告書

授業科目名 管弦打楽器総合演習
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 山根 秀憲

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	3				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	4				4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	3				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	3				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	3				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1	2			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3	1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	2				4.7



教員のコメント

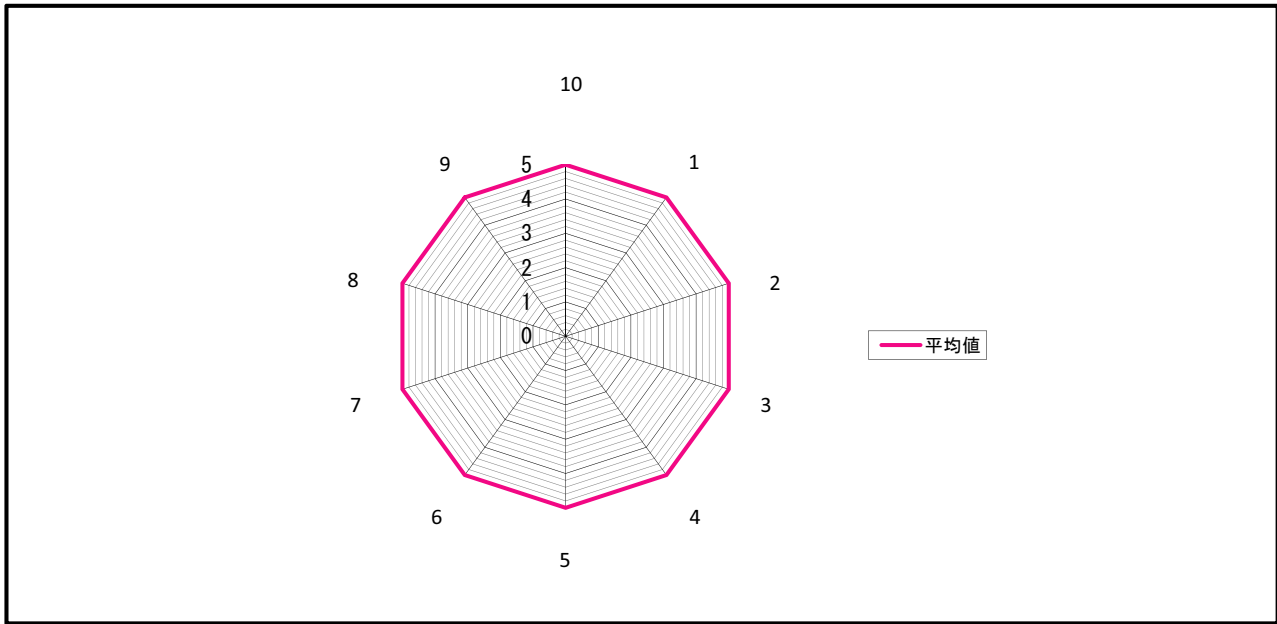
受講者は、7人で、昨年より多かった。全ての評価項目について、ほとんどが⑤④であった。(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。」に関して③が2人いたが、この授業では、板書をしないので、「板書をしていない」という意味で③を選択していると考えられる。大学院の授業評価では、関連のない項目であっても削除できない、ということがあるため、個々の授業のあり方に必ずしも適合したアンケートになっていないといえるのではないと思われる。[3]の意見として、「選択肢がもう少しあれば...」というものがあつた。この「選択肢」の意味が明確ではないが、そもそもの授業題目である、「管弦打楽器総合演習」ということからすると、当初より打楽器分野は扱えなかつたし、弦楽器担当教員が不在となつて以降は、管楽器分野のみの授業となつている。この意味では選択肢が少なくなつているが、現状では、改善のしようがない。

結果報告書

授業科目名 管弦打楽器演奏基礎
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 山根 秀憲

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

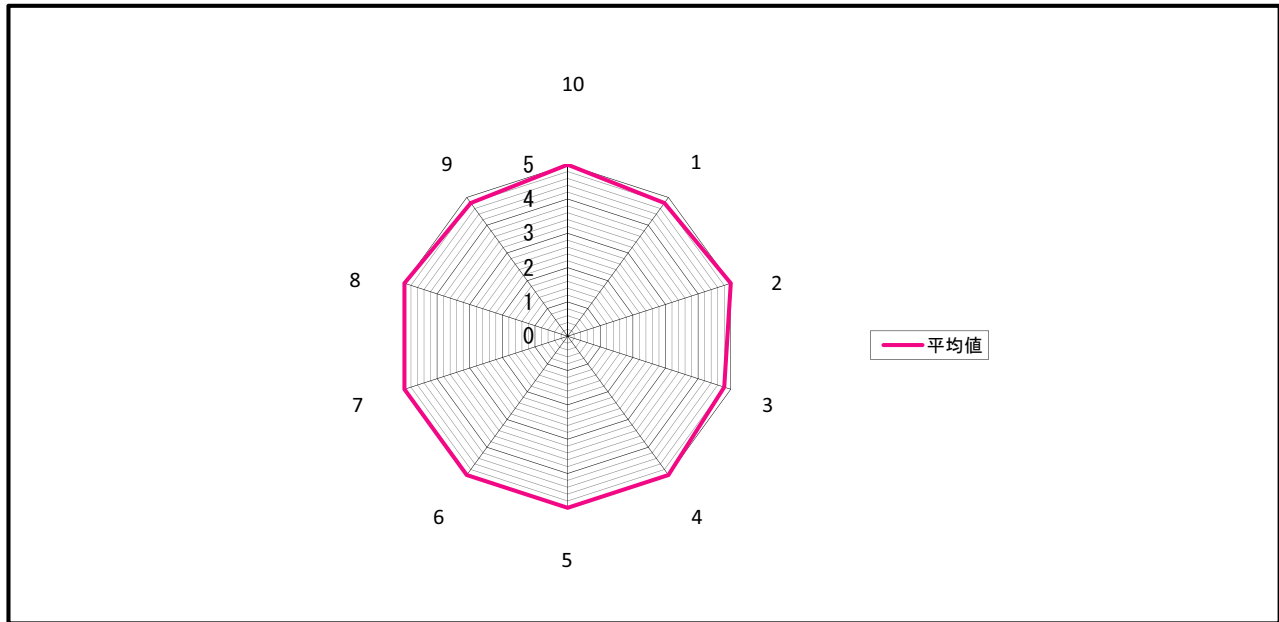
受講者は、2人で、昨年よりさらに少なかった。昨年度入学の大学院生の内、長期プログラムの学生の履修パターンが以前とは違っていることがその要因であると思われる。全ての評価項目について、⑤であった。受講者が2人であったため、個人の状況に合わせた授業ができたといえよう。しかし、一人は、西洋の金管楽器、もう一人は、和楽器を選択したため、受講者によるアンサンブル体験ができなかった。受講者はもう少し多い方が望ましい。

結果報告書

授業科目名 指揮法基礎演習
 評価実施日 平成25年7月23日
 担当教員名 山田 啓明

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



教員のコメント

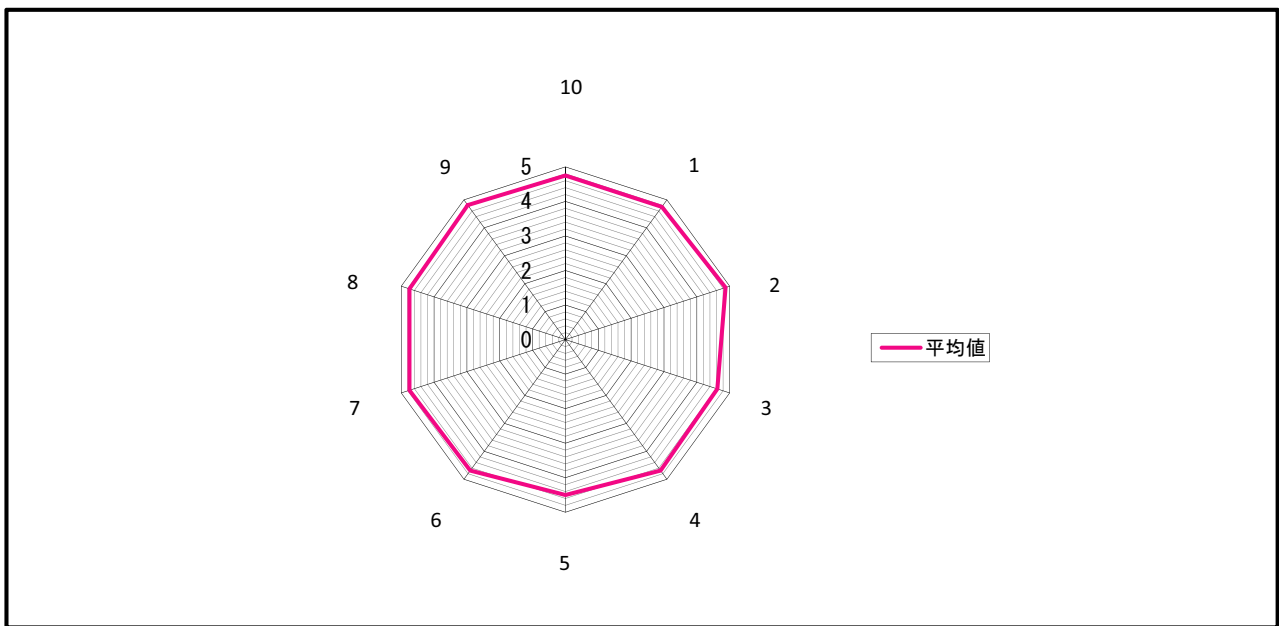
毎回、好評な授業であり、受講生のコメントも好意的なものだった。ただ、今年は受講生の数があまりにも少なく、またピアノが弾ける者もほとんどいなかったため、例年やっている管弦楽曲をピアノで連弾するのを指揮する、という事ができなかったのが残念である。

結果報告書

授業科目名 楽曲分析研究
 評価実施日 平成25年7月30日
 担当教員名 松岡 貴史

回答者数 16 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	14	1		1		4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	15		1			4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	3		1		4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	12	3	1			4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	11	2	3			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	12	3	1			4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	13	2	1			4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	13	2	1			4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14	1	1			4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13	2	1			4.8



教員のコメント

授業では、楽曲分析の方法を提示し、学校教材を含め、受講生が希望するさまざまな様式の楽曲について実際に分析と楽曲解釈を行い、演奏表現にそれをどう生かすか、演奏を交えながら検討を行った。受講生は終始積極的に取り組み、このような授業内容が求められていることがひとしと感じられた。実際、毎回の授業において学ぶ意欲と内容の深まりが強く感じられ、その結果、総合評価4.8となり、満足度の高い授業であったといえよう。

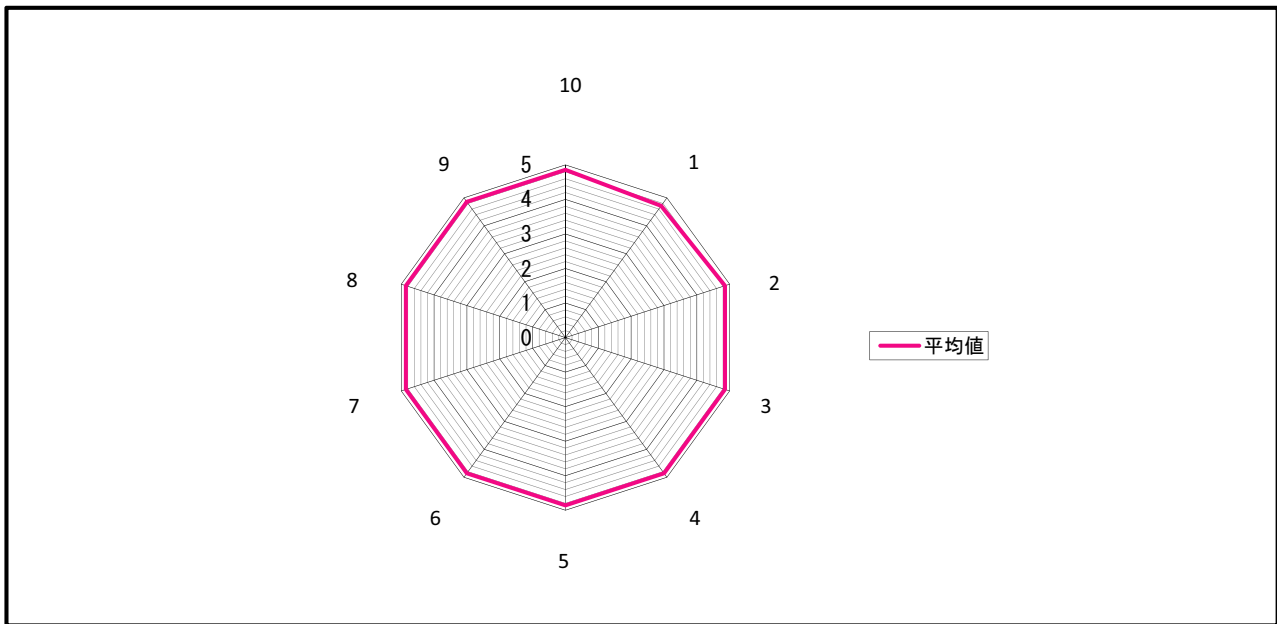
自由記述からは、「作品の時代背景、曲の構造、和声の持つ意味などが分かりやすく説明され、よく理解でき、曲の解釈を自分なりに考えて演奏に生かすことができるので有益な授業であった」とが見えてくる。また、受講生の希望によるさまざまな曲を丁寧に分析したので豊富な内容となり面白かったという反応が多かった一方で、一部の受講生には、進度が速すぎた向きもあったようである。すべての項目について評価3または2とした受講者が1名あったが、自由記述が全くなく、アンケートからは、その理由が読み取れない。

結果報告書

授業科目名 音楽教育史研究
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 長島 真人

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6		1			4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1				4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1				4.9



教員のコメント

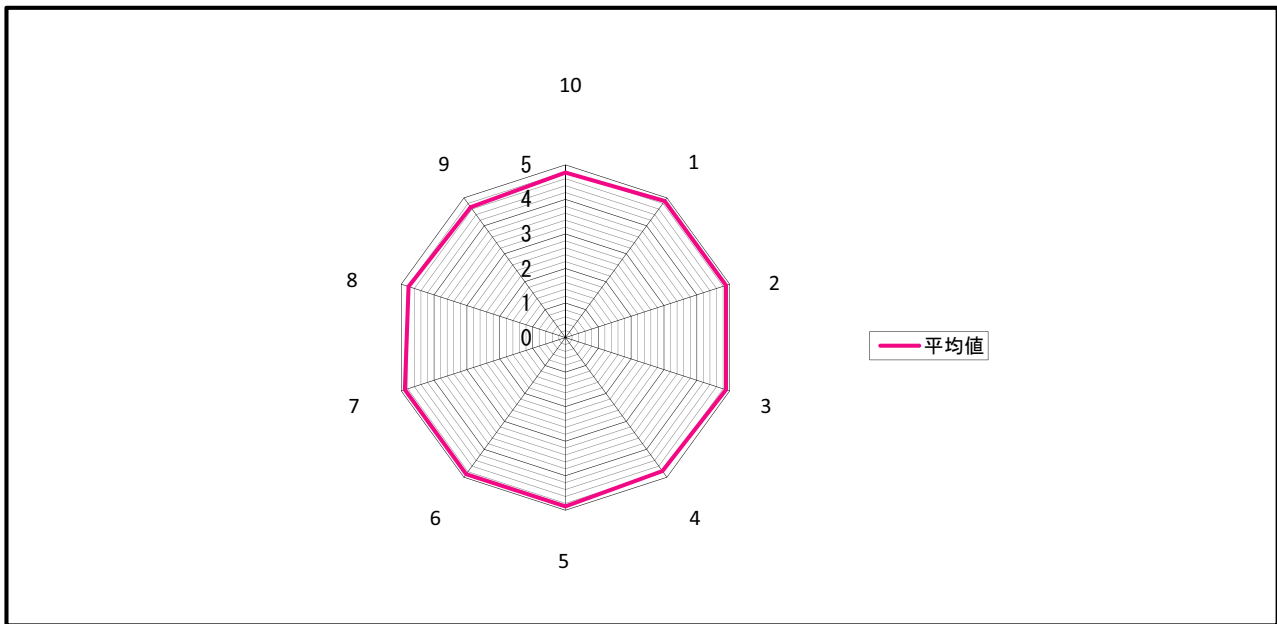
音楽教育の歴史を通史的に吟味していく本格的な講義を展開したが、できるだけ多くの史料を紹介しながら、音楽科教育の本質的な特性や存在理由、特に、ソルミゼーション(ドレミで歌って、音楽の仕組みを直知する学習)の意味にポイントを絞り込んで講義したことが、院生たちの注意や思考を喚起させたように思われる。音楽科教育の今日的な問題に対する最も適切な答えが、歴史的な事実からみえてくる歴史的考察のおもしろさを、院生たちが実感できるように、さらに、史料の提示や発問の工夫を重ねていきたい。

結果報告書

授業科目名 音楽科教育研究
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 長島 真人

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8		1			4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	2				4.8



教員のコメント

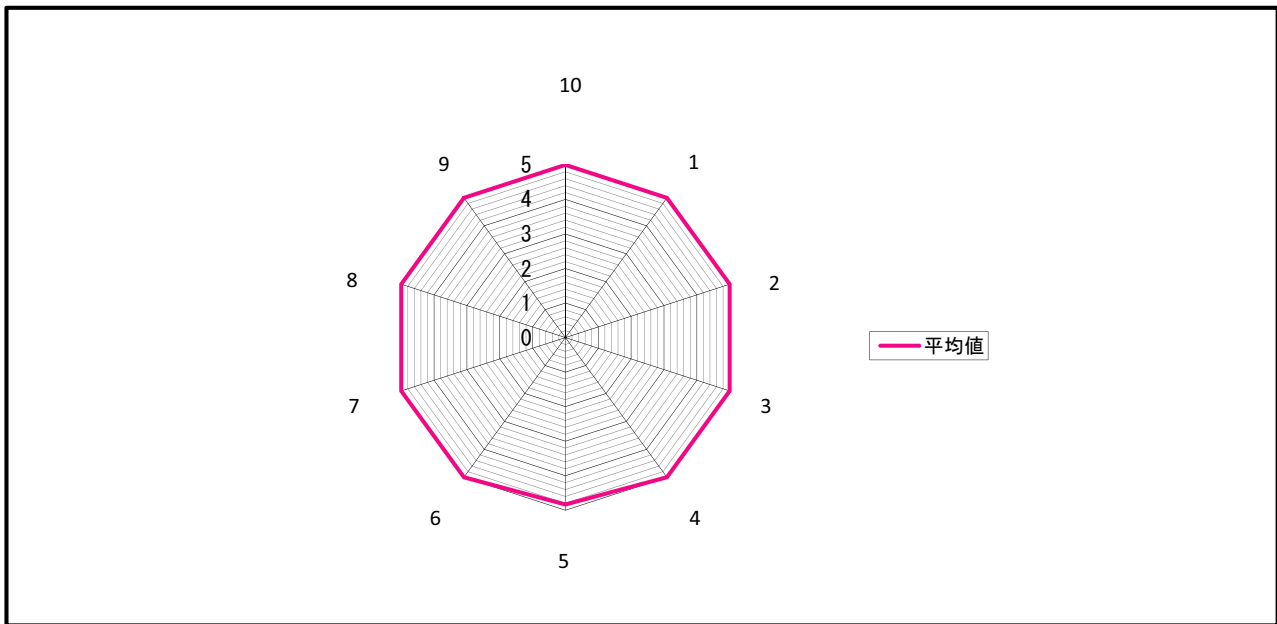
今年度も、酷評は確認されなかった。昨年度以上に、演習的な作業課題を増やして、院生たち自身によって音楽科教育の本質論や学習論、授業論に関わる知識が自立的に構成されるように配慮したが、その成果が反映されているように思われる。次年度も、自立的な知識の構成が促されるような作業課題を工夫していきたい。

結果報告書

授業科目名 音楽科授業演習
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 小山 英恵

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



教員のコメント

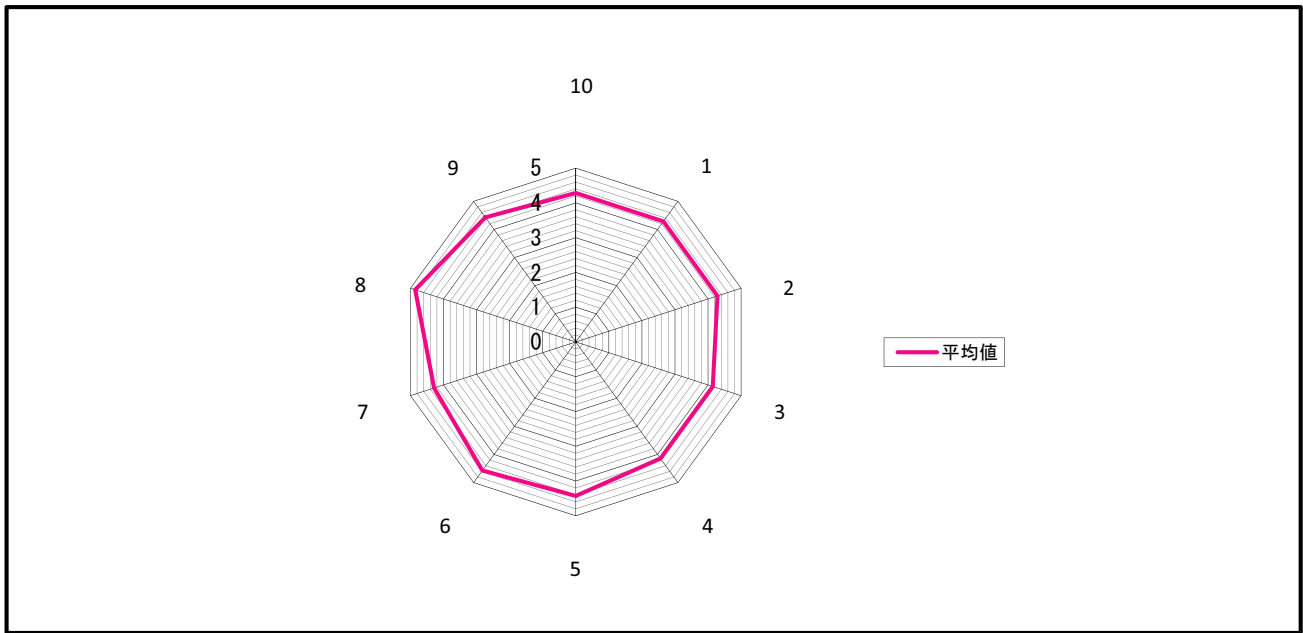
院生の受講態度が非常に積極的であり、アクティブ・ラーニング等にも真剣に取り組んでくれた。そのおかげで、授業が共同の知を育む場となったことは評価できる。ただし、教員が赴任一年目であり、院生の学習のレディネスを十分把握できていなかったために、授業内容や進度の細かな点については課題も残った。次年度以降改善したい。

結果報告書

授業科目名 絵画制作研究
 評価実施日 平成25年7月26日
 担当教員名 鈴木 久人

回答者数 7 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	3	1				4.3
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	3	1				4.3
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1	1	1			4.1
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	3		1			4.1
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	4	2	1				4.4
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	4	3					4.6
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3	3	1				4.3
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4					4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	3	1				4.3



教員のコメント

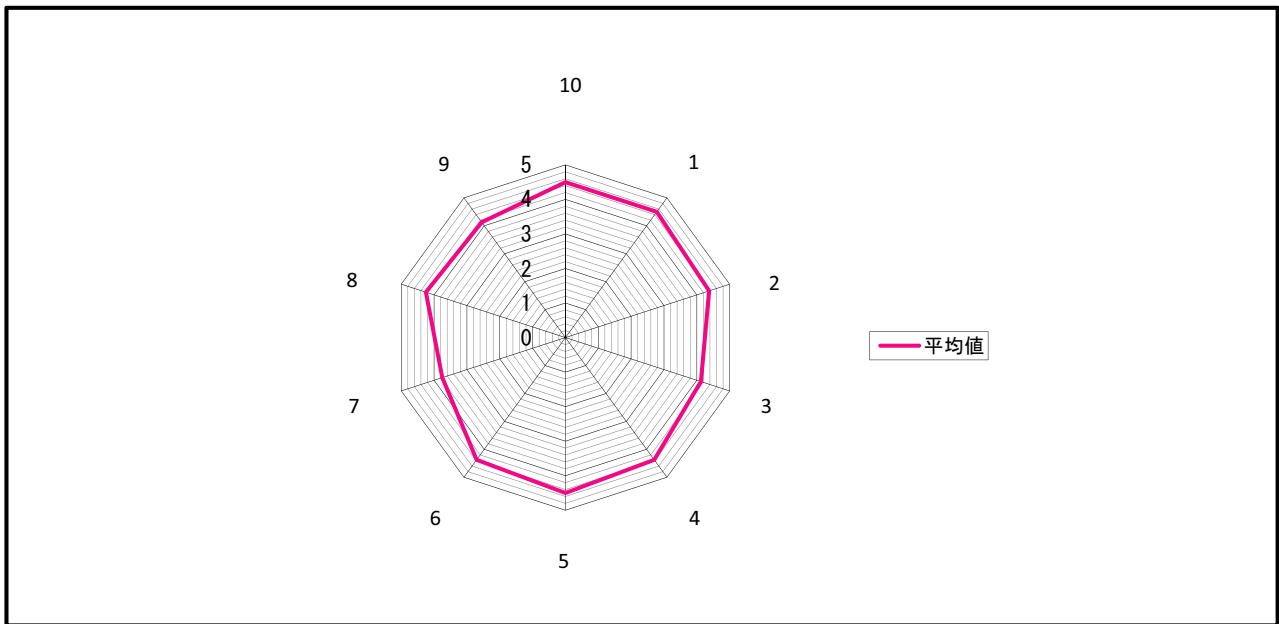
概ね、質問事項(1)から(10)では本授業の内容が好意的に受け取られていると考える。だが、総合評価で3と評価した学生がいる点は授業者には気にかかる点ではある。授業の内容、進め方、評価についての説明等に丁寧な検討をくわえる必要がある。
 自由筆記の質問でも好意的記述が目立ち、前半の現代美術作品を取り上げている内容が高評価を得た。本授業の内容・経験が教育現場でどのように生かせるのかもより具体的に取り上げていきたい。

結果報告書

授業科目名 版画制作演習
 評価実施日 平成25年7月4日
 担当教員名 武市 勝

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	4				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1	2			4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	5	1			4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	5				4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	4				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	5				4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	4	3			3.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	4	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	5	1			4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	4				4.5



教員のコメント

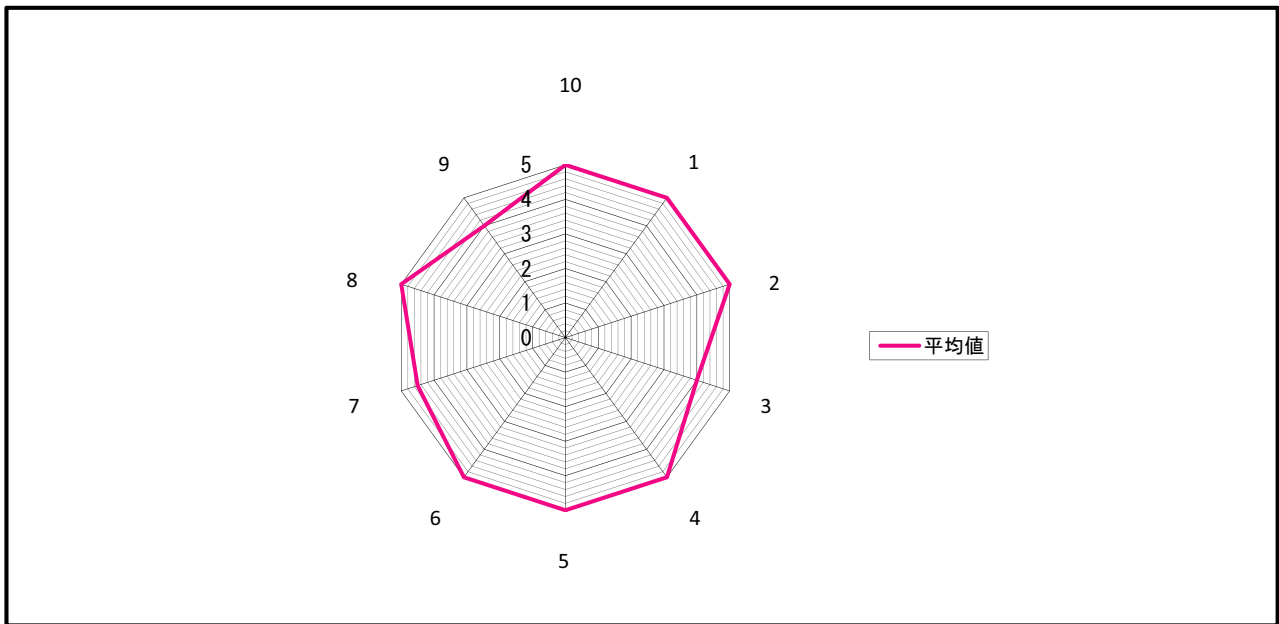
今回の授業は、「プレス機無しで刷れる新しい版画」の紹介と、その中での個々のアイデアを発動させたいという狙いがあった。小中学校の現場ではプレス機がない学校は珍しくなく、あったとしてもさほど使えていないのが多いからである。それなら初めから無いものとして実践し、むしろその技法の中で新しい味わいを見つけさせたかった。結果は、「理解したが、大学にはプレス機があるので、ないものとして考える気持ちになれない」というものが大半だった。このことはいろいろな問題を考えさせられるきっかけになったが、授業設定としてはやや困難と言わざるを得ない。内容的にはもう少し厳しい評価であってもおかしくはないが、上記になったのはそれなりに満足を得たためと思われる。授業者としては、課題の難易度を考え、もう少し練り直す必要があると反省している。

結果報告書

授業科目名 石彫制作演習
 評価実施日 平成25年7月26日
 担当教員名 野崎 窮

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1		1			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

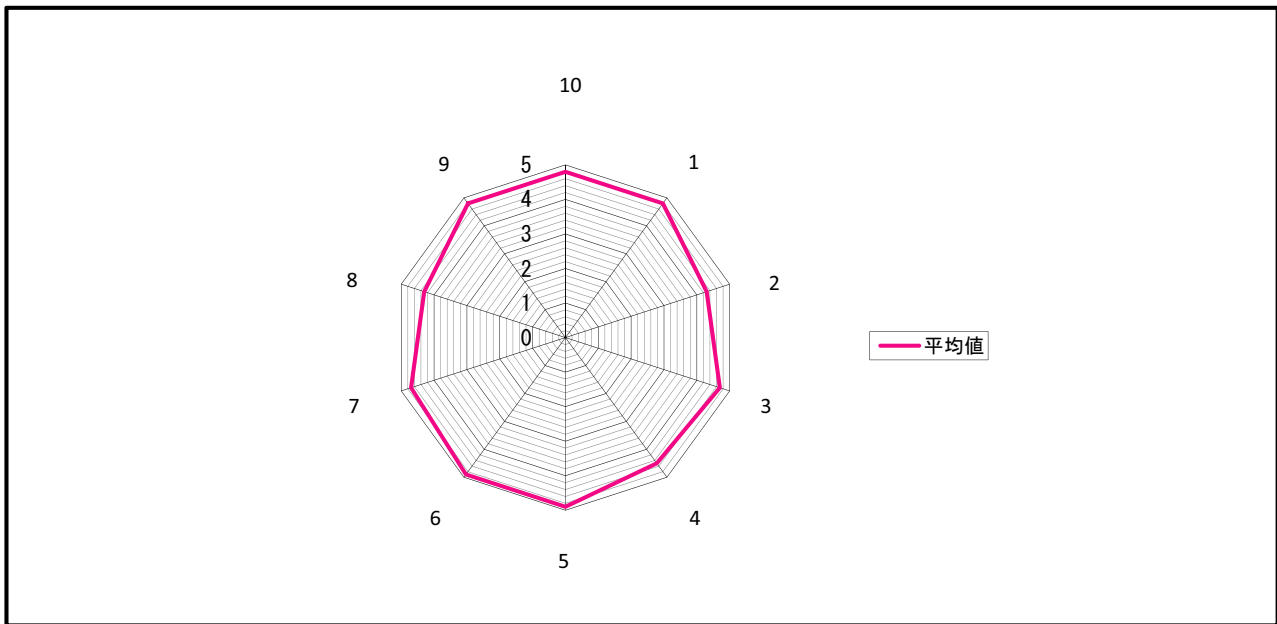
総合評価として「5」を得ているので、履修してくれた学生にとって特に問題はないと考えている。但し、履修者が3名であり、過去5年間で最低であった。因みに最近、5年間の履修者の平均は6.2人であった。また、その中で、10人ぐらいが多い年度であり、その理由として特別支援などの他のコースからの履修者が多い場合であった。教育に対して、美術という教科がどれほど意味のあるものなのか等、根本的なテーマを考えるような授業を行ううために、視聴覚機器の適切な使用をこころがけ、特にパワーポイントによる鑑賞教育により、その内容を充実させ、履修者の増加を図りたい。

結果報告書

授業科目名 陶芸制作演習
 評価実施日 平成25年7月26日
 担当教員名 栗原 慶

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1	1		1	4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	3				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	1			1	4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	3				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	3			1	4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	2				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	2				4.8



教員のコメント

総合評価が4.8ということで、総合的には授業に対する理解と満足度は得られているが、専門的知識を深める内容と板書や視聴覚機器の使用について評価を得られてない部分があった。実技指導が多くを占めるため、その点で若干の偏りが出てしまったと思われる。視聴覚資料の充実をはかり改善していきたい。成績評価方法の伝達については、ガイダンスだけではなく随時繰り返し伝えるようにしていこうと思う。

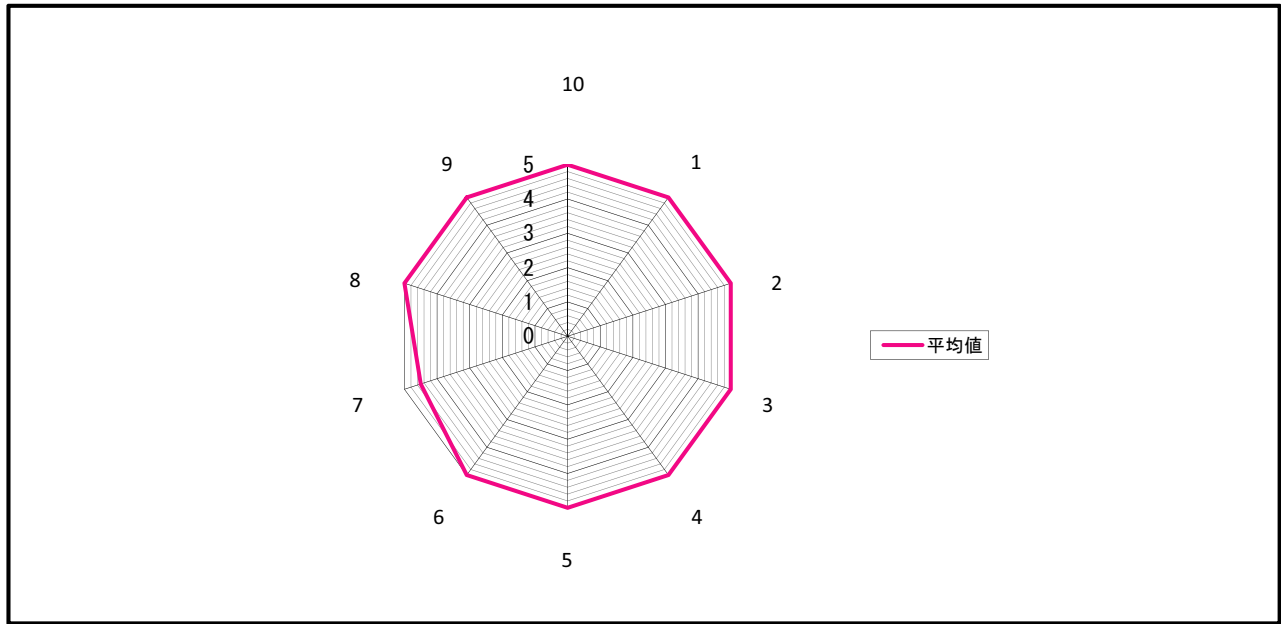
結果報告書

授業科目名 美術科教材開発研究
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 山田 芳明

回答者数 2 人



質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

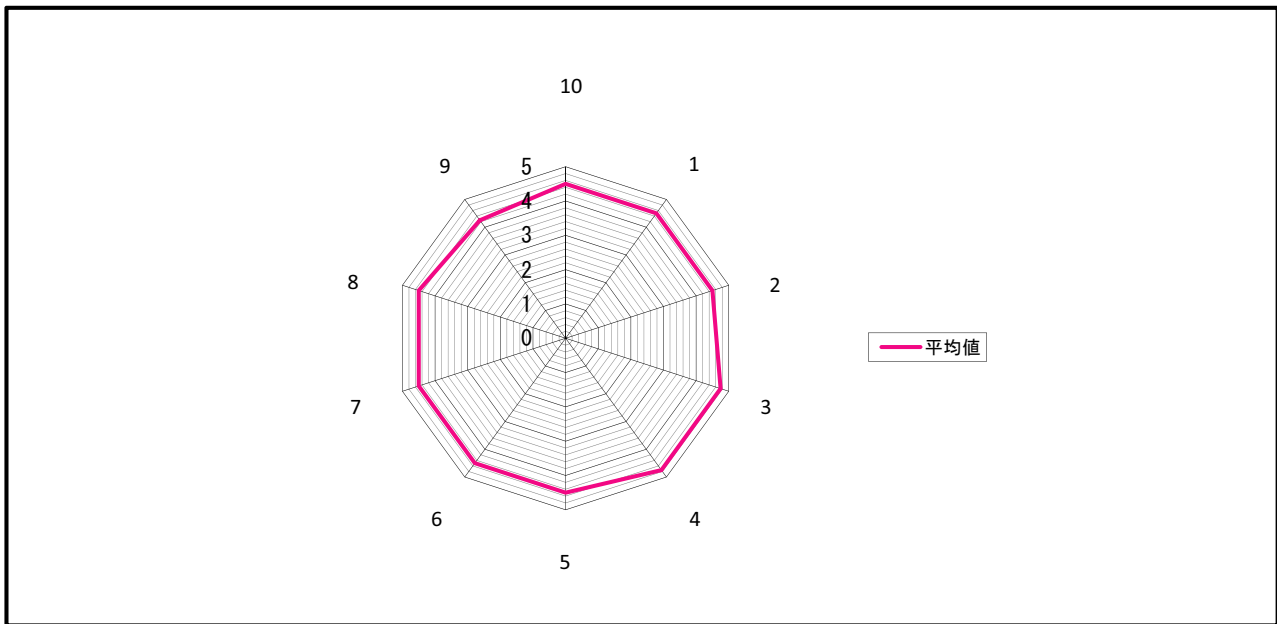
本年度の受講者が2名であったため、統計的な評価は適さないと考える。
 ただ、2名にとっては、充分、あるいはおおむね満足できる授業となっていたと考えられる。
 今後も、受講学生が満足できるような授業を行うよう努めたい。

結果報告書

授業科目名 美術科教育研究法演習
 評価実施日 平成25年7月30日
 担当教員名 山木 朝彦

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	2				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1	1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	2				4.5



教員のコメント

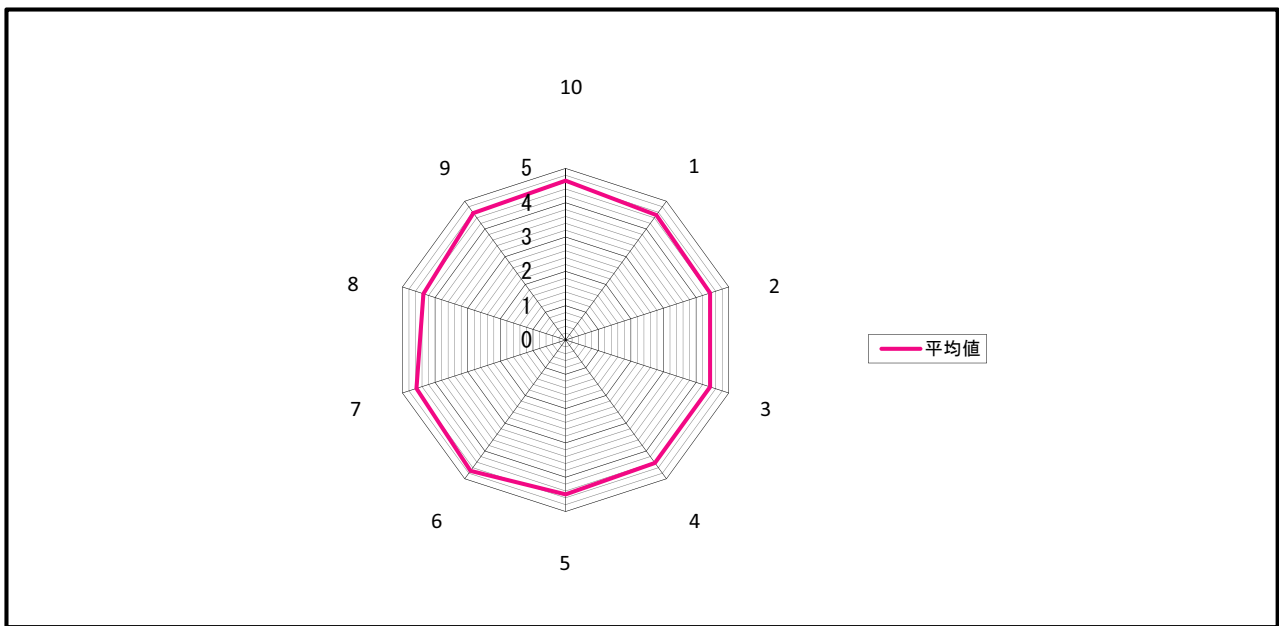
学生が意欲的に受講してくれたので、たいへん進めやすい授業であった。なぜ、意欲的となったのか振り返ると、この演習形態の授業の趣旨を最初にうまく伝えることができたからであろう。美術科にかかわる学習指導要領のなかで、鑑賞教育が重視されている意味・意義を学生がしっかりと受け止めたことで、作家や作品研究などを伴う教材作りという困難な課題に対しても主体的に取り組むことが可能となったのだと推量している。各項目とも満足のいく結果となったので、翌年度もまた、今回の授業の進め方や指導上の工夫を維持・発展させていきたい。

結果報告書

授業科目名 スポーツ社会学研究
 評価実施日 平成25年7月26日
 担当教員名 木原 資裕

回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	4		1		4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	2	1		1	4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	5		1		4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	5		1		4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9	4		1		4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	12	1		1		4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	11	2			1	4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	3	1		1	4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	6				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	2		1		4.6



教員のコメント

アンケート当日、受講生16名の内、2名が教員採用試験のため、アンケート回答ができていない。また、受講生16名のうち6名が他コースよりの受講生であり、評価に「2. あまりそう思わない」「1. そう思わない」が1名分つけられている。おそらく、意識レベルが他の受講生と大きくずれていたように思われる。そのような状況のなかで「(10)この授業を総合的に評価するとよかったと思う」が、4.6であり、数値的にはよい評価がなされていたと思う。特に、視聴覚教材を多く使い、スポーツの持つ迫力や多面性を認識してもらえたことが、高評価につながっていると考えている。

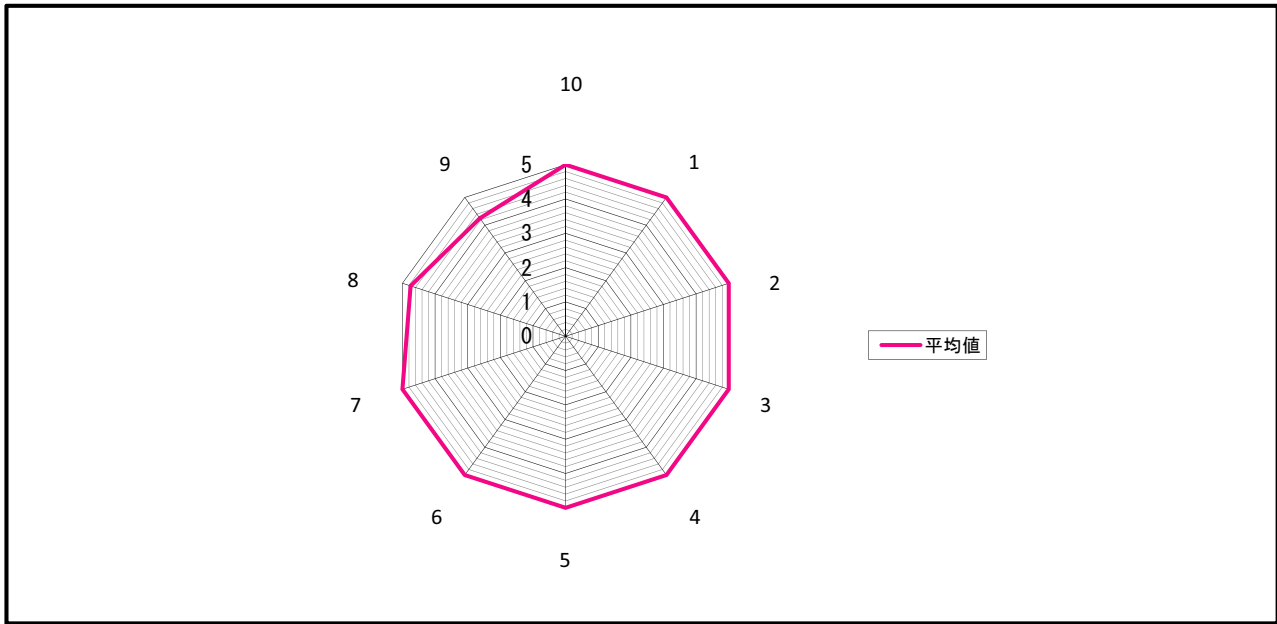
一方、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」において、昨年は評価が3.8で質問項目中最も低い値であったが、今年は評価4.4と向上している。また、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」においても、昨年は評価4.0であったが、今年は評価4.4となっており、昨年の反省が功を奏しているように思える。今後もさらに、教師の実践力を支える社会性や特異性を理解することを省察しつつ、よい授業展開が実践できるよう心がけていきたいと思う。

結果報告書

授業科目名 学校体育経営研究
 評価実施日 平成25年7月30日
 担当教員名 藤田 雅文

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1	1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3				1	5.0



教員のコメント

受講者自身の学習態度を問う項目9を除いた9項目の平均評価点は4.97であり、総合的には極めて高い評価を得たと考えている。来年度以降も同様の内容と方法で授業を進めていきたいと考えている。なお、良かった点について2名から以下の回答があった。

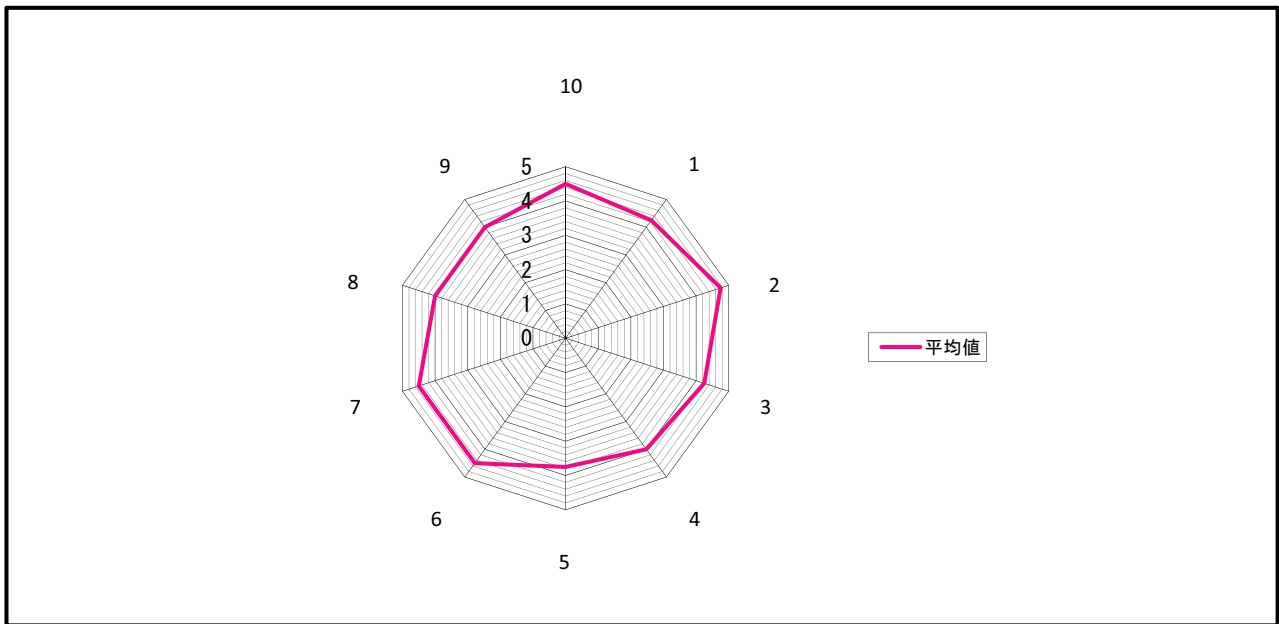
1. 少人数がよい。現職の先生に学校の実態を聞くことができてよかった、
2. 体育教員の実践的な行動、思考、判断が学べた、

結果報告書

授業科目名 運動学研究
 評価実施日 平成25年7月5日
 担当教員名 乾 信之

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1	1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1	1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	2	1			4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	2		1		3.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3		1			4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3		1			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	2	1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2	1			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	2				4.5



教員のコメント

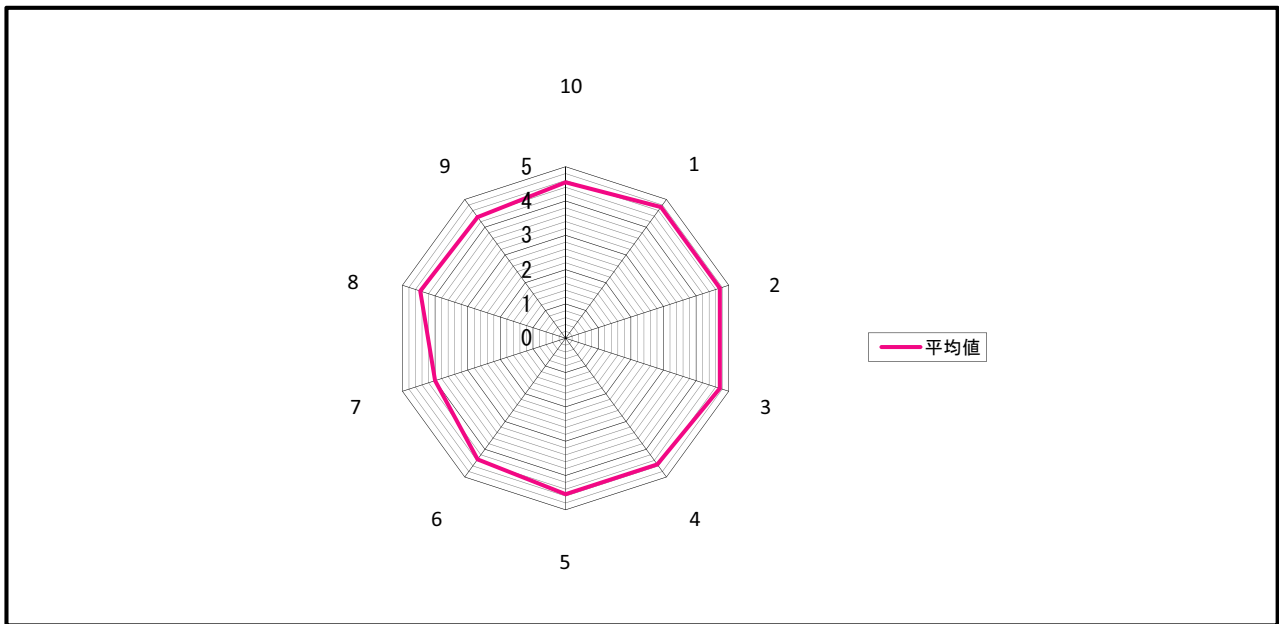
授業の内容について、「専門的知識を深めるのに役立つ内容」の項目が4.8である。それに対して、授業の進め方について、「授業の進む速度」の項目が3.8である。この結果から、受講生にとっては授業の進行が速すぎると感じたようであり、受講生の反応をみながら、授業内容の精選とその教授速度を調節しなければならない。

結果報告書

授業科目名 スポーツ・バイオメカニクス研究
 評価実施日 平成25年7月22日
 担当教員名 松井 敦典

回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	3				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	3				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	3				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	3	1			4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	3	1			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	3	2			4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	1	2	2		4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	4	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	5	1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	5				4.5



教員のコメント

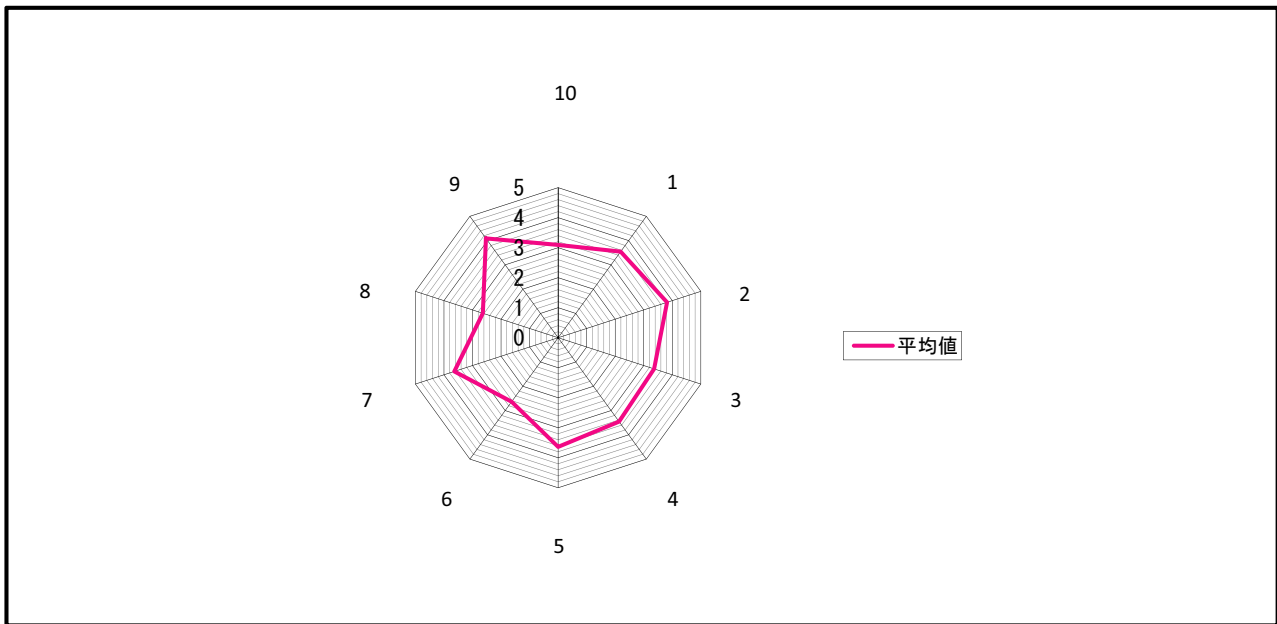
本年度の受講生は、例年見られるようなモチベーションの二極化傾向がさほど現れず、ほぼ全員が授業内容に関して積極的に学ぶ姿勢が見られた。しかし、授業時の応答や課題発表のできればは芳しく無く、専門科目としての内容まで到達することが困難であった。多くの受講生は専門のスポーツ種目を持ち、それに関する知識や経験は豊富に持っているものの、非専門の競技種目に関する知識経験は豊富とは言い難い。本授業によって身体運動の一般的・普遍的な見方や考え方を再確認し、全ての体育・スポーツ種目に対応・応用できるよう、授業の内容と方法を精査していきたい。

結果報告書

授業科目名 学校保健学研究
 評価実施日 平成25年7月9日
 担当教員名 吉本 佐雅子

回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。		8	1	2		3.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	6	2	1		3.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		6	3	2		3.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	5	1	2	1	3.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	2	1	1	2	3.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		4	3		4	2.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	6	3	1		3.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		4	3		4	2.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	8	1			4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	5	1	2	2	3.1



教員のコメント

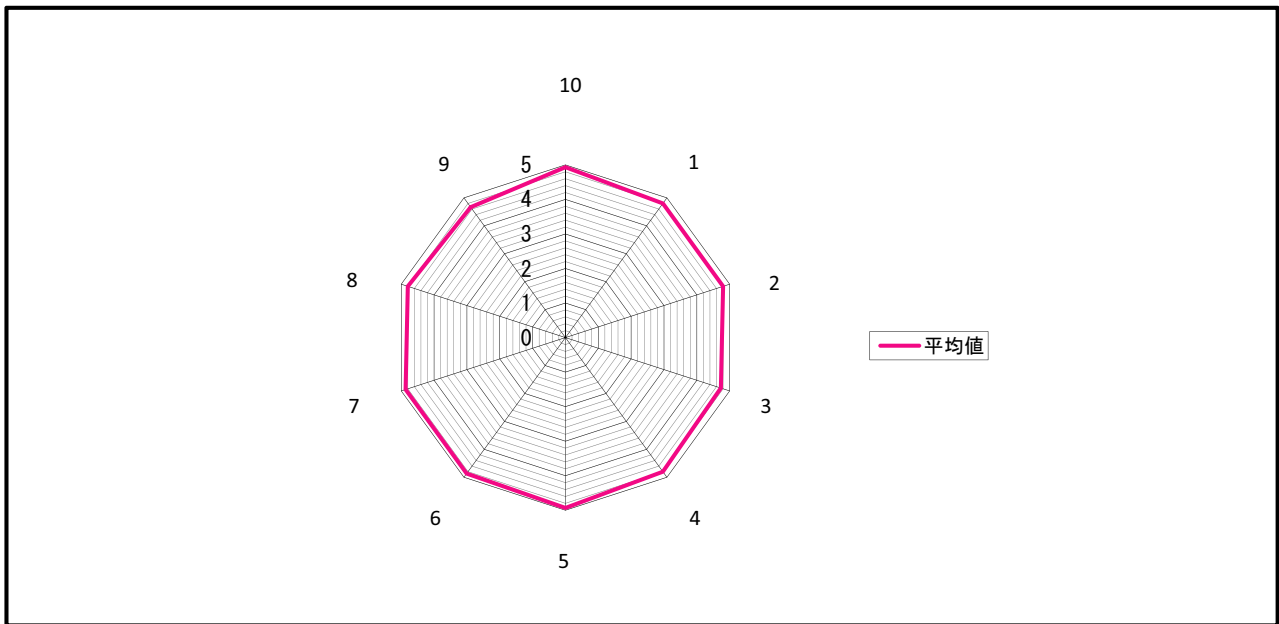
昨年度の本授業の評価より大幅に下がってしまった。今年度の受講者は学校保健をこれまで受けた事がない者と受けた事がある者が混在しており、この事を毎時間考慮しながら進めたので、返って混乱を招き、全体としてまとまりがなかった印象を与えてしまったと考える。来年度は受講者の背景を考慮しつつ両者に分かりやすい進め方に工夫をするつもりである。

結果報告書

授業科目名 健康科学研究
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 廣瀬 政雄

回答者数 15 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	13	1	1			4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	3				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	2	1			4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	12	3				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	14	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	14		1			4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	13	2				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	13	1	1			4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	3	1			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	14	1				4.9



教員のコメント

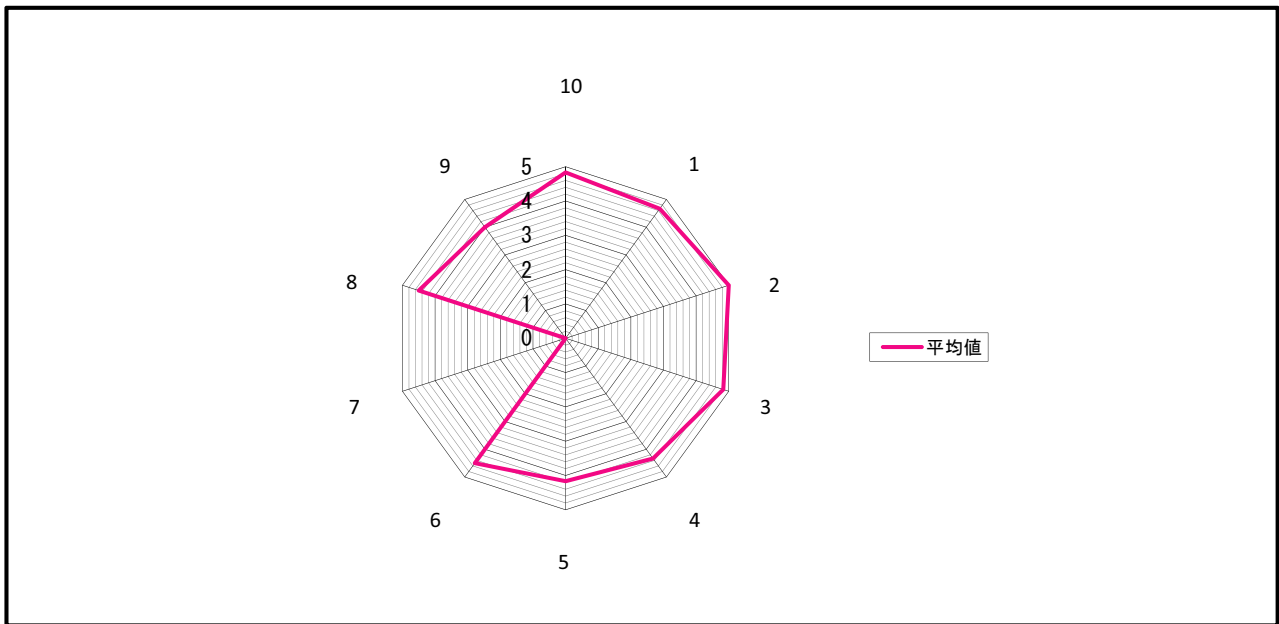
おおむね肯定的な評価であるが、授業内容(3)と授業への取り組み(9)において改善の余地を指摘する回答である。授業内容については、系統講義にならないように、子どもと大人の健康問題のうち話題の事柄や時事的な問題を取り上げたので、教師の実践力の育成と直結しない内容の授業もあったかもしれない。授業への取り組みの面は、医学的な内容で課題を課す意味はほとんどないと思われるので、仕方がない面もある。授業中に集中して、生きているしくみとそれが破たんした時の病的な状態を細胞レベルで感じられるようにしてもらえればよい。

結果報告書

授業科目名 運動生理学研究
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 田中 弘之

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	4				4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	5				4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	3				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。						
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	3				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3		1		4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1				4.8



教員のコメント

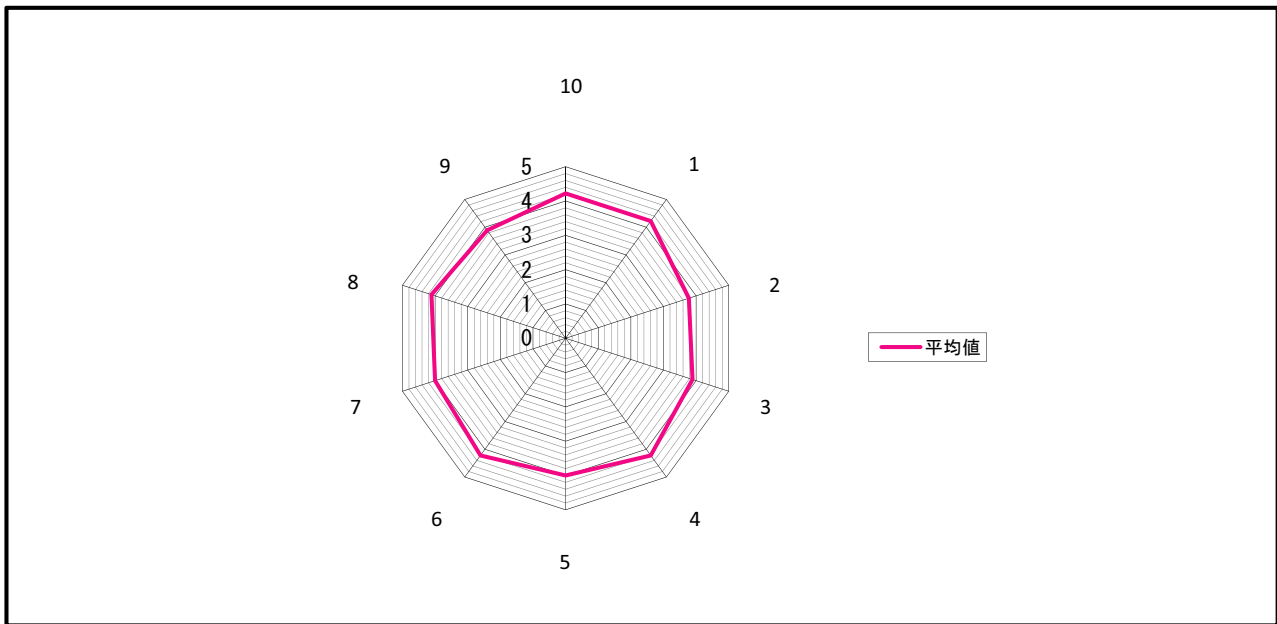
評価の平均値は4.5であり、総合評価においても4.8と判断されていることから、所期の講義目的は概ね達成されたと考えられる。
 『授業に主体的・積極的に取り組んだ。』について、1名のみ『2』の評価があり、その自由記述欄には、『分からない事を、つきつめず、そのままだったらとうけてしまいました。』とのコメントが記されていた。他専攻の大学院生に対する講義内容の精選には、限界を感じつつも、さらなる創意工夫に努めたい。
 また、その他の自由記述欄の概観では、『たいへん勉強になりました。ありがとうございました。』『現場に出てからも使えると思った。』『運動生理学の難しさ、奥深さ、おもしろさを知ることができました。ありがとうございました。』等、概ね好評であった。
 改善すべき点としては、『進むペースが早かった。でも良かった。』との記載のみであった。講義の進捗については、例年、指摘を受け続けている事項であり、効率的な授業展開に関しては、今後も継続して検討を重ねたい。

結果報告書

授業科目名 体育教授学研究
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 綿引 勝美

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	3	2			4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1	5			3.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2	4			3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	3	2			4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	3	3			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1	3			4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1	4			4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	4	2			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2	4			3.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	3	2			4.2



教員のコメント

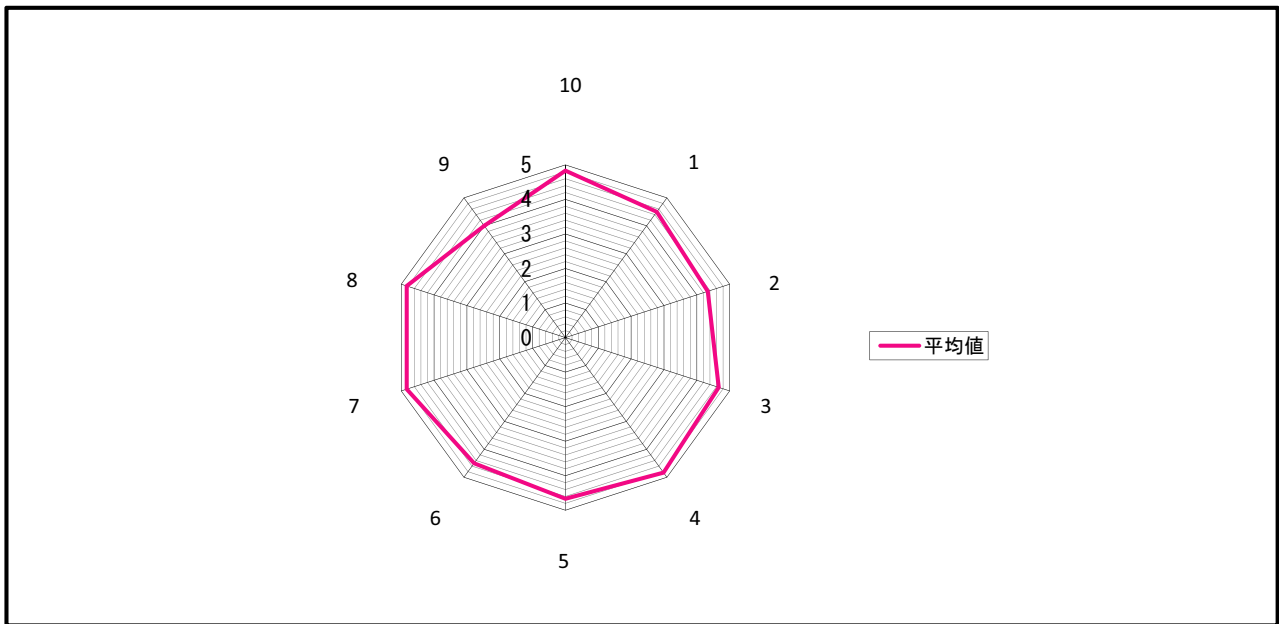
専門的な知識、並びに実践力に関わる評価が3.8, 3.9となっており、本授業の改善点が明確になった。体育の指導上重要な、生徒の運動動作の観察力をみにつけるという意味で、観察内容の記述、記述内容の相互比較などの、作業課題を提示することによって、教科書でまなんだ動作メルクマールについての知識の運用に関わるスキルをみにつけるための工夫が必要であることがわかった。次年度からの授業内容に加えていきたい。

結果報告書

授業科目名 情報処理研究
 評価実施日 平成25年7月23日
 担当教員名 菊地 章

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	3				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2	1			4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5		1			4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5			1		4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2	2			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1				4.8



教員のコメント

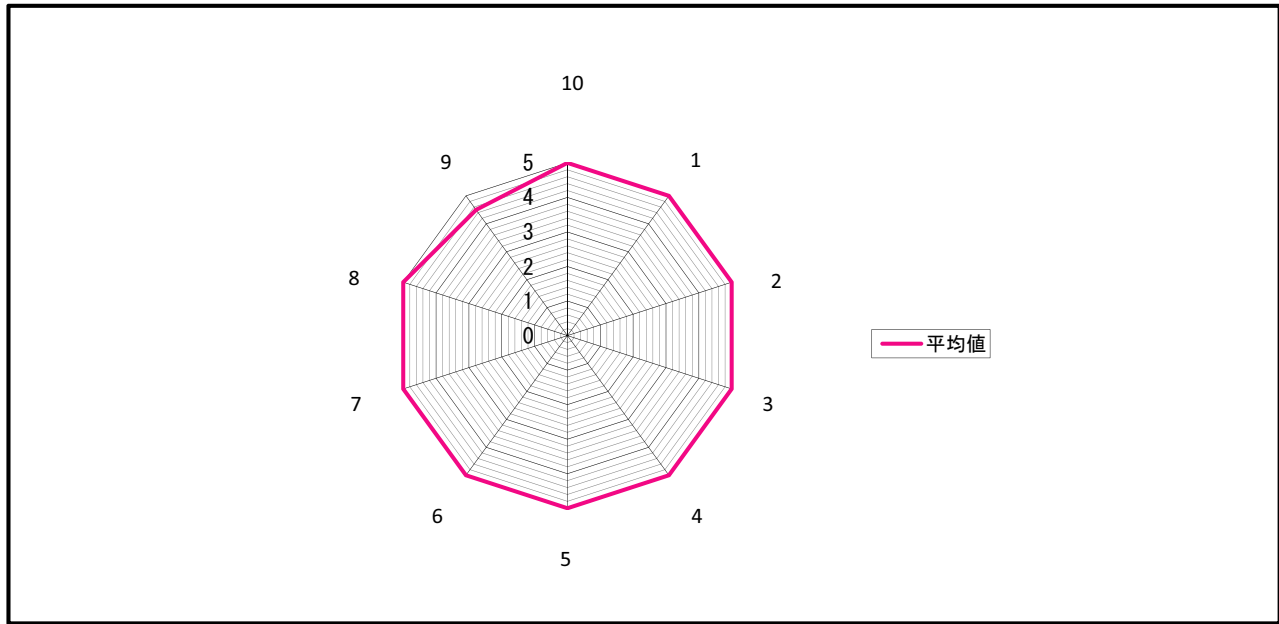
今年度の受講者は例年と同程度であったが、受講者自体が前向きであり、教員との意見交換がスムーズに行った。なお、一人の受講者は留学生であったために、「(5)授業の進む速さは、適切であった。」や「(6)受講生に分かりやすく説明した。」の評価が低いことを考えると、辞書を引きながら聞いていることは意識していたが、少し話すスピードが速すぎたかもしれない。今後改善したい。

結果報告書

授業科目名 コンピュータ科学研究
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 宮本 賢治

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

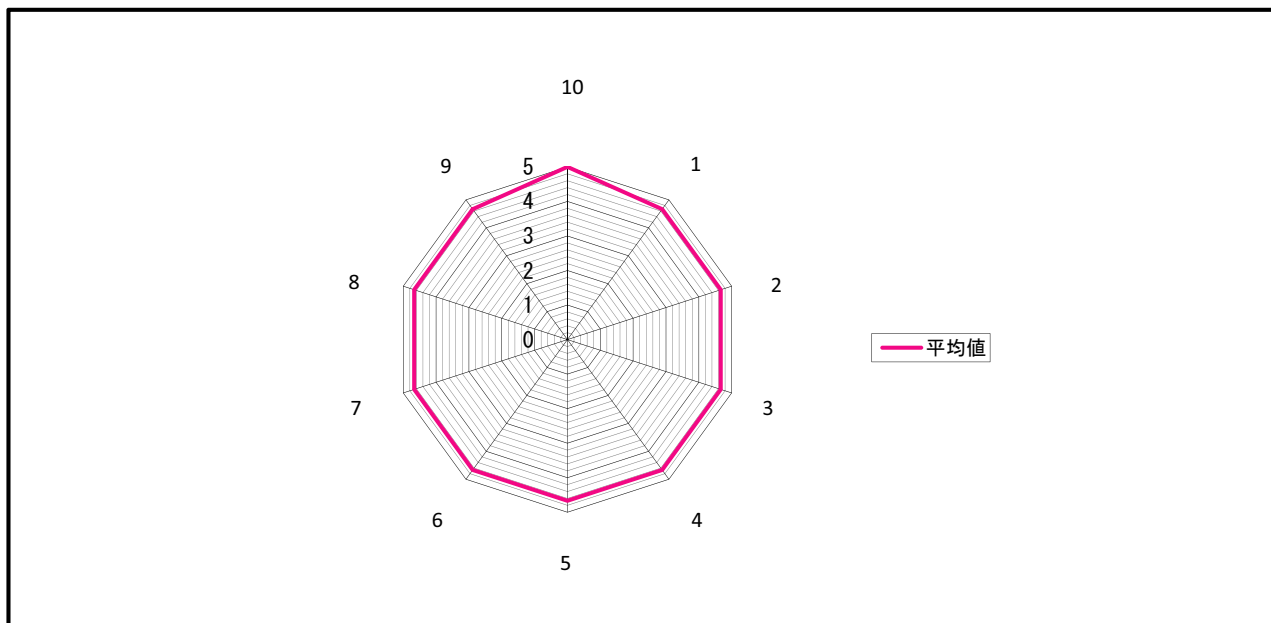
人数が2人で統計的には不十分であるが、質問項目で1項目を除いて5.0という高評価が得られて満足できる結果となった。今後も授業内容や教材の一層の工夫・改善を図りたいと思う。

結果報告書

授業科目名 機械工学研究
 評価実施日 平成25年7月30日
 担当教員名 宮下 晃一

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2				1	5.0



教員のコメント

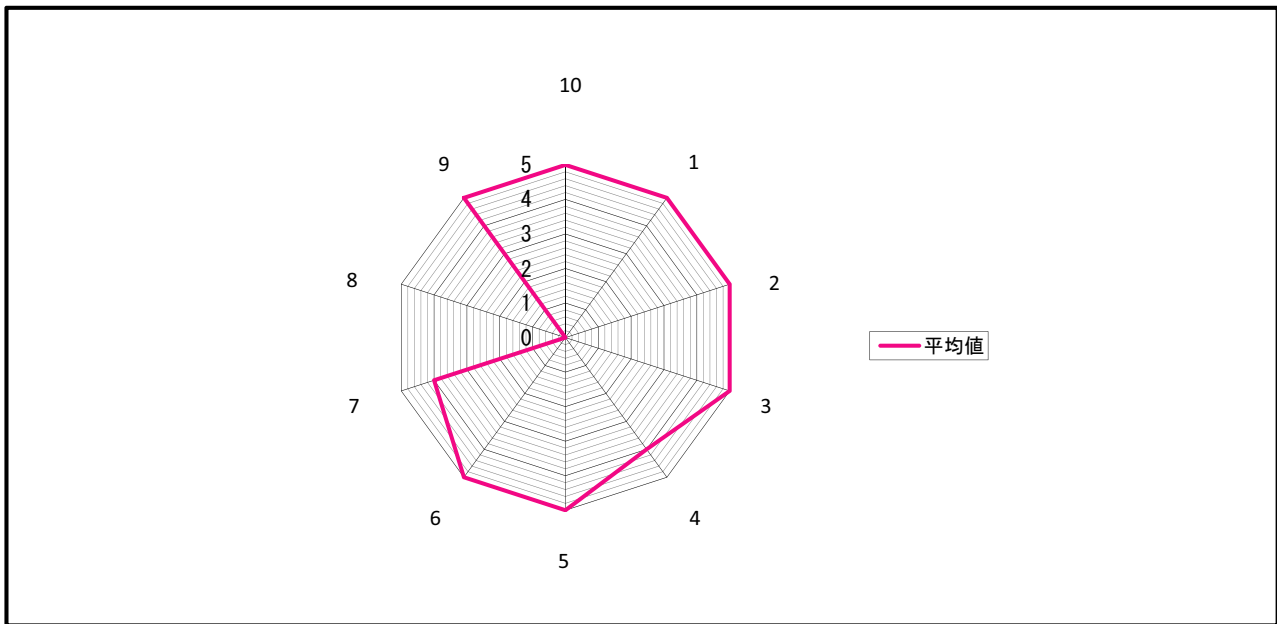
3D-CADを用いた授業内容であり、現在将来ともに重要になる技術に触れられたことが評価されたものと思われる。教員の立場から心残りだった点は、使用したフリーソフトが高性能なPCでなければ作動せず、受講生が所有するノートPCでは使えない点である。現在、他のソフトの使用についても検討中である。

結果報告書

授業科目名 材料及び加工学演習
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 米延 仁志

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		2				4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。		2				4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

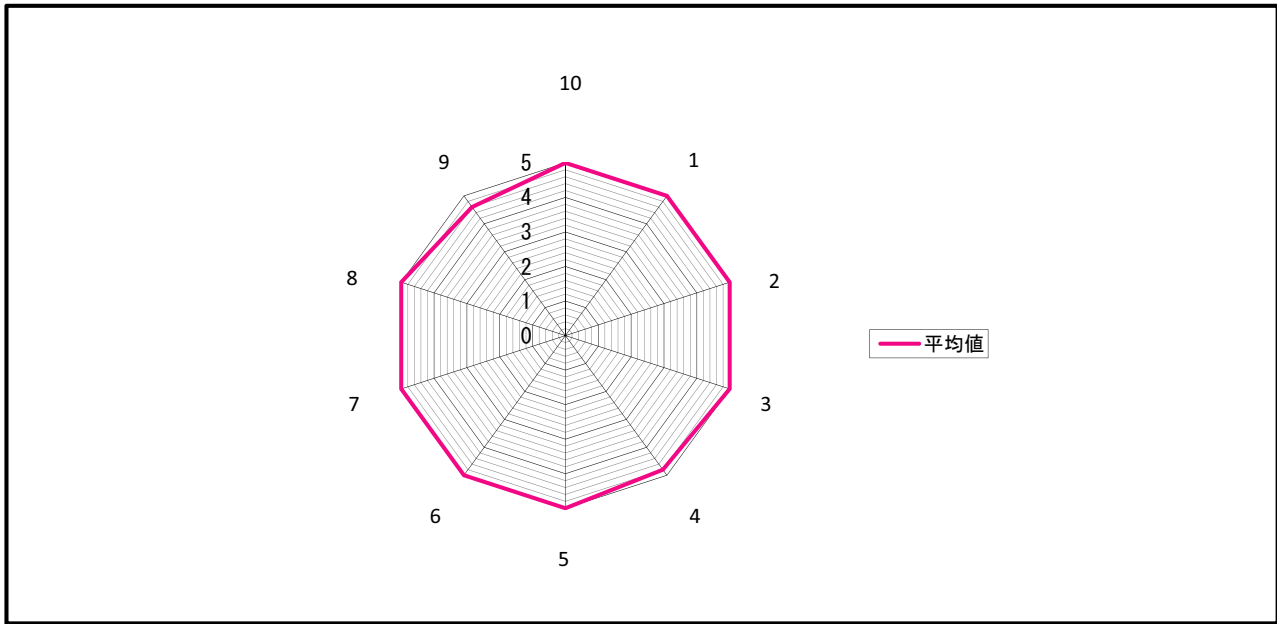
総合評価は受講者全員5ポイントと回答しており、概ね高い評価を受けることができたと考えられる。

結果報告書

授業科目名 情報科学研究
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 伊藤 陽介

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



教員のコメント

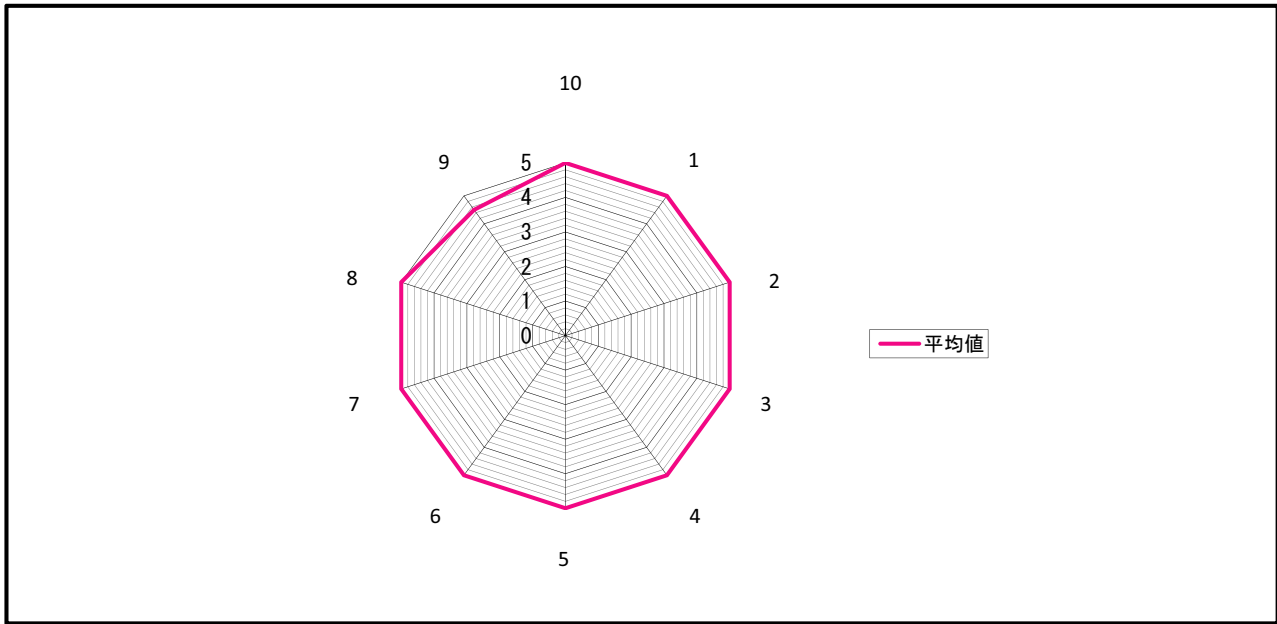
授業内容に関する各評価、受講生のコメント、総合評価等から、概ね本授業は満足されているのではないかと推測される。しかし、受講生とのディスカッションの時間を増やしたり、情報科学に関する新しい内容を追加したりする改善は必要である。

結果報告書

授業科目名 信号情報処理研究
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 菊地 章

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

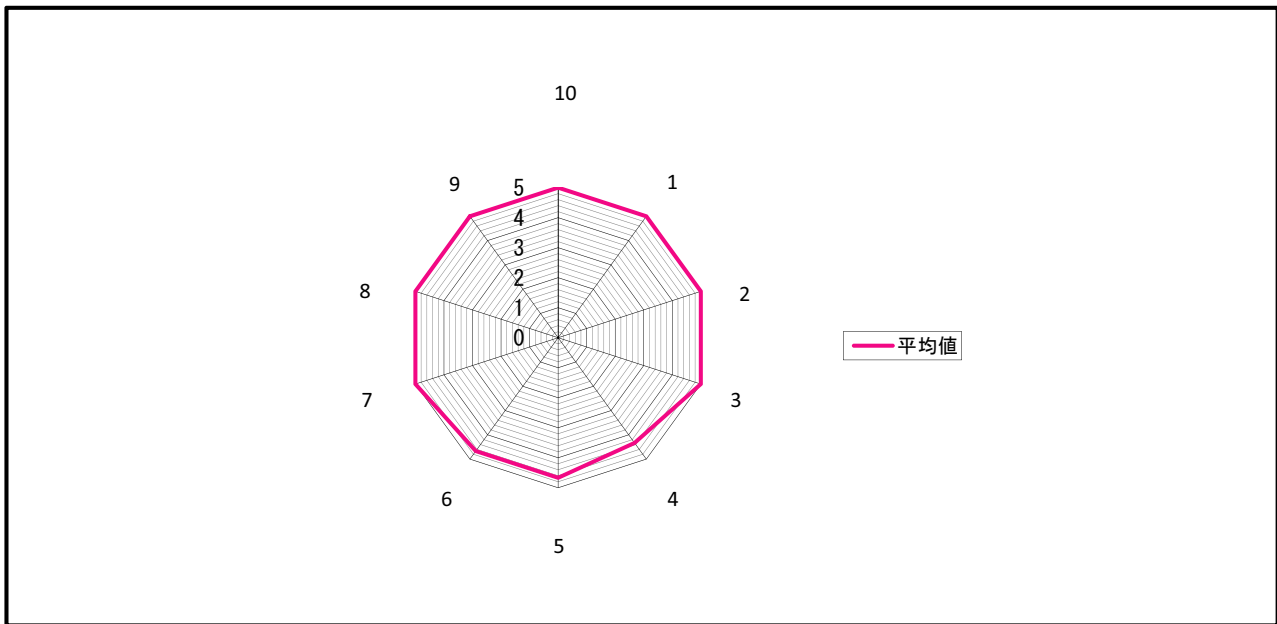
今年度の受講者は2名であったため、順調に授業を進めることができた。授業内容についても受講者の要望を多々取り入れることができ、概ね教員・学生とも満足できる授業であったと評価できる。

結果報告書

授業科目名 計算力学研究
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 畑中 伸夫

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	2				4.3
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



教員のコメント

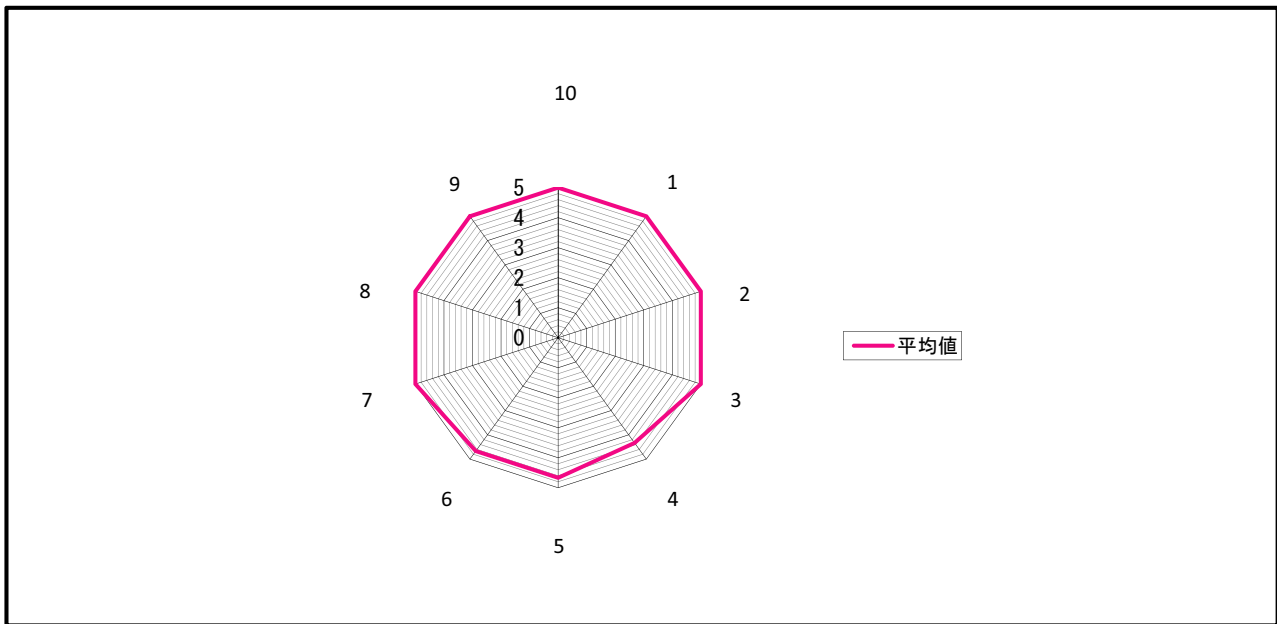
全般的に学生は授業に満足してくれたと思います。受講生3名の実力に合わせて、授業を展開し、発問や質問を大切にしながら進めてきました。評価基準が曖昧であったように学生にはとられています。少数で実力差もあり、個々の学生に与える課題の難易差も異なるため、明確な判断基準が示せなかったことが原因だと考えます。画一的な授業や課題を与え、点数だけで評価するならば明確な基準は示すことができますが、このような形式で進める限り宿命的な問題であると考えます。

結果報告書

授業科目名 計算力学演習
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 畑中 伸夫

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	2				4.3
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



教員のコメント

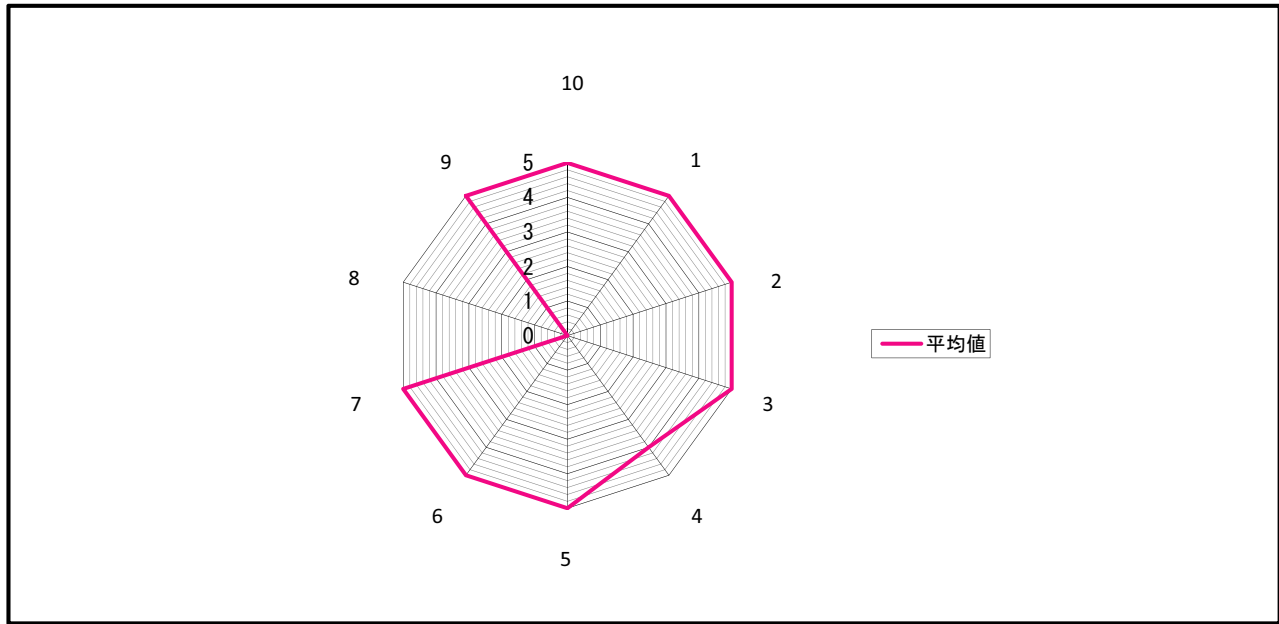
全般的に学生は授業に満足してくれたと思います。受講生3名の実力に合わせて、授業を展開し、発問や質問を大切にしながら進めてきました。評価基準が曖昧であったように学生にはとられています。少数で実力差もあり、個々の学生に与える課題の難易差も異なるため、明確な判断基準が示せなかったことが原因だと考えます。画一的な授業や課題を与え、点数だけで評価するならば明確な基準は示すことができますが、このような形式で進める限り宿命的な問題であると考えます。

結果報告書

授業科目名 木質材料加工法演習
 評価実施日 平成25年7月26日
 担当教員名 米延 仁志, 尾崎 士郎

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		1				4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



教員のコメント

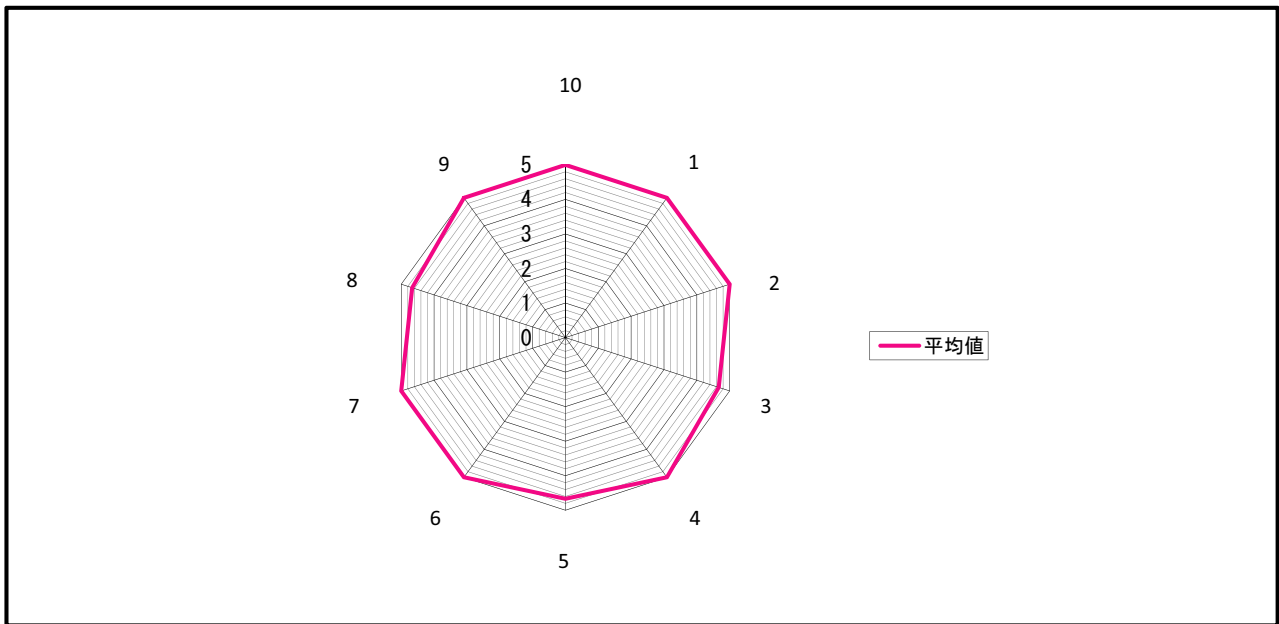
受講者は、総合評価で5ポイントと回答しており、高い評価を受けることができたと考えられる。

結果報告書

授業科目名 技術科教育研究
 評価実施日 平成25年7月30日
 担当教員名 尾崎 士郎, 宮下 晃一

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



教員のコメント

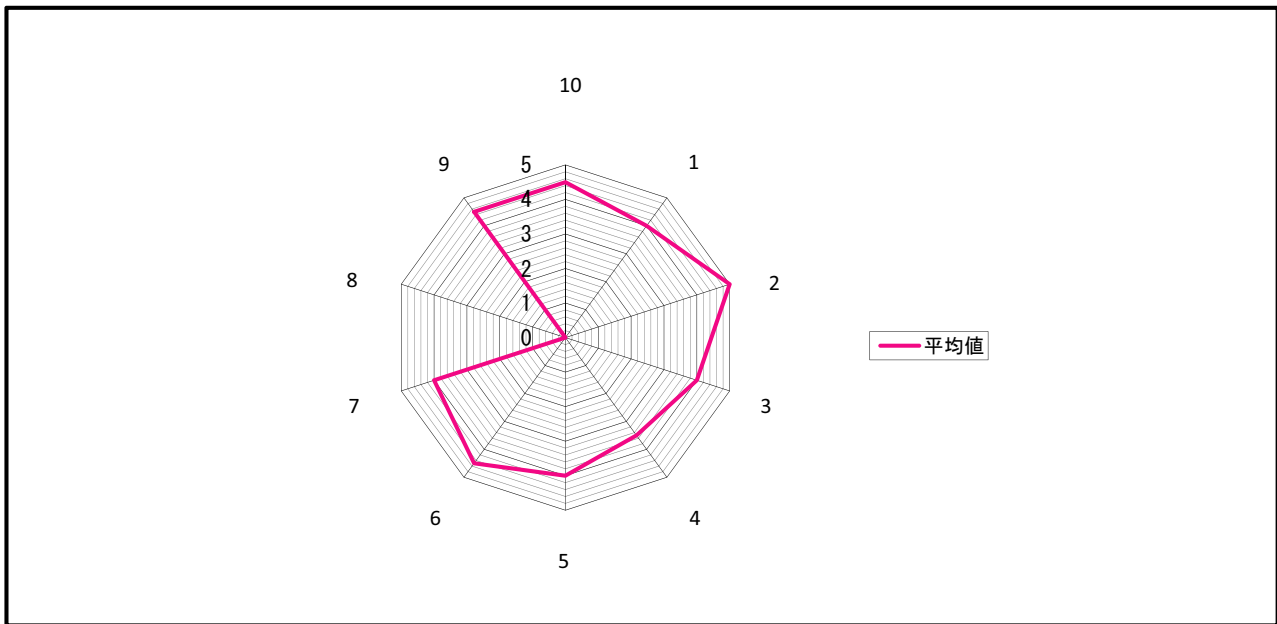
少人数教育とは言え、想定外の高い評価(総合評価5.0ほか)であった。シラバスで公開している内容において研究事例の説明を、当方が一方的に行うのではなく、できるだけ受講者による研究論文の輪読と発表形式を多く取り入れて実施した。特に、技術的教育の方法、研究方法で紹介されている多変量解析等を含む統計学、あるいは教材開発に含まれる技術や工学的な手法等があれば、受講者の研究遂行に必要な観点からディスカッション形式も取り入れて概要を解説した。講義・演習の予習と準備を考えると負担が大きかったはずであるが、講義・演習の方法や内容等と受講者の興味関心との相性が良かったことも考えられよう。今後の授業改善の参考にしたい。

結果報告書

授業科目名 家族・ジェンダー研究
 評価実施日 平成25年7月25日
 担当教員名 黒川 衣代

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。		2				4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		1	1			3.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。		2				4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。		2				4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1				4.5



教員のコメント

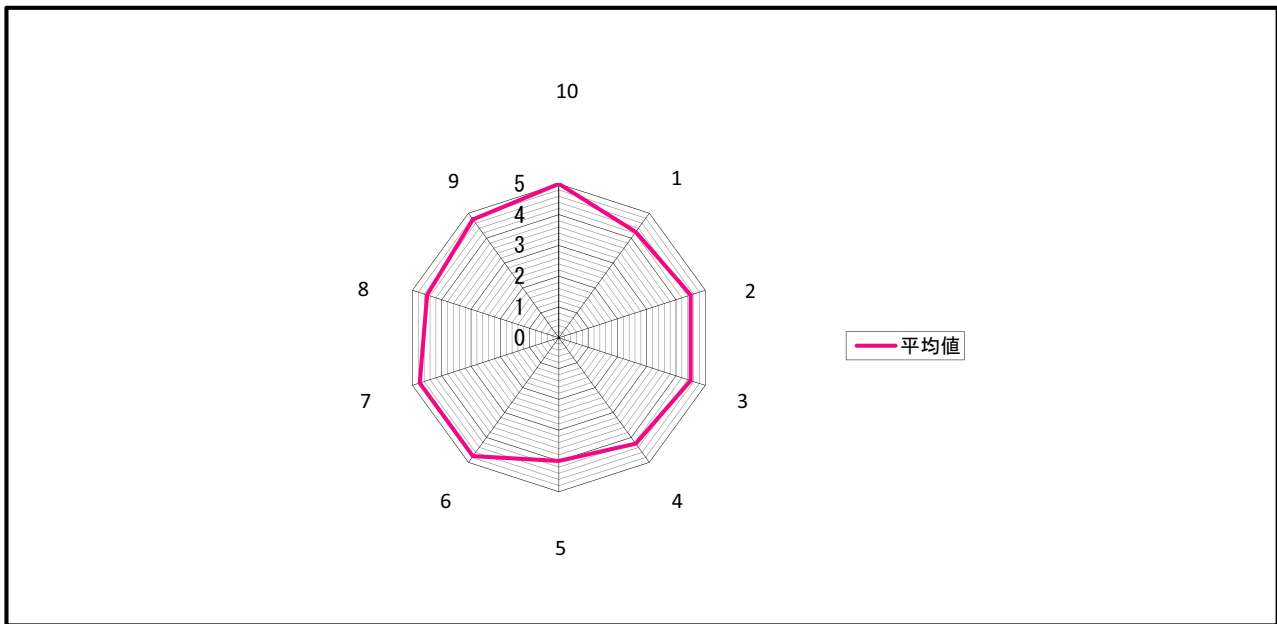
受講者は2名であったが、実際は教員研修留学生1名が授業に加わっていたので3名であった。英語での説明を交えての授業であったため、いくぶん時間不足になり、ディスカッションを十分に深められないことがあった。しかし、自由記述に「授業の雰囲気が良く、疑問に思ったことを質問しやすかった」とある通り、学生は積極的に質問をして専門知識を深め、また、留学生の出身国の家族や男女のあり方について、直に学ぶことができた。授業は発表形式で行ったので、少ない人数での受講は負担になったかもしれないが、受講生は良く頑張った。成績評価の方法については、明確に説明しているつもりであるが、こちらの意図するように伝わっていない可能性があるため、説明方法や時期を再検討したい。

結果報告書

授業科目名 衣生活学研究
 評価実施日 平成25年7月30日
 担当教員名 福井 典代

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	3				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	3				4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	2	1			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



教員のコメント

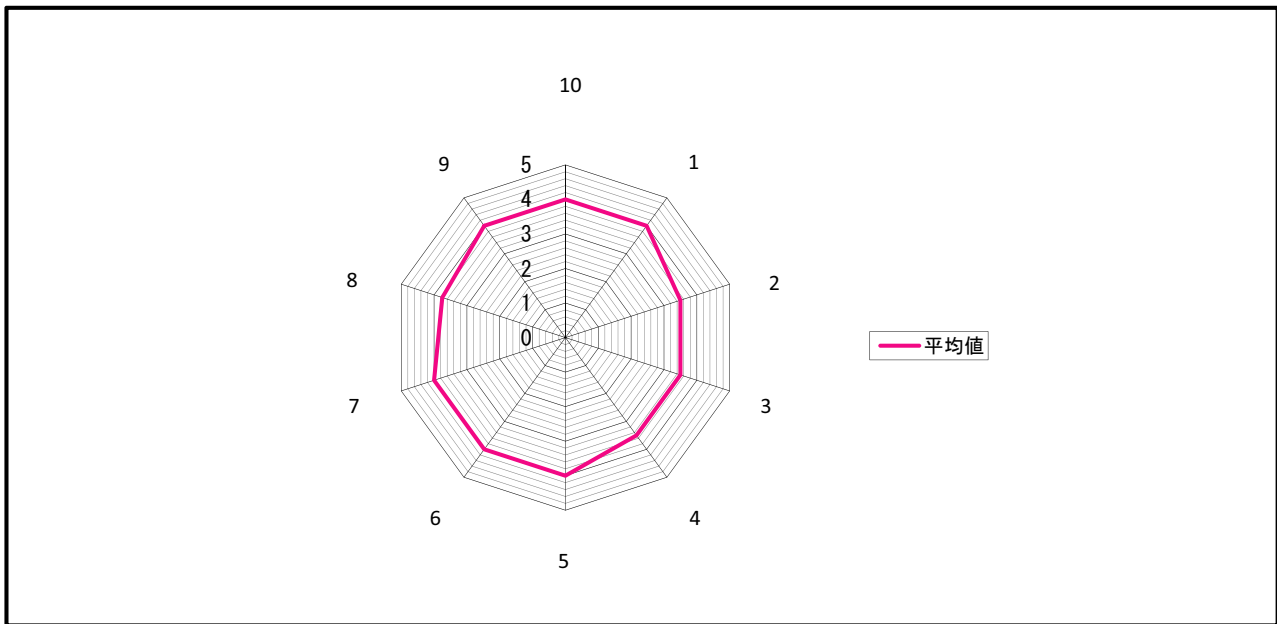
この授業では、衣生活に関する基本的な知識を学習するとともに、実験や実習を授業の中に取り入れて、授業内容をより具体的にわかりやすく説明した。その結果、すべての質問項目について、4以上の評価を得た。(5)「授業の進む速さ」では、他の項目と比較して評価のばらつきがみられ、来年度以降の授業において改善したい。(10)「総合評価」において受講者全員からよかったという5の評価が得られた。学生の自由記述のよかったこととして、「石けん作りや浴衣の着付けなど、実験を通して自分ですることでよくわかった。」、「いろいろなものを作ったり、実験できた。」、「最初に座学で知識を深めてから実習に入るの、理解しやすかった。」、「布の特徴や石けんについて学ぶことができた。どれも生活に必要な内容であった。」という、教員が意図した好意的な意見が出た。改善すべき点については記述されていなかった。「授業に主体的・積極的に取り組んだ。」についての理由は、「生活に身近な内容であったので、取り組みやすかった。」、「毎回出席し、積極的に準備などした。」、「授業をほとんど休まず関心を持って取り組んだ。」、「実習形式で実際に活動する場面が多かったの、主体的に活動しやすかった。」という理由であった。感想については、「楽しいだけでなく、実践することにより、よくわかりました。」、「楽しく授業を受けることができました。」と記述されており、授業内容について概ね好評であった。

結果報告書

授業科目名 食生活学研究
 評価実施日 平成25年8月5日
 担当教員名 松永 哲郎, 西川 和孝

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2		2			4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		2	2			3.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2	2			3.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		2	2			3.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	2	1			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	2	1			4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	2	1			4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		3	1			3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2	1			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	2	1			4.0



教員のコメント

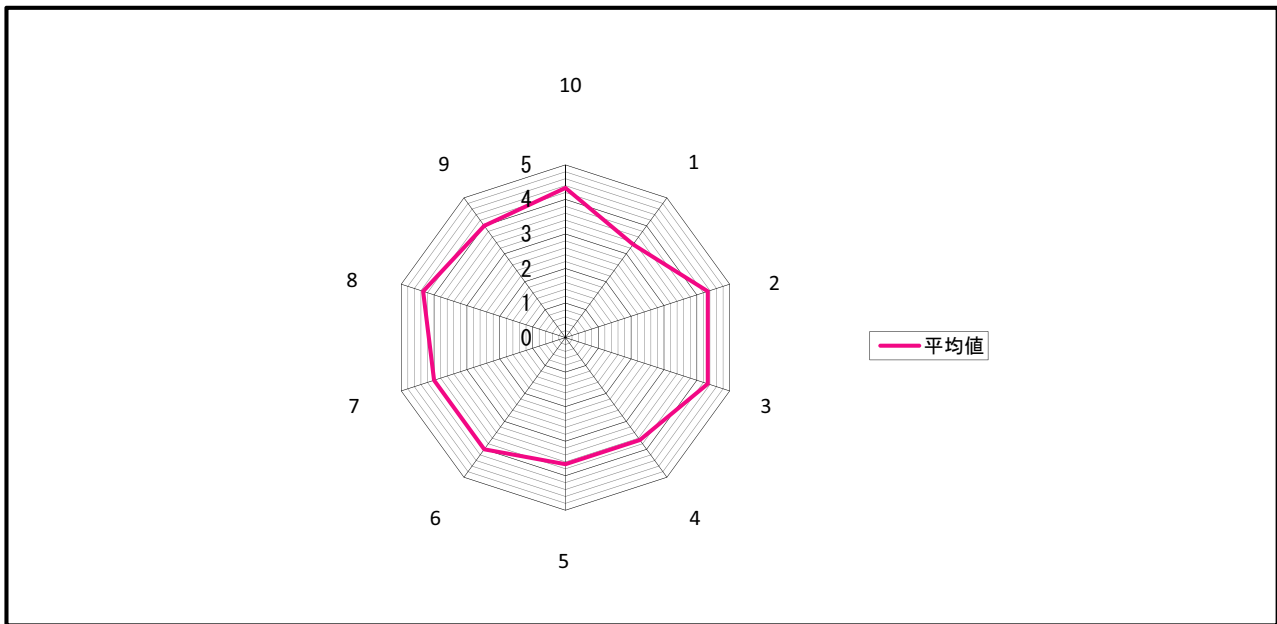
受講生の4名は1名が本学出身者、3名が他大学出身であった。他大学からの3名は管理栄養士養成校の出身であり、管理栄養士を取得している学生であった。この授業の基礎となる栄養学、食品学および調理学をある程度学んだ学生であったため、すこし高度な授業内容や実験等を取り入れ、授業をすすめた。授業担当者としては授業時間内に講義内容をどこに焦点をあわせるかが難しい点があったが、「授業内容について」「教員の授業の進め方」の評価は概ね良かった。一方、受講者による「あなたの授業への取り組みについて」も良く、積極的に授業を受けているように思われた。オムニバスのための授業評価は、それぞれの教員が行い、課題の発表形式と筆記試験の両方で行った。簡単な実験や実習も取り入れて授業をすすめたため、自由記述でその点の評価があった。

結果報告書

授業科目名 住生活学研究
 評価実施日 平成25年7月29日
 担当教員名 金 貞均

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。		1	2			3.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2		1			4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2		1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		2	1			3.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。		2	1			3.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1	1			4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1	1			4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2		1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1	1			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2		1			4.3



教員のコメント

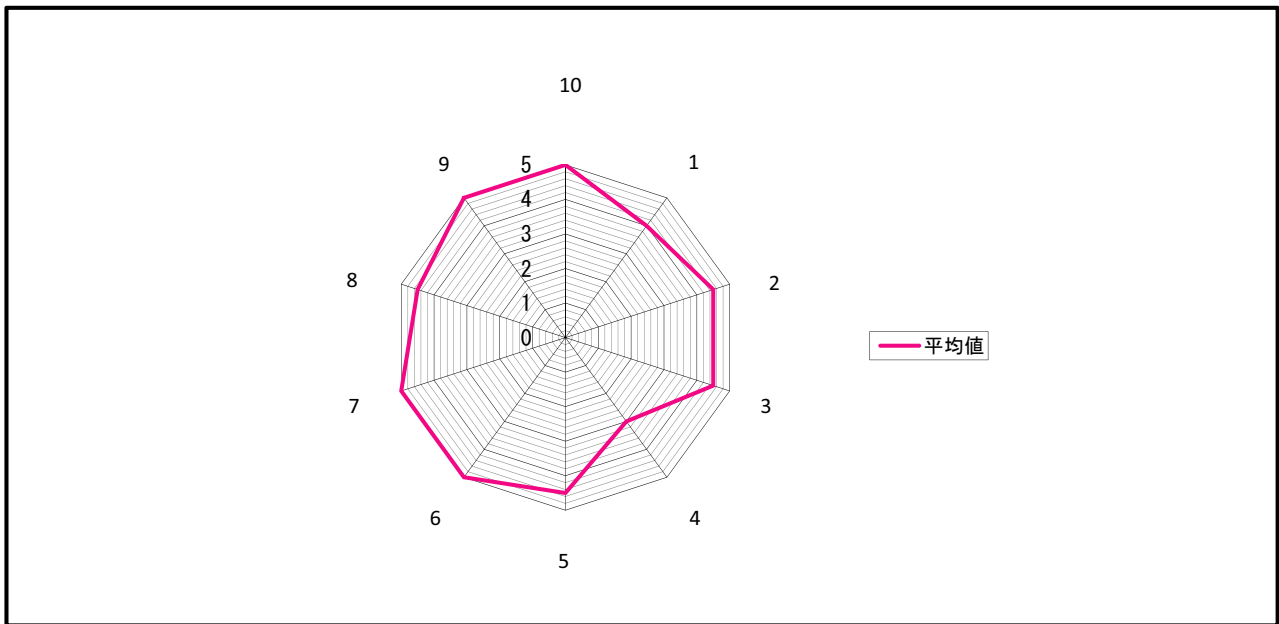
本授業に対する総合評価は4.3ポイントである。質問(1)「授業概要は、この授業を適切に表現していた。」に対しては、毎年受講生の状況に応じて授業内容を前後させたり変えたりするので、提示した授業概要とずれが生じることがある。ただ、この点に対する説明が受講生に十分伝わっていないようで、来年度の参考にしたい。「授業内容」と「授業への取り組みについての自己評価」に対しては肯定的評価をしていた。[2]この授業でよかったと思われる点についての自由記述では、「実践的な活動が取り入れられていた。」「学校種に合わせた教材を示し、実際にその教材を使用した点」「学生主体の授業構成であった。」という意見が書かれていた。なお、[3]この授業で改善すべき点についての記述はなかった。[4]質問(9)「授業に主体的・積極的に取り組んだ。」について、あなたが回答を選択した理由についての事由記述では、「レポートや教材の作業に積極的に取り組んだ。」「住居に関する専門的な知識を身につけたいという気持ちがあったから」(以上評価番号④⑤を選んだ受講生)、「きちんと資料を読み取ることができていなかった。」(以上評価番号③を選んだ受講生)という意見があった。[5]その他の意見として、「学部の講義よりも専門性が上がり、興味深い15回だった。」という意見があった。今回の受講生はみな教員を目指しており、専門知識だけでなく、多くの実践教材を示し、学校現場での実践を想定した授業を意識して行った。ただ今回のアンケートを通して、受講生が授業での配布資料を読み、十分理解できるよう、丁寧に進めていく必要性も感じた。今後の課題としたい。

結果報告書

授業科目名 家庭科教育学研究
 評価実施日 平成25年7月11日
 担当教員名 速水 多佳子

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。		2				4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。			2			3.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



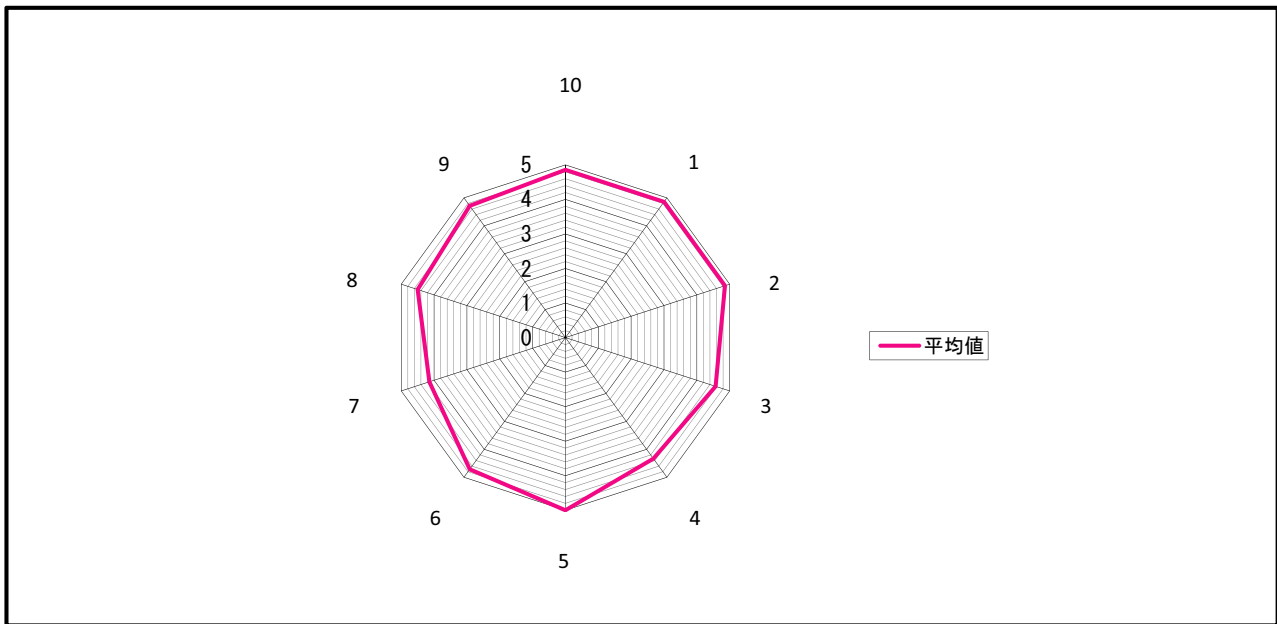
教員のコメント

受講生が2名と少なかったため、大学院修了後の進路希望(高等学校教員、中学校教員)に合わせて、学校現場で生かせるような内容として、家庭科の授業で活用できる教材についてを取り上げた。受講後のアンケートには、良かった点として「様々な教材を知ったり、触れたりすることができた。」「中学・高校で使用できる教材を知ることができた。」と記載されていた。また、「様々なものが教材になることを知り、どの教材をどのように使用するかを考えることができた。」「授業に興味・関心をもたせることや授業の効率を上げることのできる教材の工夫の大切さを学ぶことができて良かった。」などの記述から、単なる教材の種類を知るだけではなく、家庭科の教科の特性を踏まえた上での教材の扱い方についても学ぶことができたようであり、今後、教員として学校現場で意欲的に取り組むことが期待できそうである。「(4)成績評価の方法の説明は、適切であった」の項目が3.0と平均値が低い。これは、少人数の授業ということもあり、きちんとした説明を最初に行わなかったためと思われる。今後は、人数にかかわらず、明確に提示するようにしたい。

結果報告書

授業科目名 国際教育人間論
 評価実施日 平成25年7月19日
 担当教員名 近森 憲助, 石村 雅雄, 小澤 大成, 石坂 広樹 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1	1			4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5				1	4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	2				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	2			1	4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1				4.9



教員のコメント

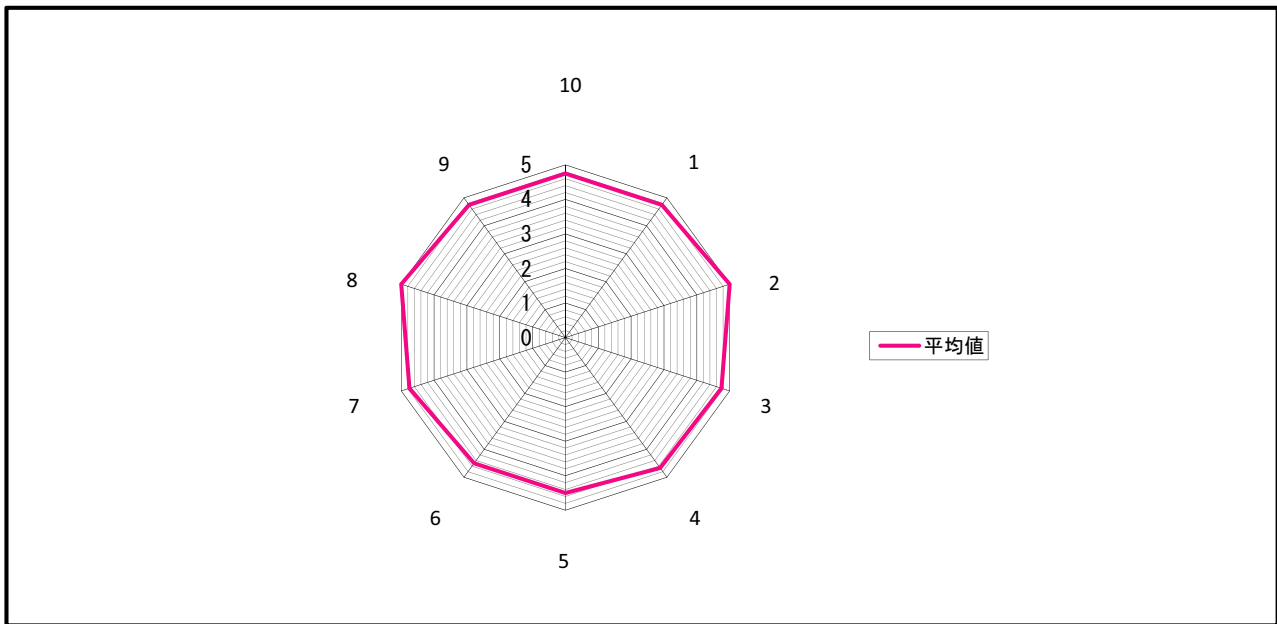
受講生の総合評価はかなり高い(4.9)が、質問項目4(成績評価方法の説明)及び7(資料の適切性)に低い評価(1:「そう思わない」)を与えた受講生が1名いた。ただ、このような低い評価を与えた理由についての記述は認められず、「理由については不明である。今後担当者間で協議・検討し、来年度において対処したい。

結果報告書

授業科目名 教育研究・調査
 評価実施日 平成25年7月26日
 担当教員名 石坂 広樹, 小澤 大成

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1			1	4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3		1			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3		1			4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



教員のコメント

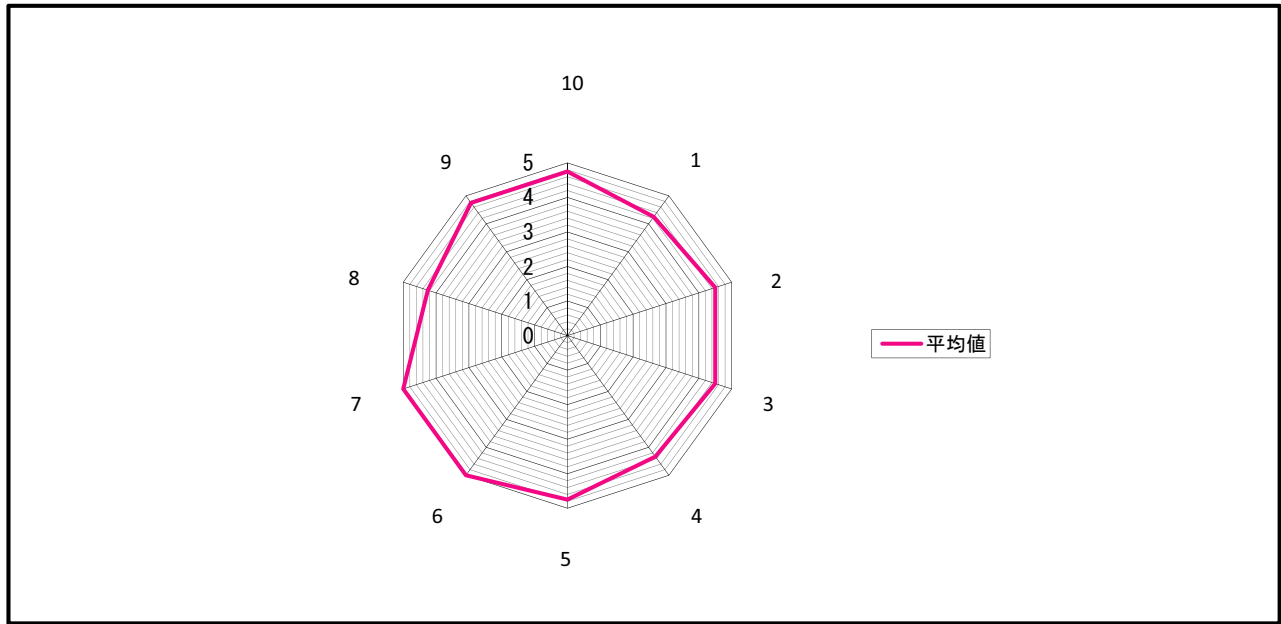
今回はすべて日本人学生であったが、授業はすべて英語で行った。統計学的手法は英語で学習することで学術論文などでのように使用されているかをすぐに理解できることから、あえて英語で授業を行った。昨年度と比較し、英語での授業ということで多少困難を伴ったものと思われる。今後より分かりやすい説明について吟味していきたい。

結果報告書

授業科目名 外国語運用能力強化演習 I
 評価実施日 平成25年7月26日
 担当教員名 石村 雅雄, 石坂 広樹

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1	1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3		1			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3		1			4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	2			1	4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



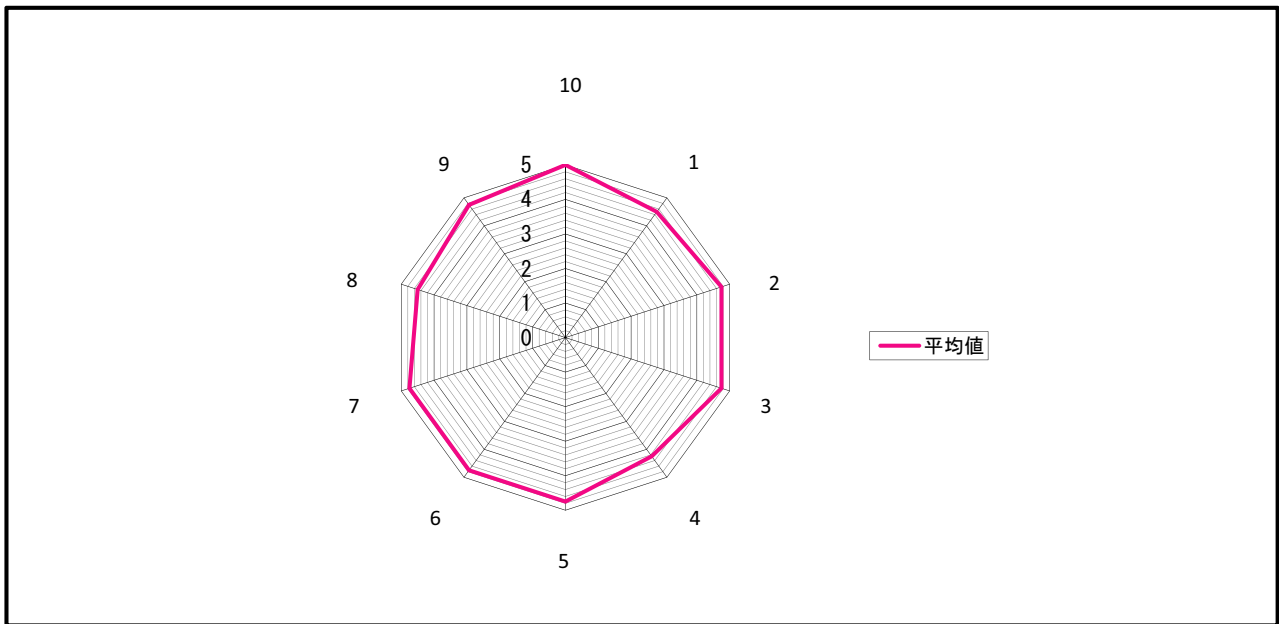
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 国際理解教育特論 I
 評価実施日 平成25年7月22日
 担当教員名 近森 憲助, 小澤 大成

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	2				4.5
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3			1		4.3
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



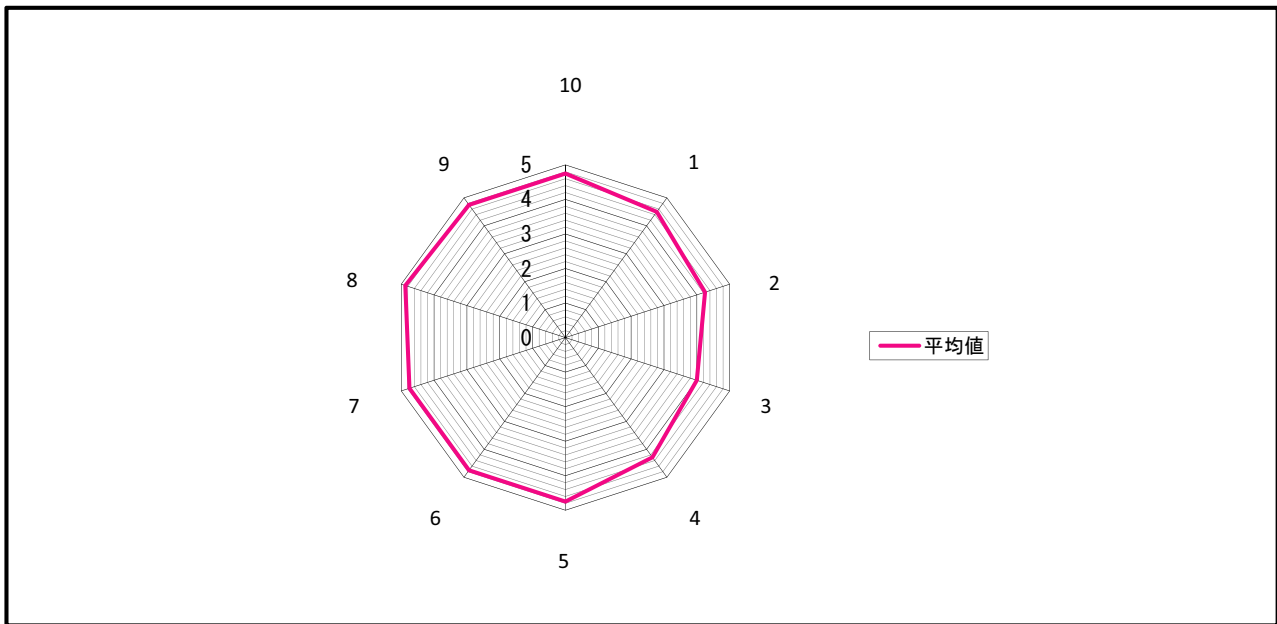
教員のコメント

総合的な評価は5.0で高い。これは教科との関連を重視した国際理解教育及び異文化体験における学びについて、それぞれ論文を紹介し、さらに論文の書き方についても解説を加えたことによるものと思われる。ただ、質問項目4に対して低い評価(「2. あまりそう思わない」)を与えた受講生が1名見られた。ただ、その具体的な理由についての記述は認められない。来年度は、成績評価について、丁寧に説明することにした。

結果報告書

授業科目名 国際教育総合セミナー 1
 評価実施日 平成25年7月30日
 担当教員名 近森 憲助, 石村 雅雄, 小澤 大成, 石坂 広樹 回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6		2			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	6				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	4	2			4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	5			1	4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	2				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	2				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	2				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7		1			4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	2				4.8



教員のコメント

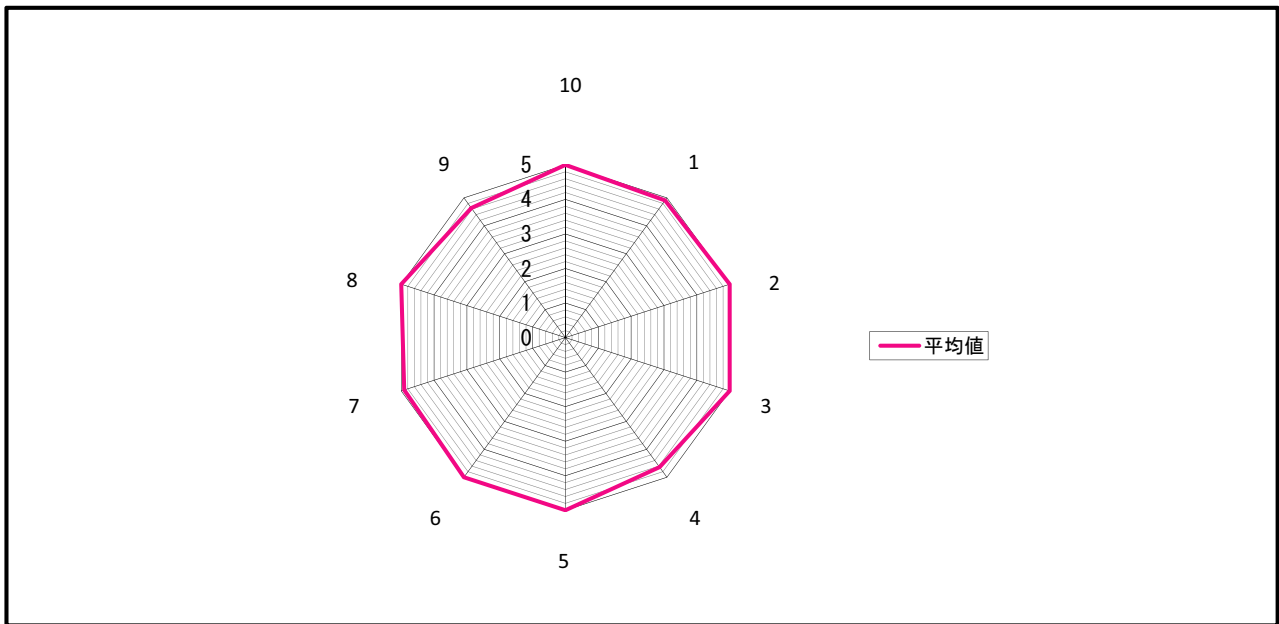
総合評価は4.8と高いが、成績評価の方法に関する説明が不適切であると指摘する受講生が1名認められた。この点については担当者間で協議・検討し、今後の改善を期したい。

結果報告書

授業科目名 社会言語学演習
 評価実施日 平成25年8月10日
 担当教員名 永田 良太

回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9		2			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	11					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11					5.0
	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	4				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11					5.0



教員のコメント

本授業は、「バリエーション」「会話の仕組み」「言語意識」「言語政策」という観点から、普段無意識に使用している日本語について意識化するとともに、日本語教師として必要な社会言語学的知識を身につけることを目標とした。このような授業目標を達成する上で、日本語教育を専門とする日本語教育分野の学生の積極的な授業参加に加えて、留学生や他コースの学生からも積極的な発言を得たことは有意義であった。他の言語と比較することで、日本語の社会言語学的特徴が明らかになるとともに、日本語学習者としての視点からの発言により、習得上の問題点を確認することができた。また、他コースの受講生からは、それぞれの専門的観点からの意見が出され、議論を深めることができた。

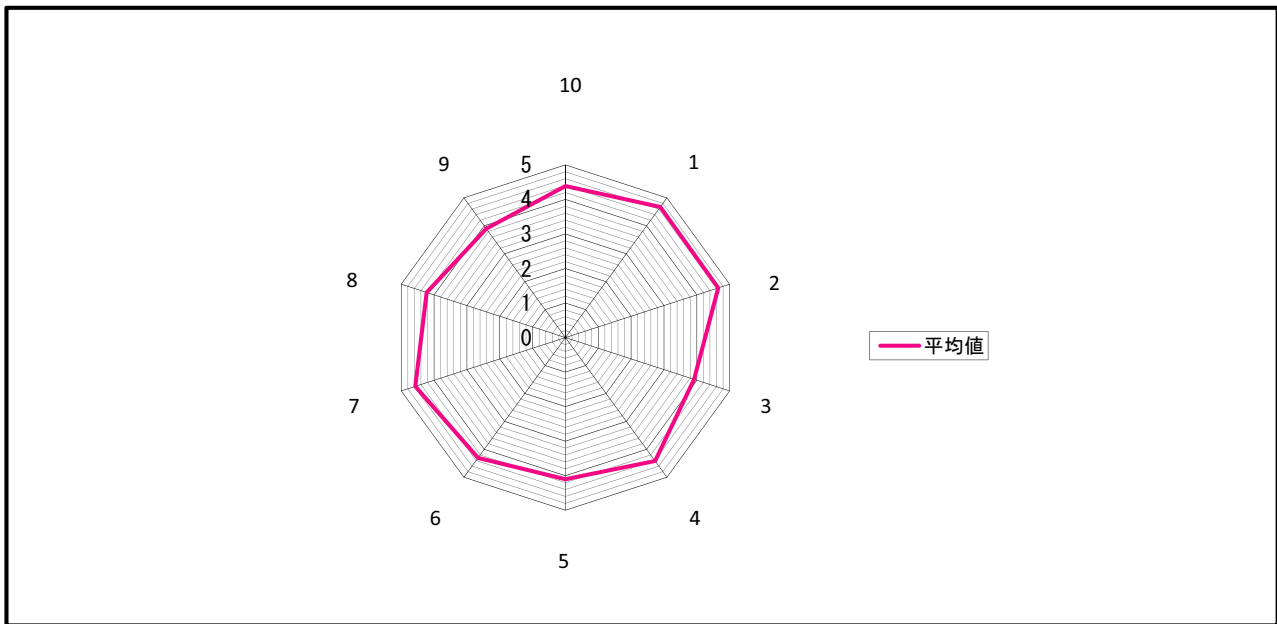
今回の評価結果を見ると、いずれの項目も高い評価を得ており、本授業に対して受講者自身も達成感を感じているものと思われる。今後は、評価の観点をさらに明確にするとともに、さらなる授業改善に取り組みたい。

結果報告書

授業科目名 社会心理学研究
 評価実施日 平成25年9月28日
 担当教員名 佐藤 健二

回答者数 49 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	36	10	3			4.7	
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	35	11	3			4.7	
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	14	18	15		1	1	3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	27	14	7			1	4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	19	20	7	2	1		4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	25	16	7		1		4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	32	14	2	1			4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	24	16	6	2	1		4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	26	8	4			3.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	28	14	5	2			4.4



教員のコメント

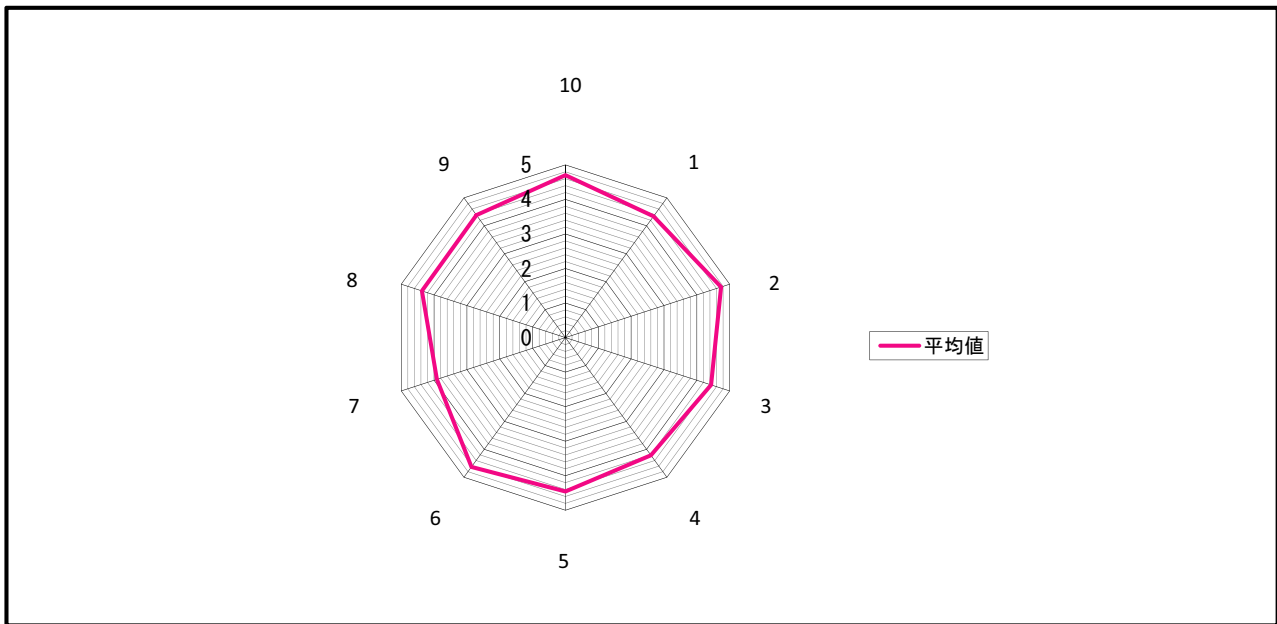
総じて、4点以上であり、大きな問題点はないと思われる。記述式のコメントを読んでも、概して、内容は具体的で、興味深いものだったことが伺われた。ただし、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」と言う点については、3.9点であり、改善の余地がある。前年度以来、こうした評価であるので、実践場面と関連づけた説明を心がけたところ、前回の調査結果からは0.1ポイント上昇した。さらに、そうした努力を続けたい(もっとも、「社会心理学」と言う学問分野の性質上、実践的な内容は、元来、少なく、その点では、妥当な評価とも言える)。その他、これも、前年度以来、時間配分への言及が見られていたので、予告通りの開始・終了を心がけた。今後は、1つのコマの中において、集中力を保つべく、さらに適切な時間配分を行いたい。

結果報告書

授業科目名 心理臨床特別研究
 評価実施日 平成25年9月15日
 担当教員名 藤原 勝紀

回答者数 47 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	26	13	6	2		4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	34	12			1	4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	27	12	7			4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	22	16	7	1	1	4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	28	12	5	1	1	4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	33	10	2	1		4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	18	14	9	2	3	3.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	26	14	4	1	1	4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	24	18	4	1		4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	36	9	1	1		4.7



教員のコメント

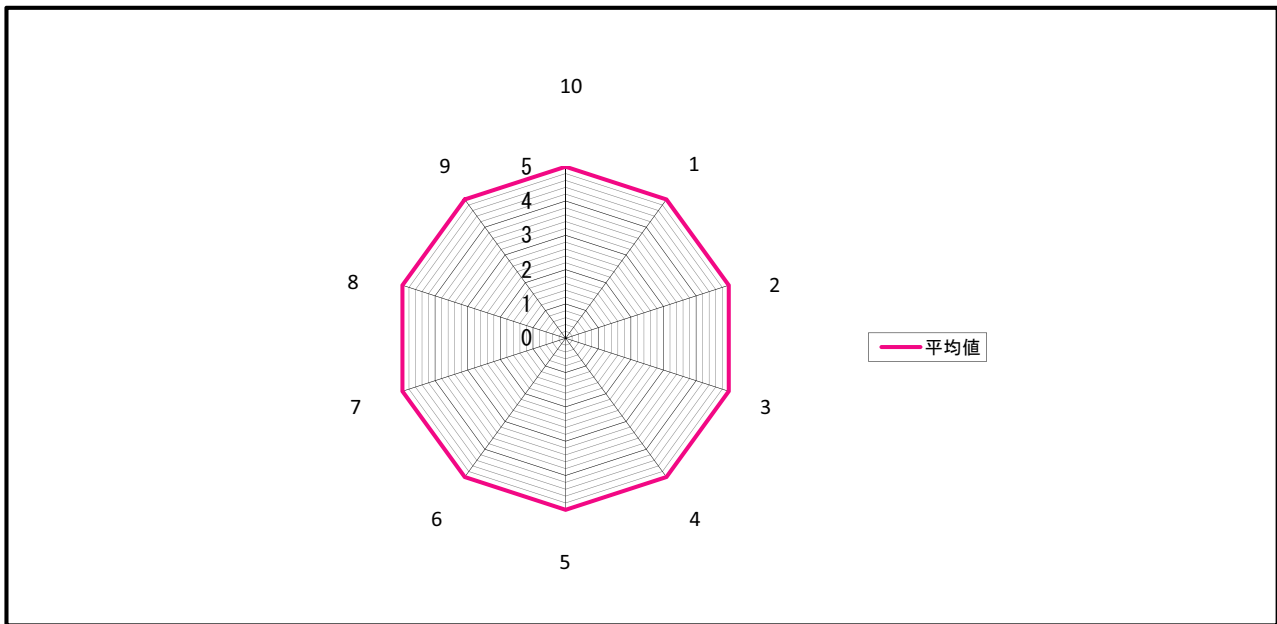
科目の主眼である専門的知識を深めるため分かりやすく説明し伝えられたこと、協働的な実習や内的対話的な授業で、教科書や資料中心の進め方でなかった点への率直な評価を受けとめたい。内的に精力を要する授業への取り組みに対する学生の自己評価を、総合評価とともに大切に共有したい。

結果報告書

授業科目名 総合造形研究
 評価実施日 平成25年9月14日
 担当教員名 池垣 禎彦

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

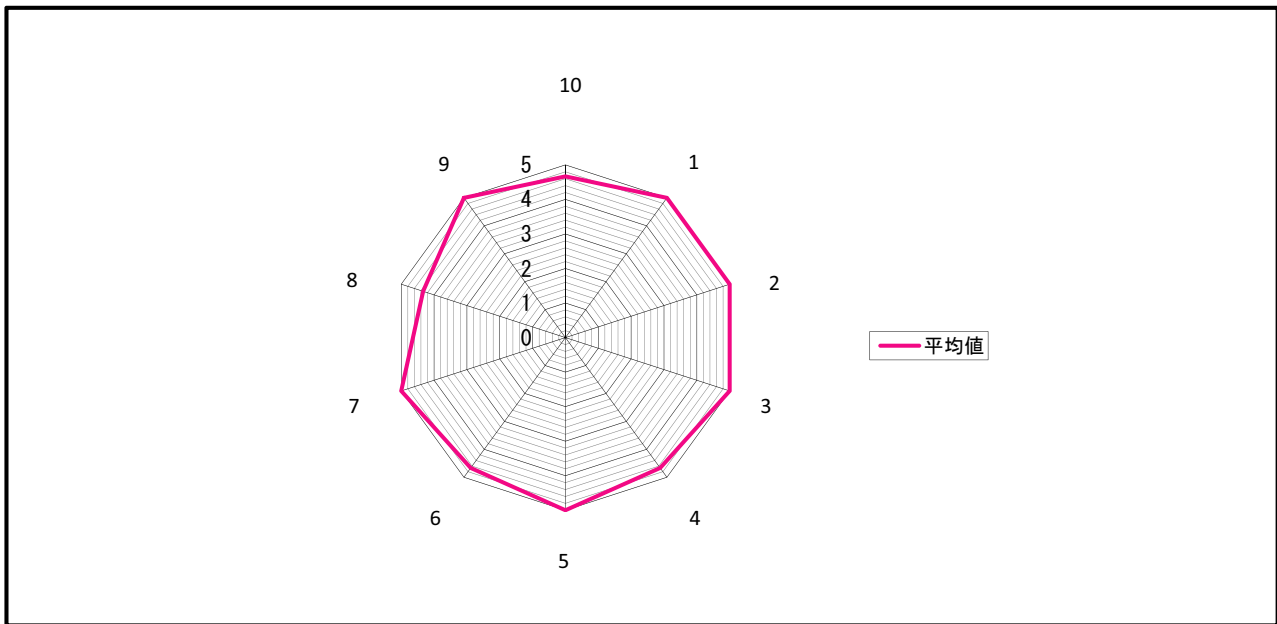
夏期の集中実技授業で、講義日が変則的であったにもかかわらず、興味と意欲を持って出席して取り組んでもらえた事はたいへんうれしく思っています。より、現代芸術の様式や内容の変遷、思潮や動向を検証し、自らも発信者となる様な課題を考えていきたいと思ひます。課題の成果物の展示もおこなえれば良いと考えています。受講者数が少なかった事は残念でした。今後、学生が受講し易い日程を考慮する必要があります。

結果報告書

授業科目名 体育・スポーツ心理学研究
 評価実施日 平成25年9月13日
 担当教員名 賀川 昌明

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2				1	5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2		1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



教員のコメント

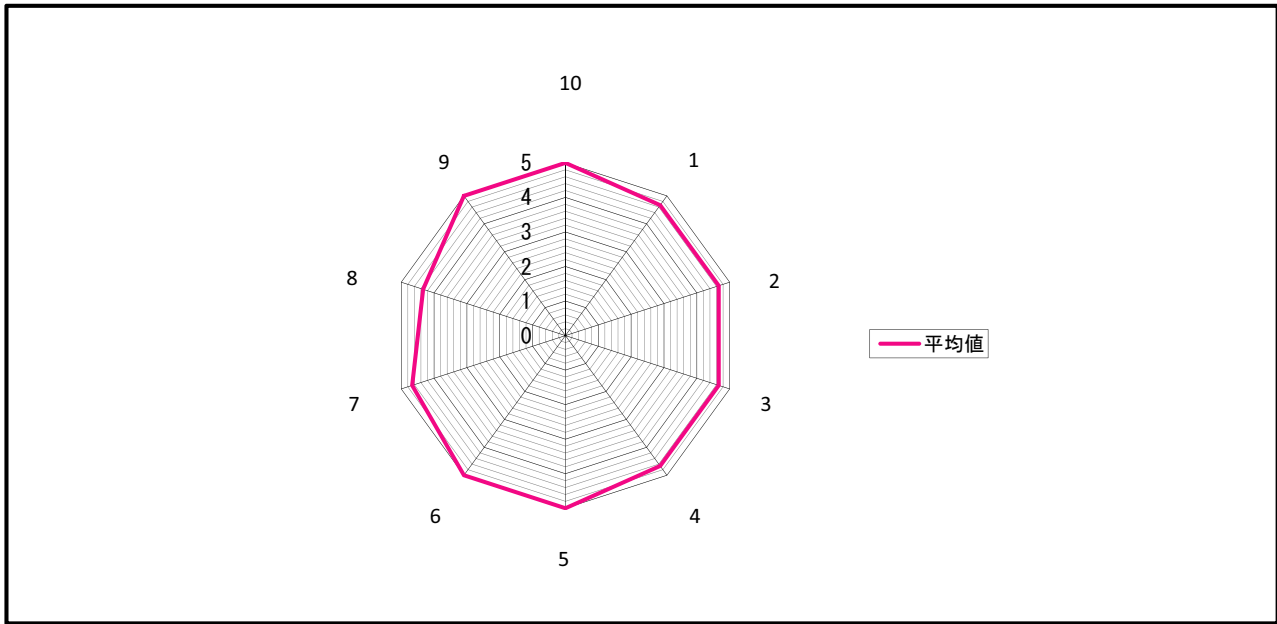
授業の内容については、全員が5の評価をしていた。しかし、授業の進め方については、評価方法の説明や板書・視聴覚機器の使用に関して、やや低い評価をする者もいた。プロジェクターによるプレゼンテーションを中心に授業を進めたが、その補足としてスクリーンの裏側にあるホワイトボードの端を使って説明した場合もあり、それに対する反応かも知れない。
 受講者が3人なので平均値にはあまり意味がないが、総合評価としては4.7になっており、一応満足のできる結果だと思われる。

結果報告書

授業科目名 体育・スポーツ心理学演習
 評価実施日 平成25年9月20日
 担当教員名 賀川 昌明

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2		1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



教員のコメント

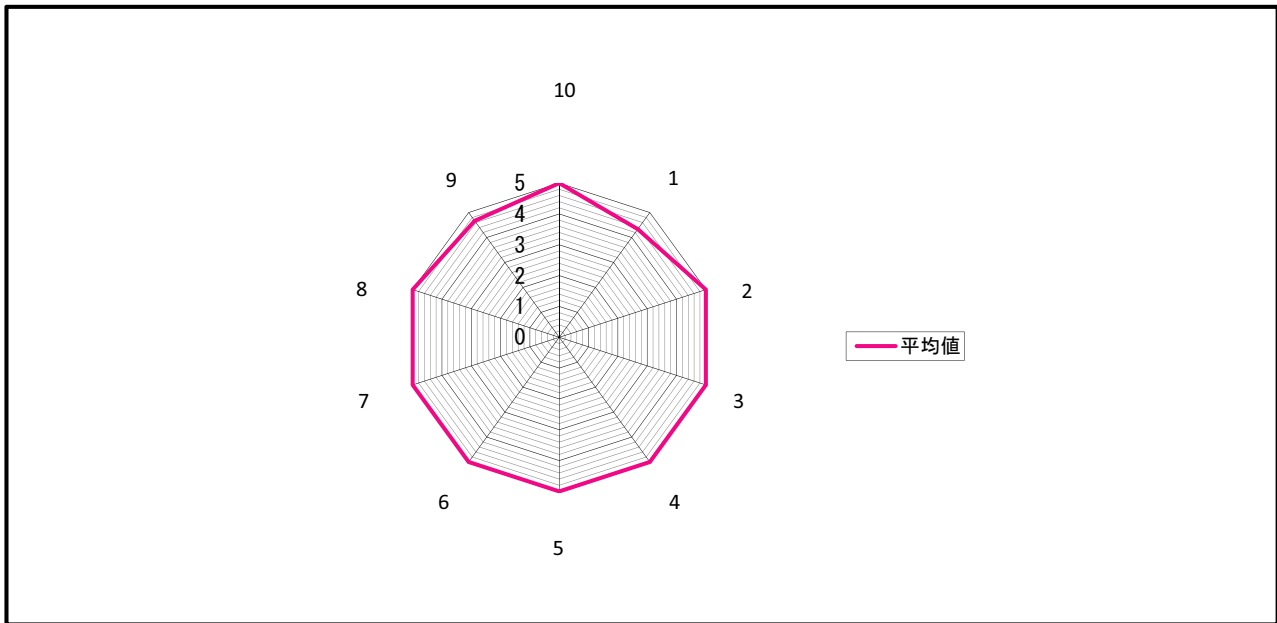
授業の内容について、受講生3名のうち2人が5、1名が4の評価をした。この授業では、その前に行った体育・スポーツ心理学研究の授業時における受講生の要望を受け入れ、シラバスとは異なる内容(Excelを使った調査データの処理)を実施した。ひょっとすると、このことが4の評価に繋がったのかも知れない。
 また、授業の進め方については、評価方法の説明や板書・視聴覚機器の使用に関して、やや低い評価をする者もいた。
 しかし、総合評価は全員が5の評価をしており、一応満足のできる結果だと思われる。

結果報告書

授業科目名 情報科教育研究 I
 評価実施日 平成25年9月27日
 担当教員名 森山 潤

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2		1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



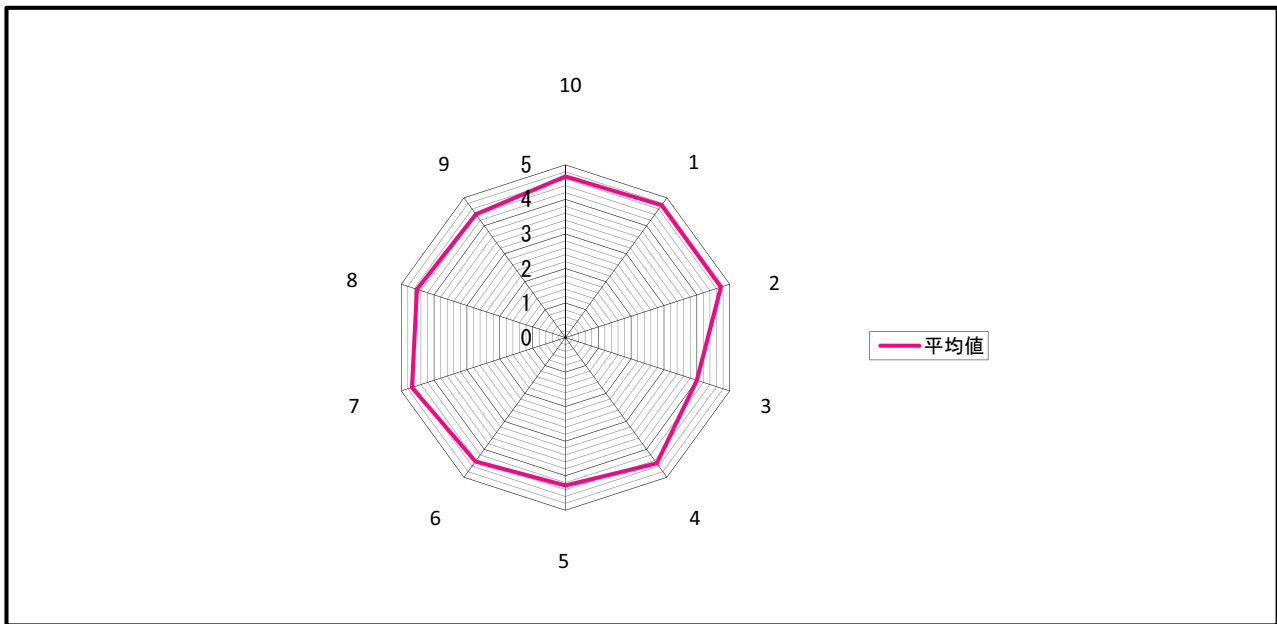
教員のコメント

皆さん、とても熱心に受講下さいました。頂いたご意見を参考に、今後の授業改善を進めたいと思います。特に、教室の環境についてご意見を頂きましたので、次年度の参考にさせていただきます。ありがとうございました。

結果報告書

授業科目名 臨床心理学研究法特論
 評価実施日 平成25年9月19日
 担当教員名 葛西 真記子, 吉井 健治, 田中 秀紀 回答者数 46 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	36	8	2			4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	34	10	1		1	4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	17	14	10	2	1	4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	26	17	3			4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	25	10	10	1		4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	27	12	7			4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	31	15				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	26	18	2			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	25	16	4	1		4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	31	13	1		1	4.7



教員のコメント

総合的な評価は4.7であり、概ね良好であった。項目別にみると、(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。というのが、4.0で一番低いが、それでも高評価である。本講義は前期の7回、夏休みの集中講義時に8回の講義があり、本アンケートは集中講義時にとられたものであり、自由記述の回答を見ると、集中講義の内容に言及しているものがほとんどであった。本授業の評価としてみるのであれば、15回全体についての評価であることを明確に伝える必要がある。この授業で「よかった点」としては、「苦手意識のあった統計がわかりやすく学習できた」という内容と、「資料・内容がコンパクトでわかりやすかった」「基礎的なことから理解できた」と修士論文に必要な統計に関して十分に学習できたことがうかがわれる。「改善すべき点」としては、「実際にPCを使った授業がもったいなかった」「一人に一つずつソフトがあったらよかった」というものがあつたが、これは、本学のリソースの問題であるので、今後、大学として改善すべきことである。また学生は、自分自身の修士論文のデータ解析について不安を持っている者が多く、積極的に授業に取り組んだと答えている者が多かった。